

V 調査結果

〔解説・グラフ〕

問1-②×回答方法 「年齢」と「回答方法」のクロス分析

回答方法が「郵送」の場合は、70歳以上が96.5%と最も高く、「WEB回答」の場合は、20歳代が51.5%と最も高くなっている。

また、20歳代のみ、「WEB回答」の割合が「郵送」よりも高くなっている。

		回答方法	
		郵送	WEB回答
問1-②年齢	10歳代	6 85.7	1 14.3
	20歳代	47 48.5	50 51.5
	30歳代	78 51.7	73 48.3
	40歳代	113 52.3	103 47.7
	50歳代	192 69.1	86 30.9
	60歳代	290 87.6	41 12.4
	70歳以上	411 96.5	15 3.5
	無回答	8 80.0	2 20.0

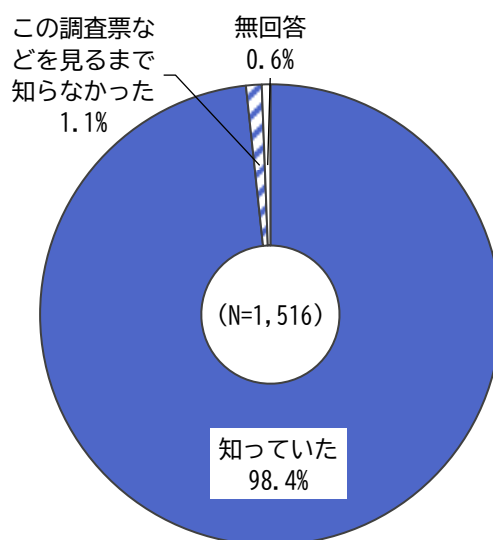
(1) 南海トラフ地震に関する認識について

問2 南海トラフ地震について知っていたか

問2 南海トラフ地震について既にご存知でしたか。

南海トラフ地震について、「知っていた」が98.4%となっており、多くの県民が認識している。

《 総 合 》



【前回比較】

「知っていた」は、令和3年度は98.3%であったが、令和6年度は98.4%と大きな変化は見られなかった。

【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向であり、性別で大きな差はない。

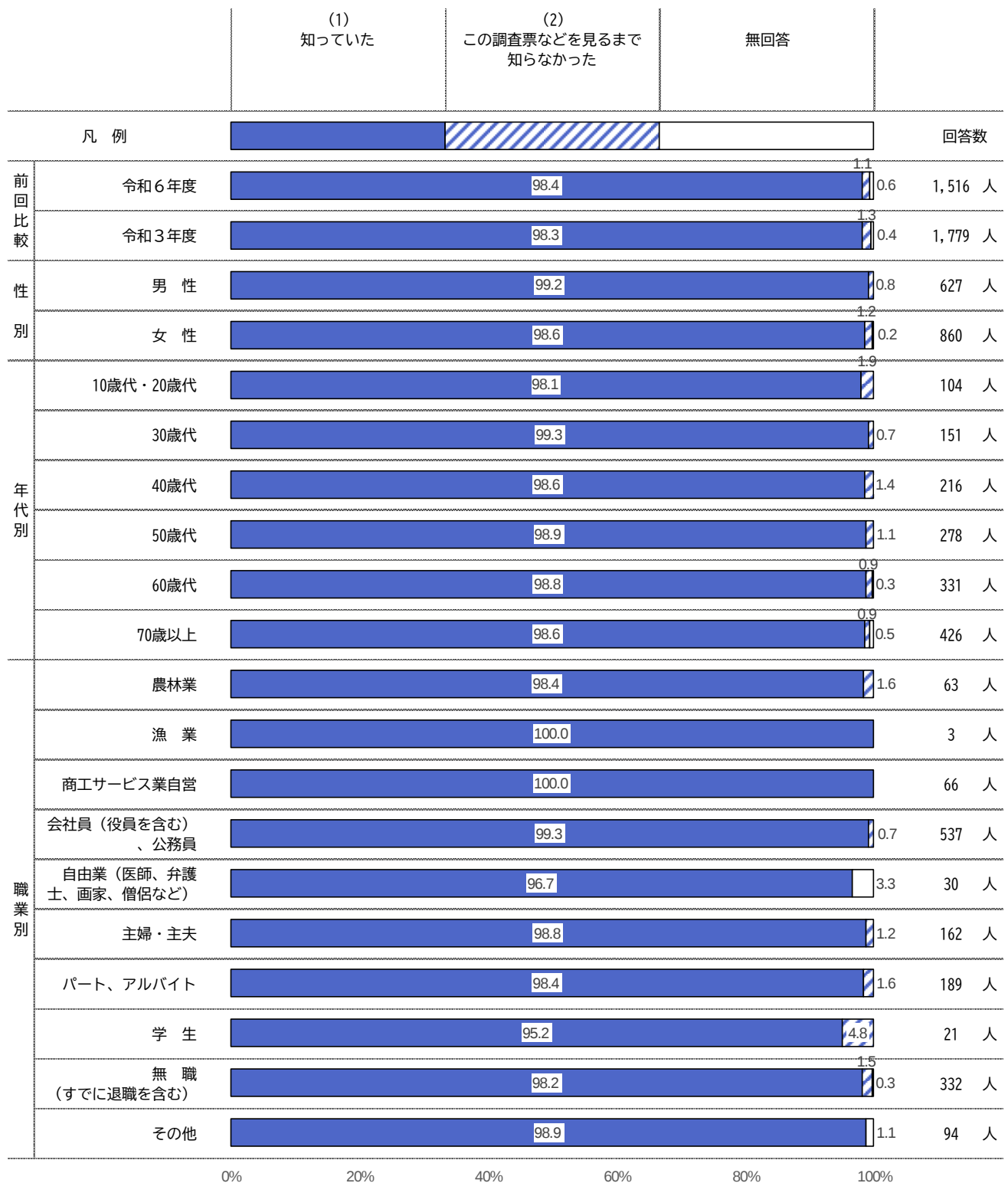
【年代別】

すべての年代で「知っていた」の割合が高くなっているが、中でも30歳代の割合が99.3%と一番高くなっている。

【職業別】

すべての職業で「知っていた」の割合が高くなっているが、中でも『漁業』、『商工サービス業自営』の割合が100.0%となっている。一方、『学生』では「この調査票を見るまで知らなかった」の割合が4.8%と他の職業より高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶



問3 自宅や地域にどのような危険があるか

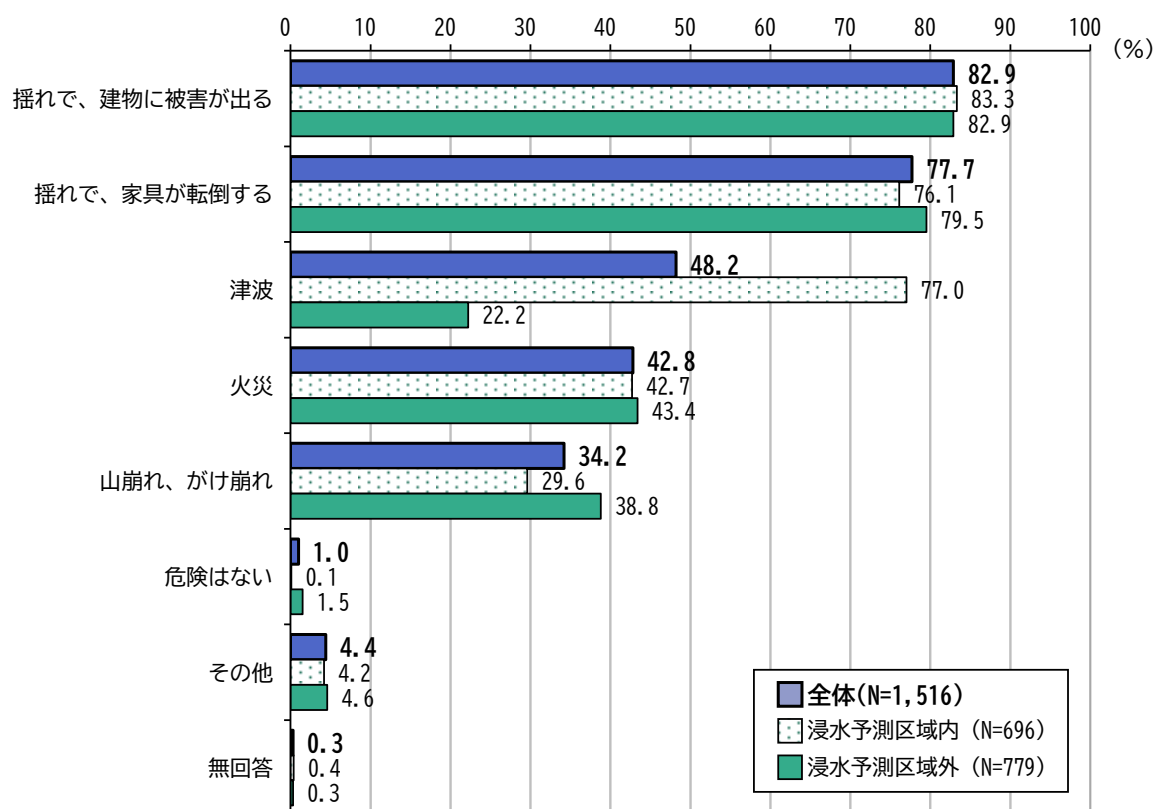
問3 南海トラフ地震が起きた場合、あなたのお宅やお住まいの地域ではどのような危険があると感じていますか。(当てはまるものすべてに○)

南海トラフ地震で起きた場合の自宅や地域の危険は、「揺れで、建物に被害が出る」が82.9%と最も高く、次いで「揺れで、家具が転倒する」77.7%、「津波」48.2%と続いている。

【浸水予測区域別】

浸水予測区域内・外ともに「揺れで、建物に被害が出る」が最も高く、次いで浸水予測区域内では「津波」77.0%、浸水予測区域外では「揺れで、家具が転倒する」79.5%と続いている。

＜ 総合・浸水予測区域別 ＞



【前回比較】

令和3年と同じ傾向で、差はほとんどない。

【性別】

「火災」は男性45.9%、女性40.7%と男性の方が高く、「山崩れ、がけ崩れ」は男性30.6%、女性36.3%と女性の方が高くなっている。

【年代別】

10歳代～40歳代では「揺れで、家具が転倒する」が最も高く、50歳代～70歳以上では「揺れで、建物に被害が出る」が最も高くなっている。

【職業別】

農林業、商工サービス業自営、会社員、公務員、主婦・主夫、学生、無職、その他では「揺れで、建物に被害が出る」が最も高くなっている。

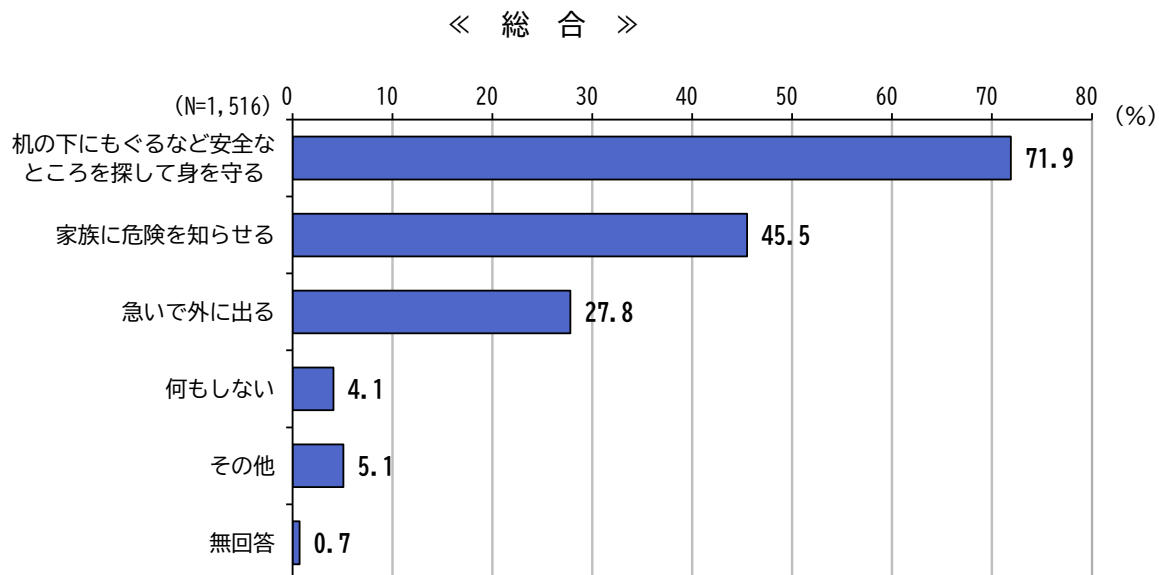
◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

【表の見方】 比率(%) 網掛け＝		調査 数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無回 答
			被 害 が 出 る 、 建 物 に	転 倒 す る 、 家 具 が	津 波	火 災	山崩れ、 がけ崩れ、	そ の 他	危 険 は な い	
今回調査(R6)		1,516	82.9	77.7	48.2	42.8	34.2	4.4	1.0	0.3
前回調査(R3)		1,779	80.8	75.7	49.0	39.6	33.5	3.2	1.1	0.3
性 別	男性	627	84.4	78.3	49.1	45.9	30.6	3.8	1.1	-
	女性	860	82.1	77.6	47.7	40.7	36.3	4.9	0.8	0.2
	回答しない	18	88.9	77.8	66.7	55.6	50.0	5.6	-	-
年 代 別	10歳代・20歳代	104	76.0	79.8	55.8	39.4	39.4	1.0	1.9	-
	30歳代	151	81.5	84.8	47.7	51.0	47.0	6.6	1.3	-
	40歳代	216	81.0	81.5	53.2	43.1	32.9	6.0	0.9	-
	50歳代	278	82.7	75.5	54.0	44.2	38.1	7.2	0.7	-
	60歳代	331	86.7	79.5	48.3	45.6	33.5	2.7	0.9	-
	70歳以上	426	83.8	73.2	40.8	38.5	26.8	3.3	0.7	0.5
職 業 別	農林業	63	88.9	82.5	42.9	31.7	46.0	1.6	1.6	-
	漁業	3	100.0	100.0	66.7	33.3	33.3	-	-	-
	商工サービス業自営	66	89.4	77.3	45.5	50.0	28.8	6.1	-	-
	会社員(役員を含む)、公務員	537	80.8	80.1	52.3	44.1	37.1	4.5	0.9	-
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	76.7	83.3	56.7	63.3	23.3	-	-	-
	主婦・主夫	162	81.5	73.5	37.0	40.7	33.3	3.1	1.9	0.6
	パート、アルバイト	189	82.5	82.5	49.7	39.7	38.1	3.7	-	-
	学生	21	71.4	61.9	52.4	33.3	19.0	-	9.5	-
	無職(すでに退職を含む)	332	85.2	75.6	45.8	43.4	28.6	3.6	0.6	0.3
	その他	94	87.2	68.1	51.1	43.6	34.0	12.8	1.1	-

問4 緊急地震速報をテレビなどで知ったときどうするか

問4 もし、あなたが自宅において「地震が発生しました。強い揺れに備えてください」という緊急地震速報をテレビなどで知ったときどうしますか。(当てはまるものすべてに○)

地震速報を受け取った時の行動としては、「机の下にもぐるなど安全なところを探して身を守る」が71.9%と最も高く、次いで「家族に危険を知らせる」が45.5%、「急いで外に出る」が27.8%と続いている。



【前回比較】

「家族に危険を知らせる」の割合が令和3年度より、8.1ポイント減少している。

【性別】

「机の下にもぐるなど安全なところを探して身を守る」は女性の方が6.9ポイント高くなっている。一方、「急いで外に出る」では、男性の方が6.2ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「机の下にもぐるなど安全なところを探して身を守る」が最も高くなっており、中でも30歳代では81.5%と高いが、40歳代では70%を下回っている。

【職業別】

漁業を除くすべての職業で「机の下にもぐるなど安全なところを探して身を守る」が最も高くなっている。

「机の下にもぐるなど安全なところを探して身を守る」では、ほとんどの職業で60%を超えているが、農林業では57.1%と他の職業と比べて低くなっている。

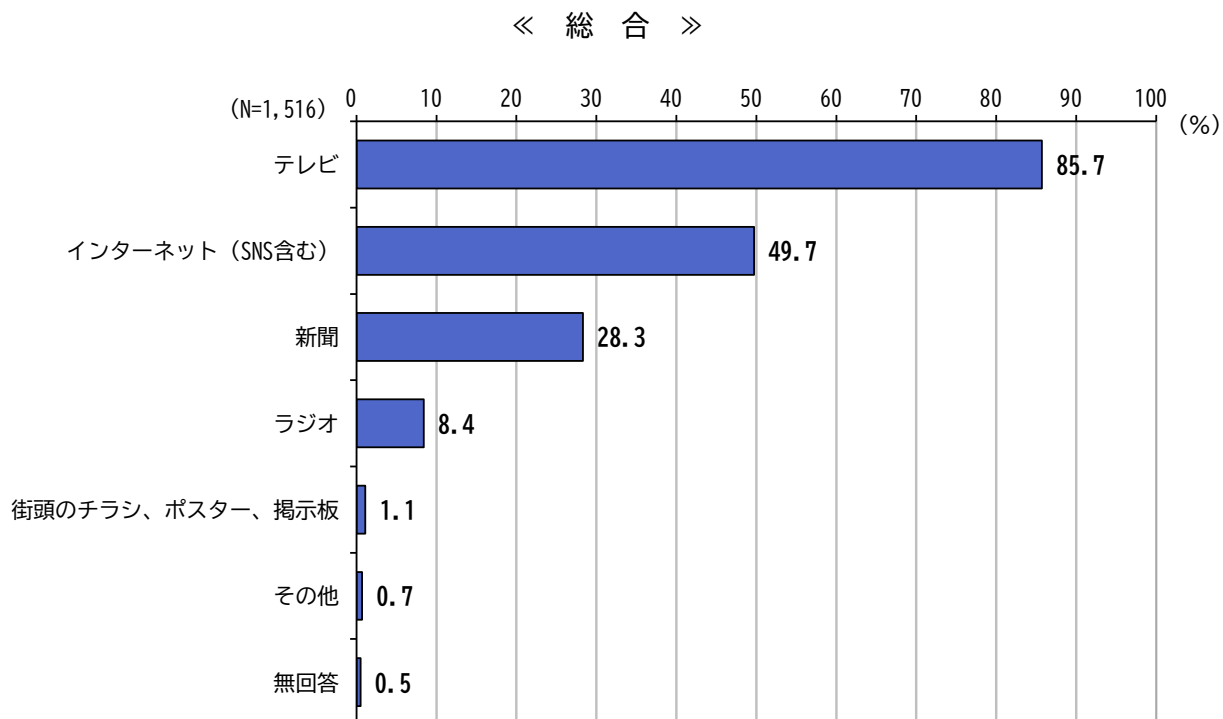
◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) を全机 守なの 下にと ころも ぐるを 探して 身を守 るなど 身安	(2) 家族に 危険を 知らせ る	(3) 急いで 外に出 る	(4) 何もし ない	(5) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位					
			2位					
今回調査(R6)		1,516	71.9	45.5	27.8	4.1	5.1	0.7
前回調査(R3)		1,779	73.2	53.6	27.2	2.6	2.9	0.3
性別	男性	627	68.3	46.1	31.3	5.1	5.1	0.8
	女性	860	75.2	45.2	25.1	3.3	5.2	0.3
	回答しない	18	50.0	61.1	33.3	5.6	5.6	-
年代別	10歳代・20歳代	104	79.8	42.3	22.1	1.0	-	-
	30歳代	151	81.5	60.3	25.8	1.3	2.6	0.7
	40歳代	216	64.8	53.2	28.7	4.2	8.3	-
	50歳代	278	70.9	49.3	28.1	2.9	5.8	0.7
	60歳代	331	70.7	42.6	28.4	6.6	6.0	0.3
	70歳以上	426	72.5	37.8	28.6	4.5	4.7	0.9
職業別	農林業	63	57.1	47.6	41.3	3.2	3.2	1.6
	漁業	3	66.7	66.7	66.7	-	-	-
	商工サービス業自営	66	77.3	39.4	30.3	3.0	3.0	-
	会社員(役員を含む)、公務員	537	73.2	49.5	28.5	3.0	4.7	-
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	80.0	46.7	20.0	3.3	3.3	-
	主婦・主夫	162	77.8	46.9	20.4	3.1	3.7	-
	パート、アルバイト	189	70.4	49.2	28.6	3.2	6.9	0.5
	学生	21	71.4	38.1	23.8	4.8	-	-
	無職(すでに退職を含む)	332	70.5	38.9	27.1	6.6	5.7	1.5
その他		94	69.1	42.6	29.8	5.3	10.6	1.1

問5 主に情報をよく収集するメディアは何か

問5 普段、情報をよく収集するメディアはなんですか。(2つまで○)

主に情報を収集するメディアとしては「テレビ」が85.7%で最も高く、「インターネット（SNS 含む）」49.7%、「新聞」28.3%と続いている。



【前回比較】

「総合」と同じ傾向にあるが、「インターネット（SNS 含む）」は令和3年度から10.4ポイント減少している。

【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向にあるが、「新聞」は男性の方が4.0ポイント高く、「インターネット（SNS 含む）」は女性の方が3.2ポイント高くなっている。

【年代別】

10歳代～30歳代では「インターネット（SNS 含む）」が最も高く、40歳代～70歳以上では「テレビ」が最も高くなっている。

【職業別】

学生を除くすべての職業で「テレビ」が最も高く、学生では「インターネット（SNS 含む）」が最も高くなっている。

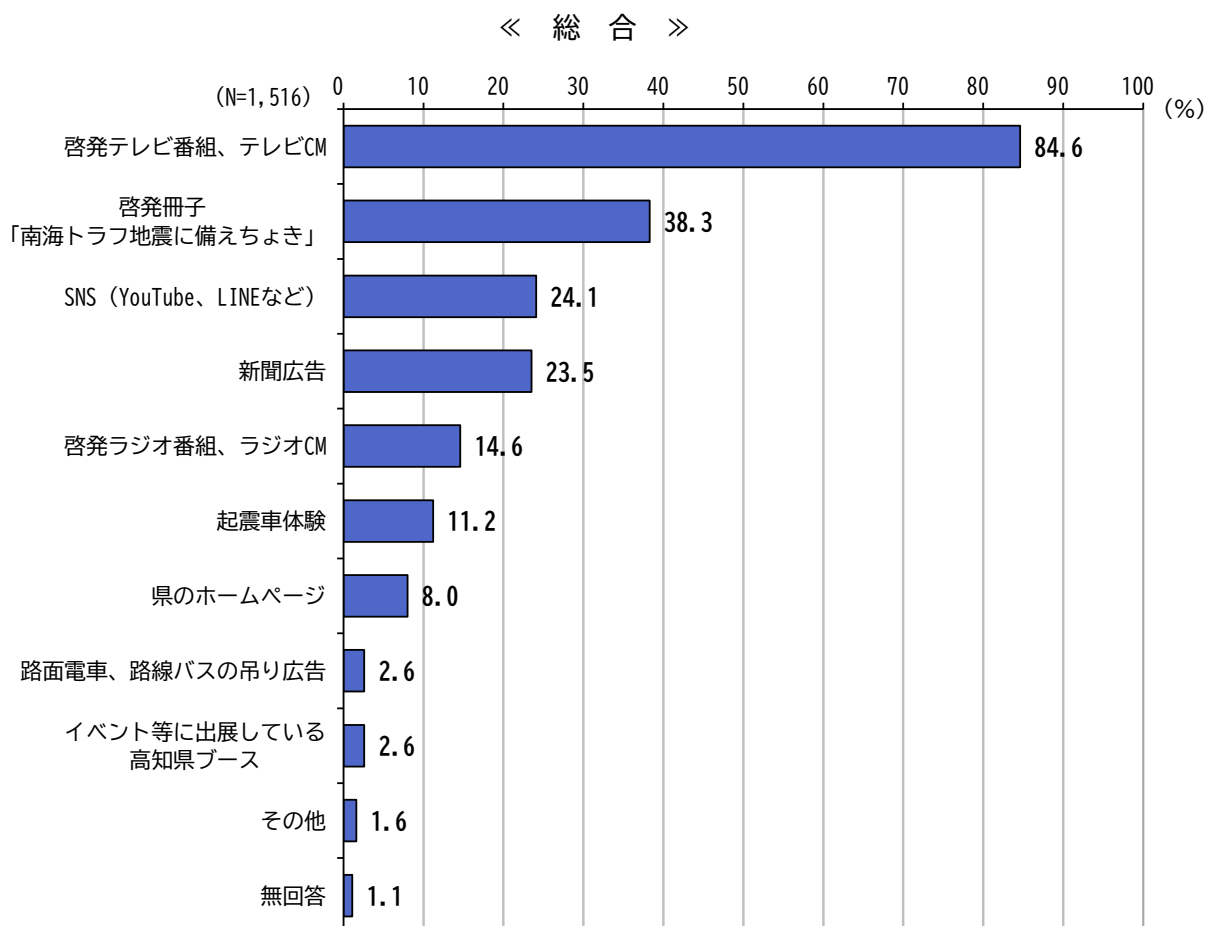
≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

【表の見方】 比率(%) 網掛け＝		調査 数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	無 回 答
			テレ ビ	(イ ン タ ー ネ ッ ト)	新 聞	ラ ジ オ	タ 街 頭 の 掲 示 板 、 ポ ス	そ の 他	
			1 位	2 位					
今回調査(R6)		1,516	85.7	49.7	28.3	8.4	1.1	0.7	0.5
前回調査(R3)		1,779	83.6	60.1	30.5	8.0	1.3	0.3	0.2
性 別	男性	627	84.1	47.8	30.9	8.6	1.1	0.5	0.2
	女性	860	87.2	51.0	26.9	8.3	1.0	0.9	0.3
	回答しない	18	77.8	72.2	11.1	-	-	-	-
年 代 別	10歳代・20歳代	104	63.5	85.6	4.8	2.9	2.9	-	-
	30歳代	151	66.9	84.8	9.3	4.6	-	0.7	0.7
	40歳代	216	80.1	67.1	20.4	7.4	0.5	0.5	0.5
	50歳代	278	87.4	67.6	15.8	5.8	0.7	0.7	0.4
	60歳代	331	90.9	44.1	34.7	8.2	0.3	0.9	-
	70歳以上	426	96.0	12.9	48.4	13.4	2.1	0.9	0.2
職 業 別	農林業	63	90.5	17.5	46.0	25.4	1.6	-	-
	漁業	3	100.0	66.7	-	33.3	-	-	-
	商工サービス業自営	66	86.4	42.4	36.4	9.1	-	-	-
	会社員(役員を含む)、公務員	537	78.2	73.0	17.1	4.8	0.4	0.6	0.4
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	83.3	63.3	20.0	3.3	3.3	-	-
	主婦・主夫	162	96.3	30.9	42.0	9.3	1.9	-	-
	パート、アルバイト	189	86.8	49.7	25.9	9.0	1.6	1.1	0.5
	学生	21	42.9	90.5	-	4.8	-	-	-
	無職(すでに退職を含む)	332	94.3	25.0	41.0	10.8	1.5	1.2	0.3
	その他	94	86.2	51.1	24.5	6.4	1.1	2.1	-

問6 南海トラフ地震対策の啓発で知っているものはあるか

問6 高知県では、様々な手段で南海トラフ地震対策の啓発を行っています。これまで、ご覧になったり、お聞きになったりして印象に残っているものはどれですか。（3つまで○）

印象に残っている南海トラフ地震の啓発活動は、「啓発テレビ番組、テレビCM」が84.6%と最も高く、次いで「啓発冊子『南海トラフ地震に備えちょき』」38.3%、「SNS（YouTube、LINE など）」24.1%が続いている。



【前回比較】

「総合」と同じ傾向で大きな差は見られないが、「啓発冊子『南海トラフ地震に備えちょき』」は前回から14.1ポイント減少している

【性別】

最も高い「啓発テレビ番組、テレビ CM」では男女の差はほとんど無いが、「啓発冊子『南海トラフ地震に備えちょき』」では男性32.7%、女性42.4%と女性の方が9.7ポイント高く、「啓発ラジオ番組、ラジオ CM」では、男性19.8%、女性10.8%と男性の方が9.0ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「啓発テレビ番組、テレビ CM」が最も高くなっているが、10歳代・20歳代は68.3%と他の年代よりも低い割合になっている。「啓発冊子『南海トラフ地震に備えちょき』」も同様に10歳代・20歳代、30歳代が他の年代より低くなっている。

【職業別】

すべての職業で「啓発テレビ番組、テレビ CM」が最も高くなっている。

主婦・主夫では「啓発冊子『南海トラフ地震に備えちょき』」が45.1%と、他の職業に比べ高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) C啓 M発 テレビ 番組、 テレビ	(2) にに 全備 戸え 配子 ちよ 布き ※ト Rラ 2フ 年地 度震	(3) L S I N S E (Y o u T u b e、	(4) 新聞 広告	(5) C啓 M発 ラジ オ番 組、 ラジ オ	(6) 起震 車体 験	(7) 県の ホーム ページ	(8) 路面 電車、 路線 バスの 吊り	(9) 高知 県ブ ース 等に 出展 してい る	(10) その他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位									
今回調査(R6)		1,516	84.6	38.3	24.1	23.5	14.6	11.2	8.0	2.6	2.6	1.6	1.1
前回調査(R3)		1,779	86.8	52.4	-	31.8	14.6	12.5	9.5	2.4	3.0	2.9	0.7
性別	男性	627	84.5	32.7	23.3	25.5	19.8	6.9	10.5	3.2	2.4	1.6	1.3
	女性	860	85.0	42.4	24.9	22.7	10.8	14.1	6.5	2.3	2.8	1.7	0.7
	回答しない	18	77.8	33.3	33.3	11.1	11.1	22.2	-	-	5.6	-	-
年代別	10歳代・20歳代	104	68.3	28.8	45.2	9.6	5.8	20.2	11.5	6.7	4.8	2.9	1.9
	30歳代	151	75.5	29.1	39.1	12.6	8.6	16.6	9.3	3.3	7.3	1.3	2.0
	40歳代	216	83.3	38.9	31.5	18.1	11.6	13.9	6.0	3.7	2.8	2.8	0.9
	50歳代	278	86.0	37.8	28.4	18.3	15.1	11.9	9.4	2.5	2.5	2.5	-
	60歳代	331	88.8	39.3	24.2	26.3	15.4	9.4	9.4	2.1	1.8	0.6	0.6
	70歳以上	426	89.0	43.4	7.7	35.4	19.5	6.8	6.1	1.2	1.2	1.2	1.2
職業別	農林業	63	90.5	34.9	6.3	25.4	38.1	1.6	4.8	-	4.8	-	-
	漁業	3	100.0	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	66	81.8	34.8	25.8	31.8	18.2	1.5	6.1	-	-	6.1	1.5
	会社員(役員を含む)、公務員	537	81.0	35.0	31.5	17.5	12.8	14.5	10.8	3.2	4.7	1.9	0.7
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	90.0	23.3	40.0	26.7	6.7	6.7	6.7	-	-	-	6.7
	主婦・主夫	162	88.9	45.1	14.8	28.4	11.1	11.7	3.1	2.5	1.9	1.2	1.2
	パート、アルバイト	189	84.7	38.6	29.6	20.1	16.4	9.5	7.9	2.1	2.1	1.1	1.6
	学生	21	61.9	23.8	52.4	9.5	4.8	28.6	9.5	9.5	-	-	-
	無職(すでに退職を含む)	332	88.9	41.9	14.2	33.1	14.8	9.0	7.8	2.7	1.2	1.2	0.6
	その他	94	86.2	42.6	24.5	21.3	12.8	13.8	7.4	3.2	1.1	3.2	-

《問6×問5》

印象に残っている南海トラフ地震対策の啓発と普段、情報をよく収集するメディアとのクロス分析

普段、情報をよく収集するメディアの種類にかかわらず、最も印象に残っている啓発は、「啓発テレビ番組、テレビCM」となっており、ほとんどのメディアで80%を超えている。

また、「啓発冊子『南海トラフ地震に備えちょき』」は30%～40%台となっている。

問6													
		調査数	(1) C啓 M発 テレビ 番組、 テレビ	(2) C啓 M発 ラジオ 番組、 ラジオ	(3) L S I N E (Y o u t u b e 、 など)	(4) 新聞 広告	(5) 広路 告面 電車 、路 線バ スの 吊り	(6) 県の ホーム ページ	(7) にに 全備 戸え 配布 「南海 ※トラ フ2年 地震	(8) 高イ 知県 ブー ス等 に出 展し てい る	(9) 起震 車体 験	(10) その他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1 位	2 位									
問5	新聞	429	88.8	17.9	11.2	51.7	1.2	8.6	43.8	0.9	9.1	1.2	0.7
	テレビ	1,299	89.1	14.2	22.2	25.0	2.2	7.7	39.2	2.1	10.9	1.5	0.7
	ラジオ	127	81.1	57.5	13.4	15.7	-	6.3	38.6	2.4	9.4	0.8	-
	インターネット(SNS含む)	754	80.0	9.2	38.6	13.4	3.8	10.1	38.6	4.2	14.6	2.1	0.9
	街頭のチラシ、ポスター、掲示板	16	81.3	18.8	12.5	25.0	-	18.8	31.3	12.5	6.3	-	-
	その他	11	72.7	-	18.2	9.1	9.1	9.1	54.5	-	9.1	9.1	-
	無回答	7	42.9	14.3	-	-	14.3	-	28.6	14.3	-	-	57.1

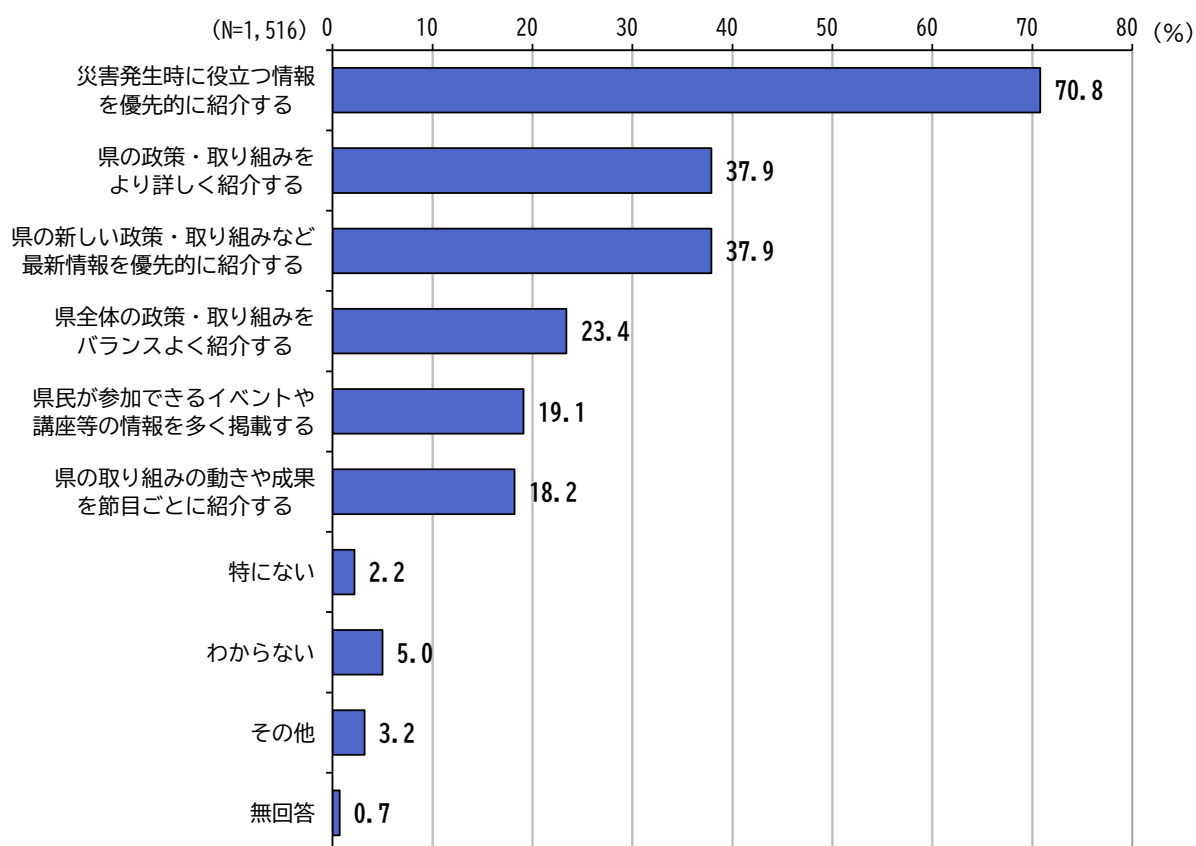
問7 南海トラフ地震対策の広報活動の充実のために中心に取り上げるべきもの

問7 南海トラフ地震対策の広報活動を充実させるために、どのようなことを中心に取り上げるべきだと思いますか。（3つまで○）

南海トラフ地震対策の広報活動を充実させるために中心に取り上げるべきものは、「災害発生時に役立つ情報を優先的に紹介する」が70.8%と最も高く、次いで「県の政策・取り組みをより詳しく紹介する」、「県の新しい政策・取り組みなど最新情報を優先的に紹介する」が同率で37.9%と続いている。

特に「災害発生時に役立つ情報を優先的に紹介する」は、2番目に高い「県の政策・取り組みをより詳しく紹介する」、「県の新しい政策・取り組みなど最新情報を優先的に紹介する」より32.9ポイント高い。

《 総 合 》



【前回比較】

「県の新しい政策・取り組みなど最新情報を優先的に紹介する」では前回から6.0ポイント増加している。

【性別】

男女とも「災害発生時に役立つ情報を優先的に紹介する」が最も高く、男性67.1%、女性74.0%となっており、男性では「県の政策・取り組みをより詳しく紹介する」41.9%、女性では「県の新しい政策・取り組みなど最新情報を優先的に紹介する」37.3%が続いている。

【年代別】

すべての年代で「災害発生時に役立つ情報を優先的に紹介する」が60%以上と最も高く、中でも60歳代では75.2%と最も高くなっている。

【職業別】

すべての職業で「災害発生時に役立つ情報を優先的に紹介する」が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 優先的に 災害発生 時に役 立つ情 報を	(2) 詳しい政 策・取 組を より	(3) 県の新し い政 策を 優・先 的に 紹介	(4) 県全体 の政 策・取 組を	(5) 県民が 参加 する 講座 等 の情 報を 多く 掲載	(6) 県の取 組に 関する 動き や成 果	(7) 特 に ない	(8) わ か ら ない	(9) そ の 他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位								
今回調査(R6)		1,516	70.8	37.9	37.9	23.4	19.1	18.2	2.2	5.0	3.2	0.7
前回調査(R3)		1,779	70.1	35.0	31.9	24.9	20.7	24.0	2.1	5.7	2.5	0.3
性別	男性	627	67.1	41.9	39.2	24.6	18.8	17.2	2.7	3.7	2.9	0.2
	女性	860	74.0	35.2	37.3	22.3	19.8	19.2	1.9	5.6	3.6	0.8
	回答しない	18	61.1	16.7	16.7	33.3	-	11.1	5.6	27.8	-	-
年代別	10歳代・20歳代	104	73.1	41.3	27.9	18.3	20.2	15.4	1.9	5.8	3.8	-
	30歳代	151	69.5	37.1	27.8	28.5	23.8	18.5	1.3	4.6	1.3	1.3
	40歳代	216	66.7	39.4	31.9	29.6	25.9	19.4	1.4	4.6	3.2	0.5
	50歳代	278	70.9	31.3	30.9	20.1	22.3	23.0	2.2	5.4	5.4	-
	60歳代	331	75.2	38.4	44.1	23.0	16.9	18.1	3.0	3.9	2.1	0.3
	70歳以上	426	70.0	40.6	46.7	22.1	13.6	15.3	2.6	5.9	3.3	0.9
職業別	農林業	63	68.3	41.3	44.4	17.5	14.3	11.1	6.3	6.3	3.2	1.6
	漁業	3	66.7	33.3	-	-	33.3	-	-	33.3	-	-
	商工サービス業自営	66	68.2	45.5	37.9	22.7	13.6	10.6	4.5	3.0	1.5	-
	会社員(役員を含む)、公務員	537	71.3	36.7	33.1	24.4	25.1	21.2	1.5	4.3	2.6	0.2
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	63.3	46.7	23.3	30.0	10.0	26.7	3.3	3.3	3.3	-
	主婦・主夫	162	74.1	38.3	44.4	21.0	19.1	21.0	1.9	4.9	4.3	0.6
	パート、アルバイト	189	70.4	45.0	32.3	25.9	16.9	19.6	2.1	5.8	4.2	1.6
	学生	21	61.9	28.6	19.0	9.5	9.5	-	9.5	19.0	-	-
	無職(すでに退職を含む)	332	71.4	35.8	47.9	21.4	13.9	14.5	2.4	5.4	3.6	0.3
	その他	94	70.2	31.9	35.1	28.7	21.3	19.1	1.1	4.3	3.2	1.1

問5×問7

普段、情報をよく収集するメディアと広報活動の充実のために中心に取り上げるべきものとのクロス分析

普段、情報をよく収集するメディアの種類にかかわらず、中心に取り上げるべきものとして、「災害発生時に役立つ情報を優先的に紹介する」が、ほとんどのメディアで70%以上と最も高い割合となっている。

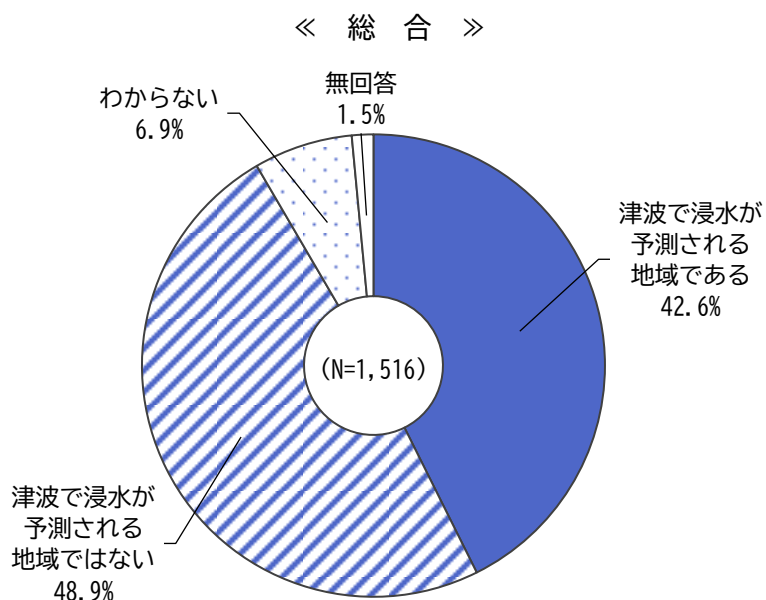
問7												
		調査数	(1) 県の政策・取り組みを詳しく紹介する	(2) 県全体の政策・取り組みをバランスよく紹介する	(3) 県の新しい政策・取り組みを最新の情報を優先的に紹介する	(4) 県の取り組みの動きや成果を節目に紹介する	(5) 災害発生時に役立つ情報を優先的に紹介する	(6) 県民が参加できる情報を多く掲載する講座等	(7) 特になし	(8) わからない	(9) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝												
		1位										
		2位										
問5	新聞	429	41.0	29.4	44.3	18.6	72.3	16.1	1.6	4.9	2.3	0.7
	テレビ	1,299	39.2	23.4	39.6	18.7	72.1	18.7	2.2	5.0	2.9	0.5
	ラジオ	127	35.4	22.0	42.5	21.3	75.6	20.5	2.4	4.7	1.6	0.8
	インターネット(SNS含む)	754	35.8	24.1	34.7	19.4	72.9	22.5	1.9	4.6	4.0	0.3
	街頭のチラシ、ポスター、掲示板	16	43.8	31.3	43.8	12.5	81.3	25.0	-	-	6.3	-
	その他	11	27.3	9.1	36.4	9.1	45.5	27.3	9.1	18.2	9.1	-
	無回答	7	14.3	-	14.3	14.3	42.9	28.6	-	-	14.3	57.1

(2) 津波避難対策について

問8 津波で浸水が予測される地域かどうか

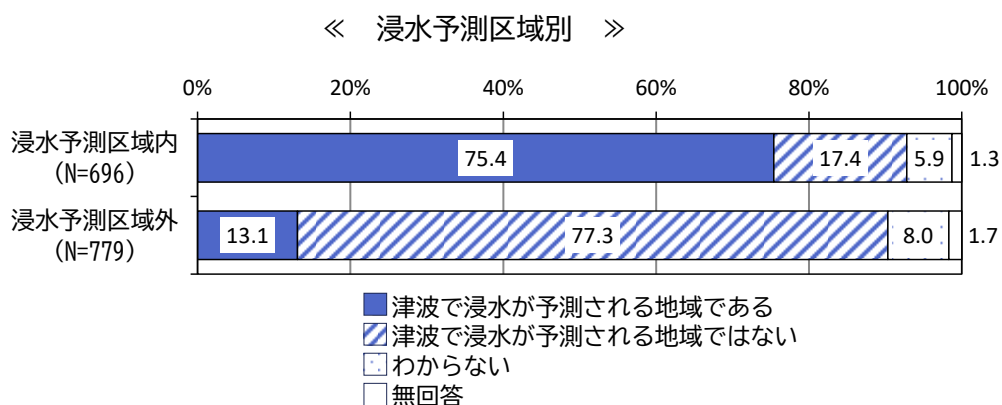
問8 あなたのお宅は津波で浸水が予測される地域ですか。(ひとつだけ○)

「津波で浸水が予測される地域である」は42.6%、「津波で浸水が予測される地域ではない」は48.9%と合計して91.5%の方が自宅がどのような地域にあるか認識しているが、まだ6.9%の方が「わからない」と答えている。



【浸水予測区域別】

「わからない」が浸水予測区域内では5.9%、浸水予測区域外では8.0%となっており、浸水予測区域外の方がわずかに多くなっている。



※浸水区域については、県の被害想定により2m以上の津波浸水が予測されている地域を含む大字単位で分類しています。一部の地域では実際の浸水予測区域と異なる場合があります。

【前回比較】

令和6年度と令和3年度は同じ傾向となっている。

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向で、性別による差もほとんどない。

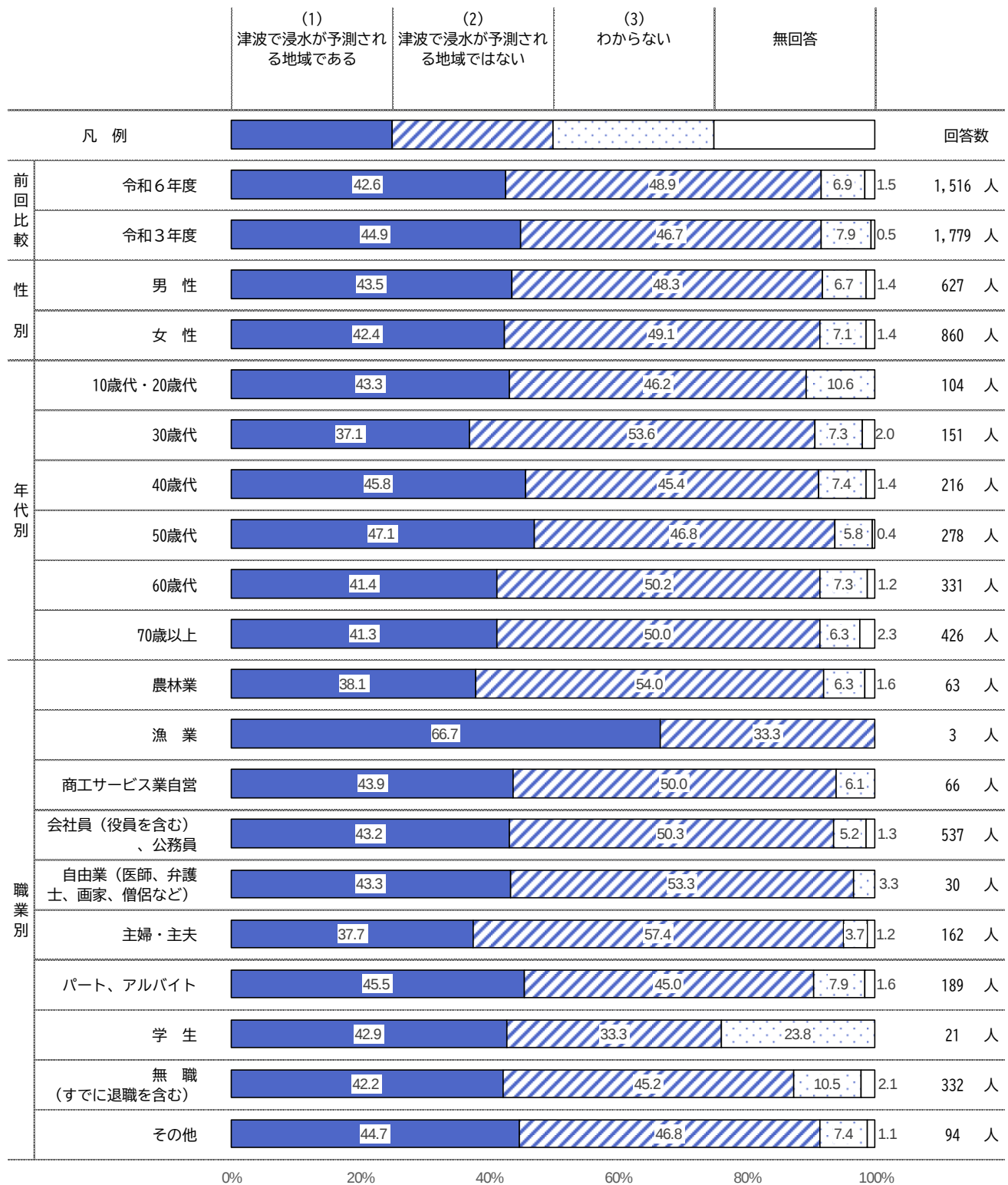
【年代別】

「わからない」は、10歳代・20歳代が10.6%と、総合及び他の年代より高くなっている。

【職業別】

「わからない」は、学生が23.8%と他の職業より高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

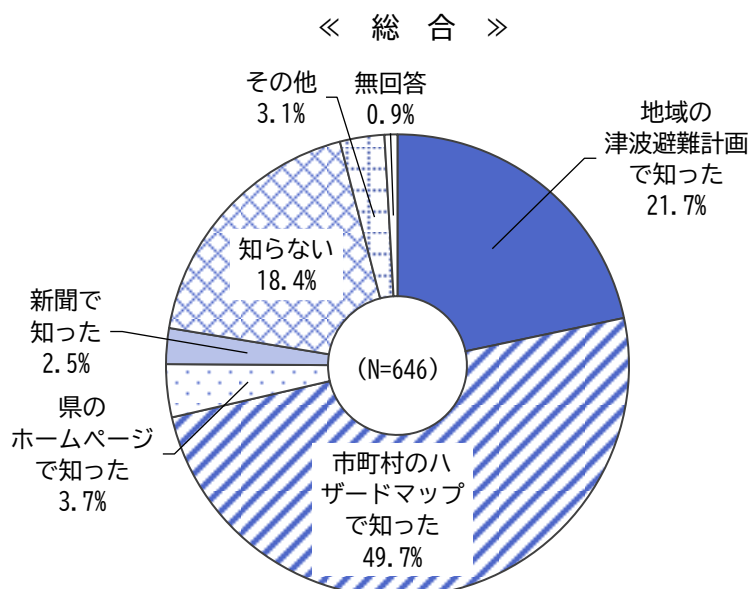


問9 津波が到達する時間や浸水する深さを知っているか

問9 問8で「1. 津波で浸水が予測される地域である」と回答した人におたずねします。

あなたのお宅まで津波が到達する時間や浸水する深さを知っていますか。(ひとつだけ○)

津波が到達する時間や浸水する深さを知っているかについては、「市町村のハザードマップで知った」が49.7%と最も高く、「知っている」と答えた方は全体の77.6%となっているが、「知らない」が18.4%となっている。



【前回比較】

令和6年度では、「地域の津波避難計画で知った」が4.6ポイントと増加しており、「知っている」と回答した割合が、令和3年度の71.9%より5.7ポイント増加している。

【性別】

「市町村のハザードマップで知った」の割合が女性では52.1%と男性の46.5%よりも5.6ポイント高くなっている。

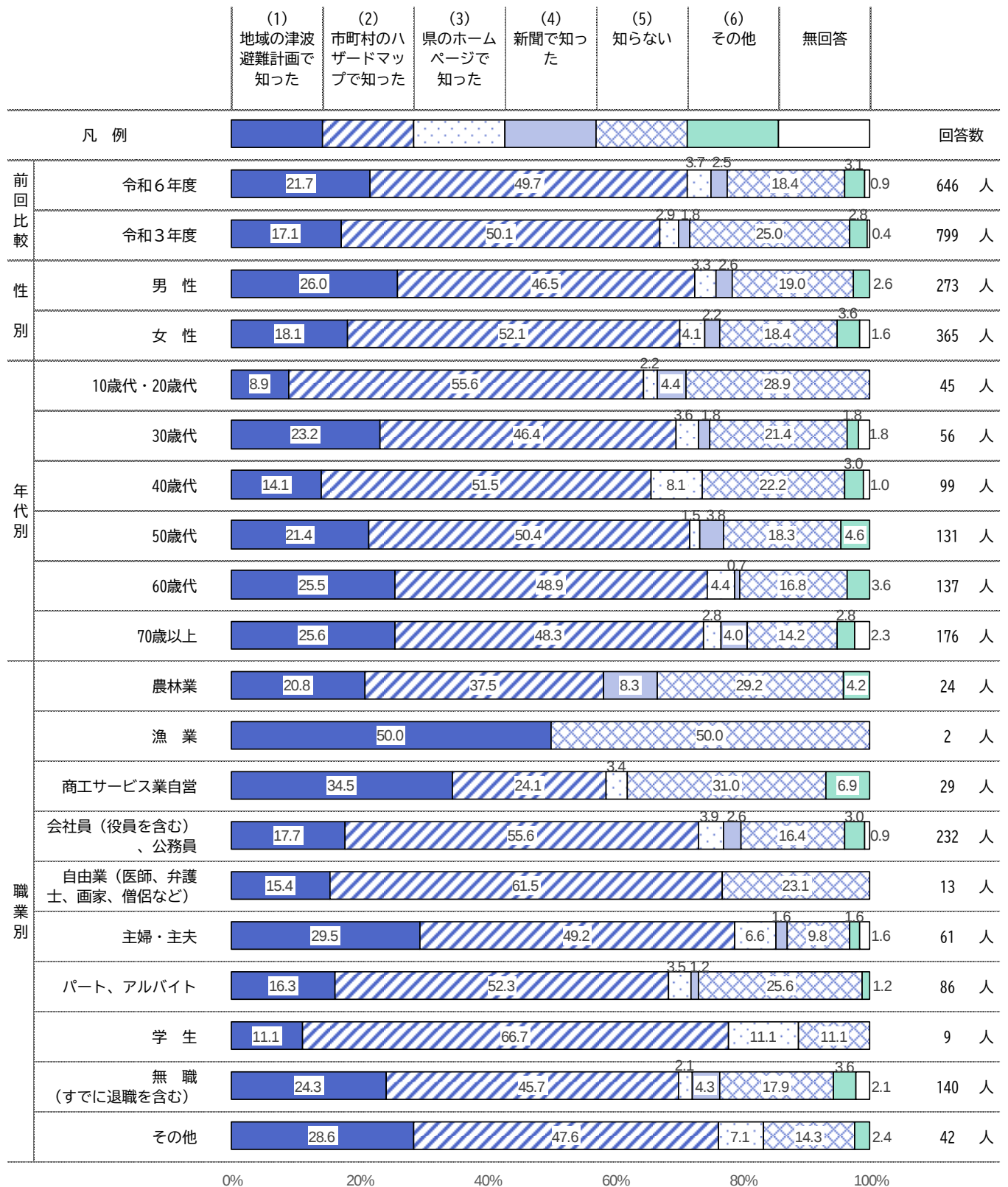
【年代別】

10歳代・20歳代では「知らない」と回答した方が28.9%と他の年代と比べても高い割合になっている。

【職業別】

商工サービス業自営を除くすべての職業で、「市町村のハザードマップで知った」の割合が最も高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

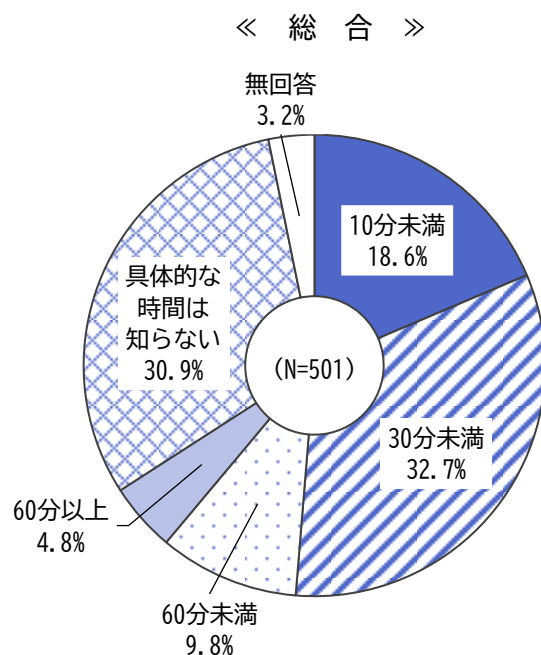


問 10 津波が到達する時間を具体的に知っているか

問10 問9で「1. 地域の津波避難計画で知った」、「2. 市町村のハザードマップで知った」、「3. 県のホームページで知った」、「4. 新聞で知った」と回答した人におたずねします。

あなたのお宅まで津波が到達する時間を具体的に知っていますか。(ひとつだけ○)

津波の到達する時間を具体的に知っているかについては、「10分未満」～「60分以上」の知っていると回答した人の割合は65.9%であり、「具体的な時間は知らない」は30.9%となっている。



【前回比較】

「具体的な時間は知らない」と回答した割合は、令和3年度の27.9%より3.0ポイント増加している。

【性別】

「具体的な時間は知らない」は、男性が26.6%、女性が34.8%と女性の方が8.2ポイント高い。

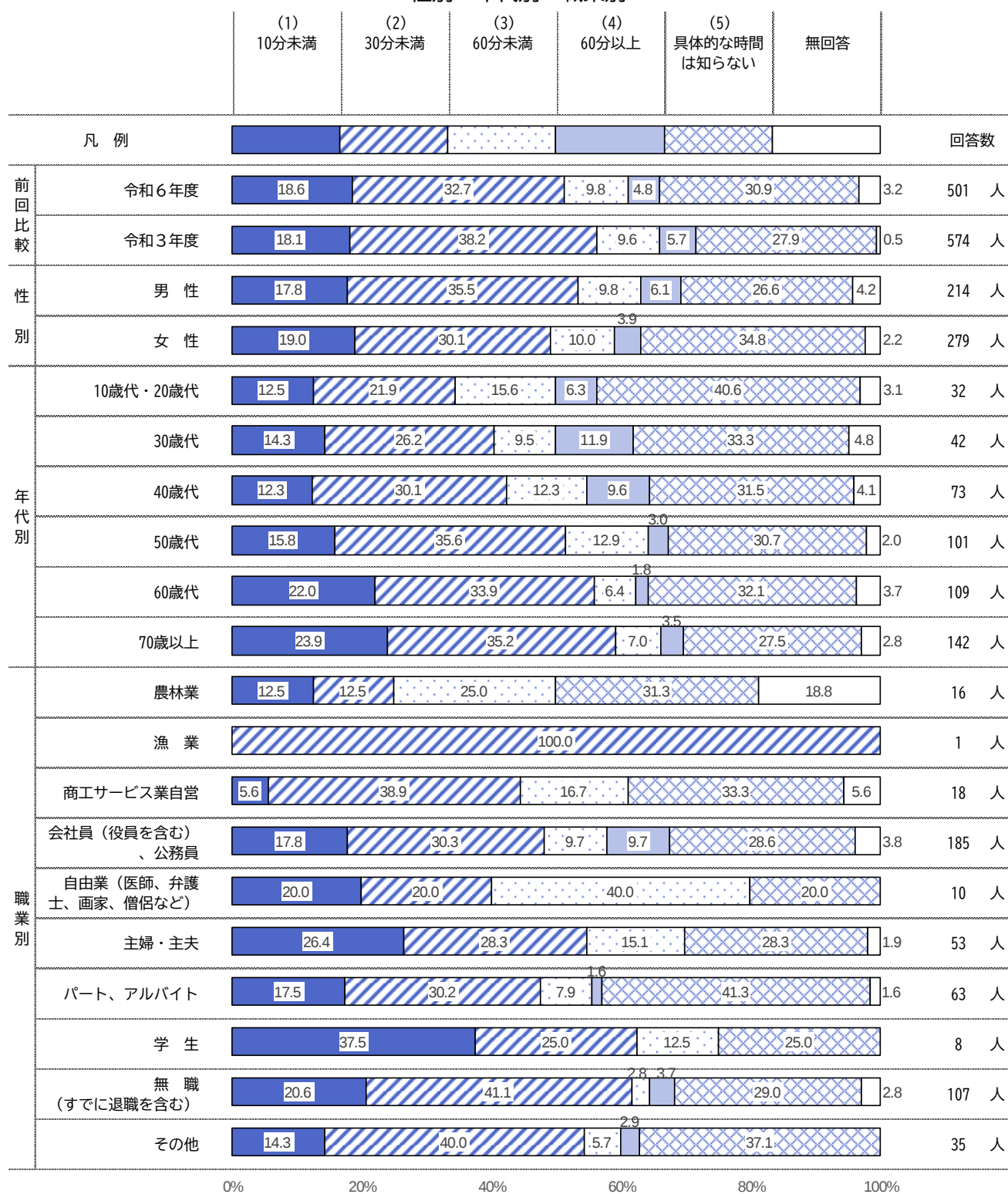
【年代別】

「具体的な時間は知らない」は10歳代・20歳代で40%を超えている。一方、70歳以上では27.5%と他の年代の中で最も低くなっている。

【職業別】

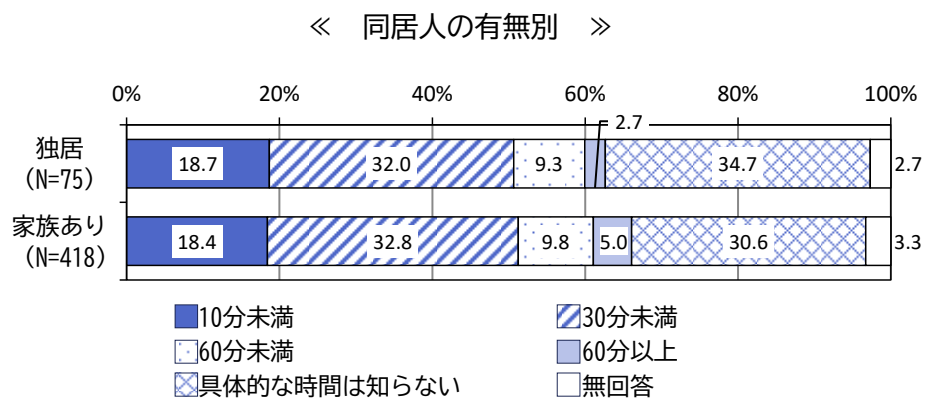
「具体的な時間は知らない」はパート・アルバイトが41.3%、その他が37.1%と他の職業より高くなっている。

≪ 性別・年代別・職業別 ≫



【同居人の有無別】

「具体的な時間は知らない」は、独居世帯が34.7%、家族あり世帯が30.6%と独居世帯の方が4.1ポイント高くなっている。

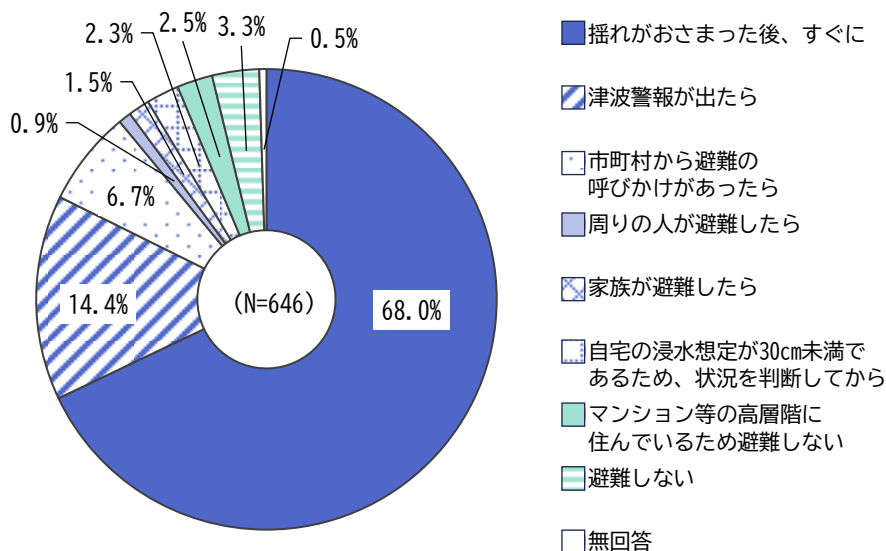


問 11 いつ避難するか

問11 あなたがご自宅にいるときに、今まで経験したことがないような大きな揺れに襲われ、その揺れが1分以上続いたとします。あなたはいつ避難しますか。(ひとつだけ○)

津波からの避難については、「揺れがおさまった後、すぐに」が68.0%と最も高く、次いで「津波警報が出たら」14.4%、「市町村から避難の呼びかけがあったら」6.7%と続いている。

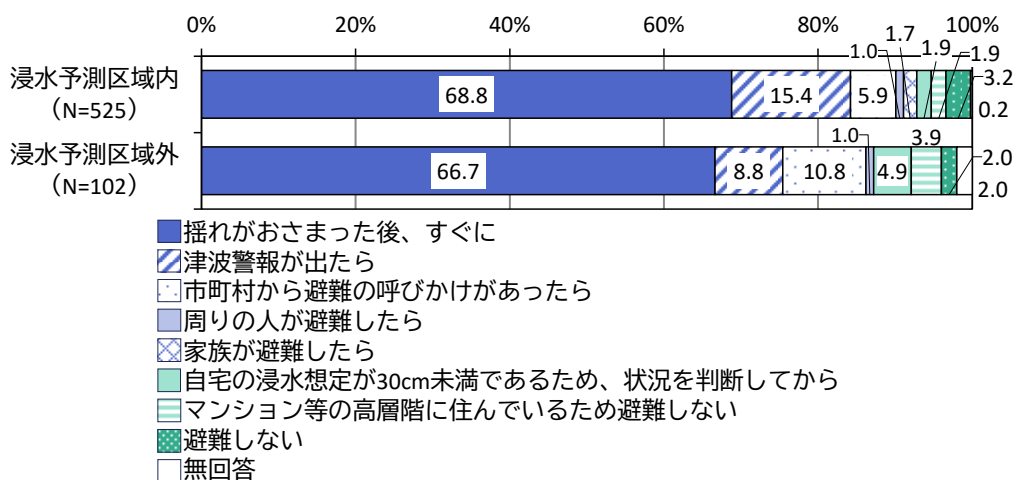
《 総 合 》



【浸水予測区域別】

「揺れがおさまった後、すぐに」の割合は、浸水予測区域内で68.8%、浸水予測区域外で66.7%となっている。

《 浸水予測区域別 》



【前回比較】

令和3年度と大きな差は見られない。

【性別】

「揺れがおさまった後、すぐに」と回答した割合は、男性70.7%、女性66.0%と男性の方が4.7ポイント高くなっている。

【年代別】

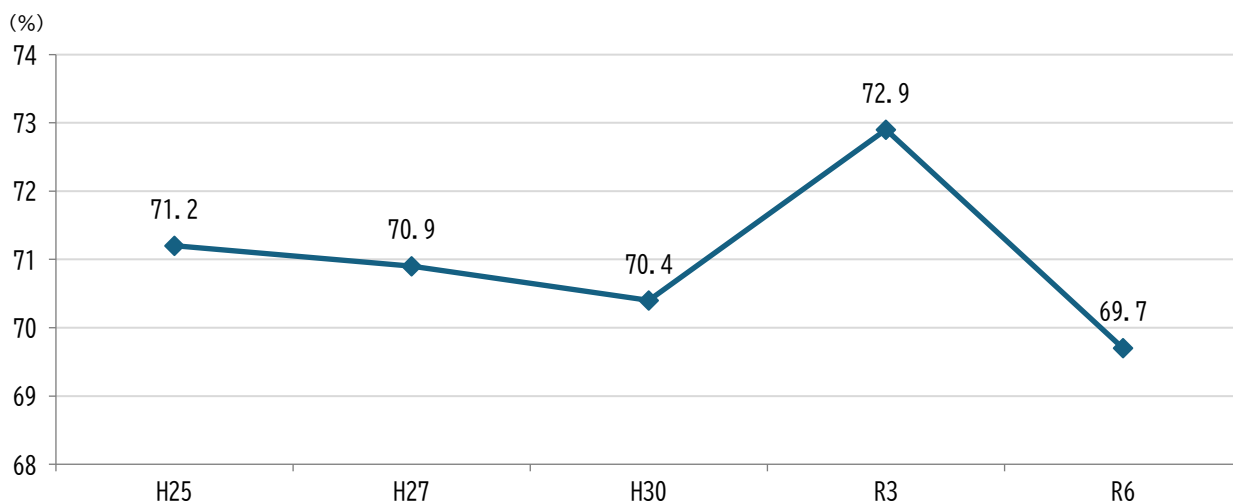
30歳代では「揺れがおさまった後、すぐに」が76.8%と年代別で最も高くなっている。一方、70歳以上では「避難しない」5.7%が他の年代より高くなっている。

【職業別】

「揺れがおさまった後、すぐに」は、学生が77.8%と最も高く、最も低い無職の57.9%とは19.9ポイントの差がある。

【津波からの早期避難意識率】

津波からの早期避難意識率をみると、H25年以降7割を超えて推移していたが、R6年では69.7%と減少している。

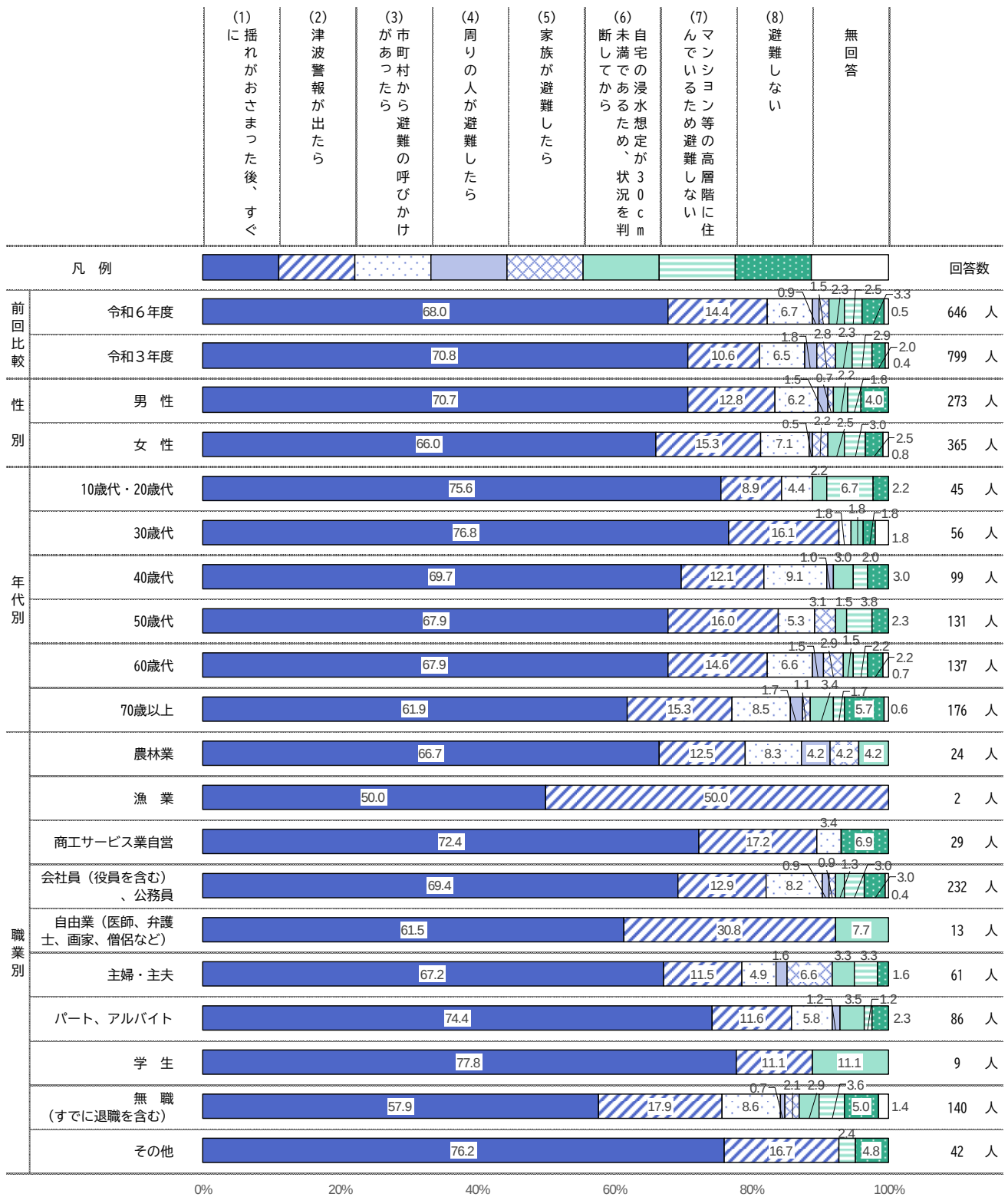


■早期避難意識率の計算方法

＜「1. 揺れがおさまった後、すぐに」と回答した人＞を＜回答者数から「マンション等の高層階に住んでいるため避難しない」を除いた値＞で除した値

【参考・R6】439人／（646人－16人）＝69.7%

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶



問11×問5

「いつ避難するか」と「普段、情報をよく収集するメディア」とのクロス分析

普段、情報をよく収集するメディアの種類が多くで、「揺れがおさまった後、すぐに」が約50%以上と最も高い割合となっている。

問11											
		調査数	(1) 揺れがおさまった後、	(2) 津波警報が出たら	(3) 呼びかけから避難したら	(4) 周りの人が避難したら	(5) 家族が避難したら	(6) 状況を見ても避難しては	(7) 自宅の浸水想定範囲内	(8) 避難しない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位							
問5	新聞	177	63.8	14.1	9.0	2.3	2.3	2.3	2.8	2.8	0.6
	テレビ	545	68.1	13.9	7.0	0.9	1.7	2.6	2.6	2.8	0.6
	ラジオ	60	70.0	13.3	10.0	1.7	-	1.7	1.7	-	1.7
	インターネット(SNS含む)	334	70.4	12.6	6.3	0.3	1.5	2.4	2.7	3.6	0.3
	街頭のチラシ、ポスター、掲示板	6	50.0	33.3	-	16.7	-	-	-	-	-
	その他	5	40.0	40.0	-	-	-	-	-	20.0	-
	不明	3	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-

問11×問10

「いつ避難するか」と「津波が到達する時間を具体的に知っているか」とのクロス分析

津波が到達する時間別において、いずれも「揺れがおさまった後、すぐに」が最も高い割合となっている。

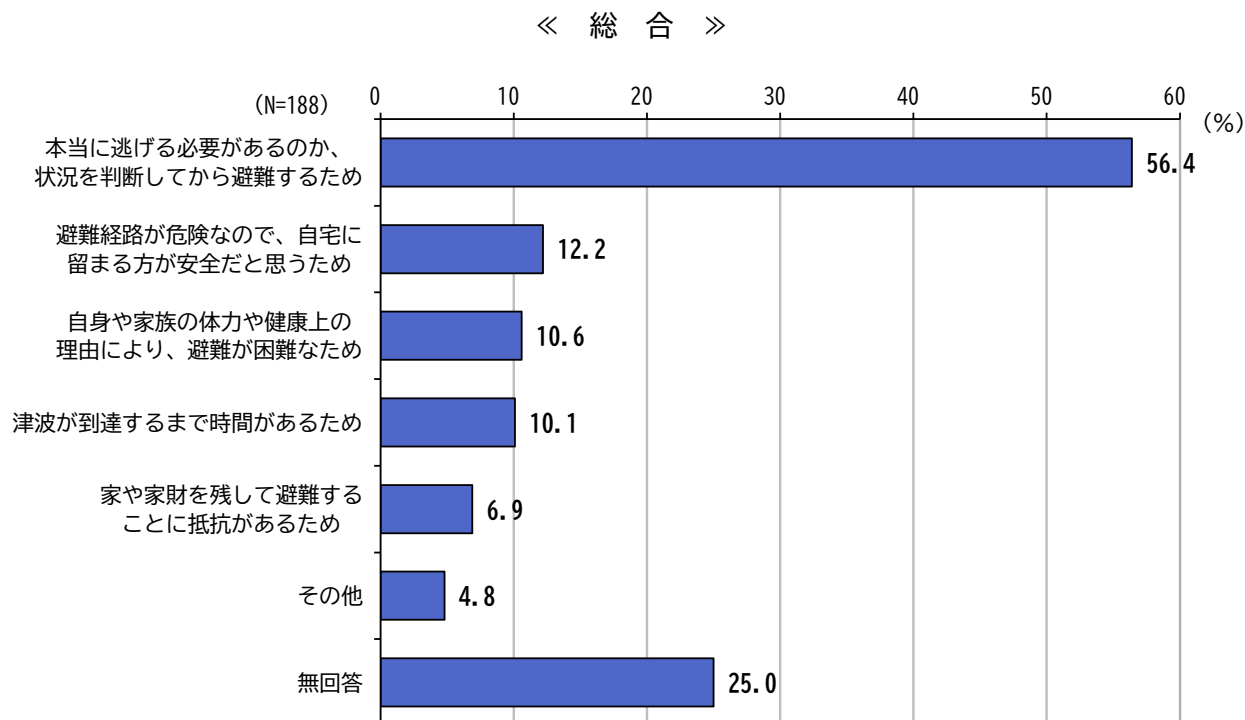
問11											
		調査数	(1) 揺れがおさまった後、	(2) 津波警報が出たら	(3) 呼びかけから避難したら	(4) 周りの人が避難したら	(5) 家族が避難したら	(6) 状況を見ても避難しては	(7) 自宅の浸水想定範囲内	(8) 避難しない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位							
問10	10分未満	93	73.1	17.2	5.4	-	-	1.1	-	3.2	-
	30分未満	164	70.1	12.8	7.3	-	1.2	1.8	3.7	3.0	-
	60分未満	49	71.4	10.2	4.1	-	2.0	2.0	10.2	-	-
	60分以上	24	58.3	16.7	8.3	4.2	4.2	4.2	-	4.2	-
	具体的な時間は知らない	155	63.9	15.5	8.4	2.6	2.6	2.6	1.3	2.6	0.6

問 12 すぐに避難しない理由

問12 問11で「2. 津波警報が出たら」～「6. 自宅の浸水想定が30cm未満であるため、状況を判断してから」、「8. 避難しない」と回答した人におたずねします。

すぐに避難しない理由はなんですか。（当てはまるものすべてに○）

すぐに避難しない理由としては、「本当に逃げる必要があるのか、状況を判断してから避難するため」が56.4%と最も高く、次いで「避難経路が危険なので、自宅に留まる方が安全だと思うため」12.2%、「自身や家族の体力や健康上の理由により、避難が困難なため」10.6%、「津波が到達するまで時間があるため」10.1%と続いている。



【前回比較】

令和6年度では「本当に逃げる必要があるのか、状況を判断してから避難するため」は令和3年度より減少している。

【性別】

男女とも「本当に逃げる必要があるのか、状況を判断してから避難するため」の割合が、男性45.3%、女性63.6%と最も高く、男性では「自身や家族の体力や健康上の理由により、避難が困難なため」14.7%、女性では「避難経路が危険なので、自宅に留まる方が安全だと思うため」11.8%が続いている。

【年代別】

すべての年代で「本当に逃げる必要があるのか、状況を判断してから避難するため」の割合が最も高く、中でも50歳代が73.0%と高くなっている。

【職業別】

すべての職業で「本当に逃げる必要があるのか、状況を判断してから避難するため」が最も高くなっている。

◀ 前回調査・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 難か本 す、当 る状に た況逃 めをげ る判 断必 し要 てが かあ らる 避の	(2) う宅避 たに難 め留経 路 るが 方危 が険 安な 全の だど と思 自	(3) な自 た理 め身 や に家 族 の 、 体 力 難 や 健 康 難 上	(4) あ津 る波 たが め 到達 する ま で 時 間 が	(5) こ家 とや に家 抵財 抗を が残 あし てた 避 め難 する	(6) そ の 他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位					
今回調査(R6)		188	56.4	12.2	10.6	10.1	6.9	4.8	25.0
前回調査(R3)		207	65.2	10.1	10.1	10.1	6.8	4.3	15.9
性別	男性	75	45.3	12.0	14.7	13.3	10.7	8.0	24.0
	女性	110	63.6	11.8	7.3	7.3	4.5	2.7	26.4
	回答しない	3	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-	-
年代別	10歳代・20歳代	8	62.5	-	-	-	25.0	12.5	12.5
	30歳代	12	50.0	16.7	8.3	25.0	16.7	-	8.3
	40歳代	28	60.7	14.3	-	7.1	10.7	10.7	17.9
	50歳代	37	73.0	16.2	5.4	8.1	8.1	-	16.2
	60歳代	40	60.0	7.5	12.5	7.5	7.5	-	27.5
	70歳以上	63	42.9	12.7	19.0	12.7	-	7.9	36.5
	その他	9	55.6	-	-	22.2	-	22.2	-
職業別	農林業	8	25.0	-	-	-	-	-	75.0
	漁業	1	100.0	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	8	75.0	25.0	25.0	25.0	-	12.5	-
	会社員(役員を含む)、公務員	63	61.9	14.3	3.2	11.1	11.1	1.6	20.6
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	5	80.0	20.0	20.0	-	20.0	20.0	-
	主婦・主夫	18	55.6	5.6	16.7	-	5.6	-	38.9
	パート、アルバイト	21	47.6	14.3	9.5	9.5	4.8	4.8	28.6
	学生	2	50.0	-	-	-	50.0	-	-
	無職(すでに退職を含む)	52	51.9	13.5	19.2	11.5	3.8	5.8	28.8
	その他	9	55.6	-	-	22.2	-	22.2	-

問12×問10

「すぐに避難しない理由」と「津波が到達する時間を具体的に知っているか」とのクロス分析

津波が到達する時間別において、いずれも「本当に逃げる必要があるのか、状況を判断してから避難するため」が最も高い割合となっている。

		問12							
		調査数	(1) 難か本 す、当 る状に た況逃 めをげ たを判 断必し 要てが かある らる避 の	(2) う宅避 たに難 め留経 る路 るが 方危 が険 安な のだ とで と思 自	(3) な理身 た由や め家に に族 の 、体 避力 や難 が健 困康 難上	(4) あ津 る波 たが め到 達 す る ま で 時 間 が	(5) こ家 とや に家 抵財 抗を が残 あし てあ るた め避 難 す る	(6) そ の 他	無 回 答
問 1 0	10分未満	25	36.0	8.0	16.0	16.0	4.0	-	28.0
	30分未満	43	58.1	14.0	9.3	11.6	4.7	7.0	23.3
	60分未満	9	77.8	11.1	11.1	11.1	11.1	-	11.1
	60分以上	10	40.0	20.0	20.0	10.0	10.0	-	20.0
	具体的な時間は知らない	53	54.7	11.3	7.5	5.7	7.5	5.7	30.2

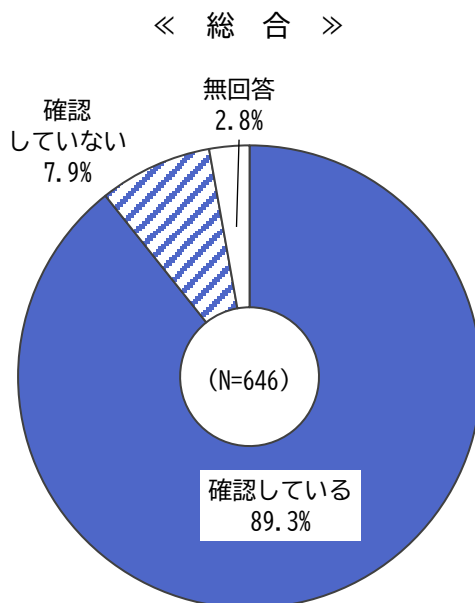
【表の見方】
比率(%)
網掛け=

1 位
2 位

問 13 避難場所を確認しているか

問13 津波からの避難場所を確認していますか。(ひとつだけ○)

津波からの避難場所の確認については、「確認している」が89.3%、「確認していない」が7.9%となっている。



【前回比較】

令和3年度と大きな差は見られない。

【性別】

「総合」と同じ傾向で、性別による差はほとんど無い。

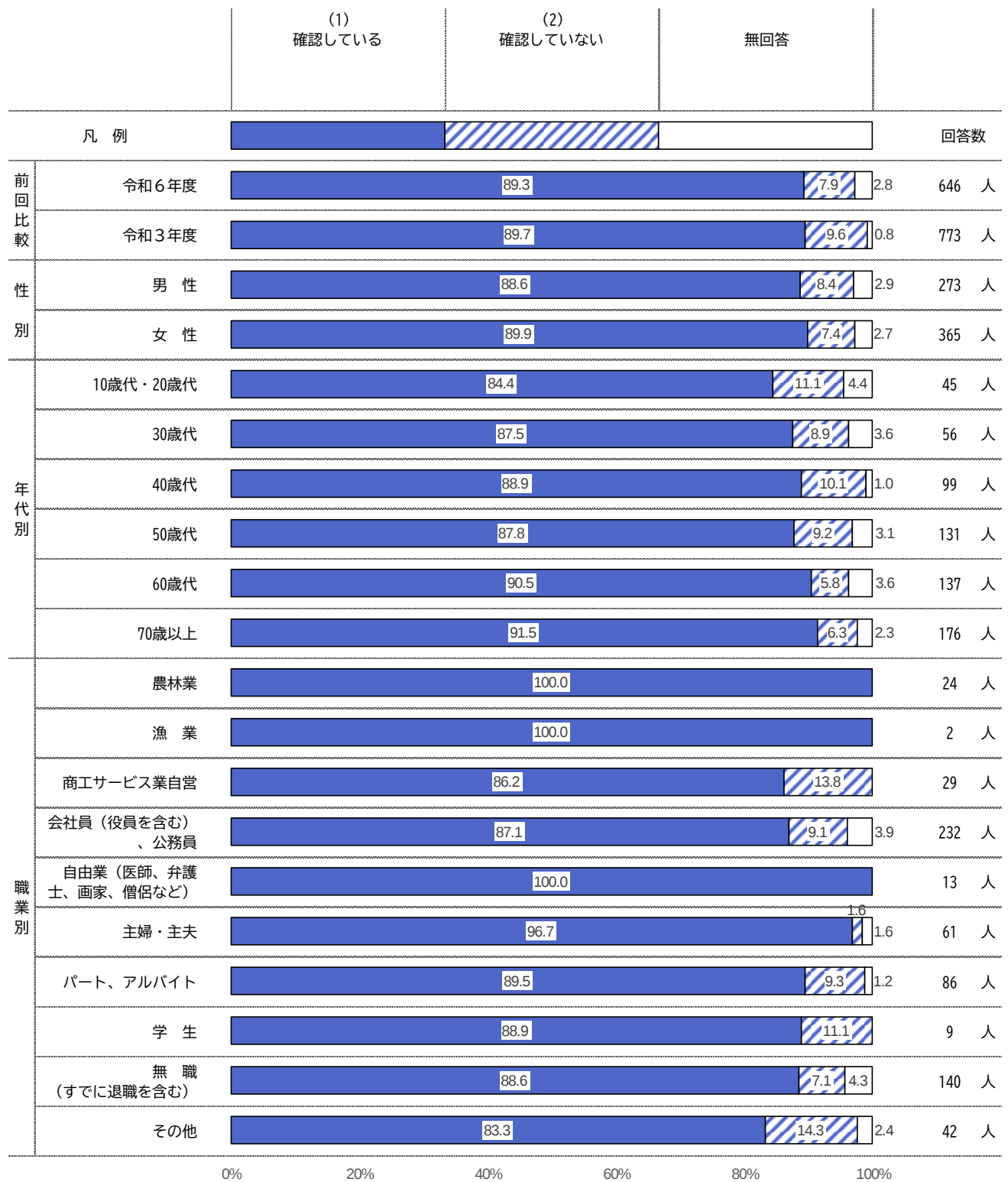
【年代別】

70歳以上は「確認している」が91.5%と他の年代と比べて高くなっている。一方、10歳代・20歳代は「確認している」が84.4%と最も低くなっている。

【職業別】

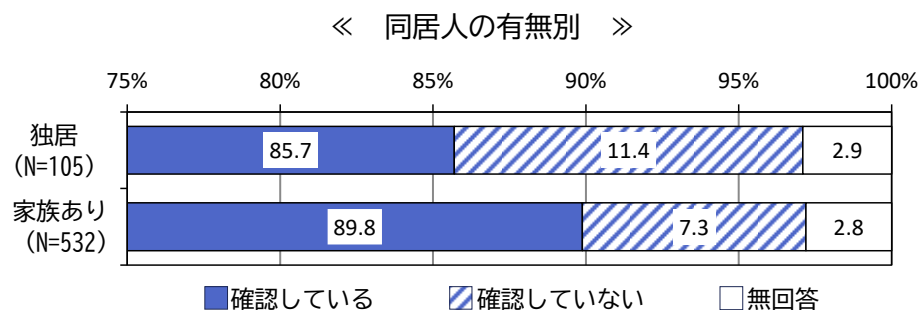
商工サービス業自営及び学生、その他は、「確認していない」が10%を超えており他の職業と比べて高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶



【同居人の有無別】

「確認している」は家族あり世帯で89.8%と、独居世帯の85.7%より4.1ポイント高く、「確認していない」では独居世帯の方が11.4%と家族あり世帯の7.3%より4.1ポイント高くなっている。



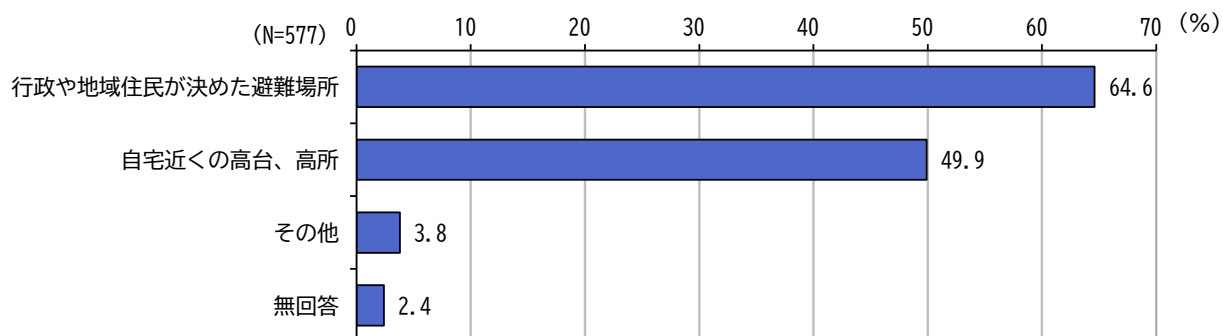
問 14 どこに避難するか

問14 問13で「1 確認している」と回答した人におたずねします。

あなたはどこに避難しますか。(当てはまるものすべてに○)

避難する場所は、「行政や地域住民が決めた避難場所」が64.6%、「自宅近くの高台、高所」が49.9%となっている。

《 総 合 》



【前回比較】

令和3年度と大きな差は見られない。

【性別】

「総合」と同じ傾向で、性別による差はほとんど無い。

【年代別】

「行政や地域住民が決めた避難場所」は、すべての年代で50%以上を占めている。

【職業別】

「行政や地域住民が決めた避難場所」は、すべての職業で60%以上を占めている。

◀ 前回調査・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 行政や地域住民が 決めた避 難場所	(2) 自宅近くの 高台、高 所	(3) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝						
1 位 2 位						
今回調査(R6)		577	64.6	49.9	3.8	2.4
前回調査(R3)		693	68.1	50.1	30.5	1.0
性別	男性	242	67.4	46.3	5.4	3.3
	女性	328	62.8	52.7	2.7	1.2
	回答しない	6	50.0	50.0	-	33.3
年代別	10歳代・20歳代	38	73.7	36.8	2.6	2.6
	30歳代	49	73.5	42.9	-	2.0
	40歳代	88	68.2	52.3	2.3	1.1
	50歳代	115	61.7	57.4	3.5	2.6
	60歳代	124	58.9	58.9	3.2	2.4
	70歳以上	161	64.0	41.6	6.8	3.1
職業別	農林業	24	70.8	37.5	-	4.2
	漁業	2	100.0	100.0	-	-
	商工サービス業自営	25	68.0	48.0	4.0	-
	会社員(役員を含む)、公務員	202	64.4	50.5	2.5	3.0
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	13	76.9	38.5	7.7	-
	主婦・主夫	59	62.7	54.2	-	1.7
	パート、アルバイト	77	66.2	57.1	3.9	-
	学生	8	87.5	12.5	-	-
	無職(すでに退職を含む)	124	61.3	46.8	7.3	3.2
	その他	35	60.0	51.4	8.6	5.7

問 15 避難場所や避難経路に対してどのような不安があるか

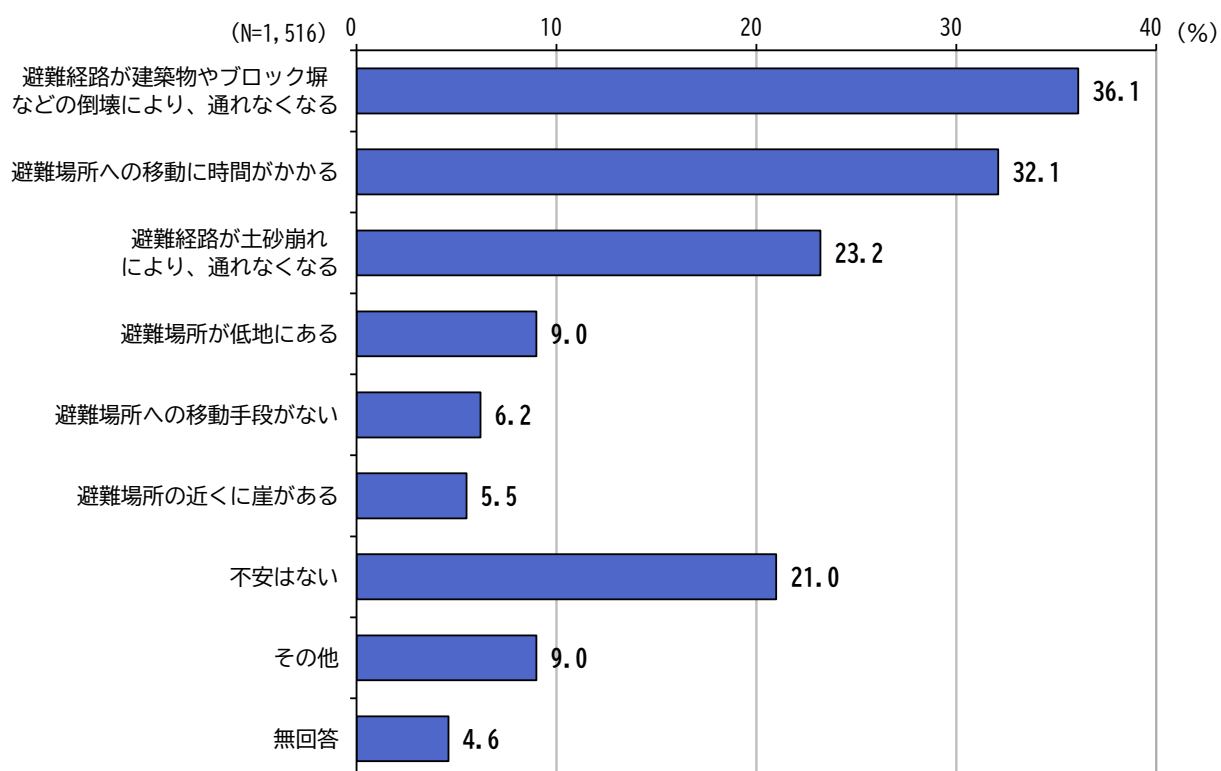
問15 避難場所や避難経路に対して、どのような不安がありますか。(当てはまるものすべてに○)

避難経路に対する不安は、「避難経路が建築物やブロック塀などの倒壊により、通れなくなる」が36.1%で最も高く、次いで「避難場所への移動に時間がかかる」32.1%、「避難経路が土砂崩れにより、通れなくなる」23.2%と続いている。

避難場所に対する不安は、「避難場所が低地にある」が9.0%、「避難場所の近くに崖がある」5.5%となっている。

「不安はない」は21.0%となっている。

《 総 合 》



【前回比較】

令和3年度と大きな差は見られない。

【性別】

「避難経路が建築物やブロック塀などの倒壊により、通れなくなる」は男性33.8%、女性37.7%と女性の方が3.9ポイント高く、「不安はない」は男性27.1%、女性17.0%と男性の方が10.1ポイント高くなっている。

【年代別】

10歳代～60歳代では「避難経路が建築物やブロック塀などの倒壊により、通れなくなる」が最も高く、70歳以上では「避難場所への移動に時間がかかる」37.3%が最も高くなっている。

【職業別】

商工サービス業自営、会社員、公務員、自由業、主婦・主夫、パート・アルバイト、学生、その他では「避難経路が建築物やブロック塀などの倒壊により、通れなくなる」、農林業では「避難経路が土砂崩れにより、通れなくなる」、漁業では「不安はない」、無職では「避難場所への移動に時間がかかる」が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) れク避 な塀難 くなど 路の が倒 壊建 築に 物 より ブ 、口 通ッ	(2) か避 が難 る場 所へ の移 動に 時間 が	(3) り避 、難 通経 路路 がな く土 砂 崩れ によ	(4) 避難 場所 が低 地に ある	(5) い避 難場 所へ の移 動手 段が な	(6) 避難 場所 の近 くに 崖が ある	(7) 不安 はない	(8) その他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1 位	2 位							
今回調査(R6)		1,516	36.1	32.1	23.2	9.0	6.2	5.5	21.0	9.0	4.6
前回調査(R3)		773	35.3	34.8	18.4	9.3	4.1	3.9	21.6	10.7	3.4
性別	男性	627	33.8	31.3	23.0	6.4	4.5	5.4	27.1	6.7	4.0
	女性	860	37.7	32.7	23.0	10.6	7.4	5.2	17.0	11.0	4.8
	回答しない	18	44.4	44.4	27.8	27.8	5.6	5.6	5.6	-	5.6
年代別	10歳代・20歳代	104	44.2	33.7	26.0	10.6	4.8	4.8	21.2	5.8	1.9
	30歳代	151	42.4	30.5	32.5	11.3	5.3	6.0	17.9	9.3	2.0
	40歳代	216	42.1	25.5	24.1	9.7	4.2	2.8	18.5	8.3	5.6
	50歳代	278	39.6	32.4	28.1	7.9	2.9	6.1	18.0	12.9	3.6
	60歳代	331	36.9	30.5	19.9	8.8	6.3	5.1	25.4	5.4	3.6
	70歳以上	426	26.1	37.3	17.8	8.7	9.9	6.3	22.1	10.6	6.6
職業別	農林業	63	20.6	17.5	33.3	4.8	6.3	4.8	30.2	14.3	-
	漁業	3	-	-	33.3	-	-	-	66.7	-	-
	商工サービス業自営	66	43.9	25.8	21.2	13.6	3.0	3.0	22.7	4.5	7.6
	会社員(役員を含む)、公務員	537	41.0	28.5	25.9	7.4	3.9	5.0	21.0	7.8	4.1
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	26.7	23.3	13.3	10.0	10.0	3.3	20.0	20.0	6.7
	主婦・主夫	162	35.8	35.2	24.1	7.4	7.4	6.8	18.5	8.6	5.6
	パート、アルバイト	189	39.7	38.1	22.2	11.1	9.0	5.8	17.5	11.6	3.2
	学生	21	38.1	23.8	14.3	28.6	-	-	28.6	-	-
	無職(すでに退職を含む)	332	28.9	38.0	16.3	9.6	8.1	6.0	22.0	8.7	6.0
	その他	94	36.2	33.0	30.9	10.6	7.4	6.4	20.2	11.7	3.2

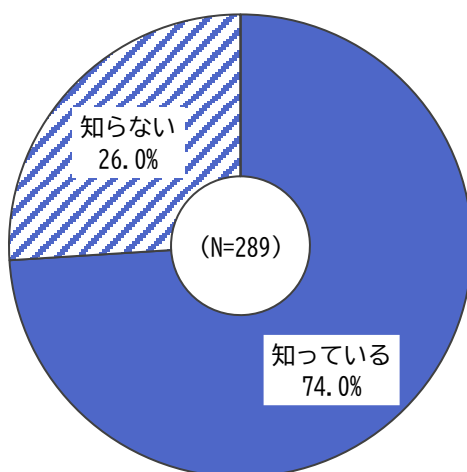
問 16 子どもが通っている学校の避難場所を知っているか

問16 お子さんが学校に通っている方のみお答えください。

東日本大震災では、お子さんを学校に迎えに行き、犠牲になるケースが多くありましたが、お子さんが通っている学校の避難場所を知っていますか。(ひとつだけ○)

お子さんが通っている学校の避難場所を知っているかについて、「知っている」が74.0%、「知らない」が26.0%となっている。

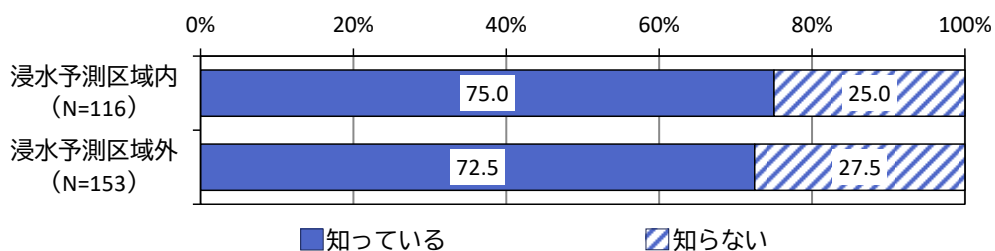
《 総 合 》



【浸水予測区域別】

「知っている」と回答した割合は、浸水予測区域内では75.0%、浸水予測区域外では72.5%となっている。

《 浸水予測区域別 》



※浸水予測区域不明 20 名を除く

【性別】

「知っている」と回答した割合は、男性で75.2%、女性で73.8%となっている。

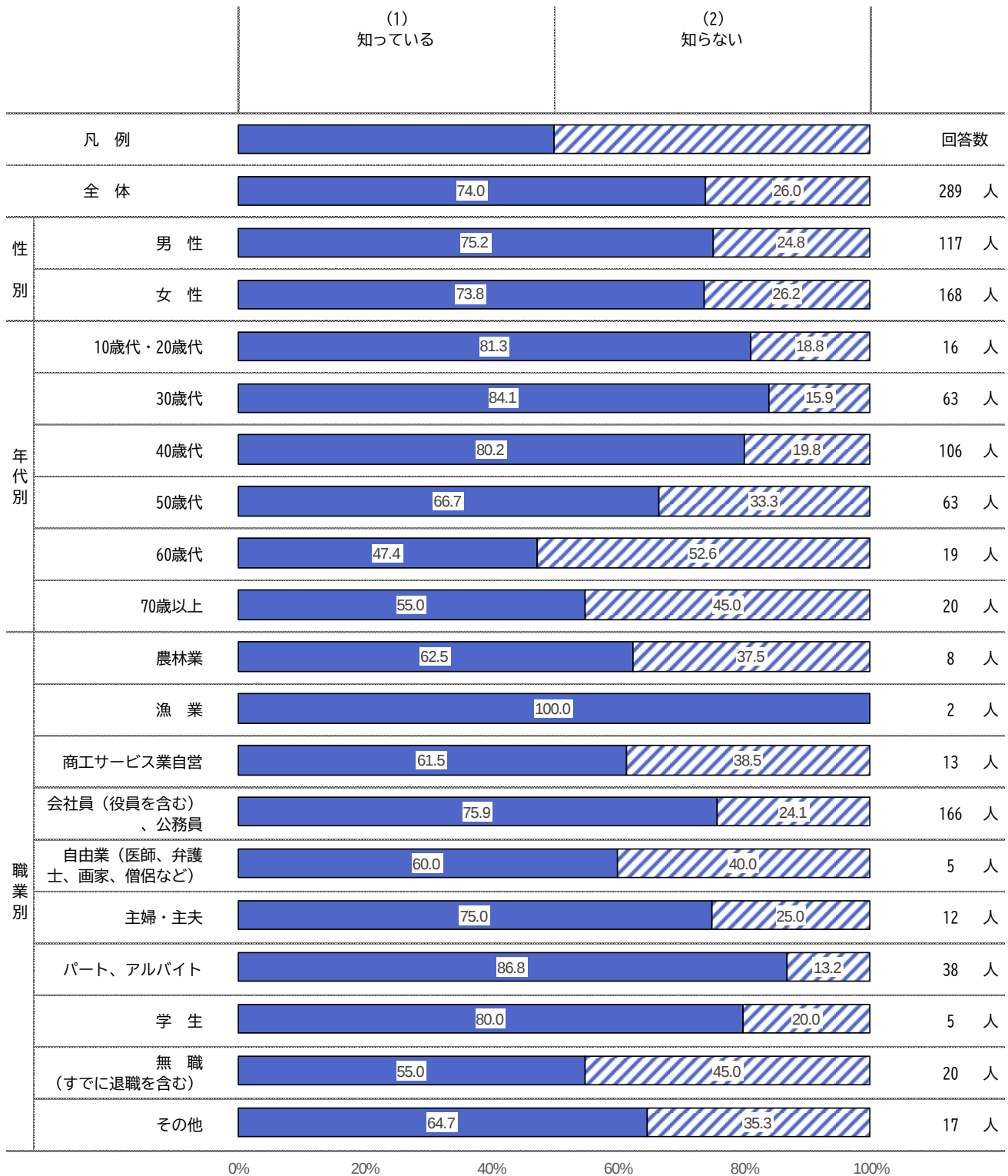
【年代別】

60歳代を除くすべての年代で「知っている」の割合が高く、60歳代では「知らない」52.6%が高くなっている。

【職業別】

すべての職業で「知っている」の割合が高く、50%を超えている。

◀ 性別・年代別・職業別 ▶



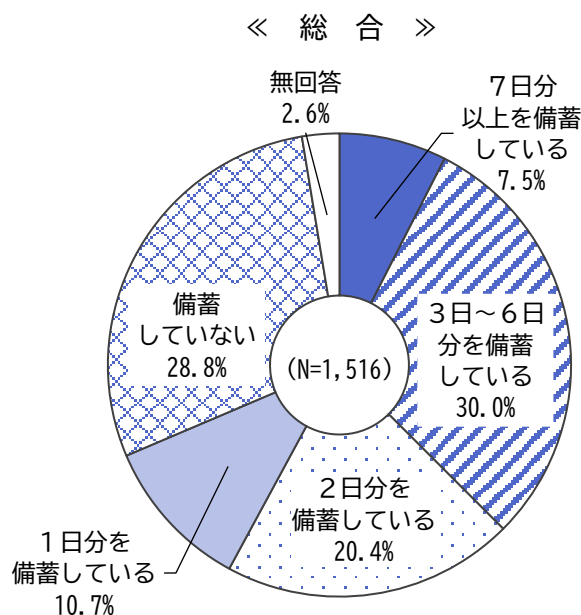
(3) 家庭での備えについて

問 17 災害時用の飲料水・食料の備蓄状況

問17 大規模災害が発生した時は、県外からの応援が届くまでに時間がかかるため、各ご家庭でも飲料水・食料の備蓄をすることが重要です。あなたのご自宅では、日常的に消費するものとは別に、災害用の備えとして、長期保存の飲料水と食料の備蓄を行っていますか。(それぞれ1つだけ○)

【飲料水】

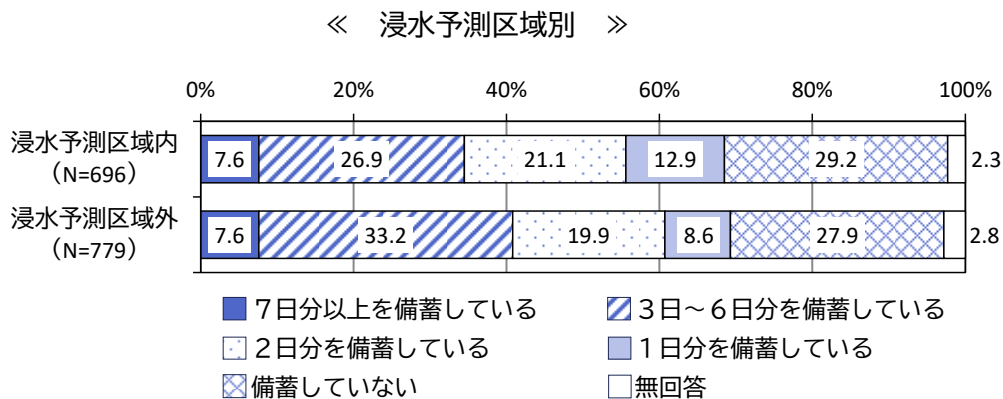
長期保存の飲料水の備蓄状況では、「3日～6日分を備蓄している」30.0%が最も高く、次いで「備蓄していない」28.8%、「2日分を備蓄している」20.4%、「1日分を備蓄している」10.7%と続いている。



【浸水予測区域別】

浸水予測区域外の方が、浸水予測区域内よりも備蓄している割合が0.8ポイント高い。

備蓄している割合としては、「3日～6日分を備蓄している」の割合が浸水予測区域内では26.9%、浸水予測区域外では33.2%と最も高くなっている。



【前回比較】

令和3年度と比較すると、「備蓄していない」の割合が2.5ポイント減少している。

【性別】

「備蓄している」割合は、男性67.5%、女性69.7%となっており、女性の方が2.2ポイント高くなっている。

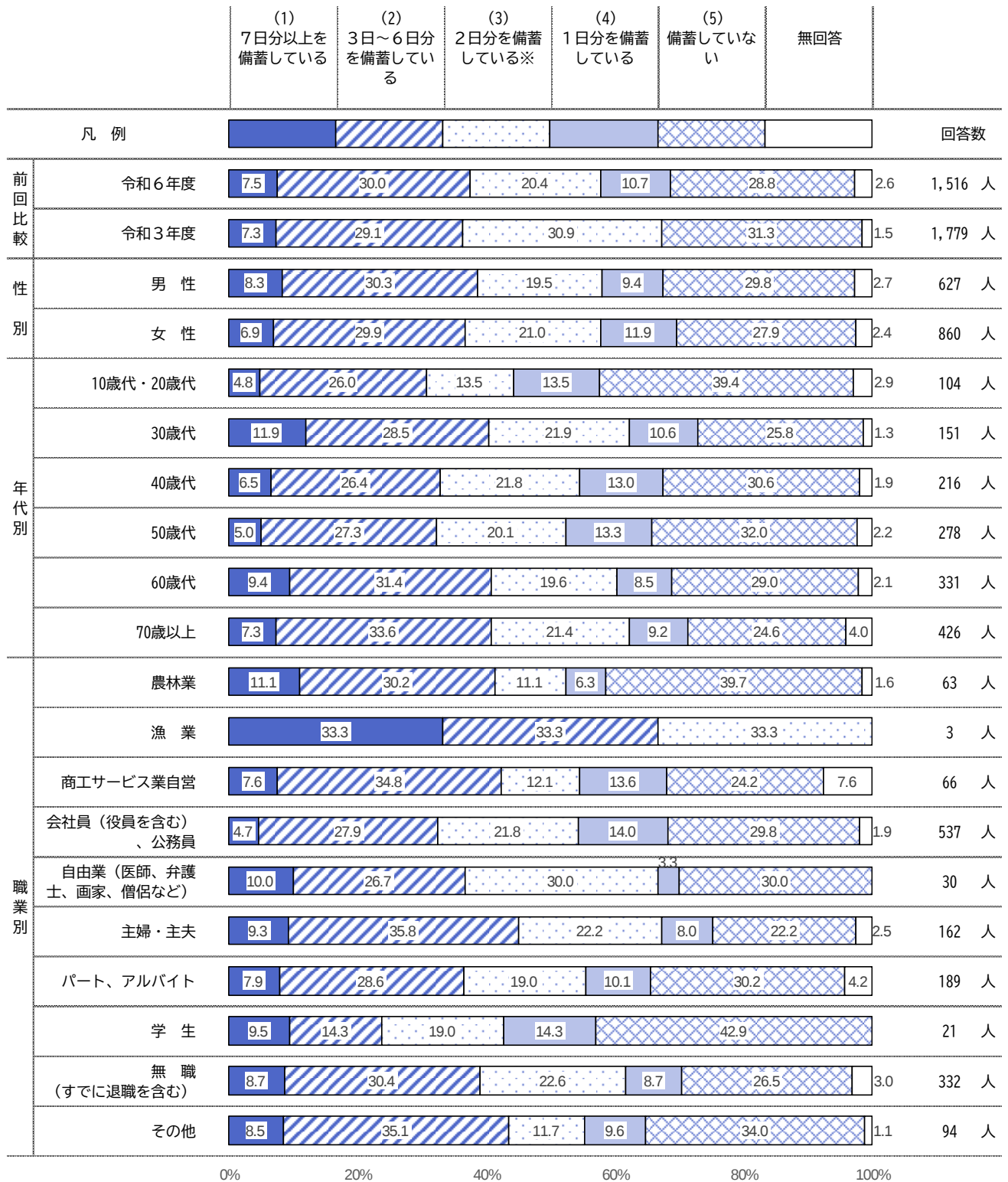
【年代別】

10歳代・20歳代、40歳代、50歳代は「備蓄していない」の割合が30%を超えている。

【職業別】

学生では「備蓄していない」の割合が42.9%と最も高く、他の職業に比べて高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



※令和3年度では「1日～2日分を備蓄している」となっており、「2日分を備蓄している」にまとめた

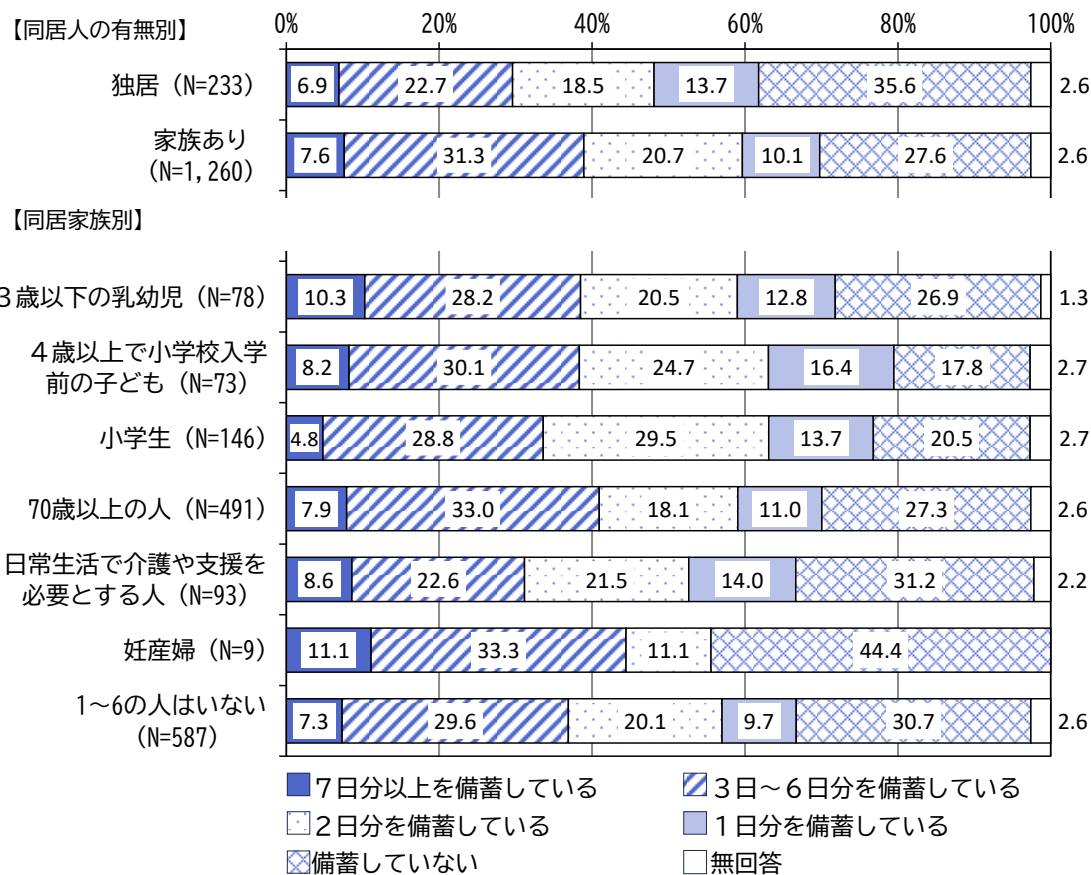
【同居人の有無別】

「備蓄していない」は独居世帯で35.6%と、家族あり世帯の27.6%より8.0ポイント高くなっている。

【同居家族別】

妊産婦では「備蓄していない」の割合が44.4%と他の同居家族より高くなっている。

≪ 同居人の有無別・同居家族別 ≫



問17×問5

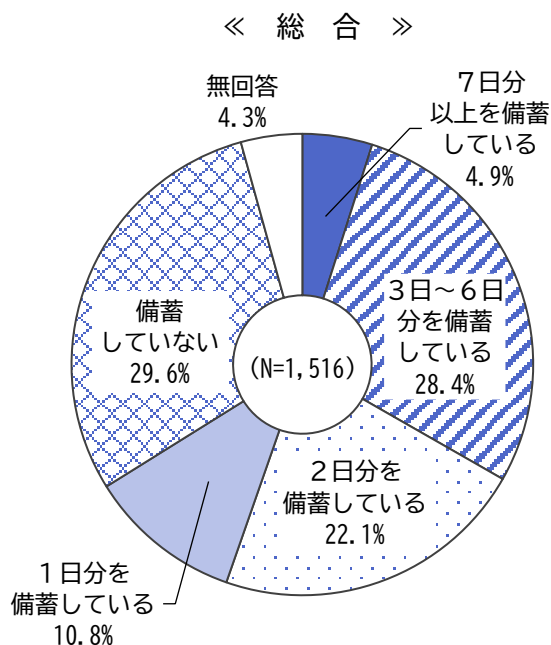
「飲料水の備蓄状況」と普段、「情報をよく収集するメディア」とのクロス分析

普段、情報をよく収集するメディアで「新聞」、「テレビ」、「ラジオ」、「その他」と回答した方は「3日～6日分を備蓄している」が、「インターネット（SNSを含む）」、「街頭のチラシ、ポスター、掲示板」と回答した方は「備蓄していない」の割合が最も高くなっている。

		問17【飲料水】						
		調査数	(1) 7日分以上を備蓄している	(2) 3日～6日分を備蓄している	(3) 2日分を備蓄している	(4) 1日分を備蓄している	(5) 備蓄していない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝								
				1位				
				2位				
問5	新聞	429	7.5	35.0	19.8	8.9	25.2	3.7
	テレビ	1,299	7.7	30.1	20.7	9.9	28.9	2.6
	ラジオ	127	5.5	37.0	18.1	15.0	22.0	2.4
	インターネット(SNS含む)	754	8.1	28.6	21.4	11.0	28.9	2.0
	街頭のチラシ、ポスター、掲示板	16	12.5	18.8	18.8	18.8	31.3	-
	その他	11	-	36.4	27.3	9.1	27.3	-
	無回答	7	-	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3

【食 料】

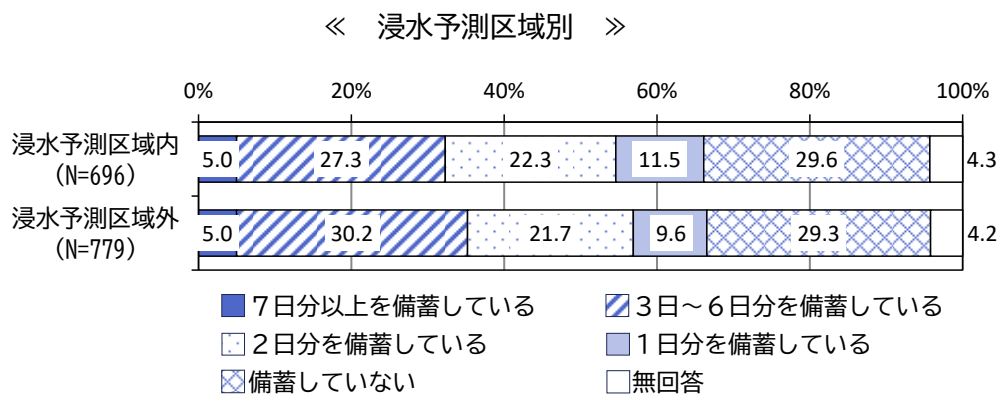
長期保存の食料の備蓄状況では、「備蓄していない」29.6%が最も高く、次いで「3日～6日分を備蓄している」28.4%、「2日分を備蓄している」22.1%と続いている。



【浸水予測区域別】

浸水予測区域外の方が、浸水予測区域内よりも備蓄している割合が0.4ポイント高い。

備蓄している割合としては、「3日～6日分を備蓄している」の割合が、浸水予測区域内で27.3%、浸水予測区域外で30.2%となっている。



【前回比較】

令和3年度と比較すると、「備蓄している」の割合が3.1ポイント減少している。

【性別】

男女とも「備蓄している」割合は60%を超えており、男性で64.7%、女性で67.4%となっている。

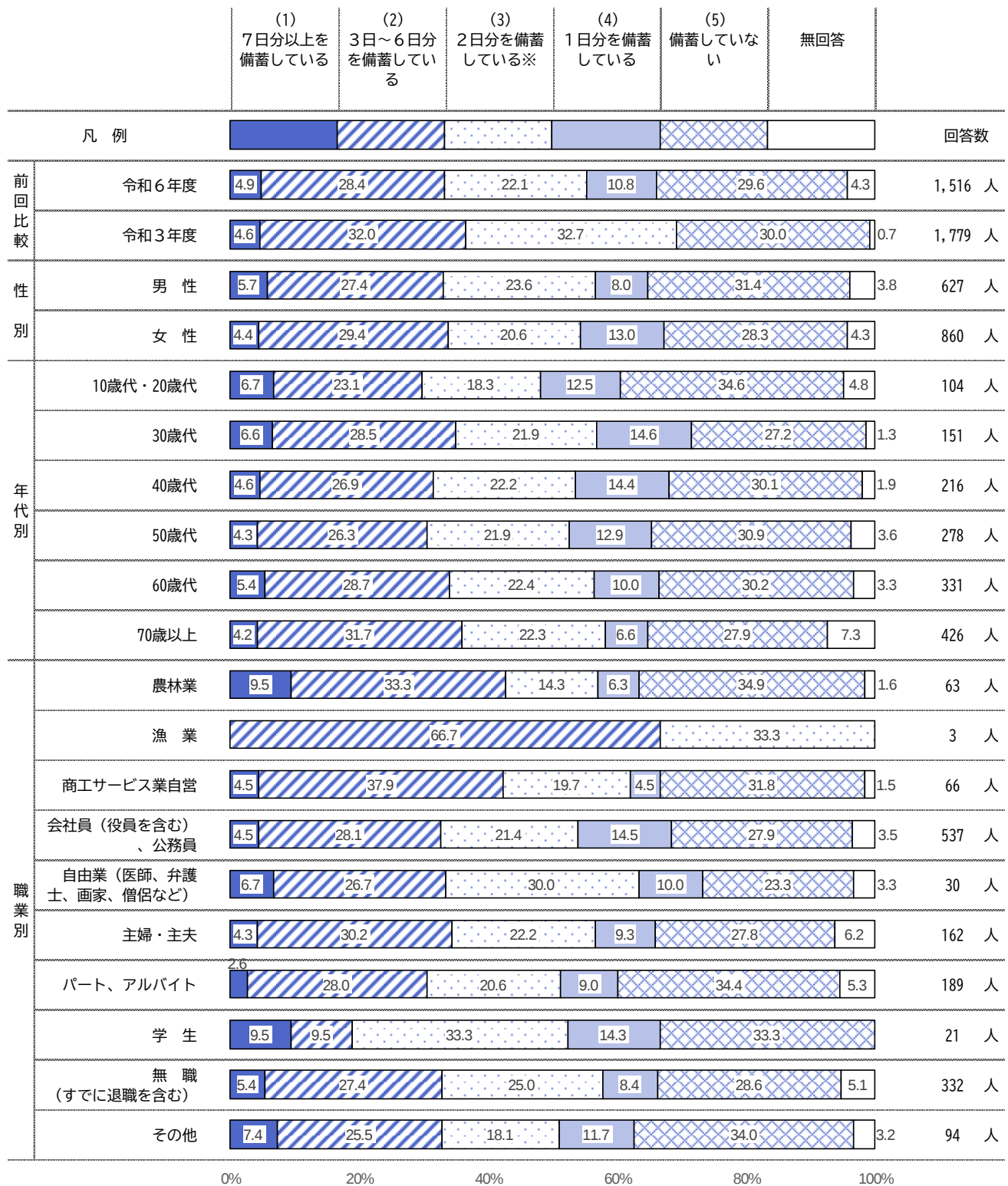
【年代別】

10歳代・20歳代、40歳代、50歳代、60歳代は「備蓄していない」の割合が30%を超えている。

【職業別】

農林業は「備蓄していない」割合が他の職業より高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



※令和3年度では「1日～2日分を備蓄している」となっており、「2日分を備蓄している」にまとめた

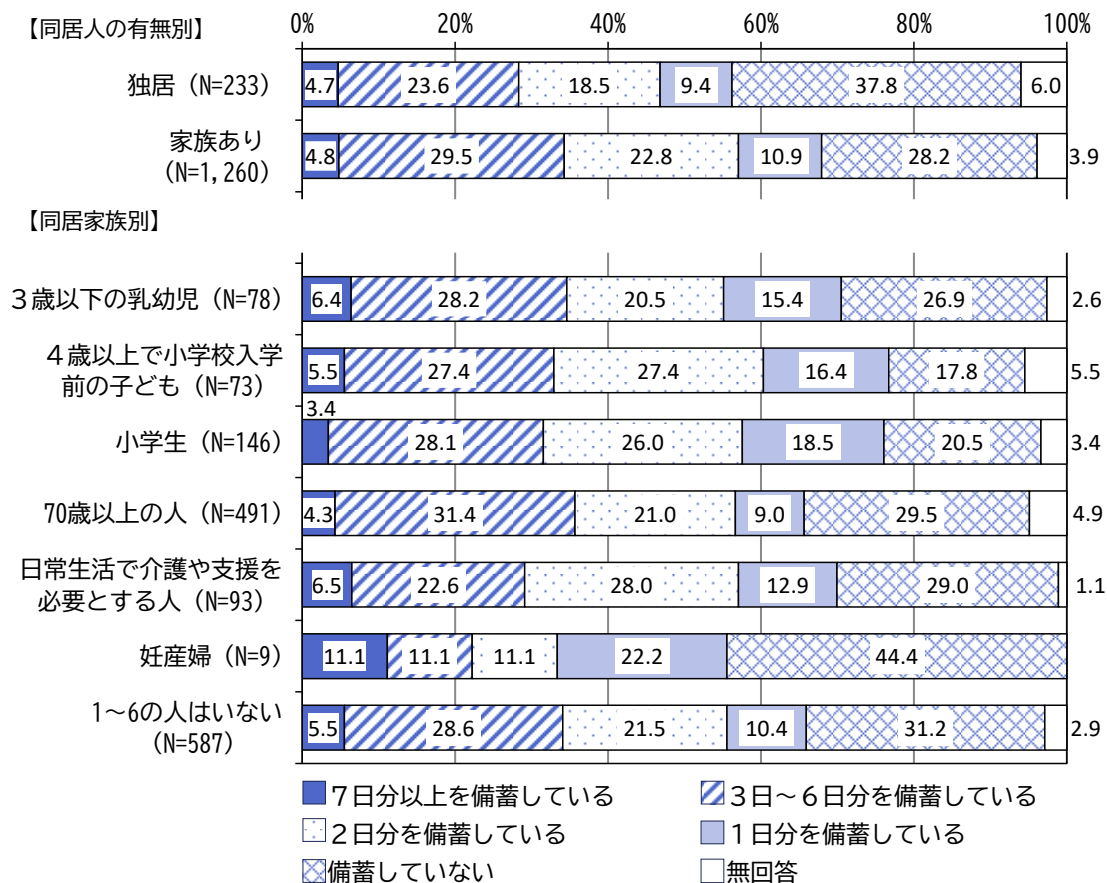
【同居人の有無別】

「備蓄していない」は独居世帯で37.8%と、家族あり世帯の28.2%より9.6ポイント高くなっている。

【同居家族別】

同居家族別では「備蓄していない」が妊産婦を除くほとんどの層で30%を下回っており、特に「4歳以上で小学校入学前の子ども」では17.8%となっている。

≪ 同居人の有無別・同居家族別 ≫



問17×問5

「食料の備蓄状況」と「普段、情報をよく収集するメディア」とのクロス分析

普段、情報をよく収集するメディアで「新聞」、「ラジオ」、「その他」と回答した方は「3日～6日分を備蓄している」が、「テレビ」、「インターネット（SNSを含む）」、「街頭のチラシ、ポスター、掲示板」と回答した方は「備蓄していない」の割合が最も高くなっている。

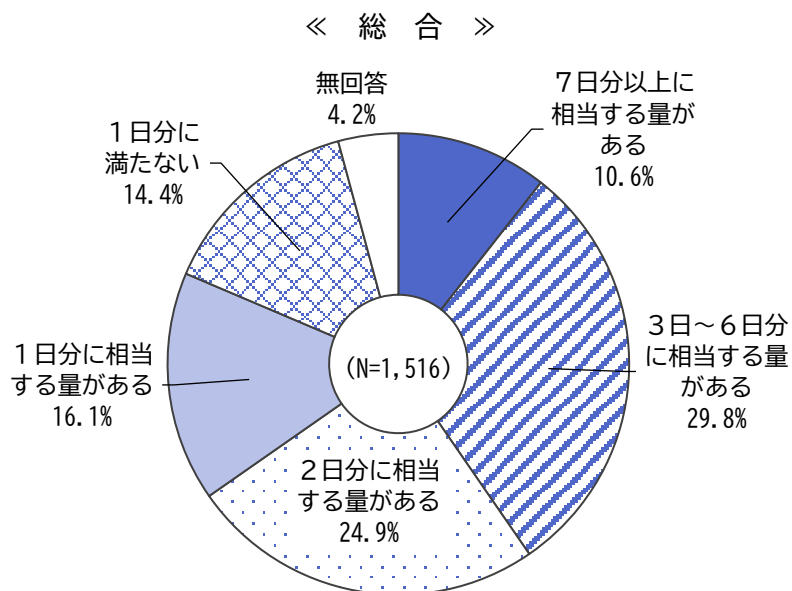
		問17【食料】						
		調査数	(1) 7日分以上を備蓄している	(2) 3日～6日分を備蓄している	(3) 2日分を備蓄している	(4) 1日分を備蓄している	(5) 備蓄していない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝								
				1位				
				2位				
問5	新聞	429	4.0	32.6	23.1	8.6	26.6	5.1
	テレビ	1,299	4.7	28.6	22.6	10.0	29.6	4.4
	ラジオ	127	3.9	33.9	24.4	10.2	22.0	5.5
	インターネット(SNS含む)	754	5.7	27.3	22.5	12.1	29.2	3.2
	街頭のチラシ、ポスター、掲示板	16	6.3	25.0	12.5	6.3	37.5	12.5
	その他	11	-	54.5	9.1	9.1	27.3	-
	無回答	7	-	14.3	14.3	28.6	14.3	28.6

問 18 日常的に消費する飲料水・食料のストック状況

問18 問17でお聞きした長期保存の飲料水や食料とは別に、あなたのご自宅には日常的に消費する飲料水、食料のストックが、おおよそ何日分ありますか。(それぞれ1つだけ○)

【飲料水】

日常的に消費する飲料水のストック状況では、「3日～6日分に相当する量がある」29.8%が最も高く、次いで「2日分に相当する量がある」24.9%、「1日分に相当する量がある」16.1%と続いている。



【性別】

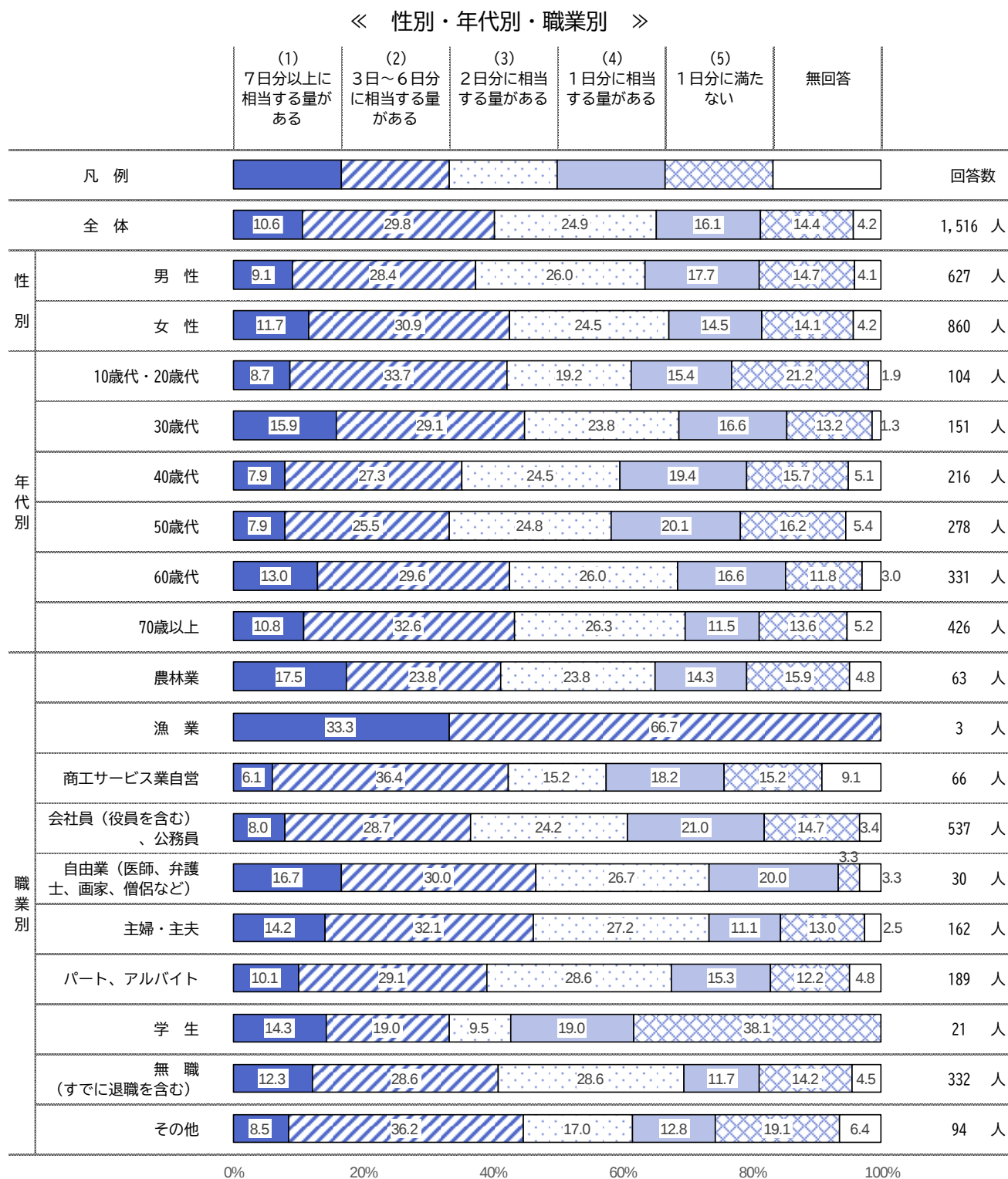
男女とも「3日～6日分に相当する量がある」の割合が最も高く、男性28.4%、女性30.9%となっている。

【年代別】

3日分以上のストックがあると回答した割合は、30歳代で45.0%と他の年代より高くなっている。

【職業別】

学生では「1日分に満たない」の割合が、38.1%と他の職業より高くなっている。



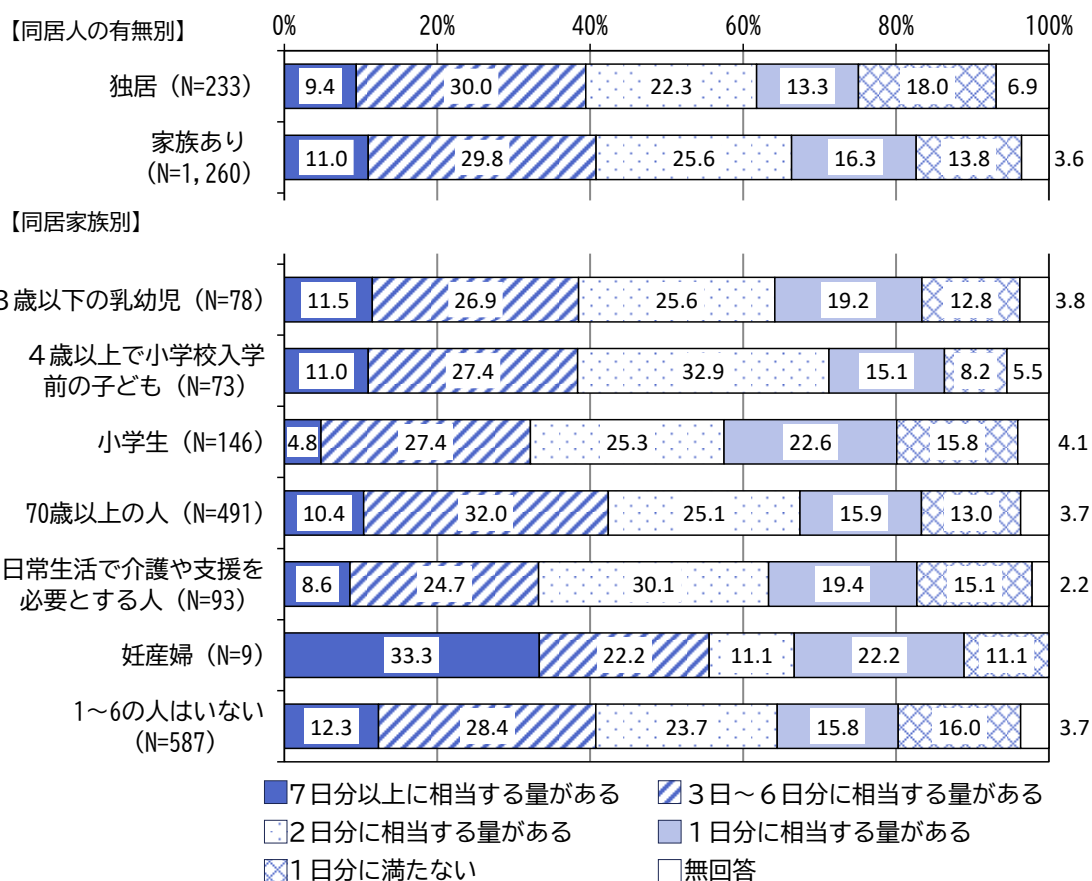
【同居人の有無別】

「1日分に満たない」は独居世帯で18.0%と、家族あり世帯の13.8%より4.2ポイント高くなっている。

【同居家族別】

妊産婦では「7日分以上に相当する量がある」の割合が33.3%と他の同居家族に比べて高くなっている。

≪ 同居人の有無別・同居家族別 ≫



問18×問5

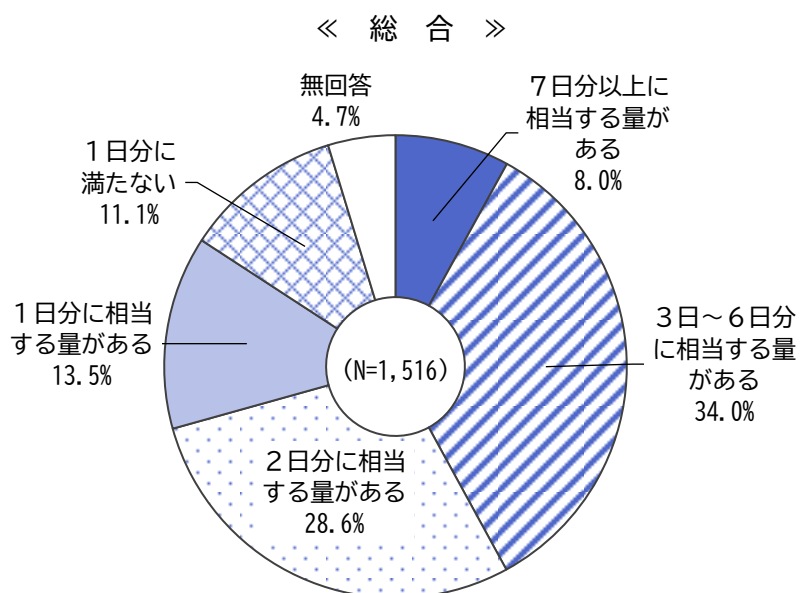
「日常的に消費する飲料水のストック状況」と「普段、情報をよく収集するメディア」とのクロス分析

普段、情報をよく収集するメディアで「新聞」、「テレビ」、「インターネット(SNSを含む)」、「その他」と回答した方は「3日～6日分に相当する量がある」が、「ラジオ」と回答した方は「2日分に相当する量がある」が、「街頭のチラシ、ポスター、掲示板」と回答した方は「1日分に満たない」の割合が最も高くなっている。

問18【飲料水】								
		調査数	(1) が7日 ある以上 に相当する 量	(2) 量3日 がある6日 分に相当する	(3) る2日 分に相当する 量がある	(4) る1日 分に相当する 量がある	(5) 1日 分に満たない	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝								
				1位				
				2位				
問5	新聞	429	11.7	32.4	25.6	15.4	10.7	4.2
	テレビ	1,299	10.8	30.0	25.3	15.6	13.8	4.5
	ラジオ	127	8.7	26.0	29.1	15.7	17.3	3.1
	インターネット(SNS含む)	754	11.0	30.4	24.0	17.0	13.9	3.7
	街頭のチラシ、ポスター、掲示板	16	12.5	12.5	25.0	12.5	37.5	-
	その他	11	-	72.7	9.1	-	18.2	-
	無回答	7	-	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3

【食 料】

日常的に消費する食料のストック状況では、「3日～6日分の相当する量がある」34.0%が最も高く、次いで「2日分に相当する量がある」28.6%、「1日分に相当する量がある」13.5%と続いている。



【性別】

男女とも「3日～6日分に相当する量がある」の割合が最も高く、男性29.5%、女性37.3%となっている。

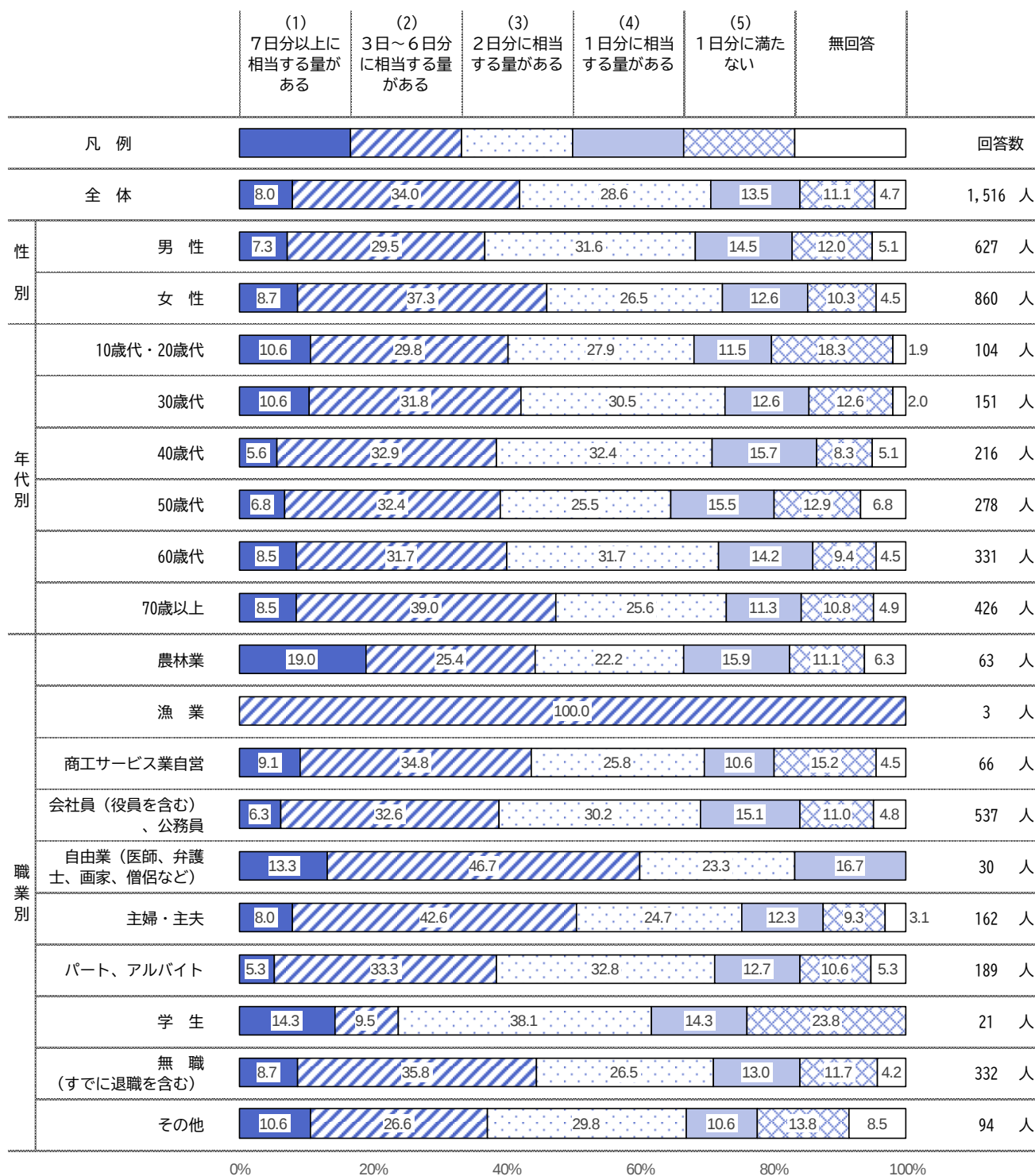
【年代別】

3日分以上のストックがあると回答した割合は、70歳以上で47.5%と他の年代より高くなっている。

【職業別】

学生では「1日分に満たない」の割合が、23.8%と他の職業より高くなっている。

≪ 性別・年代別・職業別 ≫



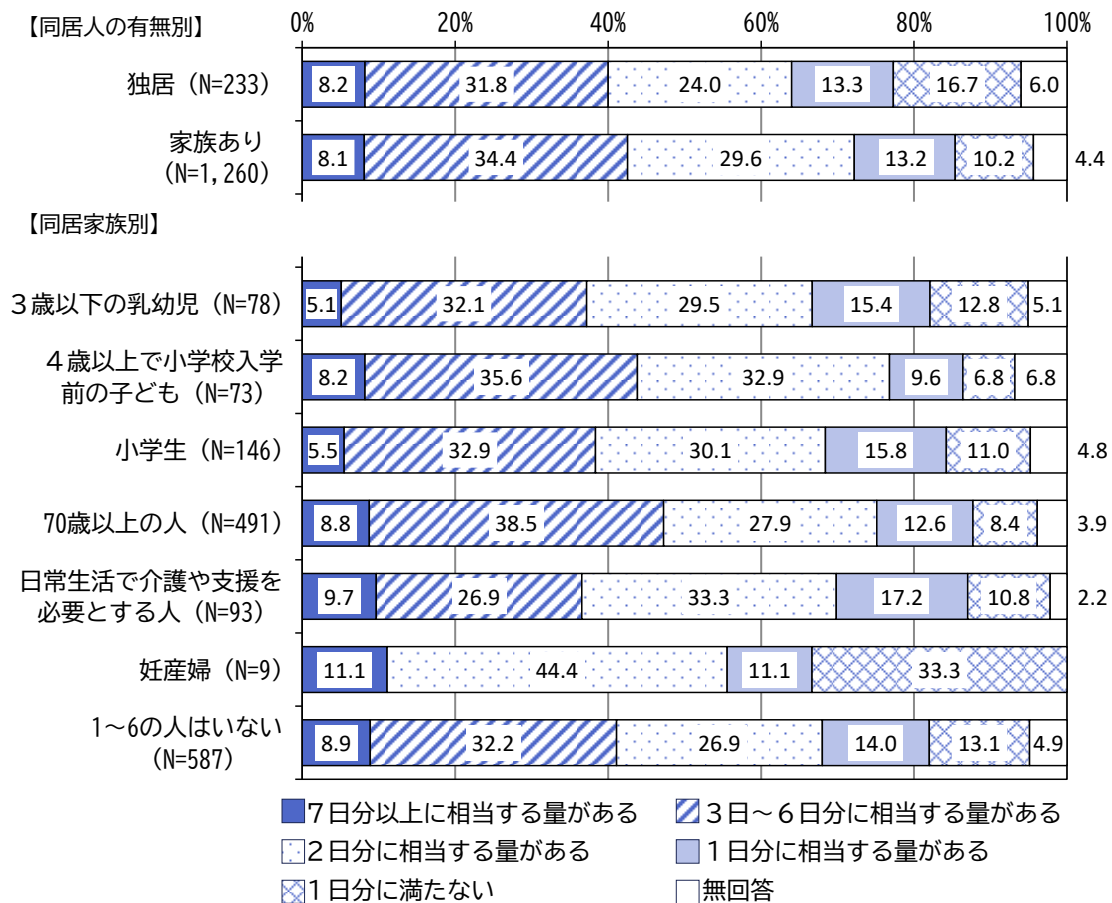
【同居人の有無別】

「1日分に満たない」は独居世帯で16.7%と、家族あり世帯の10.2%より6.5ポイント高くなっている。

【同居家族別】

妊産婦では「2日分に相当する量がある」の割合が44.4%と他の同居家族に比べて高くなっている。

≪ 同居人の有無別・同居家族別 ≫



問18×問5

「日常的に消費する食料のストック状況」と「普段、情報をよく収集するメディア」とのクロス分析

普段、情報をよく収集するメディアで「新聞」、「テレビ」、「インターネット(SNSを含む)」、「その他」と回答した方は「3日～6日分に相当する量がある」が、「ラジオ」と回答した方は「2日分に相当する量がある」が、「街頭のチラシ、ポスター、掲示板」と回答した方は「1日分に満たない」の割合が最も高くなっている。

問18【食料】								
		調査数	(1) が7日 分以上 に相当 する量	(2) 量3日 がある 6日分 に相当 する	(3) る2日 分に相 当する 量があ	(4) る1日 分に相 当する 量があ	(5) 1日分 に満た ない	無回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝				1位	2位			
問5	新聞	429	9.3	36.6	29.6	11.7	8.2	4.7
	テレビ	1,299	7.9	34.3	28.9	12.8	11.1	4.9
	ラジオ	127	8.7	28.3	31.5	14.2	12.6	4.7
	インターネット(SNS含む)	754	7.2	34.9	29.6	13.9	10.1	4.4
	街頭のチラシ、ポスター、掲示板	16	12.5	18.8	18.8	12.5	37.5	-
	その他	11	9.1	63.6	9.1	9.1	9.1	-
	無回答	7	-	14.3	14.3	57.1	-	14.3

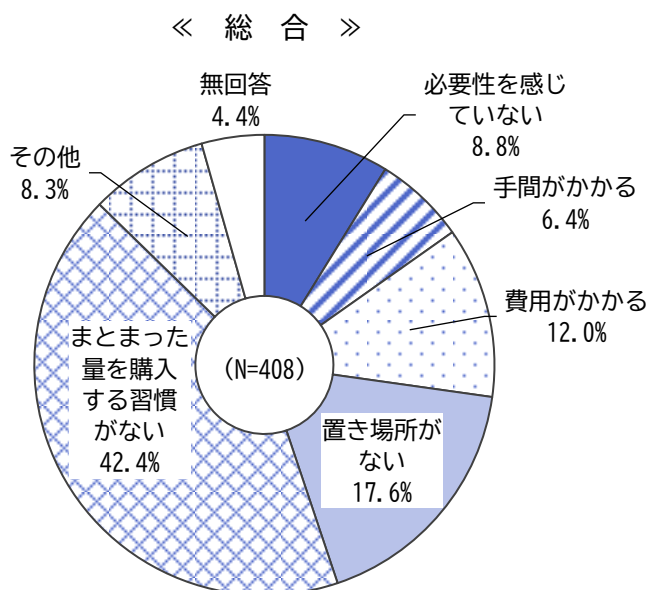
問 19 3日以上備蓄していない理由

問19 問17と問18で回答した量が、合計しても3日分に満たない方のみお答えください。

飲料水、食料を3日以上確保していない（できていない）のはどのような理由からですか。（それぞれ、最も大きな理由にひとつだけ○）

【飲料水】

飲料水を3日以上確保していない理由として、「まとまった量を購入する習慣がない」42.4%が最も高く、次いで「置き場所がない」17.6%、「費用がかかる」12.0%が続いている。



【前回比較】

「まとまった量を購入する習慣がない」の割合が、令和3年度より15.6ポイント増加している。

【性別】

「まとまった量を購入する習慣がない」の割合は、男性38.7%、女性45.9%と女性の方が7.2ポイント高くなっている。

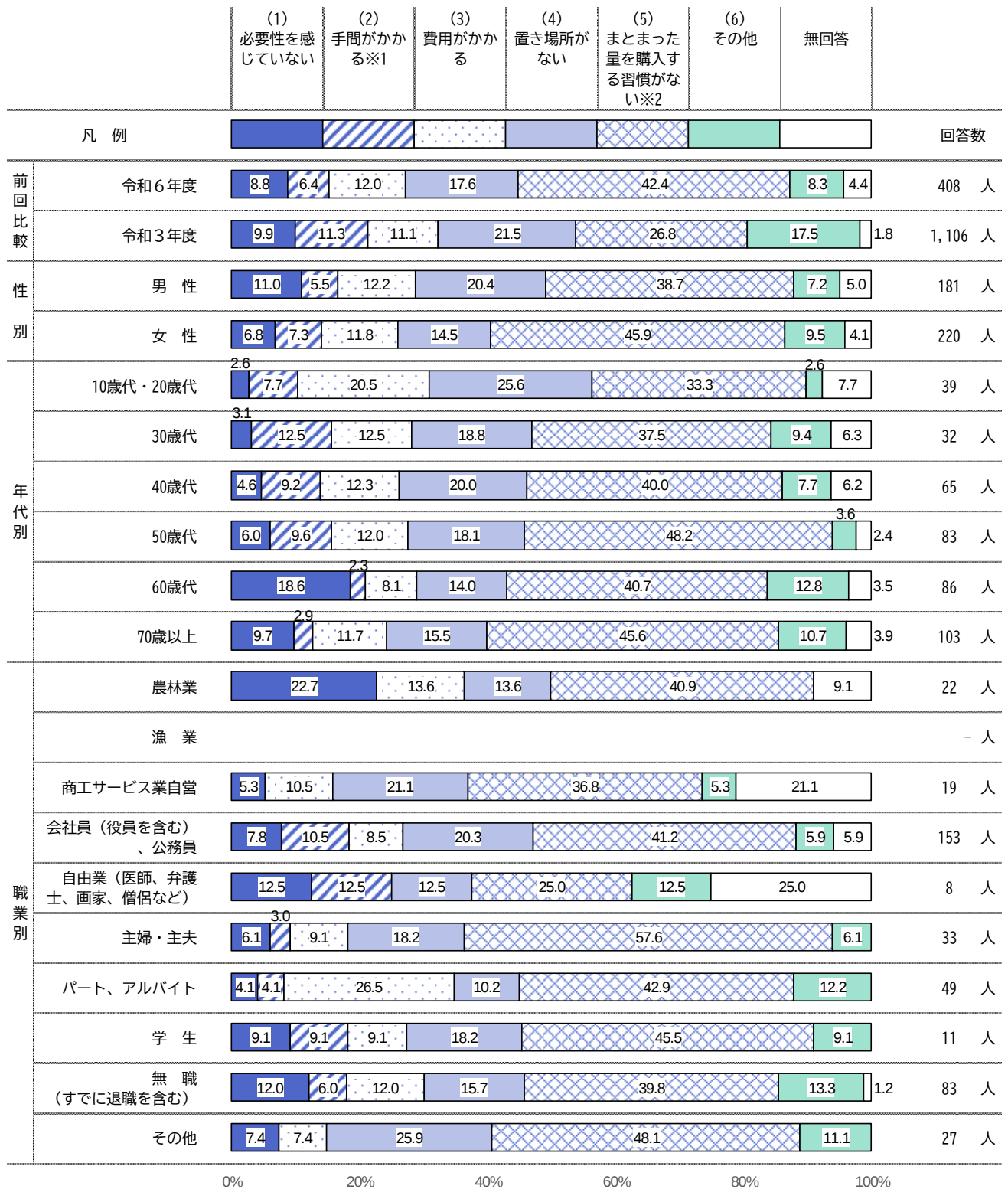
【年代別】

すべての年代で「まとまった量を購入する習慣がない」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

主婦・主夫では「まとまった量を購入する習慣がない」の割合が57.6%を他の職業より高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

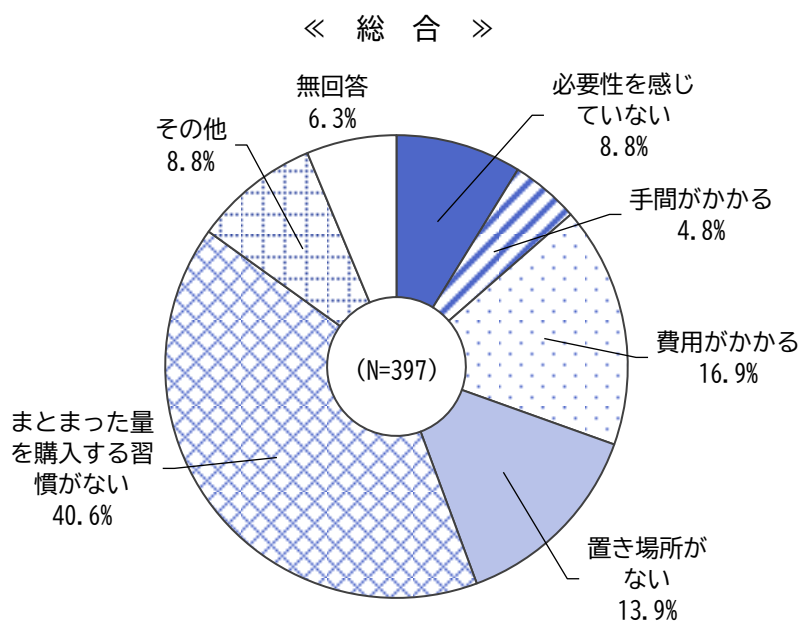


※1 平成30年度は「保存用の飲料水を準備するのが面倒である」と答えた人数

※2 平成30年度は「保存期間ごとに買い替えるのが面倒である」と答えた人数

【食 料】

3日分以上の食料を確保していない理由として、「まとまった量を購入する習慣がない」40.6%が最も高く、次いで「費用がかかる」16.9%、「置き場所がない」13.9%と続いている。



【前回比較】

「まとまった量を購入する習慣がない」の割合が、令和3年度より7.6ポイント増加している。

【性別】

「置き場所がない」の割合は、男性16.9%、女性11.3%と男性の方が5.6ポイント高くなっている。

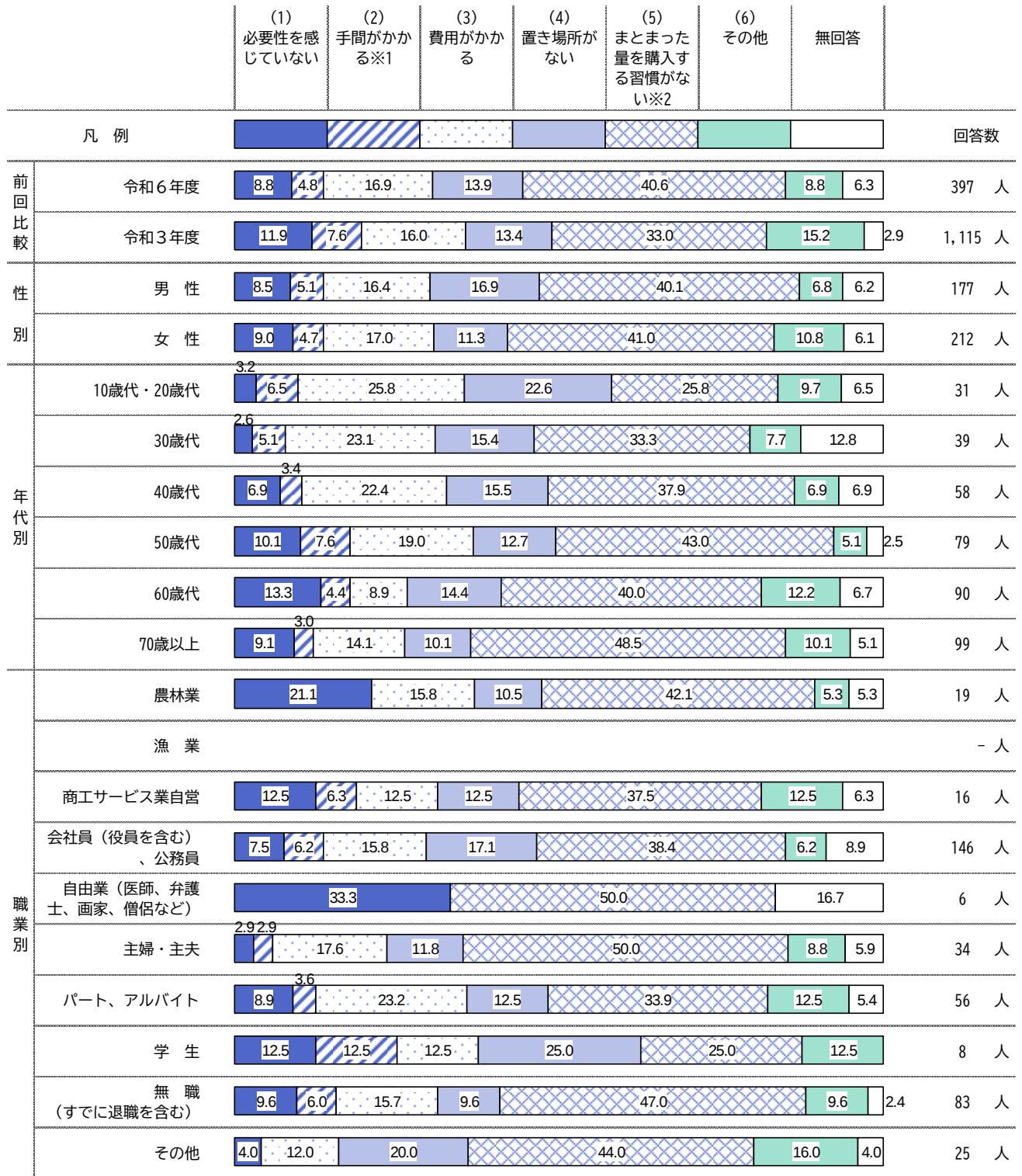
【年代別】

10歳代・20歳代を除くすべての年代で「まとまった量を購入する習慣がない」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

学生を除くすべての職業で「まとまった量を購入する習慣がない」の割合が最も高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



※1 平成30年度は「アルファ米や乾パンなどの保存食を準備するのが面倒である」と答えた人数

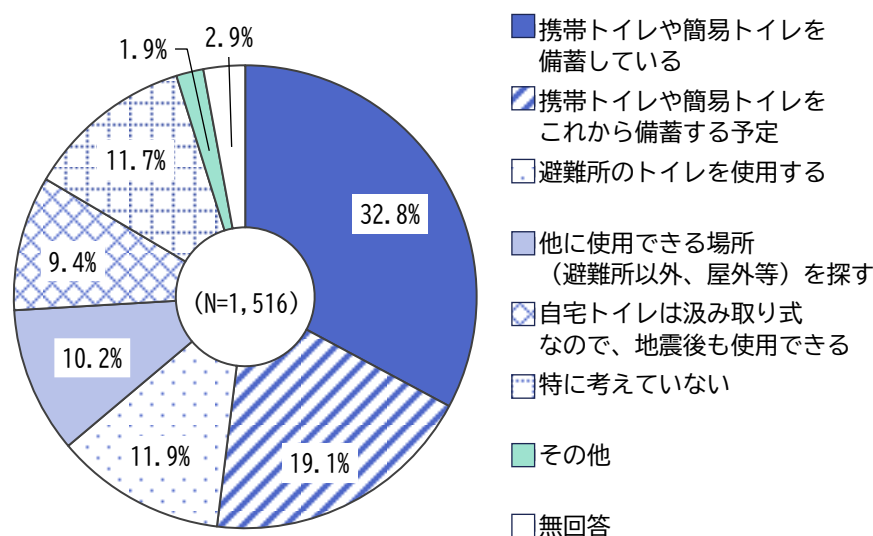
※2 平成30年度は「保存期間ごとに買い替えるのが面倒である」と答えた人数

問 20 地震で自宅のトイレが使用できなくなった時の対応について

問20 南海トラフ地震の発生時には、下水道や排水管などが被災し、トイレが使えなくなる場合があります。あなたは南海トラフ地震で自宅のトイレが使えなくなったら(なるとしたら)、どのように対応しますか。(ひとつだけ○)

地震で自宅のトイレが使用できなくなった時の対応としては、「携帯トイレや簡易トイレを備蓄している」32.8%が最も高く、次いで「携帯トイレや簡易トイレをこれから備蓄する予定」19.1%、「避難所のトイレを使用する」11.9%と続いている。

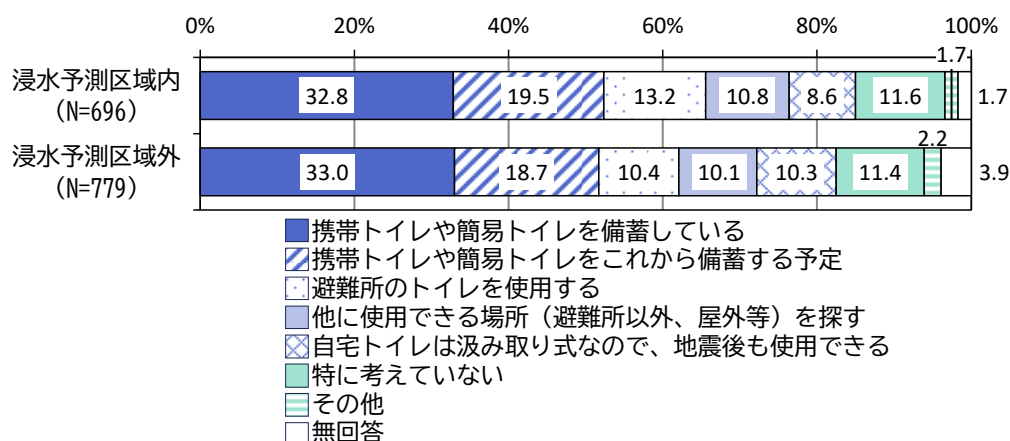
《 総 合 》



【浸水予測区域別】

「携帯トイレや簡易トイレを備蓄している」は、浸水予想区域内では32.8%、浸水予想区域外では33.0%と大きな差は見られなかった。

《 浸水予測区域別 》



【前回比較】

「携帯トイレや簡易トイレを備蓄している」は、令和6年度では32.8%と、令和3年度の19.0%より13.8ポイント増加し、「これから備蓄する予定」は令和6年度では19.1%と、令和3年度の13.5%より5.6ポイント増加している。

【性別】

「携帯トイレや簡易トイレを備蓄している」は、男性が26.3%、女性が37.6%と女性の方が11.3ポイント高くなっている。

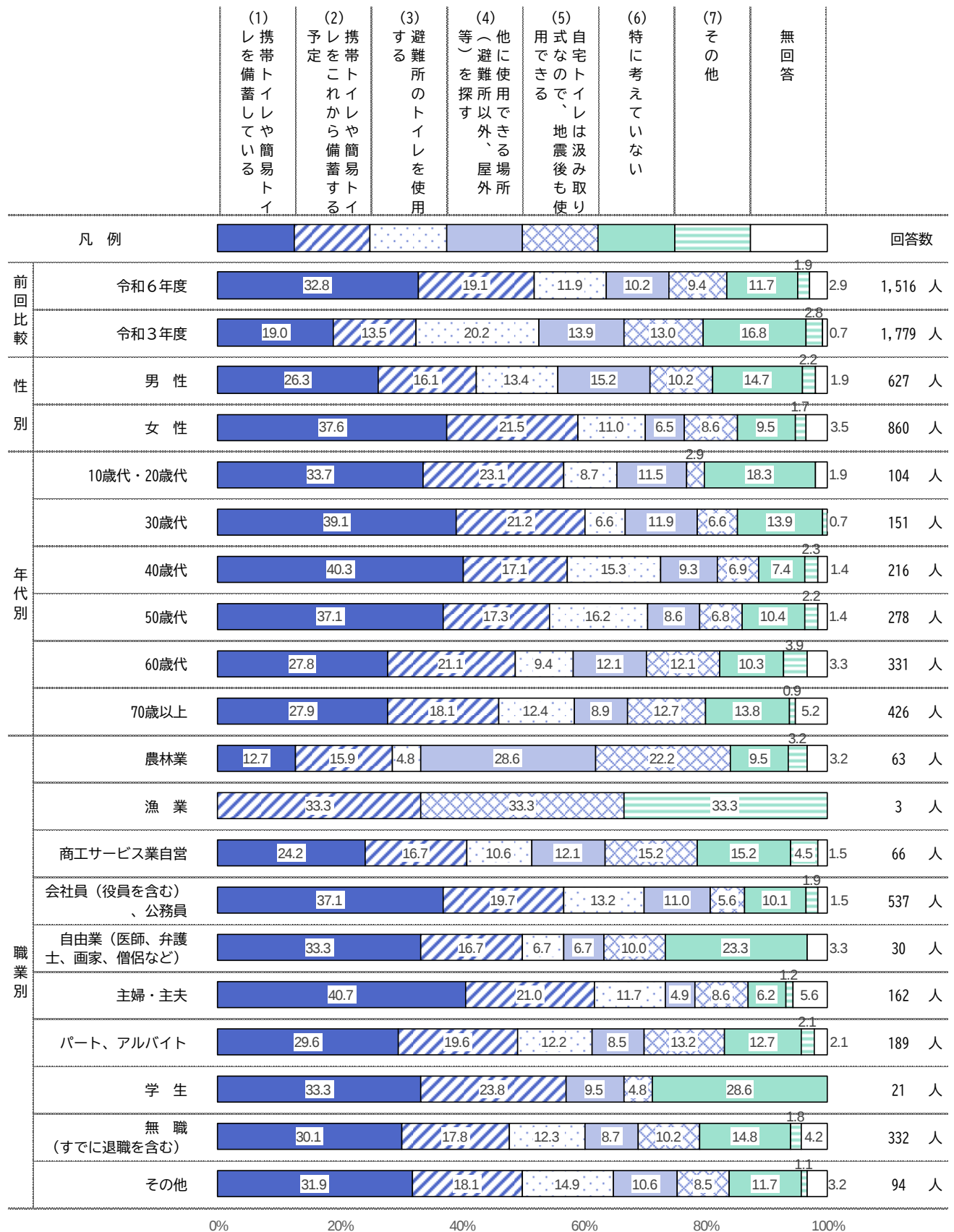
【年代別】

すべての年代で「携帯トイレや簡易トイレを備蓄している」の割合が最も高く、中でも40歳代の40.3%が高くなっている。

【職業別】

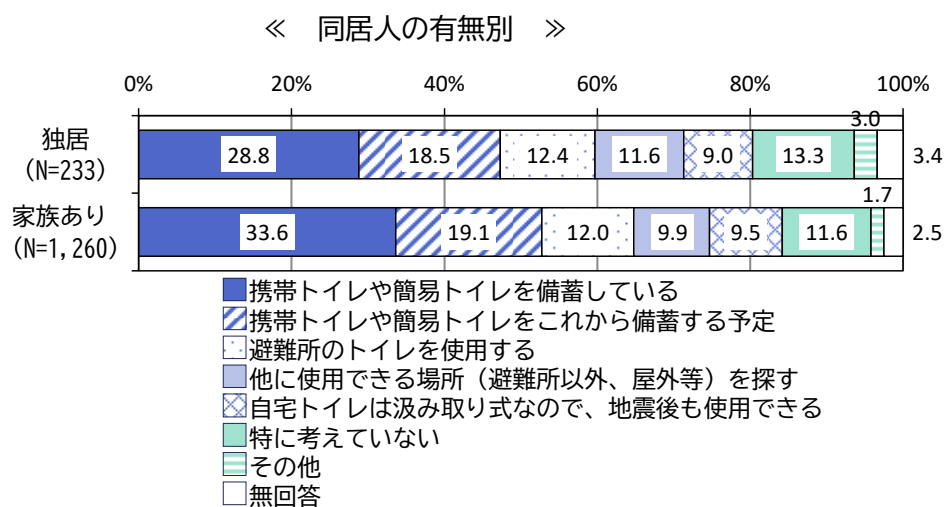
農林業、漁業を除くすべての職業で「携帯トイレや簡易トイレを備蓄している」の割合が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶



【同居人の有無別】

「携帯トイレや簡易トイレを備蓄している」は、家族あり世帯の33.6%と、独居世帯の28.8%より4.8ポイント高くなっている。



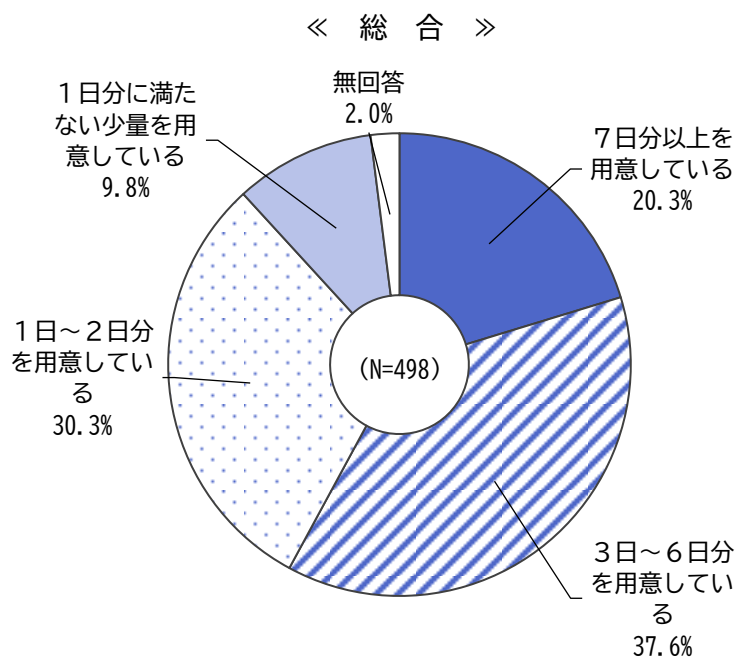
問 21 携帯トイレや簡易トイレの備蓄状況

問21 問20で「1. 携帯トイレや簡易トイレを備蓄している」と回答した人におたずねします。

あなたのご自宅では、トイレが使えなくなったときに備えて、家族分の簡易トイレや携帯トイレをどのくらい備蓄していますか。(1つだけ○)

※1人1日の平均排泄回数は5回とされています。

トイレの備蓄状況については、「3日～6日分を用意している」が37.6%と最も高く、次いで「1日～2日分用意している」30.3%、「7日分以上を用意している」は20.3%となっている。



【前回比較】

「3日～6日分を用意している」の割合は、令和3年度より6.8ポイント増加している。

【性別】

「3日～6日分を用意している」の割合は、女性の35.3%より、男性の42.4%方が7.1ポイント高くなっている。

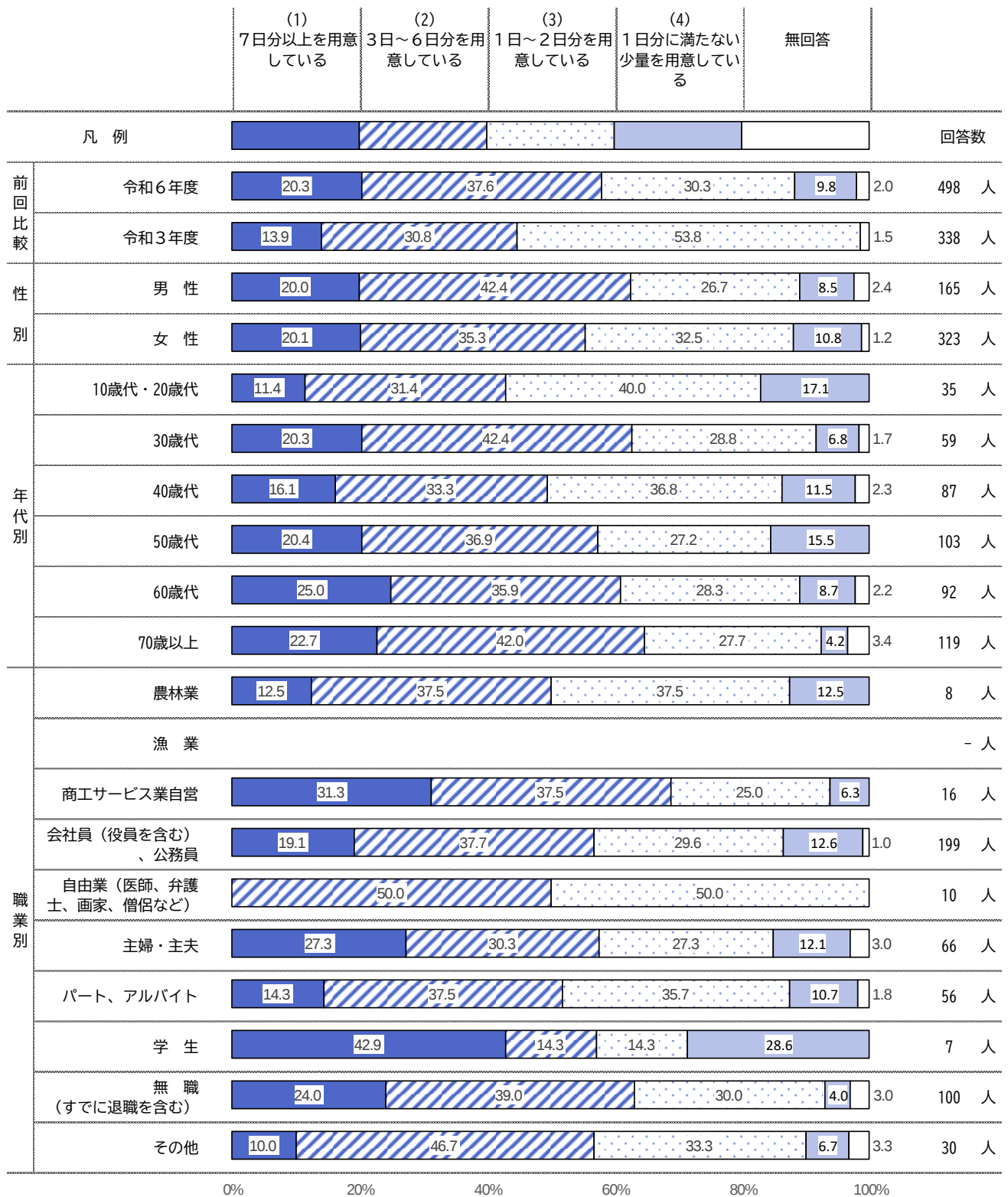
【年代別】

30歳代では「3日～6日分を用意している」の割合が他の年代より高くなっている。

【職業別】

学生では「7日分以上を用意している」の割合が42.9%と他の職業より高く、一番低いその他の10.0%より32.9ポイント高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



問 22 南海トラフ地震への備えとして何を行っているか

問22 あなたのお宅では南海トラフ地震などへの備えとして、どのようなことを行っていますか。

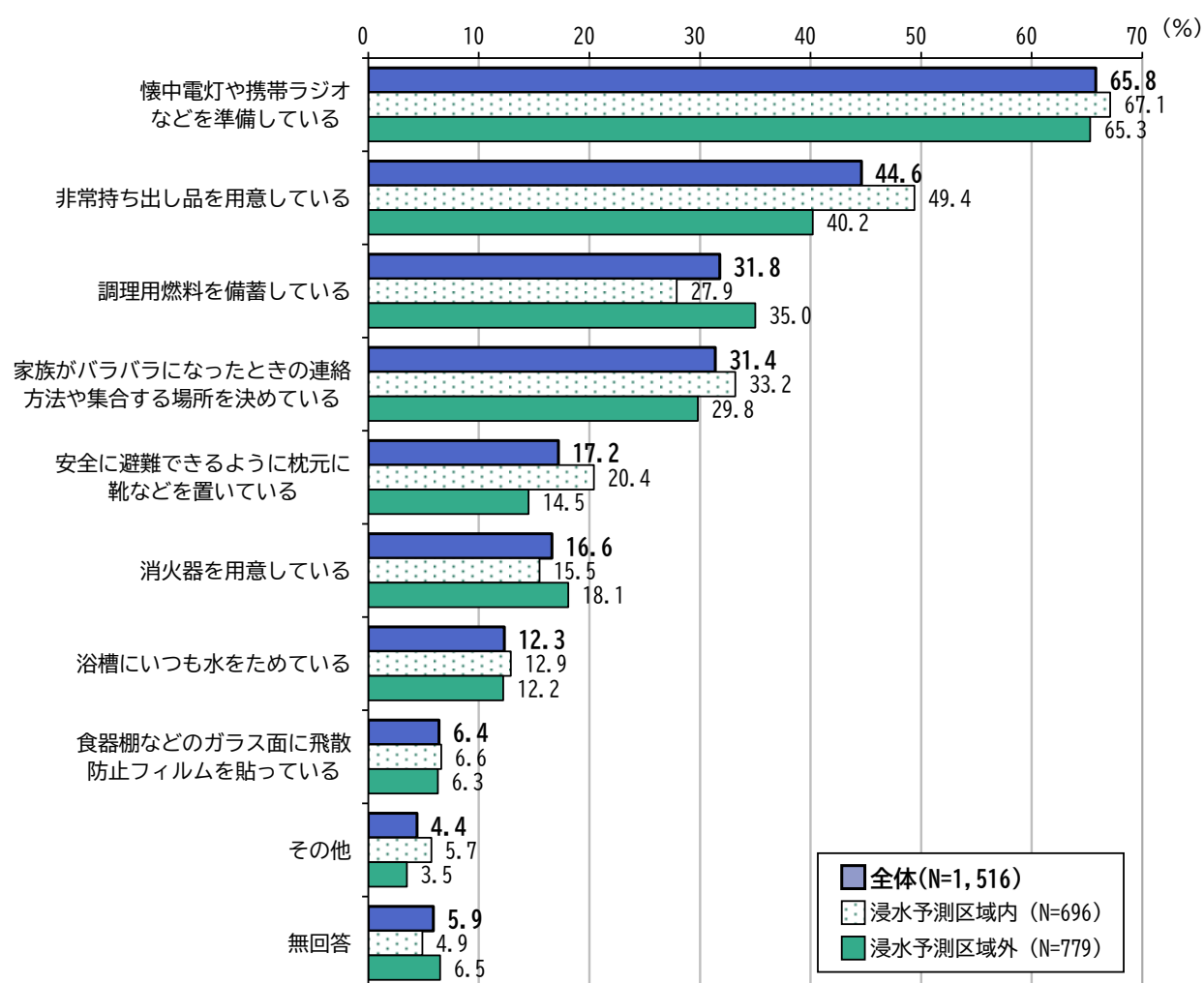
(当てはまるものすべてに○)

南海トラフ地震への備えとしては、「懐中電灯や携帯ラジオなどを準備している」が65.8%と最も高く、次いで「非常持ち出し品を用意している」44.6%、「調理用燃料を備蓄している」31.8%と続いている。

【浸水予測区域別】

「非常持ち出し品を用意している」の割合は、浸水予測区域内の方が9.2ポイント高く、「調理用燃料を備蓄している」割合は、浸水想定区域外の方が7.1ポイント高くなっている。

＜ 総 合 ・ 浸水予測区域別 ＞



【前回比較】

「安全に避難できるように枕元に靴などおいている」は令和3年度から6.2ポイント、「非常持ち出し品を用意している」は4.9ポイント高くなっている。

【年代別】

30歳代を除くすべての年代で「懐中電灯や携帯ラジオなどを準備している」の割合が最も高く、30歳代では「非常持ち出し品を用意している」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

漁業を除くすべての職業で「懐中電灯や携帯ラジオなどを準備している」の割合が最も高く、漁業では「非常持ち出し品を用意している」、「家族がバラバラになった時の連絡方法や集合する場所を決めている」が同率で最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

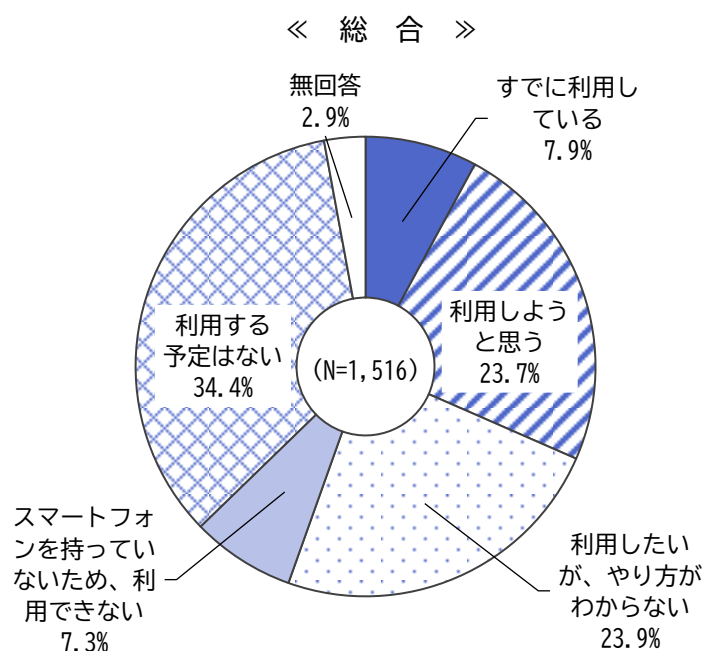
		調査数	(1) 懐中電灯や携帯ラジオなどを準備している	(2) 非常持ち出し品を用意している	(3) 調理用燃料を備蓄している	(4) 家族がバラバラになった時の連絡方法や集合する場所を決めている	(5) 安全に避難できるように枕元に靴などおいている	(6) 消火器を用意している	(7) 浴槽にいつも水をためておく	(8) 食器棚などのゴミを貼る	(9) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=			1位	2位								
今回調査(R6)		1,516	65.8	44.6	31.8	31.4	17.2	16.6	12.3	6.4	4.4	5.9
前回調査(R3)		1,779	69.9	39.7	27.3	34.7	11.0	20.2	11.4	6.2	6.0	3.4
性別	男性	627	66.3	39.6	30.9	29.8	15.8	20.1	12.3	6.2	4.8	6.9
	女性	860	66.0	48.4	32.4	32.3	17.8	14.3	12.3	6.3	4.2	5.0
	回答しない	18	27.8	33.3	22.2	33.3	27.8	5.6	11.1	16.7	5.6	16.7
年代別	10歳代・20歳代	104	46.2	42.3	19.2	31.7	8.7	10.6	5.8	4.8	3.8	8.7
	30歳代	151	50.3	55.0	26.5	41.7	19.9	8.6	3.3	4.6	6.0	5.3
	40歳代	216	55.6	48.1	26.4	40.3	16.7	12.0	6.0	7.9	5.1	6.5
	50歳代	278	65.8	45.0	34.9	35.3	18.0	13.3	14.0	5.0	6.1	5.4
	60歳代	331	73.7	43.5	37.5	27.8	16.9	22.1	15.1	8.2	4.2	6.3
	70歳以上	426	74.9	40.4	32.9	23.2	18.1	21.1	16.9	6.3	2.8	5.2
職業別	農林業	63	81.0	30.2	39.7	20.6	19.0	22.2	14.3	4.8	3.2	6.3
	漁業	3	66.7	100.0	66.7	100.0	-	33.3	-	-	-	-
	商工サービス業自営	66	69.7	36.4	42.4	31.8	9.1	28.8	9.1	6.1	3.0	9.1
	会社員(役員を含む)、公務員	537	57.0	48.0	28.7	34.5	17.5	12.7	8.4	6.0	5.8	6.5
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	63.3	43.3	26.7	40.0	10.0	23.3	20.0	-	3.3	3.3
	主婦・主夫	162	75.3	44.4	40.1	32.1	20.4	21.0	17.9	9.3	1.9	4.3
	パート、アルバイト	189	58.2	44.4	26.5	32.3	15.3	12.2	11.6	6.9	5.3	9.0
	学生	21	42.9	33.3	28.6	33.3	19.0	14.3	-	4.8	-	-
	無職(すでに退職を含む)	332	75.0	43.7	32.2	24.1	18.1	18.7	15.7	6.3	2.7	4.5
	その他	94	75.5	45.7	29.8	36.2	16.0	19.1	16.0	7.4	9.6	3.2

問 23 スマートフォンでのお薬手帳(電子版)を利用しているか

問23 お薬手帳(電子版)は、スマートフォン内で情報管理ができるため、自身だけでなく家族の服薬情報の保管や携帯性が高いため持ち運びが容易といったメリットがあり、災害時には大変有用なツールとなりますが利用していますか。(ひとつだけ○)

※お薬手帳(電子版)はスマートフォンでのみ利用可能

お薬手帳のスマートフォンでの利用意向は、「利用する予定はない」が34.4%で最も高く、次いで「利用したいが、やり方がわからない」23.9%、「利用しようと思う」23.7%と続いている。



【前回比較】

「すでに利用している」の割合が令和3年度より2.7ポイント微増している。

【性別】

男性は、「利用しようと思う」が27.4%と女性の21.0%より6.4ポイント高くなっており、女性は、「利用したいが、やり方がわからない」が26.5%と男性の20.9%より5.6ポイント高くなっている。

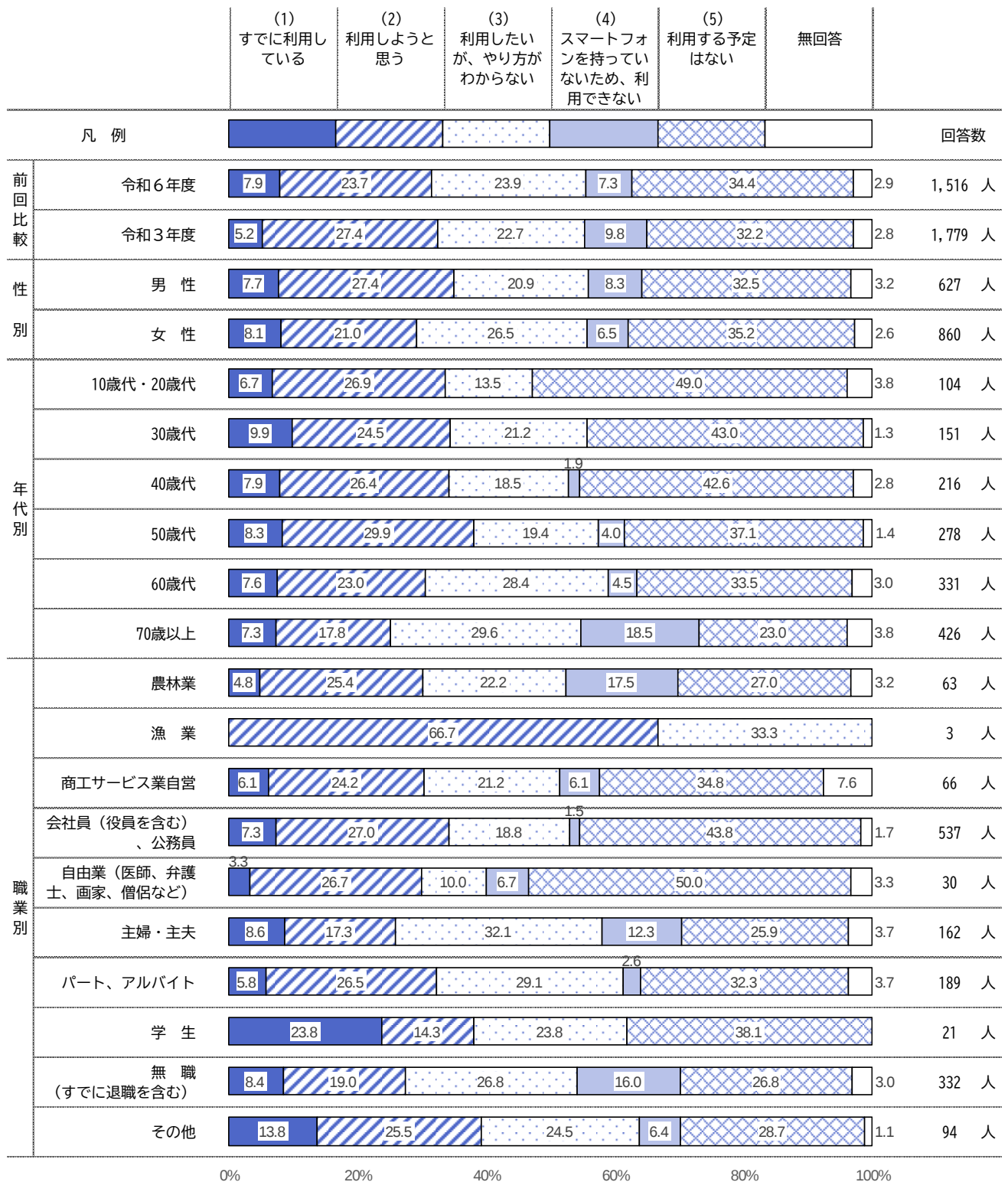
【年代別】

10歳代～50歳代では「利用する予定はない」の割合が約40%と総合より高くなっている。

【職業別】

自由業は「利用する予定はない」50.0%、学生は「すでに利用している」23.8%が他の職業より高くなっている。

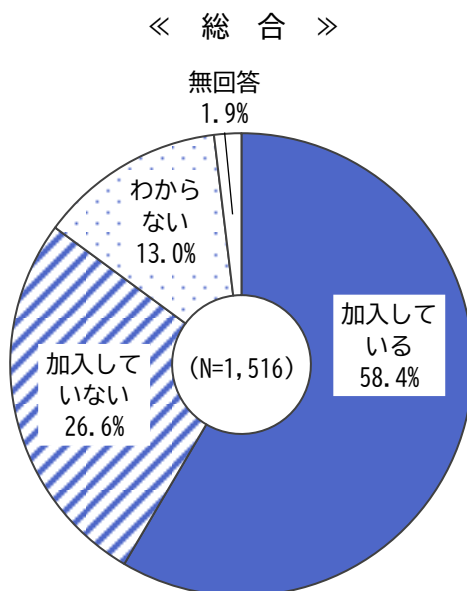
≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



問 24 地震に備えるための保険や共済に加入しているか

問24 あなたのお宅は地震に備えるための保険や共済などに加入していますか。(ひとつだけ○)

地震に備えるための保険や共済などの加入状況は、「加入している」58.4%、「加入していない」26.6%、「わからない」13.0%となっている。



【前回比較】

「加入している」の割合は、令和3年度より6.6ポイント減少している。

【性別】

「加入している」の割合は、男性60.9%、女性57.0%となっている。

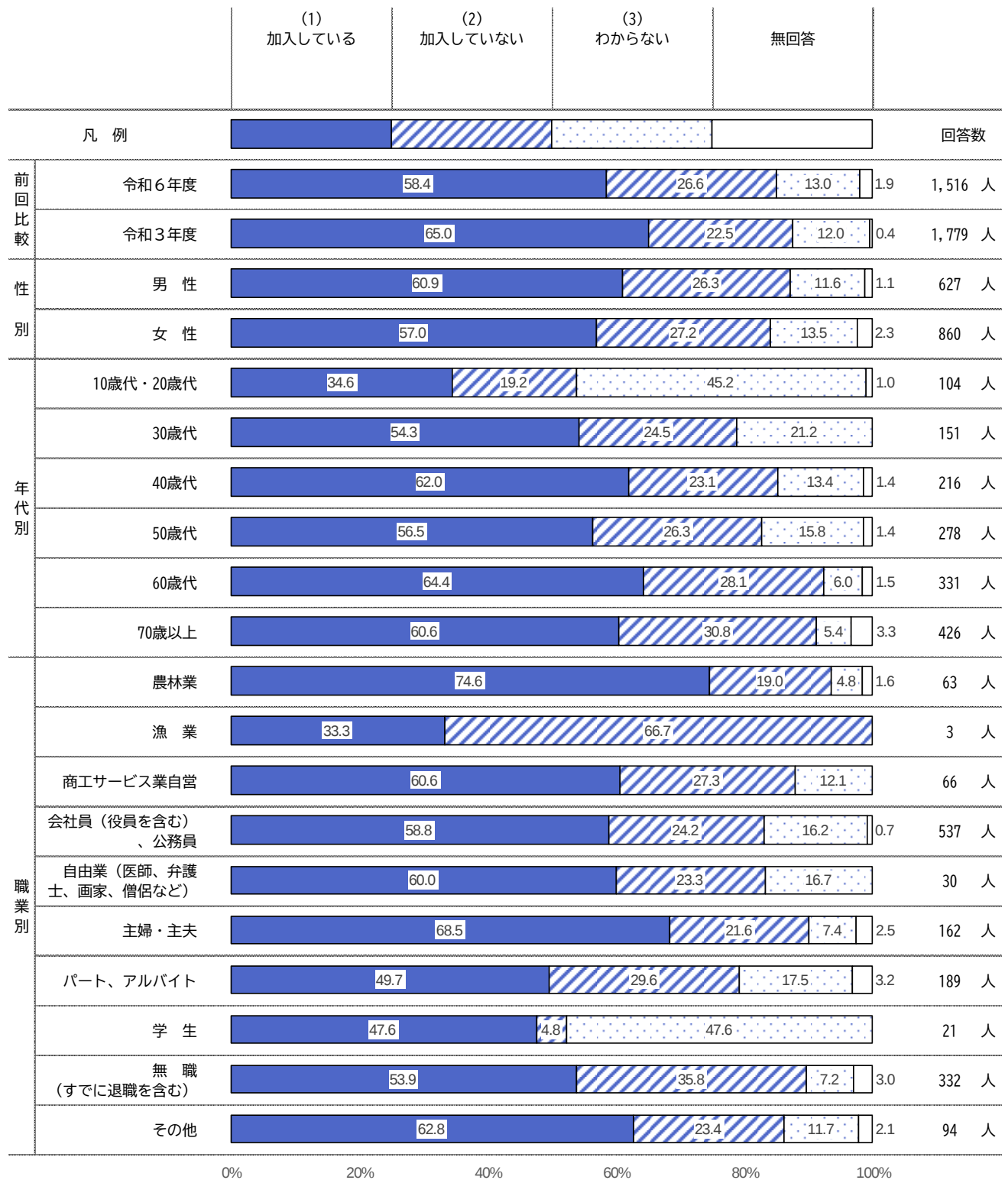
【年代別】

60歳代では「加入している」の割合が64.4%と他の年代より高くなっており、一方、10歳代・20歳代では「わからない」の割合が45.2%と他の年代より高くなっている。

【職業別】

農林業では「加入している」の割合が74.6%と他の職業より高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



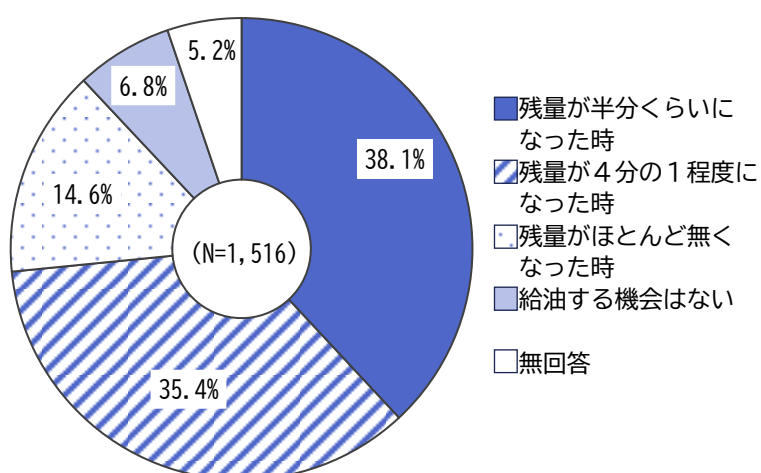
問 25 車に給油するタイミング・ガソリンの給油量

問25 大規模災害が発生すると、人命救助を行う緊急車両への給油が優先されるため、一般の車両はしばらくの間、ガソリンスタンドで給油を受けられなくなります。したがって、災害が発生したときに車を使用するためには、平時からこまめに給油し、車の燃料を多めに保つことが必要です。
あなたは、普段、車への給油をいつ、どのくらい行いますか。(ひとつだけ○)

【いつ】

車に給油するタイミングは、「残量が半分くらいになった時」38.1%が最も高く、次いで「残量が4分の1程度になった時」35.4%、「残量がほとんど無くなった時」14.6%と続いている。

《 総 合 》



【前回比較】

令和6年度は令和3年度と比較して、「残量が半分くらいになった時」が8.9ポイント高くなり、「残量がほとんど無くなった時」は7.2ポイント低くなっている。

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向で、性別による差もほとんど見られない。

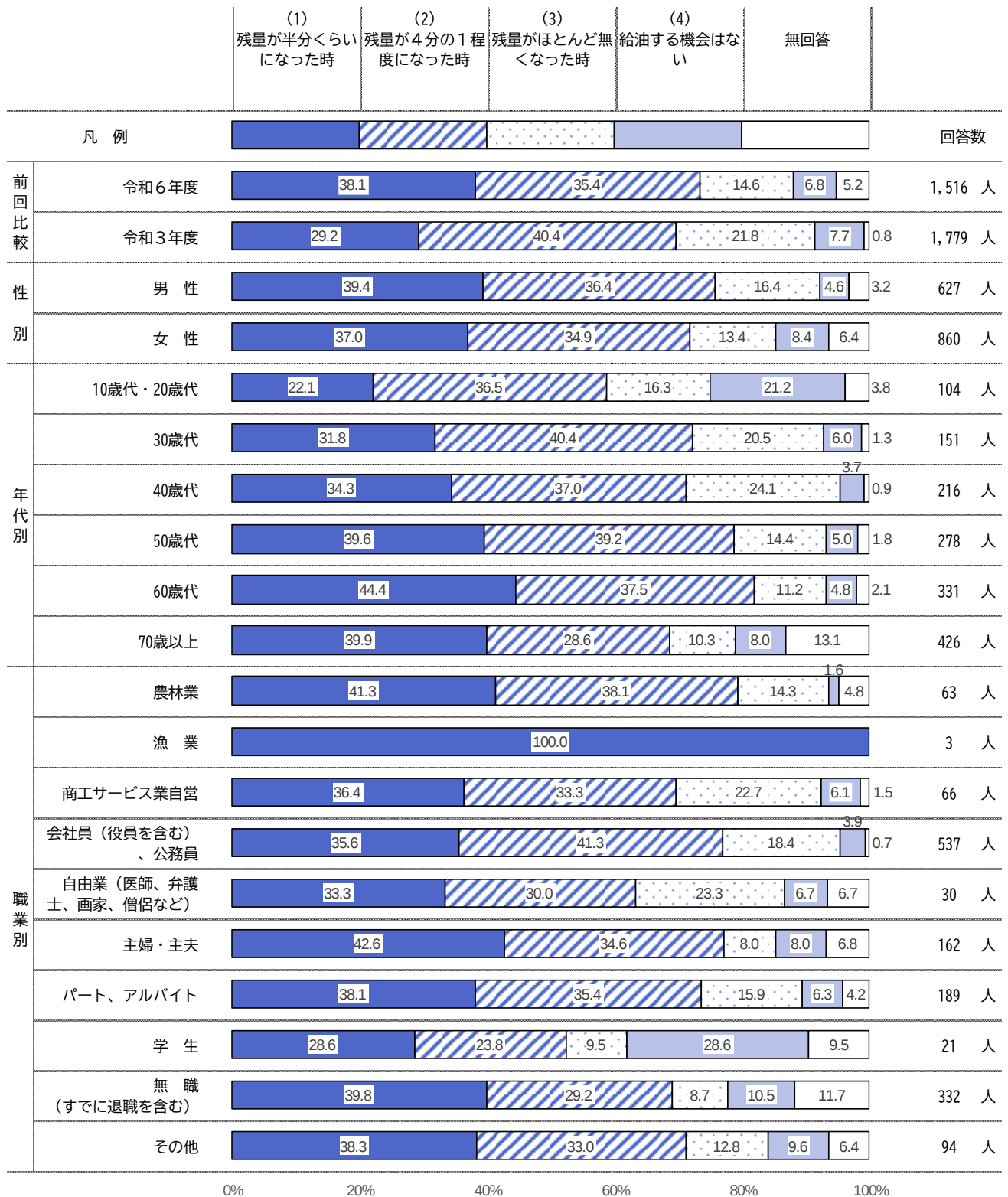
【年代別】

10歳代～40歳代では「残量が4分の1程度になった時」の割合が最も高く、50歳代～70歳以上では「残量が半分くらいになった時」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

主婦・主夫では「残量が半分くらいになった時」の割合が他の職業より高くなっており、学生では「給油する機会はない」の割合が他の職業より高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

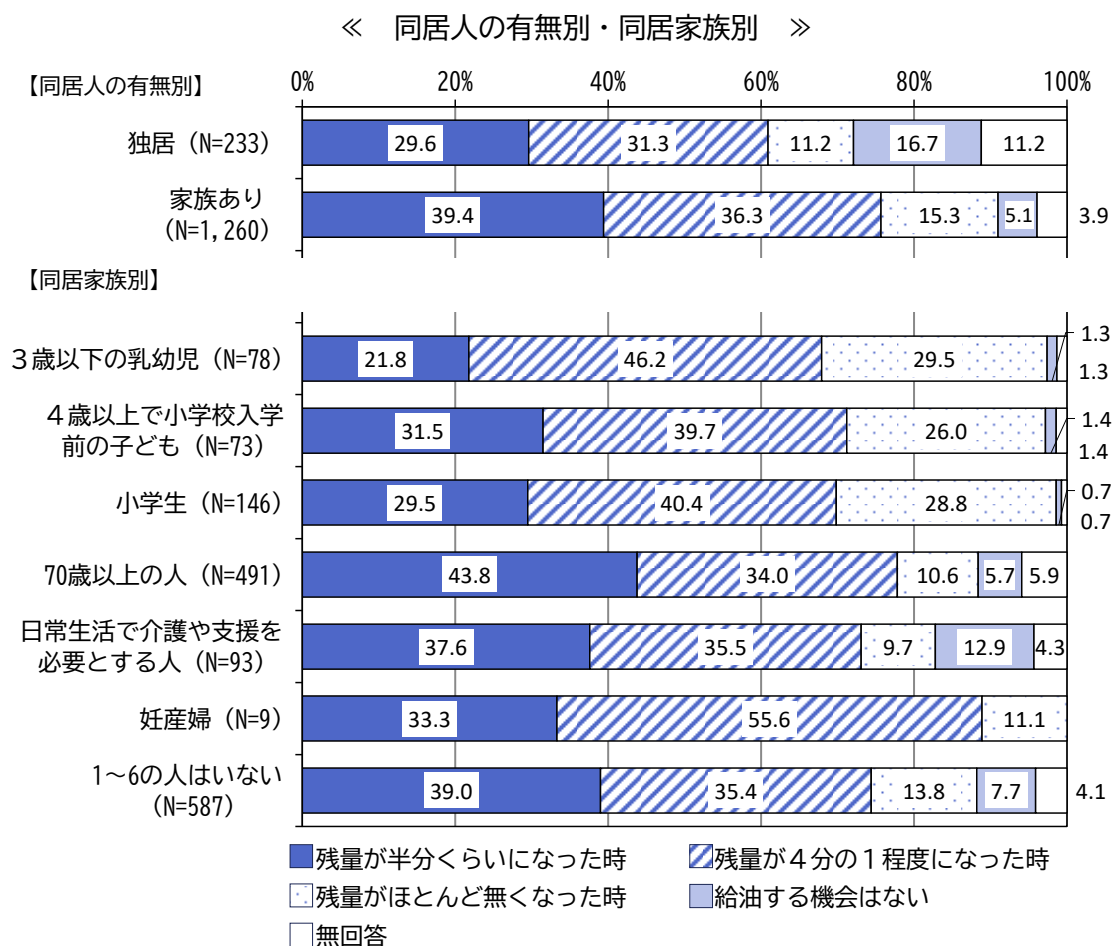


【同居人の有無別】

「残量が半分くらいになった時」は家族あり世帯で39.4%と、独居世帯の29.6%より9.8ポイント高くなっている。

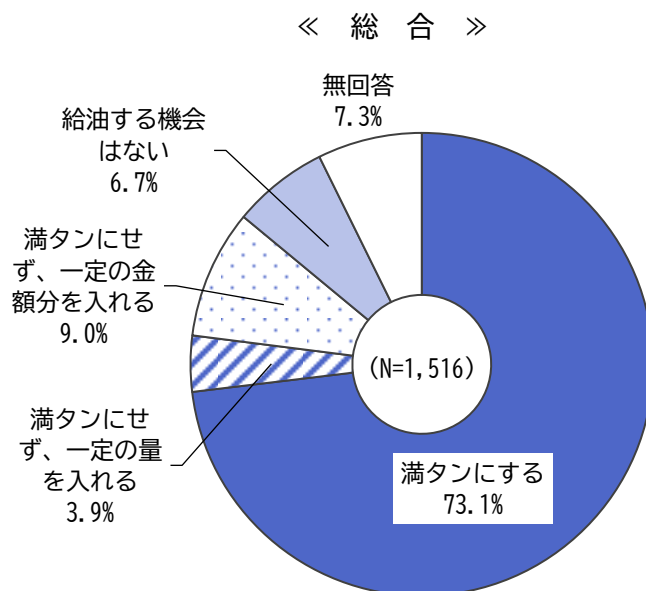
【同居家族別】

70歳以上の人では「残量が半分くらいになった時」の割合が他の同居家族より高く、妊産婦では「残量が4分の1程度になった時」の割合が他の同居家族より高くなっている。



【どのくらい】

車に給油する量は、「満タンにする」73.1%が最も高く、次いで「満タンにせず、一定の金額分を入れる」9.0%、「給油する機会はない」6.7%と続いている。



【前回比較】

令和6年度は令和3年度と比較して、「満タンにする」が8.8ポイント低くなっている。

【性別】

男女とも「満タンにする」の割合が最も高く、男性76.4%、女性71.2%となっている。

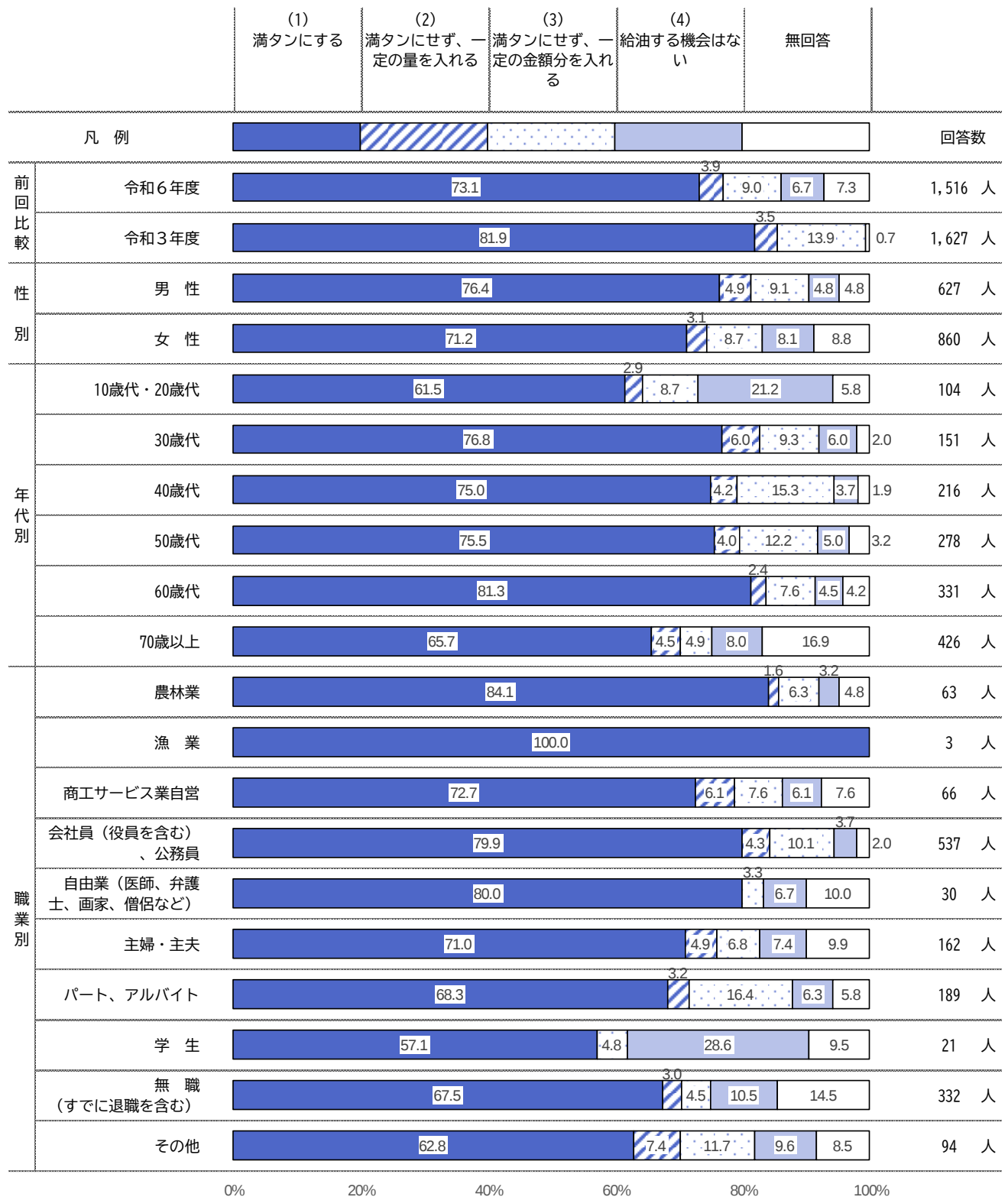
【年代別】

60歳代では「満タンにする」の割合が他の年代より高く、10歳代・20歳代では「給油する機会はない」の割合が他の年代より高くなっている。

【職業別】

漁業は「満タンにする」の割合が他の職業より高く、学生は「給油する機会はない」の割合が他の職業より高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



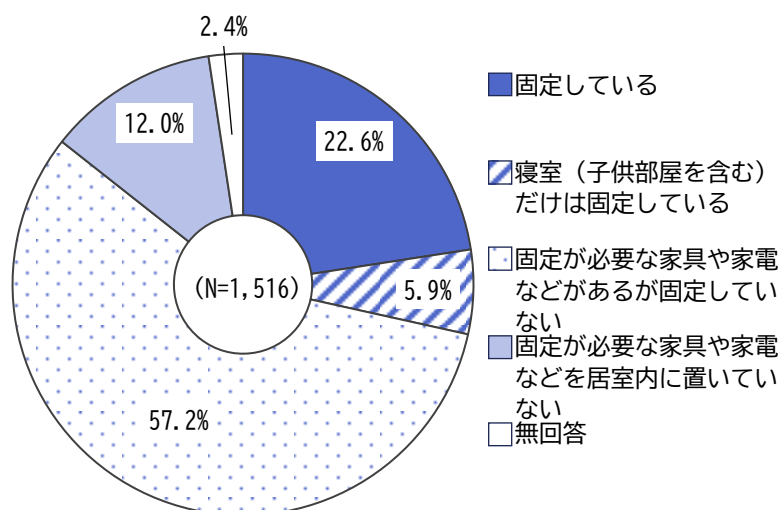
(4) 地震の揺れ対策について

問 26 家具や家電などを固定しているか

問26 あなたのお宅では家具や家電などの固定をしていますか。(ひとつだけ○)

家具や家電の固定については、「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が57.2%と最も高く、次いで「固定している」22.6%、「固定が必要な家具や家電などを居室内に置いていない」12.0%と続いている。

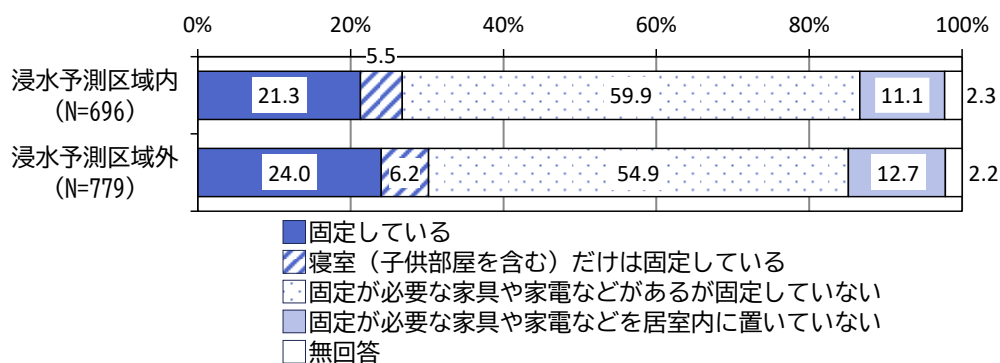
《 総 合 》



【浸水予測区域別】

「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」は、浸水予想区域内では59.9%と、浸水予想区域外の54.9%より5.0ポイント高くなっている。

《 浸水予測区域別 》



【前回比較】

令和3年度と比較して、大きな差は見られない。

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向で、性別による差はほとんど見られない。

【年代別】

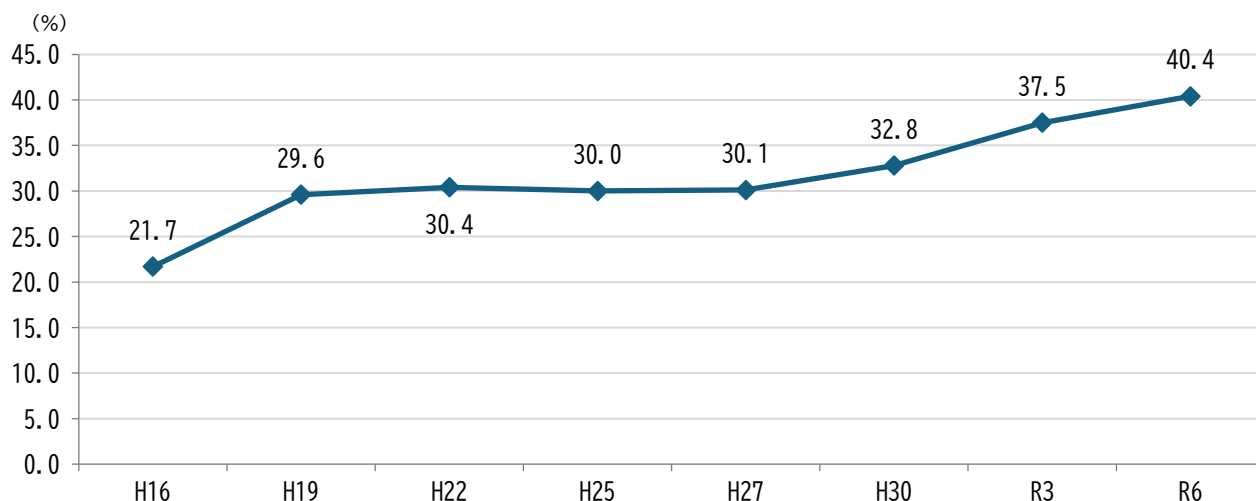
すべての年代で「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が最も高く、中でも50歳代の64.4%が高くなっている。

【職業別】

漁業を除くすべての職業で、「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が最も高くなっている。

【室内の安全対策実施率（家具・家電の固定対策等）】

室内の安全対策実施率についてみると、R6では40.4%となっており、H16からみると緩やかではあるが、安全対策に対する意識も上昇している。

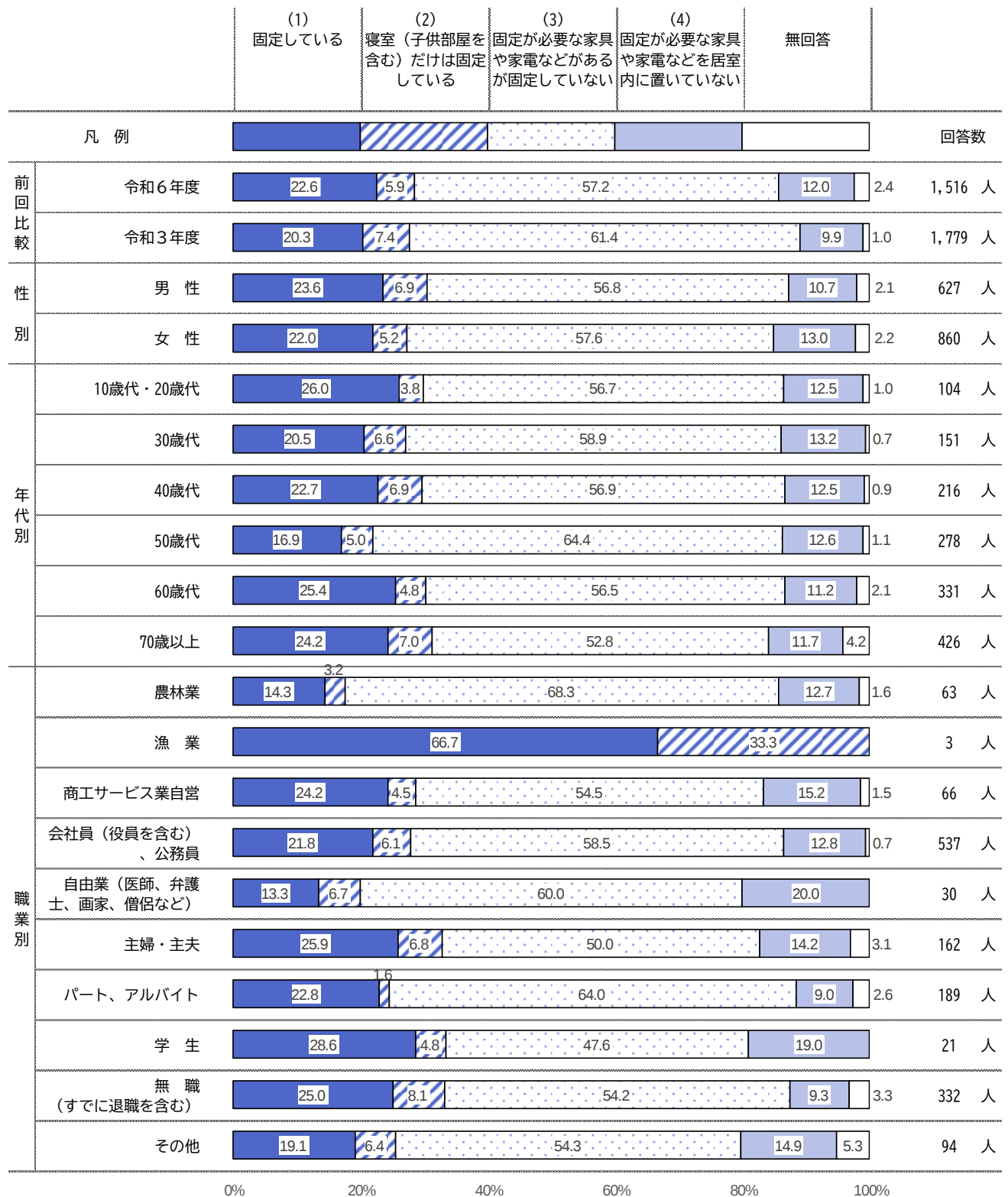


■室内の安全対策実施率（家具・家電の固定対策等）の計算方法

<「1. 固定している」、「2. 寝室（子ども部屋を含む）だけは固定している」、「4. 固定が必要な家具や家電などを居室に置いていない」の合計人数>を<回答者数>で除した値

【参考・R6】(342人+89人+182人) / 1,516人 = 40.4%

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



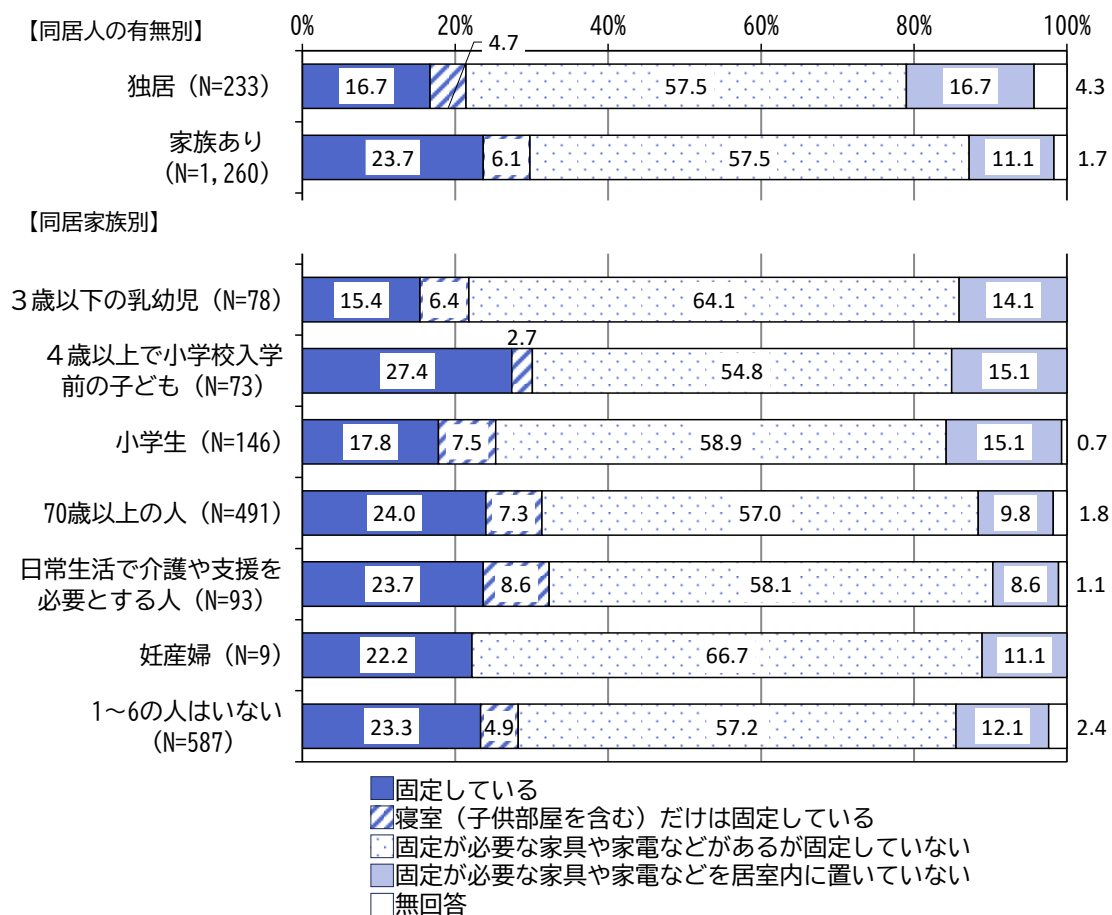
【同居人の有無別】

同居人の有無にかかわらず、「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が最も高いが、家族あり世帯では「固定している」が23.7%と、独居世帯の16.7%より7.0ポイント高くなっている。

【同居家族別】

妊産婦は、「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が66.7%と、他の同居家族と比較して高い割合となっている。

《同居人の有無別・同居家族別》



問26×問3

「家具等の固定」と「危機意識」とのクロス分析

自宅や地域にどのような危険があるかという問いに対して「揺れで、家具が転倒する」と回答した方のうち「固定している」と回答した方は20.5%となっており、「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」の約33%にとどまっている。

		問26					
		調査数	(1) 固定している	(2) だ寝け室は（固定し部屋を含む）	(3) なな固定が必要がな家具や家電	(4) なな固定をが居室内に家具置いて家電	無回答
問5	揺れで、建物に被害が出る	1,257	21.7	6.0	59.1	10.9	2.2
	揺れで、家具が転倒する	1,178	20.5	6.5	61.1	9.9	1.9
	火災	649	21.6	6.9	60.7	9.9	0.9
	津波	730	22.2	4.9	60.1	11.0	1.8
	山崩れ、がけ崩れ	518	24.1	5.6	59.1	9.7	1.5
	危険はない	15	60.0	-	13.3	20.0	6.7
	その他	67	16.4	11.9	58.2	10.4	3.0
	無回答	5	-	-	40.0	20.0	40.0
	【表の見方】 比率(%) 網掛け＝						

問26×問5

「家具等の固定」と「普段、情報をよく収集するメディア」とのクロス分析

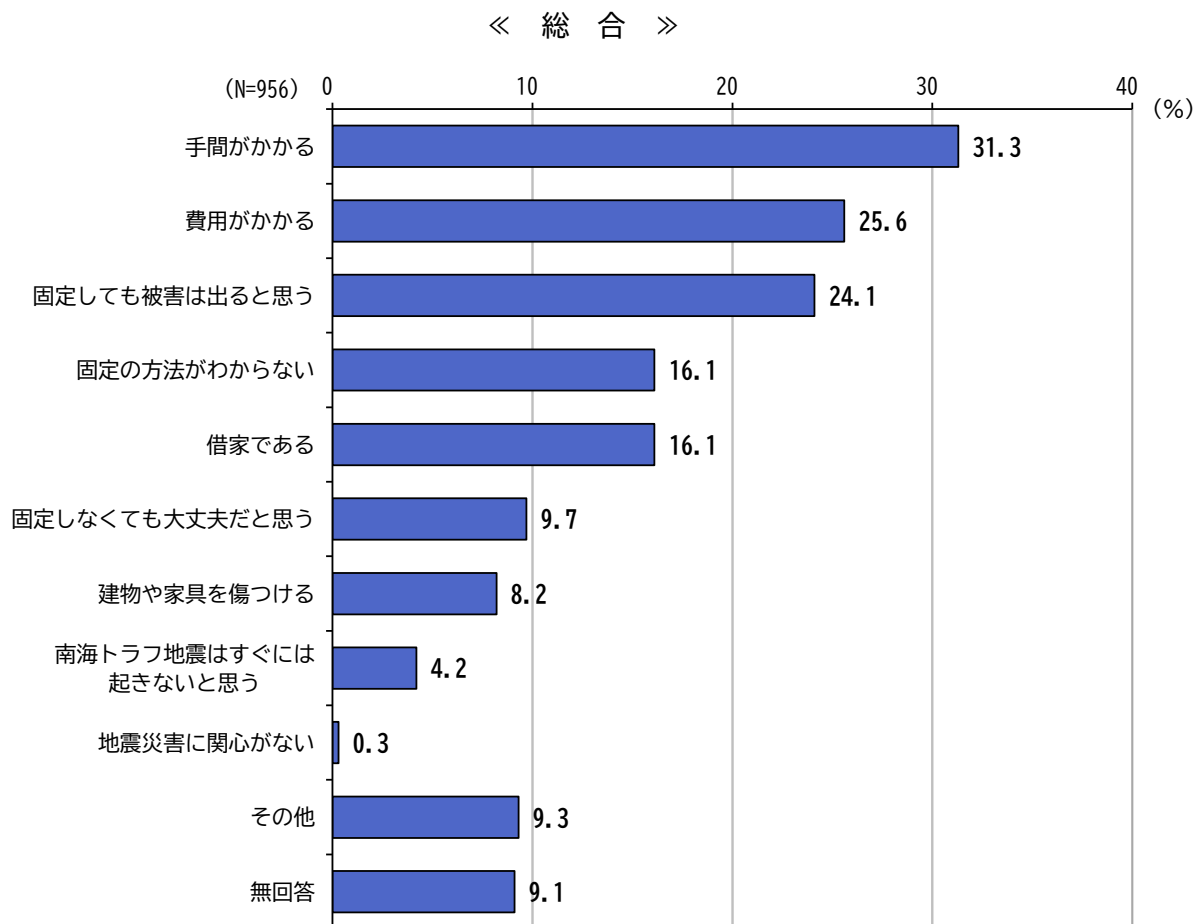
普段、情報をよく収集するメディアすべてで「固定が必要な家具や家電などがあるが固定していない」が最も高い割合となっている。

		問26					
		調査数	(1) 固定している	(2) だ寝け室は（固定し部屋を含む）	(3) なな固定が必要がな家具や家電	(4) なな固定をが居室内に家具置いて家電	無回答
問5	新聞	429	27.0	7.0	53.8	10.5	1.6
	テレビ	1,299	22.8	5.5	57.6	11.7	2.5
	ラジオ	127	22.8	7.9	51.2	10.2	7.9
	インターネット(SNS含む)	754	21.2	5.8	59.3	12.6	1.1
	街頭のチラシ、ポスター、掲示板	16	-	6.3	87.5	6.3	-
	その他	11	9.1	-	81.8	-	9.1
	無回答	7	28.6	-	42.9	-	28.6
	【表の見方】 比率(%) 網掛け＝						

問 27 固定していない理由

問27 家具や家電などの固定をしていないのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべてに○)

家具を固定していない理由は、「手間がかかる」が31.3%と最も高く、次いで「費用がかかる」25.6%、「固定しても被害は出ると思う」24.1%と続いている。



【前回比較】

「手間がかかる」の割合が令和3年度より7.8ポイント減少している。一方、「固定しても被害は出ると思う」の割合は2.4ポイント微増している。

【性別】

男女とも「手間がかかる」の割合が最も高く、男性では「固定しても被害は出ると思う」25.1%、女性では「費用がかかる」26.5%と続いている。

【年代別】

10歳代～50歳代では「手間がかかる」が最も高く、60歳代、70歳以上では「固定しても被害は出ると思う」が最も高くなっている。

【職業別】

農林業、主婦・主夫、パート・アルバイトでは「固定しても被害は出ると思う」が最も高く、漁業、その他では「費用がかかる」、商工サービス業自営、会社員、公務員、自由業、学生、無職では「手間がかかる」が最も多くなっている。

【同居人の有無別】

独居世帯では「借家である」が最も高く、家族あり世帯では「手間がかかる」が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別・同居人の有無別 ▶

		調査数	(1) 手間 がかかる	(2) 費用 がかかる	(3) と固定 しても 被害は 出る	(4) 固定 の方法 がわか らない	(5) 借家 である	(6) 固定 しな くても 大丈夫 と思う	(7) 建物 や家具 を傷 つける	(8) 南海 トラフ 地震は すぐ	(9) 地震 災害に 関心 がない	(10) その他	無 回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位									
今回調査(R6)		956	31.3	25.6	24.1	16.1	16.1	9.7	8.2	4.2	0.3	9.3	9.1
前回調査(R3)		1,224	39.1	25.5	21.7	21.2	9.7	14.8	12.8	6.1	1.4	10.1	2.1
性別	男性	399	35.3	24.6	25.1	12.0	12.8	13.0	8.8	5.0	0.5	6.5	9.0
	女性	540	28.3	26.5	23.1	19.1	18.5	7.6	7.2	3.5	0.2	11.5	9.4
	回答しない	12	33.3	33.3	16.7	16.7	25.0	-	25.0	8.3	-	8.3	-
年代別	10歳代・20歳代	63	44.4	39.7	25.4	20.6	19.0	4.8	6.3	1.6	-	3.2	11.1
	30歳代	99	36.4	28.3	15.2	17.2	31.3	8.1	14.1	2.0	1.0	6.1	5.1
	40歳代	138	34.8	21.0	17.4	16.7	22.5	15.2	10.9	2.2	-	7.2	8.0
	50歳代	193	30.1	28.0	22.3	13.0	19.7	6.2	7.8	3.6	-	10.9	8.8
	60歳代	203	29.6	27.6	30.0	15.8	8.4	10.8	6.4	6.4	1.0	10.8	6.9
	70歳以上	255	26.3	20.4	27.1	16.9	9.8	10.6	6.3	5.5	-	11.0	12.9
職業別	農林業	45	22.2	13.3	28.9	15.6	2.2	17.8	-	13.3	-	15.6	8.9
	漁業	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	39	30.8	25.6	28.2	12.8	10.3	10.3	7.7	5.1	-	5.1	7.7
	会社員(役員を含む)、公務員	347	36.6	25.1	19.6	14.4	23.6	10.4	11.0	2.0	-	8.1	8.9
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	20	60.0	45.0	25.0	25.0	15.0	5.0	10.0	5.0	-	10.0	10.0
	主婦・主夫	92	23.9	22.8	31.5	28.3	5.4	9.8	6.5	5.4	-	5.4	8.7
	パート、アルバイト	124	26.6	27.4	29.8	16.1	19.4	6.5	8.1	4.0	0.8	10.5	8.1
	学生	11	36.4	27.3	18.2	-	18.2	18.2	-	9.1	-	-	18.2
	無職(すでに退職を含む)	207	28.0	25.6	24.2	15.5	13.0	9.7	5.8	5.3	0.5	10.6	10.1
	その他	57	29.8	31.6	19.3	12.3	8.8	8.8	8.8	3.5	1.8	17.5	8.8
同居人の有無別	独居	145	29.0	22.1	13.8	22.1	33.1	3.4	8.3	4.1	-	9.0	9.7
	家族あり	801	31.7	26.5	25.8	15.1	13.0	11.0	8.1	4.2	0.4	9.5	8.9

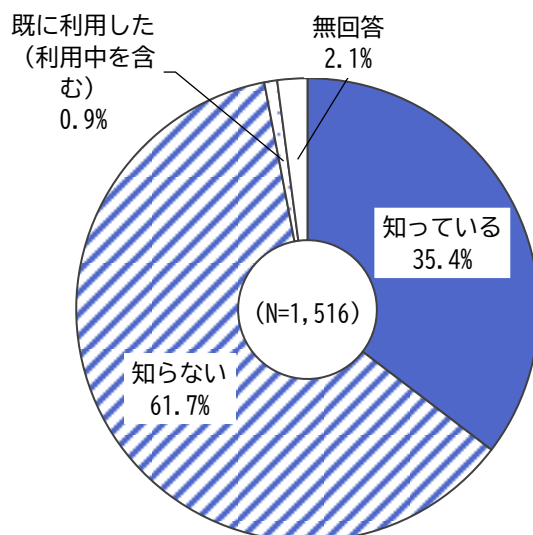
問 28 家具や家電などの固定に関する補助制度を知っているか

問28 家具や家電などの固定について、取付け工賃等の補助制度があることをご存知ですか。

(ひとつだけ○) ※市町村によっては補助制度がない場合があります。

家具固定の補助制度は「知らない」が61.7%、「知っている」35.4%、「既に利用した(利用中を含む)」0.9%となっている。

《 総 合 》



【前回比較】

令和6年度では「知っている」が35.4%と、令和3年度の26.3%より9.1ポイント高くなっている。

【性別】

男女とも「総合」と同じ傾向で、性別による差もほとんどない。

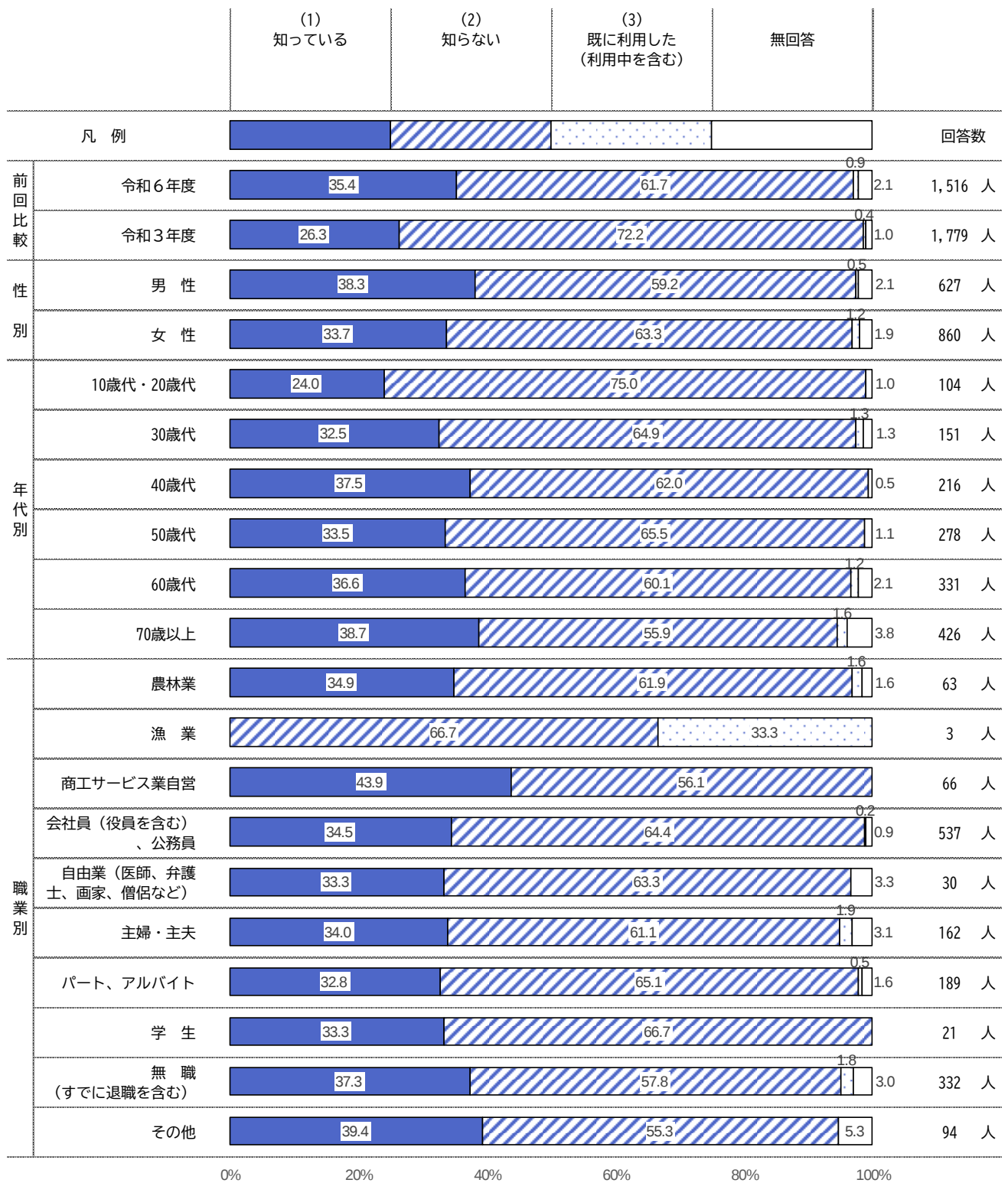
【年代別】

70歳以上は「知っている」が38.7%と、他の年代と比べて最も高い割合となっている。

【職業別】

商工サービス業自営は「知っている」が43.9%と、他の職業と比べて最も高い割合となっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



問28×問27

「補助制度の認知度」と「家具等を固定していない理由」とのクロス分析

「家具を固定していない理由」という問いに対して、「費用がかかる」と回答したうち、補助制度を「知らない」と回答した方は72.7%となっている。

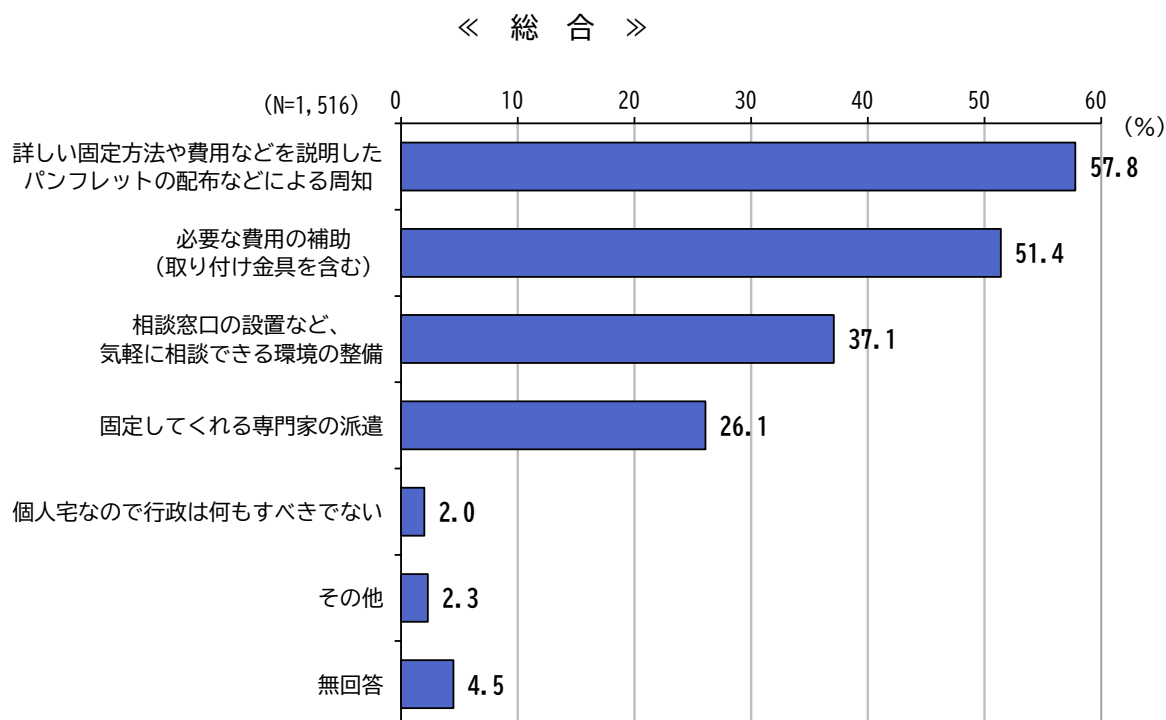
		調査数	(1) 知っている	(2) 知らない	(3) を既に利用した (利用中)	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け=						
問 2 7	建物や家具を傷つける	78	34.6	64.1	-	1.3
	固定の方法がわからない	154	26.0	73.4	-	0.6
	借家である	154	27.3	70.1	0.6	1.9
	費用がかかる	245	26.9	72.7	-	0.4
	手間がかかる	299	25.4	73.9	-	0.7
	固定しなくても大丈夫だと思う	93	37.6	62.4	-	-
	固定しても被害は出ると思う	230	35.7	63.0	-	1.3
	南海トラフ地震はすぐには起きないと思う	40	30.0	67.5	-	2.5
	地震災害に関心がない	3	33.3	66.7	-	-
	その他	89	39.3	58.4	1.1	1.1
	無回答	87	32.2	63.2	-	4.6

問 29 固定を促進するために県や市町村では何をすべきか

問29 家具や家電などの固定を促進するために、県や市町村では何をすべきだと思いますか。

(当てはまるものすべてに○)

固定を促進するために県や市町村で行うことは、「詳しい固定方法や費用などを説明したパンフレットの配布などによる周知」が57.8%と最も高く、次いで「必要な費用の補助（取り付け金具を含む）」51.4%、「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」37.1%と続いている。



【前回比較】

令和6年度は令和3年度と比較して、大きな違いは見られないが、「詳しい固定方法や費用などを説明したパンフレットの配布などによる周知」では、令和6年度が57.8%、令和3年度が62.1%と4.3ポイント低くなっている。

【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向で、ほとんど違いは見られない。

【年代別】

50歳代を除くすべての年代で「詳しい固定方法や費用などを説明したパンフレットの配布などによる周知」の割合が最も高く、50歳代では「必要な費用の補助（取り付け金具を含む）」が最も高くなっている。

【職業別】

商工サービス業自営、学生を除くすべての職業で、「詳しい固定方法や費用などを説明したパンフレットの配布などによる周知」が最も高くなっている。

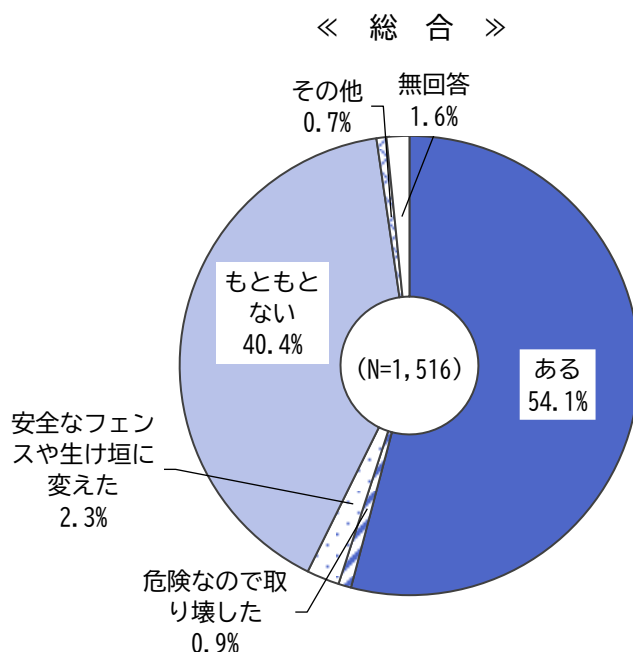
◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 配を詳し 布ない固 などに定 よる方法 周フや費 知レッ用 トなど	(2) け必要 金具な費 を含むの 補助（取 り付	(3) に相 相談窓 口の設 置環 境など の整、 備、気 軽	(4) 遣固 定し てく れる 専 門 家 の 派	(5) ベ個人 宅な い ので 行政 は 何 も す	(6) そ の 他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1 位	2 位					
今回調査(R6)		1,516	57.8	51.4	37.1	26.1	2.0	2.3	4.5
前回調査(R3)		1,779	62.1	51.5	35.1	26.4	3.4	2.8	3.0
性別	男性	627	55.8	51.2	37.0	23.8	2.9	2.2	3.5
	女性	860	59.8	51.9	37.1	28.0	1.3	2.4	4.8
	回答しない	18	44.4	44.4	44.4	22.2	11.1	-	5.6
年代別	10歳代・20歳代	104	59.6	55.8	35.6	29.8	3.8	1.0	2.9
	30歳代	151	61.6	59.6	36.4	31.1	0.7	5.3	0.7
	40歳代	216	58.3	57.9	39.4	25.5	1.9	2.8	0.9
	50歳代	278	57.9	58.3	38.1	22.3	2.9	3.6	1.4
	60歳代	331	61.9	51.4	41.1	26.3	1.8	0.6	3.6
	70歳以上	426	52.6	40.1	32.6	26.3	1.9	1.9	10.1
職業別	農林業	63	57.1	50.8	34.9	12.7	4.8	1.6	3.2
	漁業	3	100.0	100.0	33.3	-	-	-	-
	商工サービス業自営	66	50.0	54.5	47.0	28.8	1.5	3.0	4.5
	会社員(役員を含む)、公務員	537	60.5	56.1	37.1	24.4	2.0	3.0	1.9
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	60.0	53.3	33.3	36.7	3.3	3.3	3.3
	主婦・主夫	162	60.5	43.2	35.8	25.9	1.9	0.6	6.2
	パート、アルバイト	189	59.3	54.0	37.0	22.8	-	2.6	3.7
	学生	21	47.6	57.1	28.6	38.1	4.8	-	-
	無職(すでに退職を含む)	332	54.2	45.5	34.0	28.3	1.8	1.5	7.5
	その他	94	51.1	50.0	46.8	38.3	5.3	4.3	7.4

問 30 自宅の敷地内にブロック塀や石瓶、門柱などがあるか

問30 あなたのお宅の敷地にはブロック塀や石塀、門柱などがありますか。(ひとつだけ○)

ブロック塀や石瓶、門柱の有無では「ある」が54.1%と最も高く、次いで「もともとない」40.4%、「安全なフェンスや生け垣に変えた」2.3%と続いている。



【前回比較】

令和6年度では、「ある」が54.1%と令和3年度の56.6%より2.5ポイント低く、「もともとない」が40.4%と令和3年度の38.4%より2.0ポイント高くなっている。

【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向で、ほとんど違いは見られない。

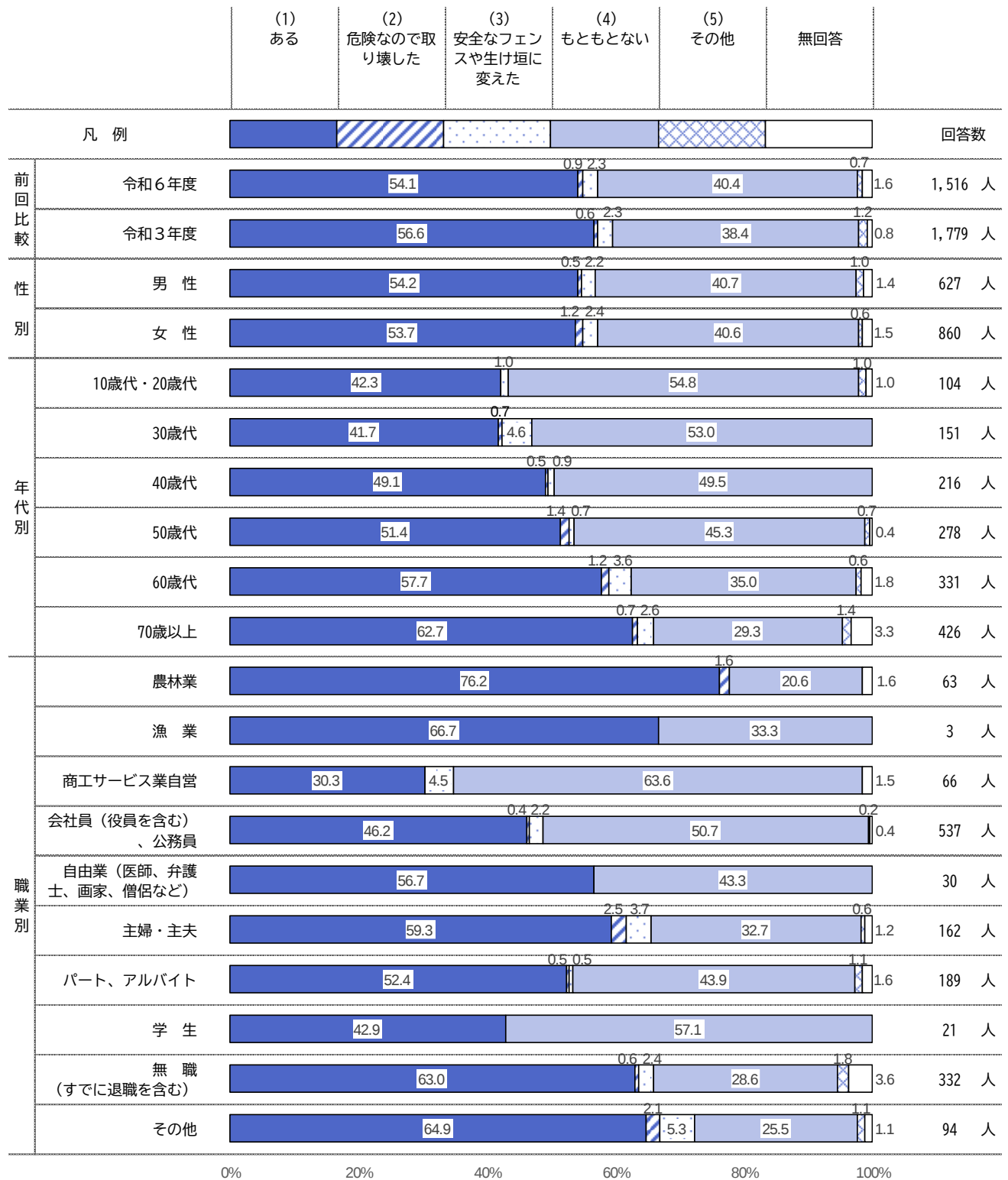
【年代別】

「ある」は30歳代以降、年代が上がるほど割合も高い傾向にある。

【職業別】

農林業は、「ある」の割合が70%を超えており、他の職業より高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

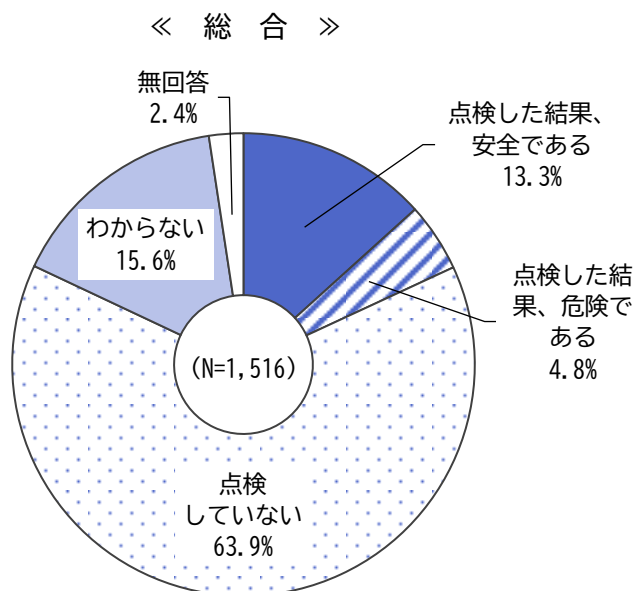


問 31 安全性の点検の実施状況

問31 問30で「1. ある」と回答した人におたずねします。

ブロック塀や石塀、門柱などは、地震時の安全性を点検しましたか。(ひとつだけ○)

安全性の点検の実施状況は、「点検していない」が63.9%と最も高く、次いで「わからない」15.6%、「点検した結果、安全である」13.3%と続いている。



【前回比較】

令和6年度と令和3年度は、同じ傾向にあり、大きな差も見られない。

【性別】

男女とも「点検していない」が最も高く、60%を超えている。「点検した結果、安全である」は男性15.6%、女性11.7%と、男性の方が3.9ポイント高くなっている。

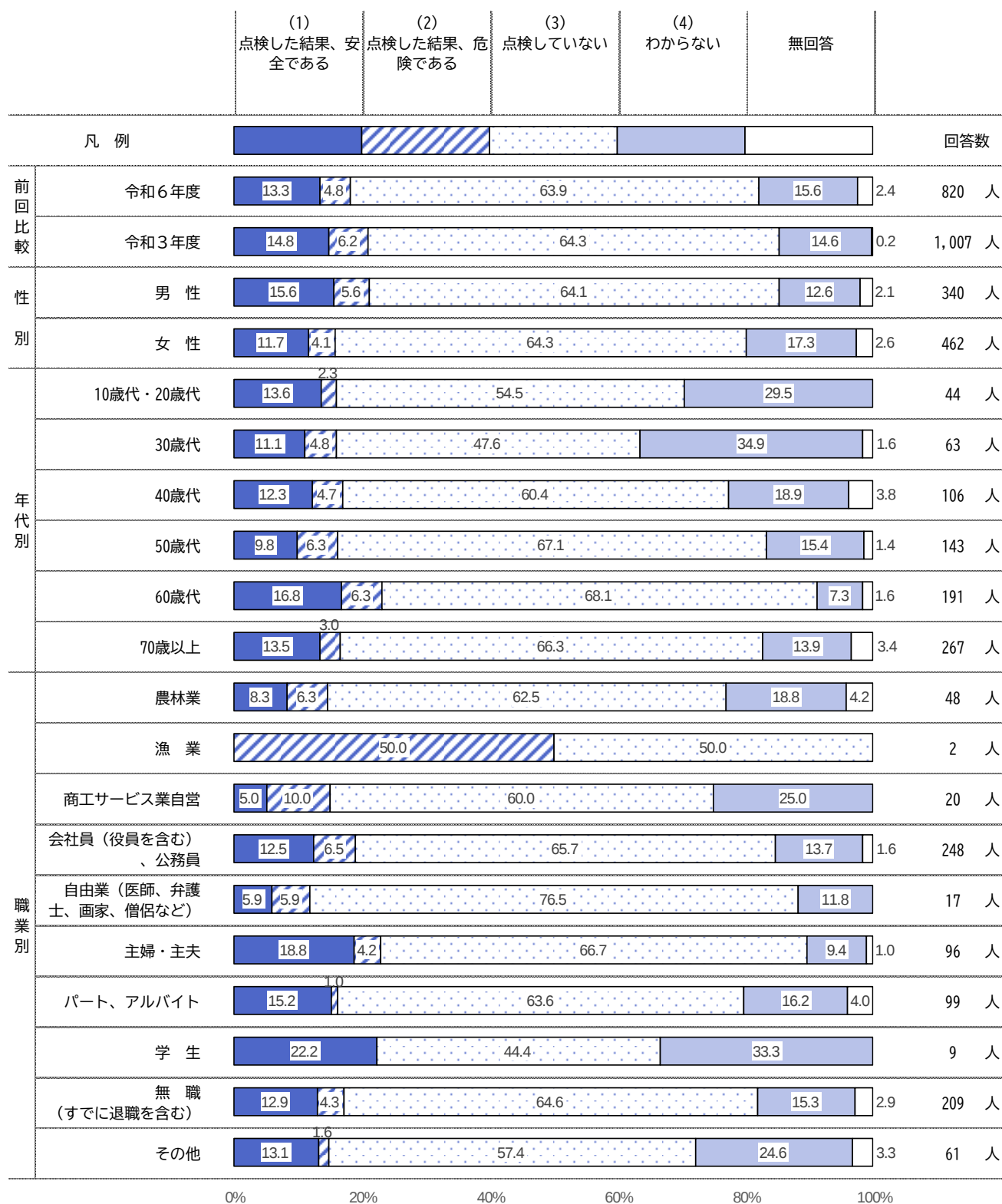
【年代別】

60歳代は、「点検した結果、安全である」が16.8%と、他の年代よりも高い割合となっている。

【職業別】

学生は、「わからない」が33.3%と、他の職業より高い割合となっている。

＜前回比較・性別・年代別・職業別＞

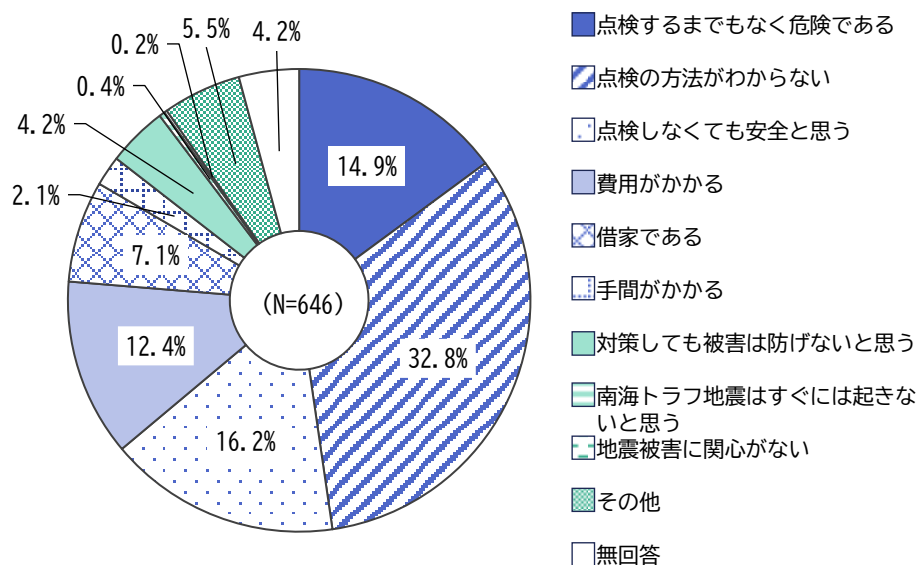


問 32 点検していない理由

問32 問38で「3. 点検していない」と回答した人におたずねします。安全性について点検していないのはどのような理由からですか。(ひとつだけ○)

ブロック塀や石瓶、門柱などを点検していない理由は、「点検の方法がわからない」が32.8%と最も高く、次いで「点検しなくても安全と思う」16.2%、「点検するまでもなく危険である」14.9%と続いている。

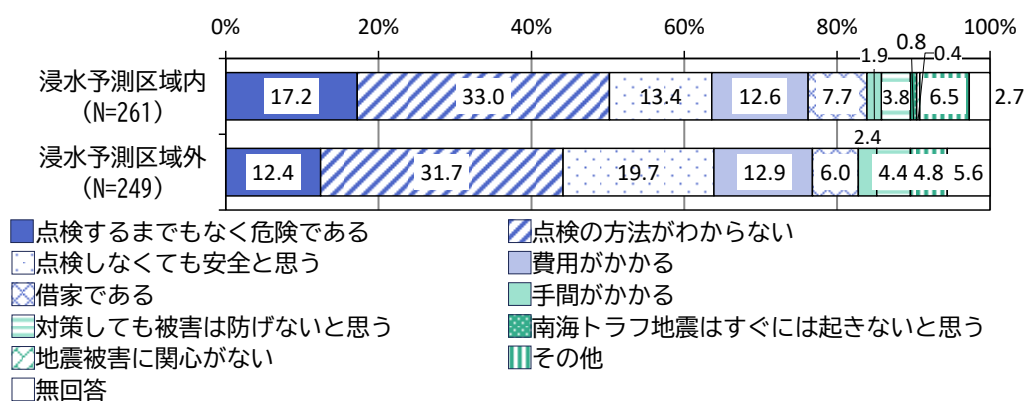
《 総 合 》



【浸水予測区域別】

「点検の方法がわからない」は、浸水予想区域内では33.0%と、浸水予想区域外の31.7%より1.3ポイント高くなっている。

《 浸水予測区域別 》



【前回比較】

「点検するまでもなく危険である」は、令和6年度では14.9%、令和3年度は9.6%と5.3ポイント高くなっている。

【性別】

「点検の方法がわからない」は、男性28.0%、女性36.7%と、女性の方が8.7ポイント高い。

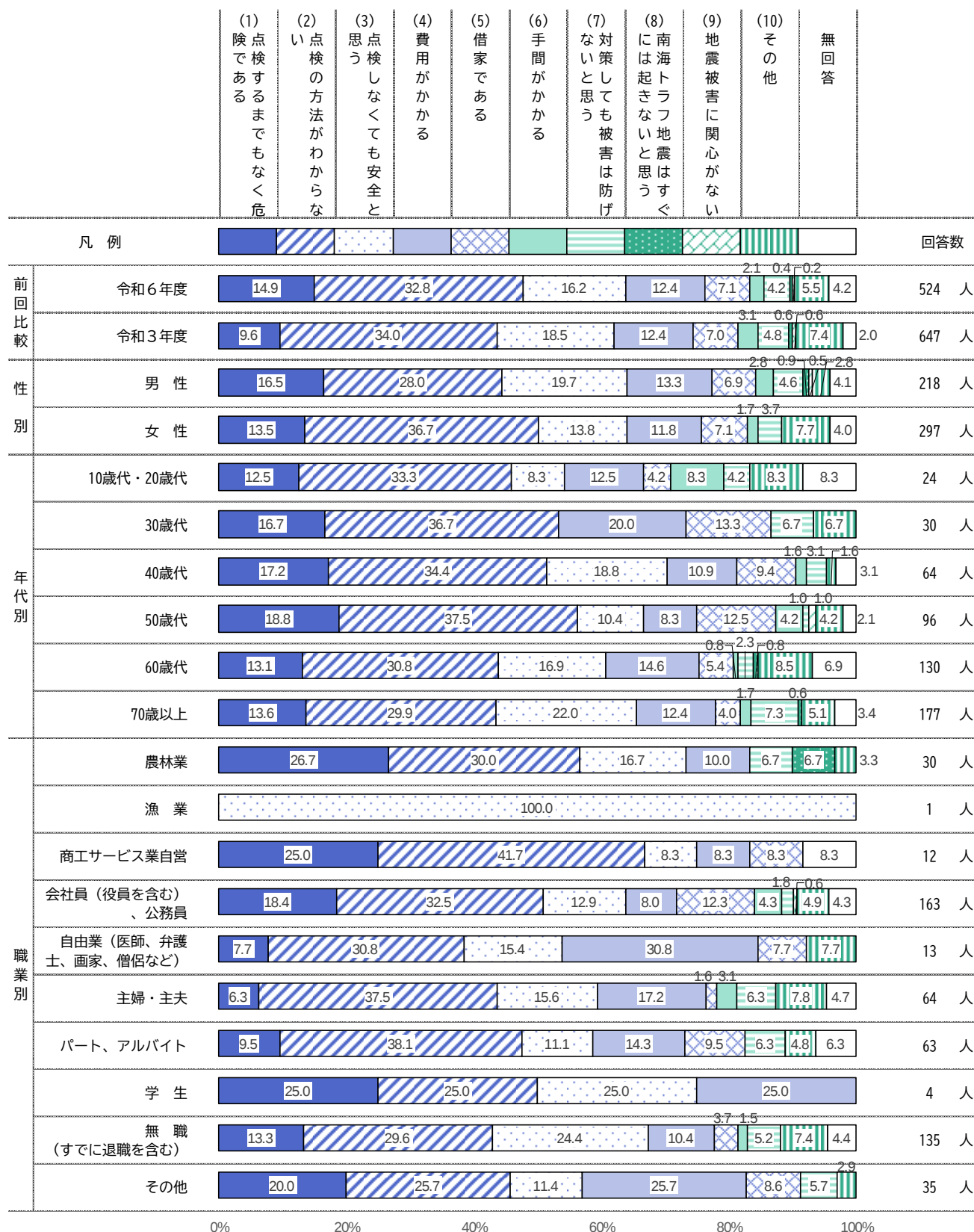
【年代別】

「点検の方法がわからない」は、50歳代で37.5%と他の年代より高くなっている。

【職業別】

「点検の方法がわからない」は、商工サービス業自営で41.7%と他の職業より高くなっている。

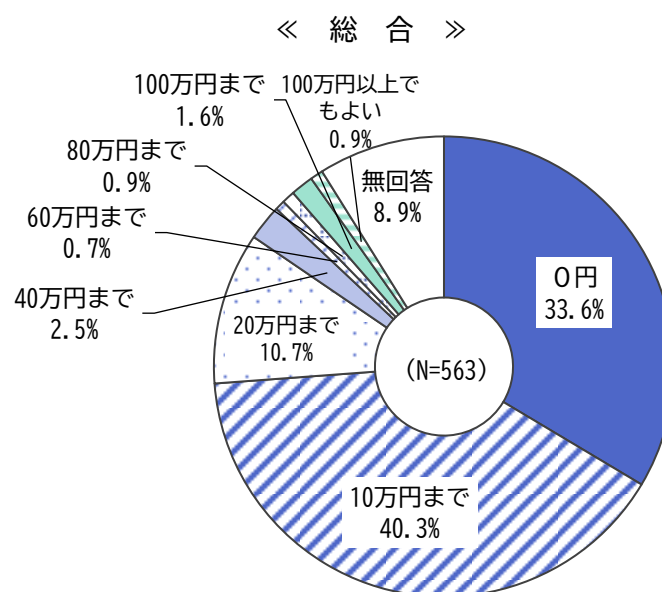
＜前回比較・性別・年代別・職業別＞



問 33 自宅の塀に対し安全対策をしてもよいと思う自己負担許容額

問33 県や市町村では、危険なコンクリートブロック塀の改修工事など、安全対策にかかる費用の一部を補助していますが、自宅の塀について、自己負担がどのくらいの金額なら安全対策をしてもよいと思いますか。(ひとつだけ○)

安全対策をしてもよいと思う自己負担許容額は、「10万円まで」が40.3%と最も高く、次いで「0円」33.6%、「20万円まで」10.7%と続いている。



【前回比較】

令和6年度と令和3年度は、同じ傾向にあり、大きな差は見られない。

【性別】

男性では「0円」が39.2%と最も高く、女性では「10万円まで」が43.7%と最も高くなっている。

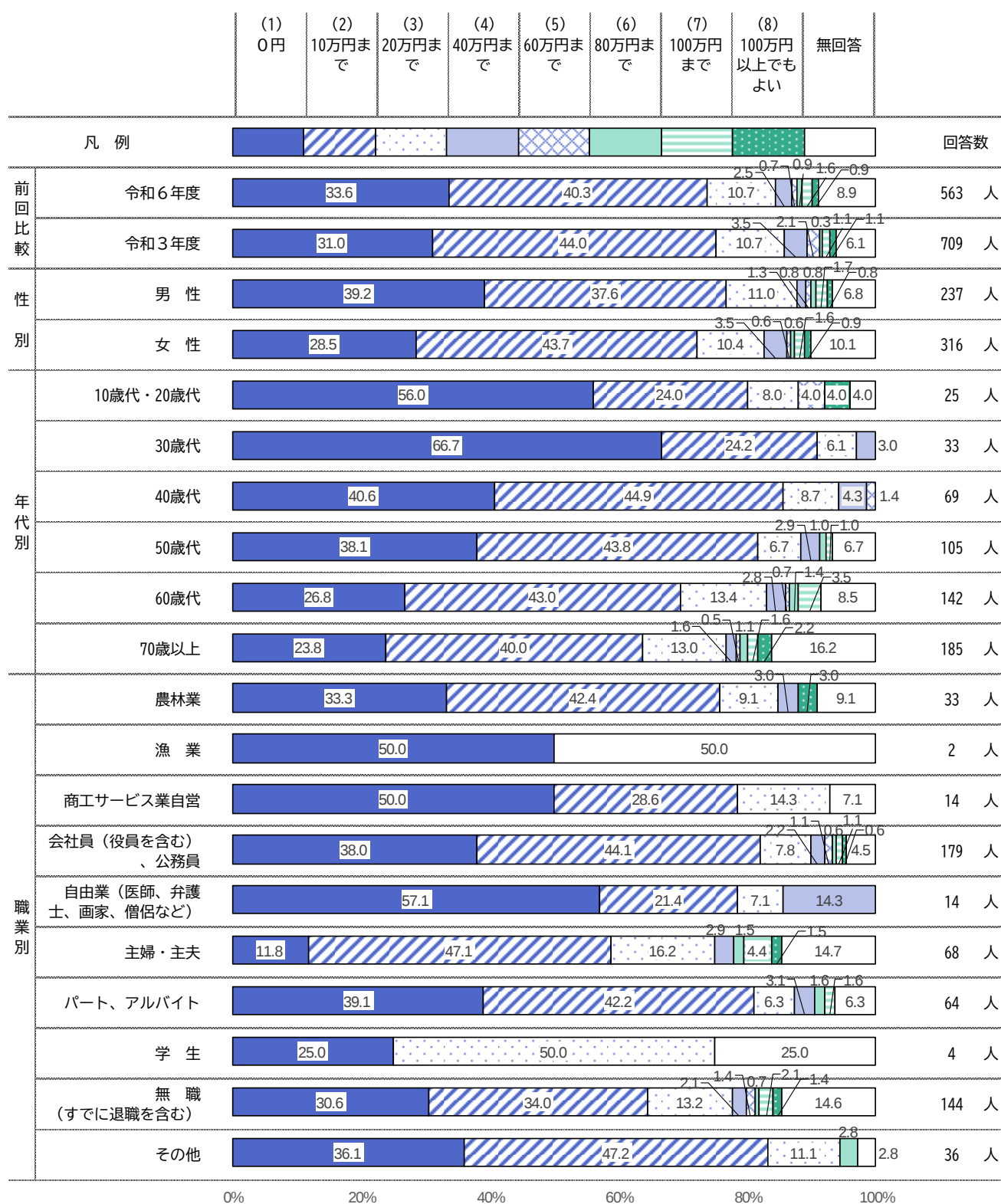
【年代別】

「0円」は、年代が低いほど割合が高くなる傾向にある。

【職業別】

農林業、会社員、公務員、主婦・主夫、パート・アルバイト、無職、その他では「10万円まで」の割合が30%を超えており、中でもその他は47.2%と高くなっている。

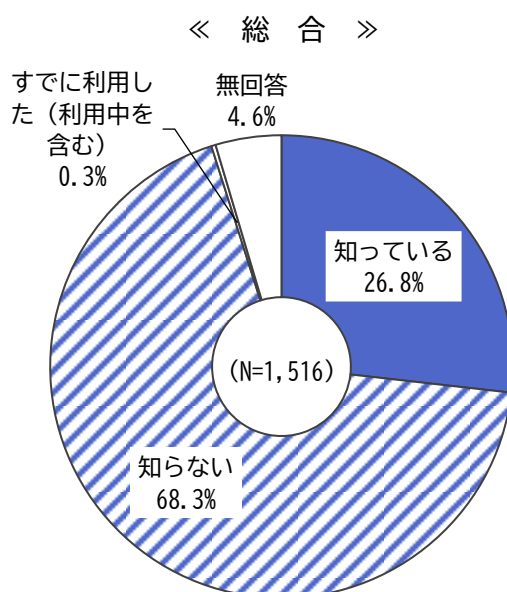
≪ 性別・年代別・職業別 ≫



問 34 ブロック塀などの安全対策に関する補助制度を知っているか

問34 市町村が国、県の支援を受けて緊急輸送路や避難路に面している危険性の高いブロック塀などの解体又は安全なフェンスや生け垣などに改修する費用に対して補助（上限20.5万円）をしていますか。〈ひとつだけ〇〉※市町村によっては補助制度がない場合があります。

緊急輸送路や避難路に面している危険性の高いブロック塀などへの安全対策のための補助制度は、「知らない」が68.3%と最も高く、次いで「知っている」26.8%、「既に利用した（利用中を含む）」0.3%と続いている。



【前回比較】

「知っている」の割合は、令和3年度の17.6%より9.2ポイント増加している。

【性別】

「知っている」は、男性は31.1%、女性は23.7%と男性の方が7.4ポイント高くなっている。

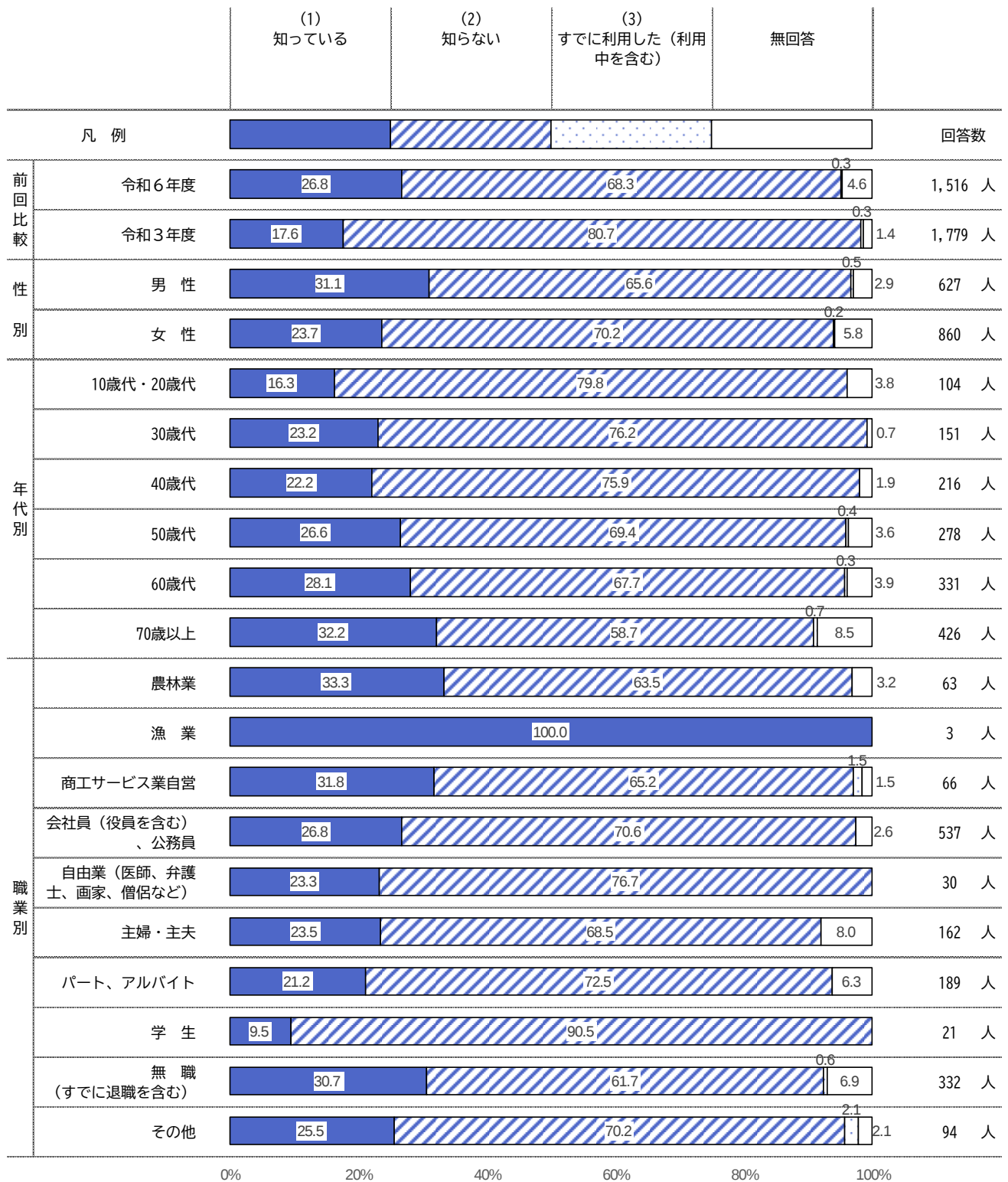
【年代別】

「知っている」は、年代が高いほど割合が高くなる傾向にある。

【職業別】

「知っている」は、学生が9.5%と他の職業より低くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

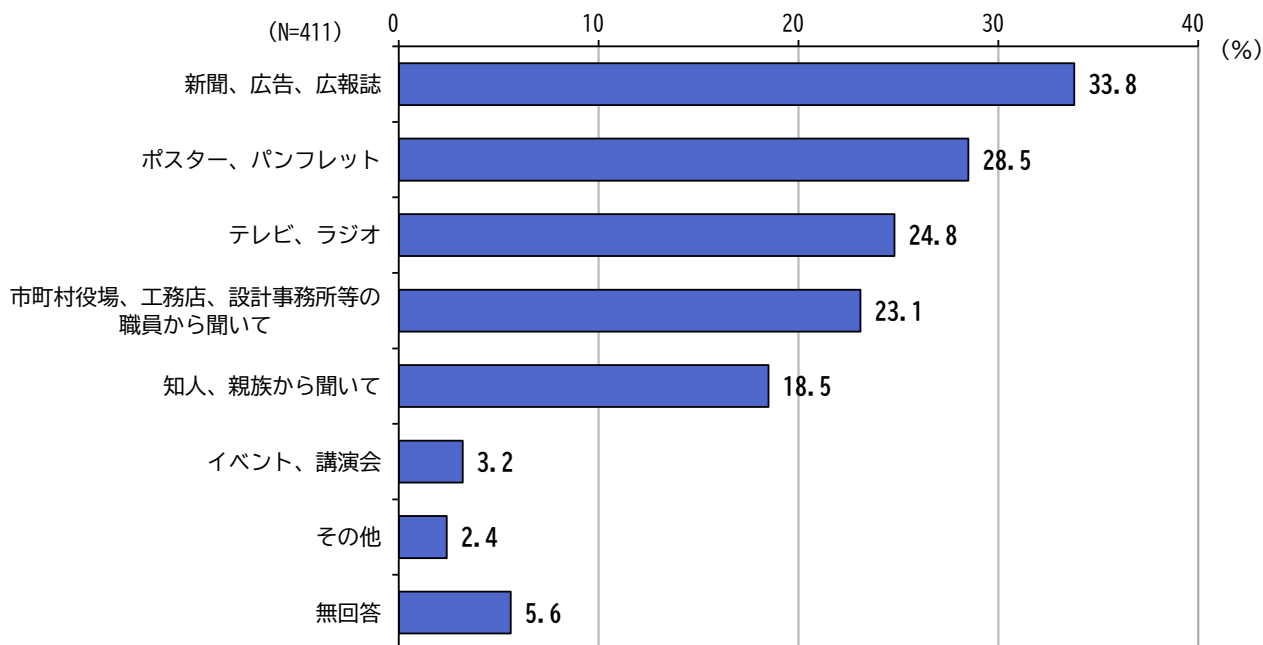


問 35 どのようにして知ったか

問35 問34で「1. 知っている」、「3. 既に利用した（利用中を含む）」と回答した人におたずねします。
どのようにして、この補助金制度を知りましたか。（当てはまるものすべてに○）

どのように補助制度を知ったかは、「新聞、広告、広報紙」33.8%が最も高く、次いで「ポスター、パンフレット」28.5%、「テレビ、ラジオ」24.8%、「市町村役場、工務店、設計事務所等の職員から聞いて」23.1%と続いている。

《 総 合 》



【前回比較】

「市町村役場、工務店、設計事務所等の職員から聞いて」の割合は、令和3年度の31.7%より8.6ポイント減少し、「テレビ、ラジオ」の割合は、8.8ポイント増加している。

【性別】

男女とも「新聞、広告、広報誌」が最も高く、男性では「市町村役場、工務店、設計事務所等の職員から聞いた」、女性では「ポスター、パンフレット」と続いている。

【年代別】

10歳代・20歳代は、「テレビ・ラジオ」が最も高く、30歳代は「ポスター、パンフレット」、40歳代は「新聞、広告、広報誌」、「ポスター、パンフレット」が同率で、50歳代以上では「新聞、広告、広報誌」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

農林業、会社員、公務員、主婦・主夫、無職では「新聞、広告、広報誌」が最も高くなっている。

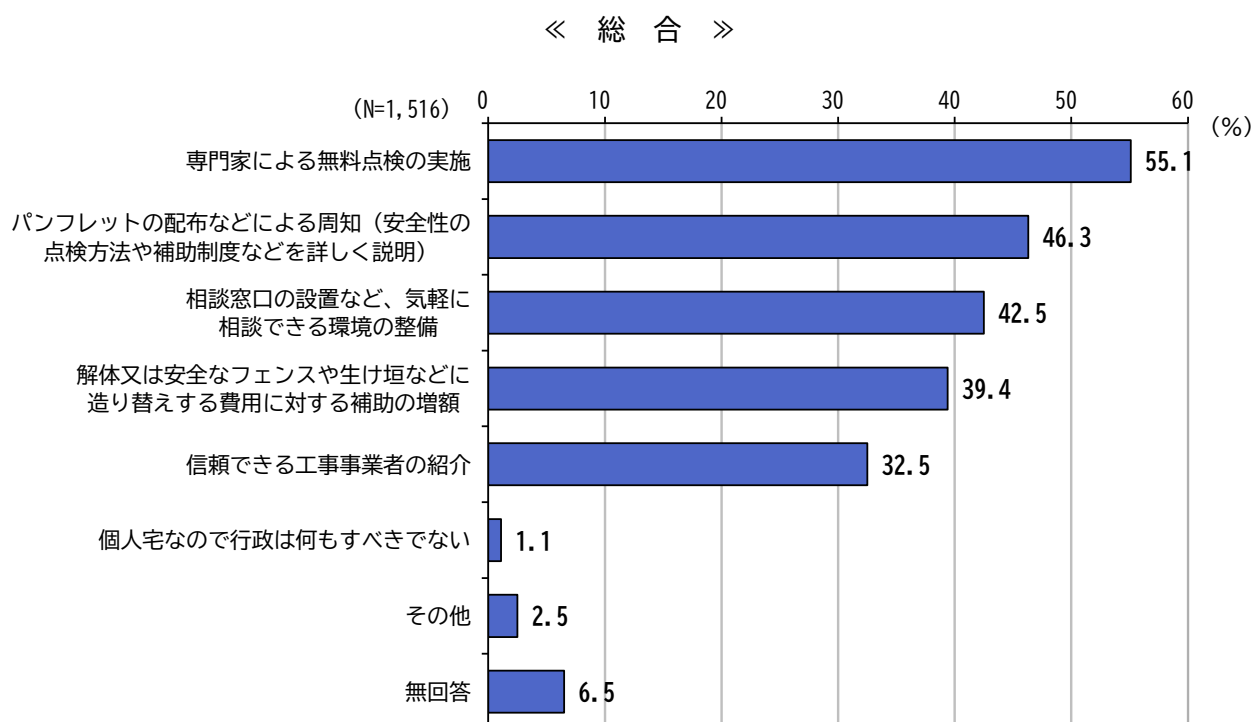
◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 新聞、 広告、 広報誌	(2) ポ ス タ ー、 パ ン フ レ ッ ツ	(3) テ レ ビ、 ラ ジ オ	(4) 市 村 役 場、 工 務 店、 設 計 事 務 所 等 の 職 員 か ら 聞 い て	(5) 知 人、 親 族 か ら 聞 い て	(6) イ ベ ン ト、 講 演 会	(7) そ の 他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝										
			1 位	2 位						
今回調査(R6)		411	33.8	28.5	24.8	23.1	18.5	3.2	2.4	5.6
前回調査(R3)		319	30.4	30.1	16.0	31.7	21.3	4.7	3.8	0.9
性 別	男性	198	34.3	27.8	28.3	29.3	13.1	2.5	2.5	6.6
	女性	206	33.0	28.6	21.8	17.5	23.8	3.9	2.4	4.4
	回答しない	4	50.0	50.0	-	25.0	25.0	-	-	-
年 代 別	10歳代・20歳代	17	23.5	23.5	29.4	23.5	5.9	-	5.9	-
	30歳代	35	14.3	40.0	17.1	14.3	22.9	2.9	2.9	8.6
	40歳代	48	29.2	29.2	27.1	20.8	18.8	2.1	2.1	4.2
	50歳代	75	36.0	33.3	28.0	20.0	18.7	6.7	2.7	1.3
	60歳代	94	36.2	28.7	18.1	25.5	19.1	-	2.1	6.4
	70歳以上	140	38.6	22.9	27.9	26.4	18.6	4.3	2.1	7.9
	農林業	21	42.9	33.3	38.1	14.3	4.8	-	-	4.8
職 業 別	漁業	3	-	33.3	33.3	33.3	-	-	-	33.3
	商工サービス業自営	22	27.3	13.6	22.7	40.9	22.7	9.1	-	-
	会社員(役員を含む)、公務員	144	32.6	31.3	23.6	22.9	18.1	2.8	4.9	4.9
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	7	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	-	-	14.3
	主婦・主夫	38	42.1	28.9	31.6	10.5	21.1	5.3	-	7.9
	パート、アルバイト	40	32.5	35.0	22.5	20.0	22.5	-	2.5	2.5
	学生	2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-
	無職(すでに退職を含む)	104	36.5	26.0	20.2	24.0	23.1	2.9	1.9	7.7
	その他	26	26.9	26.9	26.9	34.6	3.8	7.7	-	3.8

問 36 倒壊防止を促進するために県や市町村は何をすべきか

問36 今後、ブロック塀や石塀、門柱などの倒壊防止を促進するために、県や市町村は、何をすべきだと思いますか。（当てはまるものすべてに○）

ブロック塀や石塀、門柱などの倒壊防止を促進するために県や市町村が行うべきことは、「専門家による無料点検の実施」が55.1%と最も高く、次いで「パンフレットの配布などによる周知（安全性の点検方法や補助制度などを詳しく説明）」46.3%、「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」42.5%と続いている。



【前回比較】

「パンフレットの配布などによる周知（安全性の点検方法や補助制度などを詳しく説明）」は、令和6年度46.3%、令和3年度54.0%と7.7ポイント減少している。

【性別】

「専門家による無料点検の実施」は、男性50.4%、女性59.1%と女性の方が8.7ポイント高く、「信頼できる工事事業者の紹介」は男性29.5%、女性35.1%と女性の方が5.6ポイント高い。

【年代別】

10歳代・20歳代、30歳代、40歳代では「パンフレットの配布などによる周知（安全性の点検方法や補助制度などを詳しく説明）」が最も高く、50歳代、60歳代、70歳以上では「専門家による無料点検の実施」が最も高くなっている。

【職業別】

商工サービス業自営、自由業、主婦・主夫、パート・アルバイト、学生、無職、その他では「専門家による無料点検の実施」の割合が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 専門家による無料点検の実施	(2) 説明や補助制度などに関する点検方法の周知	(3) 相談窓口の設置など、整備	(4) 費用対効果に対する補助額の増減	(5) 信頼できる工事事業者の紹介	(6) 個人宅などでの行政は何か	(7) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位						
今回調査(R6)		1,516	55.1	46.3	42.5	39.4	32.5	1.1	2.5	6.5
前回調査(R3)		1,779	57.8	54.0	40.2	39.0	31.6	1.9	2.6	3.5
性別	男性	627	50.4	45.8	44.7	38.9	29.5	1.9	1.6	5.6
	女性	860	59.1	47.3	40.9	40.1	35.1	0.5	3.1	6.9
	回答しない	18	27.8	33.3	50.0	33.3	33.3	5.6	5.6	5.6
年代別	10歳代・20歳代	104	50.0	51.9	40.4	44.2	44.2	2.9	1.9	1.9
	30歳代	151	52.3	53.6	47.0	45.0	36.4	-	4.6	0.7
	40歳代	216	51.9	54.6	42.6	44.0	38.9	1.9	2.8	5.1
	50歳代	278	57.2	47.1	45.0	44.2	36.3	2.5	1.4	4.0
	60歳代	331	58.9	49.5	45.3	40.8	35.3	0.3	2.4	5.4
	70歳以上	426	54.5	35.4	37.8	30.0	20.9	0.5	2.6	12.4
職業別	農林業	63	39.7	42.9	33.3	34.9	20.6	1.6	-	9.5
	漁業	3	33.3	100.0	100.0	33.3	33.3	-	-	-
	商工サービス業自営	66	54.5	42.4	48.5	39.4	33.3	3.0	-	6.1
	会社員(役員を含む)、公務員	537	52.1	54.2	41.0	43.9	37.1	0.9	2.4	2.6
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	56.7	53.3	53.3	33.3	36.7	3.3	3.3	6.7
	主婦・主夫	162	63.0	38.9	40.1	35.2	29.6	0.6	1.9	7.4
	パート、アルバイト	189	57.7	46.0	46.0	42.9	37.6	-	3.7	7.4
	学生	21	47.6	47.6	33.3	42.9	38.1	14.3	-	-
	無職(すでに退職を含む)	332	55.7	39.2	40.4	31.9	26.2	0.3	2.4	11.1
	その他	94	62.8	42.6	53.2	44.7	31.9	2.1	5.3	7.4

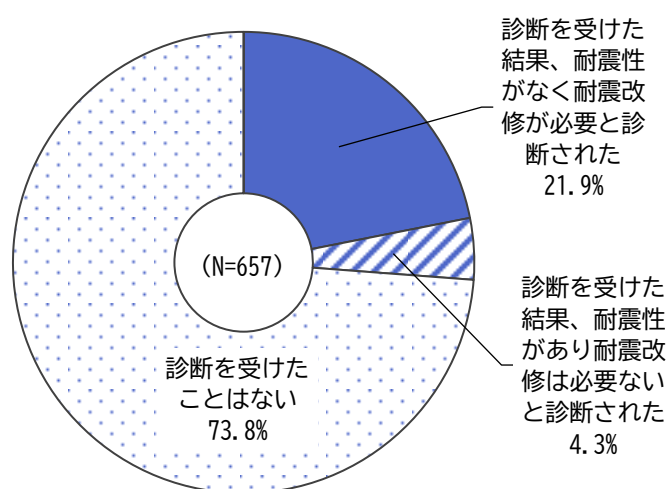
問 37 専門家による耐震診断を受けたことがあるか

問37 「昭和56年5月以前の木造住宅」にお住まいの方におたずねします。(増改築されている場合は、主な部分の建築年としてください。)

専門家による耐震診断(地震の揺れに対する建物の強さの診断)を受けたことがありますか。また、その結果はどうでしたか。(ひとつだけ○)

専門家による耐震診断を受けたことがあるかどうかは、「診断を受けたことはない」が73.8%と最も高く、次いで「診断を受けた結果、耐震性がなく耐震改修が必要と診断された」21.9%、「診断を受けた結果、耐震性があり耐震改修は必要ないと診断された」4.3%となっている。

《 総 合 》



【前回比較】

令和6年度と令和3年度は、同じ傾向で、大きな差も見られなかった。

【性別】

「診断を受けた結果、耐震性がなく耐震改修が必要と診断された」は、男性20.9%、女性22.6%と、女性の方が1.7ポイント高く、「診断を受けたことはない」は男性75.2%、女性72.8%と男性の方が2.4ポイント高くなっている。

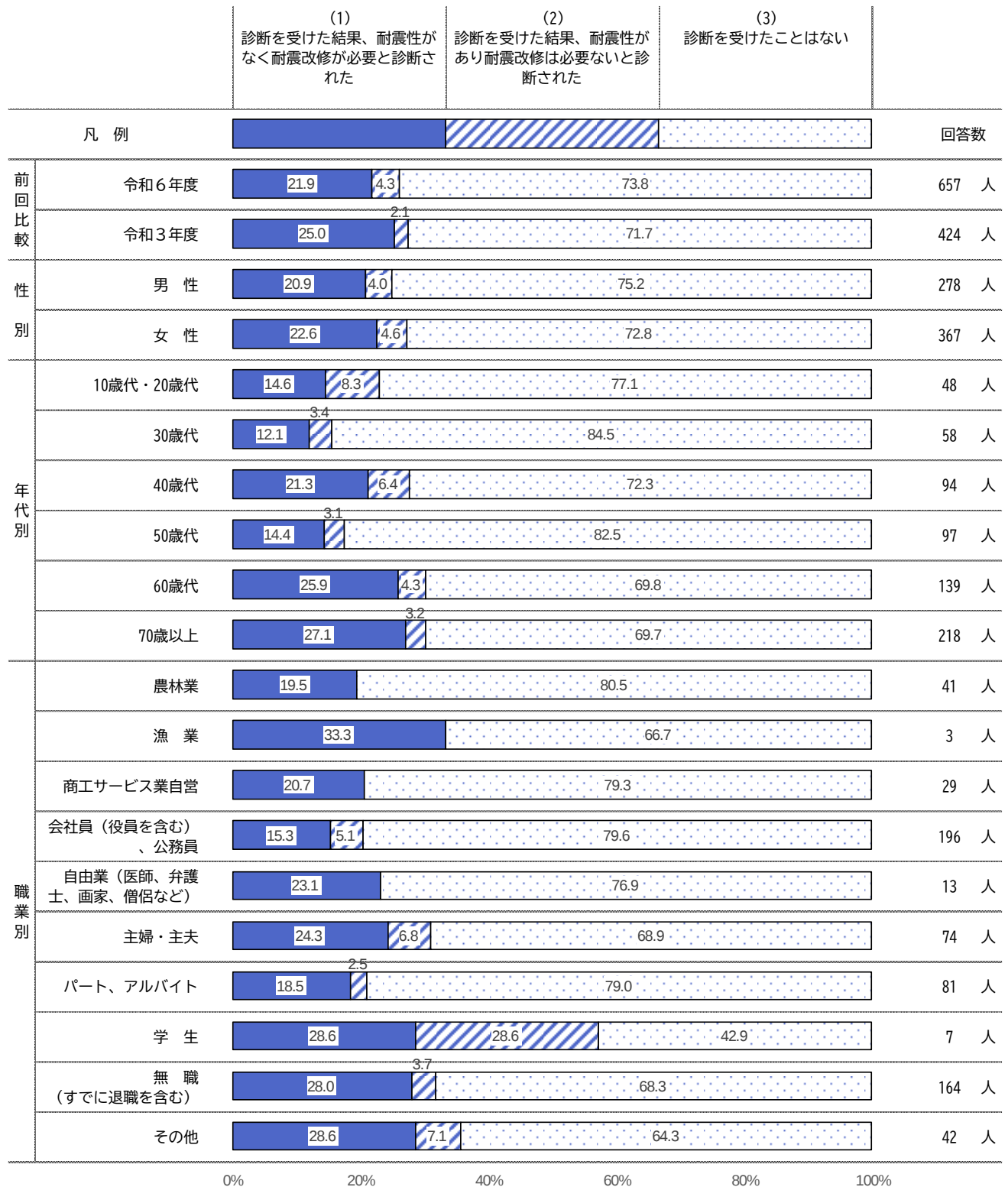
【年代別】

すべての年代で「診断を受けたことはない」が最も高く、30歳代、50歳代では80%を超えている。

【職業別】

すべての職業で「診断を受けたことはない」が最も高く、農林業では80%を超えている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



問 38 耐震診断を受けていない理由

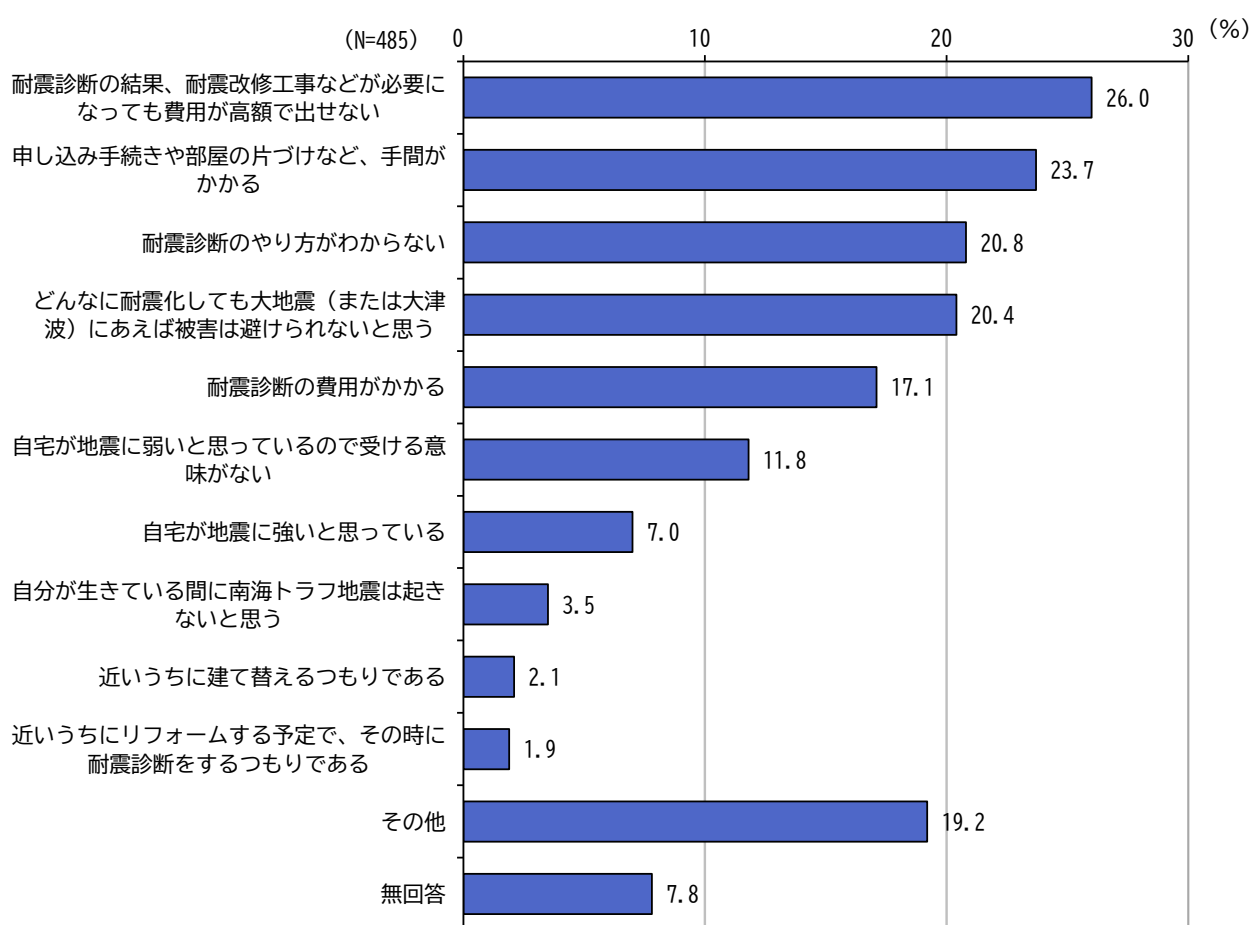
問38 問37で「3. 診断を受けたことはない」と回答した人におたずねします。

耐震診断は補助制度を利用すると、3千円以下で行えますが、住宅の耐震診断を受けていない理由を教えてください。（当てはまるものすべてに○）

※多くの市町村では、耐震診断は無料で行えます。

耐震診断を受けていない理由は、「耐震診断の結果、耐震改修工事などが必要になっても費用が高額で出せない」が26.0%と最も高く、次いで「申し込み手続きや部屋の片づけなど、手間がかかる」23.7%、「耐震診断のやり方がわからない」20.8%、「どんなに耐震化しても大地震（または大津波）に合えば被害は避けられないと思う」20.4%と続いている。

《 総 合 》



【前回比較】

令和6年度、令和3年度ともに「耐震診断の結果、耐震改修工事などが必要になっても費用が高額で出せない」が最も高いが、令和6年度は令和3年度より5.9ポイント減少している。令和3年度では、2番目が「耐震診断の費用がかかる」となっているが、令和6年度では、「申し込み手続きや部屋の片づけなど、手間がかかる」となっている。

【性別】

男女とも「耐震診断の結果、耐震改修工事などが必要になっても費用が高額で出せない」の割合が最も高く、男性では「申し込み手続きや部屋の片づけなど、手間がかかる」、女性では「耐震診断のやり方がわからない」が続いている。

【年代別】

10歳代・20歳代では「耐震診断のやり方がわからない」が最も高く、30歳代、40歳代では「申し込み手続きや部屋の片づけなど、手間がかかる」、50歳代～70歳以上では「耐震診断の結果、耐震改修工事などが必要になっても費用が高額で出せない」が最も高くなっている。

【職業別】

農林業、自由業、無職は「耐震診断の結果、耐震改修工事などが必要になっても費用が高額で出せない」が最も高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

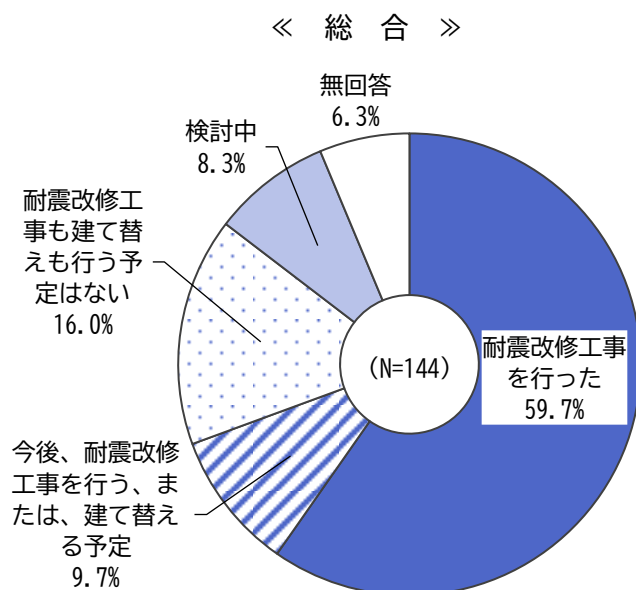
		調査数	(1) 出せな い必要 診断に な結果 でも耐 費用改 修工事 でな	(2) ど申 し込 み手 間か か手 続か る部 屋の 片づ けな	(3) 耐震 診断 のや り方 がわ から ない	(4) らた ど れは ん な に 思 うに 化 あ え て ば 大 害 地 震 避 け ま	(5) 耐震 診断 の費 用が かか る	(6) で自 宅が 地震 に弱 いと思 って いる の	(7) 自宅 が地震 に強 いと思 って いる	(8) 地震 が起 きて いる 間 に南海 トラフ	(9) る近 いう ちに 建て 替える つもり であ	(10) りて 近いう ちの 時に リフォーム する 予定 も	(11) その他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位										
今回調査(R6)		485	26.0	23.7	20.8	20.4	17.1	11.8	7.0	3.5	2.1	1.9	19.2	7.8
前回調査(R3)		304	31.9	20.7	22.4	22.4	28.6	18.8	3.3	7.9	4.6	3.0	16.4	3.0
性別	男性	209	27.8	24.4	17.7	23.4	19.1	12.0	7.2	5.3	3.3	2.9	16.7	6.2
	女性	267	25.5	22.8	23.2	17.6	15.4	12.0	6.7	2.2	1.1	1.1	20.6	9.4
回答しない		6	-	33.3	16.7	33.3	16.7	-	-	-	-	-	33.3	-
年代別	10歳代・20歳代	37	8.1	27.0	35.1	24.3	18.9	10.8	8.1	-	2.7	2.7	10.8	8.1
	30歳代	49	12.2	26.5	20.4	16.3	18.4	6.1	6.1	2.0	2.0	-	16.3	16.3
	40歳代	68	16.2	23.5	22.1	10.3	16.2	7.4	7.4	1.5	5.9	2.9	19.1	7.4
	50歳代	80	28.8	27.5	25.0	17.5	15.0	11.3	3.8	-	2.5	2.5	26.3	6.3
	60歳代	97	37.1	19.6	13.4	23.7	12.4	12.4	7.2	5.2	-	4.1	21.6	7.2
	70歳以上	152	30.9	23.0	19.7	25.0	20.4	15.8	7.9	6.6	1.3	-	16.4	6.6
職業別	農林業	33	42.4	18.2	12.1	21.2	12.1	12.1	6.1	3.0	3.0	3.0	15.2	3.0
	漁業	2	50.0	50.0	50.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	23	17.4	17.4	4.3	34.8	8.7	17.4	8.7	17.4	-	8.7	17.4	8.7
	会社員(役員を含む)、公務員	156	19.9	26.3	22.4	13.5	15.4	10.3	4.5	1.9	5.1	2.6	20.5	10.3
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	10	30.0	20.0	-	20.0	20.0	10.0	-	-	10.0	-	20.0	20.0
	主婦・主夫	51	23.5	27.5	33.3	17.6	11.8	11.8	3.9	3.9	-	2.0	15.7	7.8
	パート、アルバイト	64	25.0	20.3	17.2	28.1	15.6	15.6	4.7	1.6	-	-	21.9	3.1
	学生	3	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-
	無職(すでに退職を含む)	112	34.8	21.4	17.0	20.5	20.5	13.4	11.6	4.5	-	-	17.9	9.8
	その他	27	18.5	33.3	44.4	37.0	33.3	-	14.8	3.7	-	3.7	22.2	-

問 39 耐震改修工事を実施したか、または建て替えを予定しているか

問39 問37で「1. 診断を受けた結果、耐震性がなく耐震改修が必要と診断された」と回答した人におたずねします。

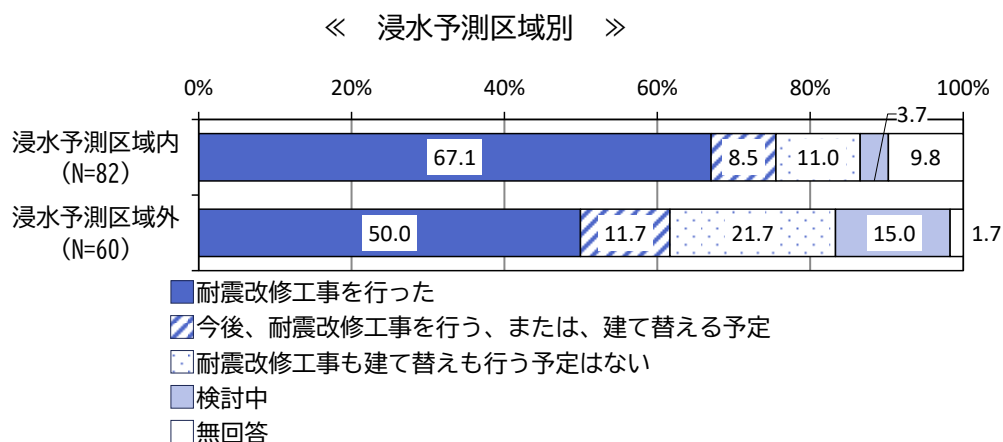
耐震改修工事を行いましたか。また、建て替えなどを予定していますか。(ひとつだけ○)

耐震改修が必要と診断された人の対応は、「耐震改修工事を行った」が59.7%と最も高く、次いで「耐震改修工事も建て替えも行う予定はない」16.0%、「今後、耐震改修工事を行う、または、建て替える予定」9.7%と続いている。



【浸水予測区域別】

「耐震改修工事を行った」は、浸水予想区域内では67.1%と、浸水予想区域外の50.0%より17.1ポイント高くなっている。



【前回比較】

「耐震改修工事を行った」は、令和6年度は59.7%と令和3年度の65.1%より5.4ポイント低くなっている。

【性別】

「耐震改修工事を行った」は、男性は58.6%、女性は61.4%と女性の方が2.8ポイント高い。

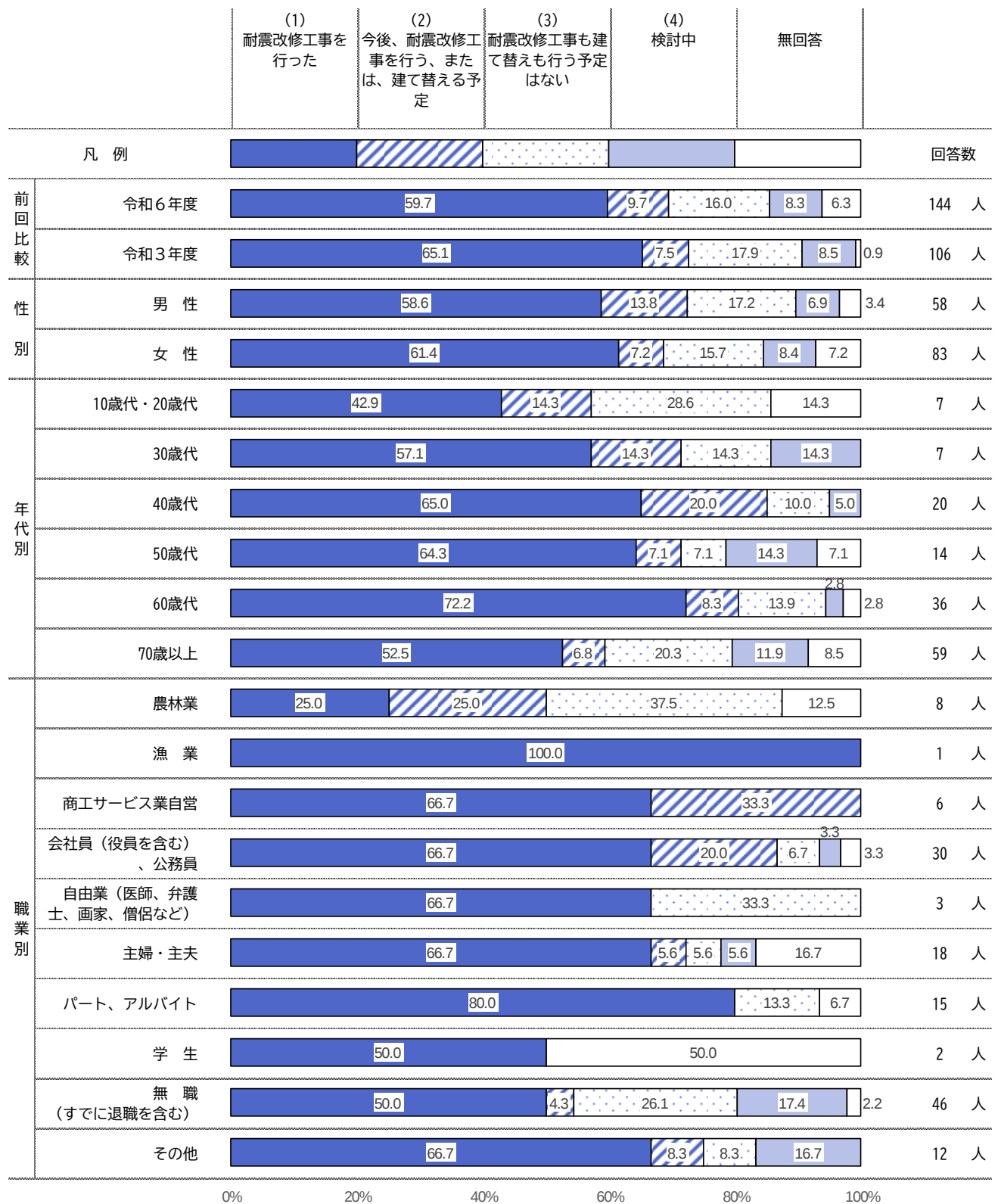
【年代別】

すべての年代で「耐震改修工事を行った」が最も高く、中でも60歳代が72.2%と高くなっている。

【職業別】

農林業を除くすべての職業で「耐震改修工事を行った」の割合が最も高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



問 40 耐震改修工事をしない理由

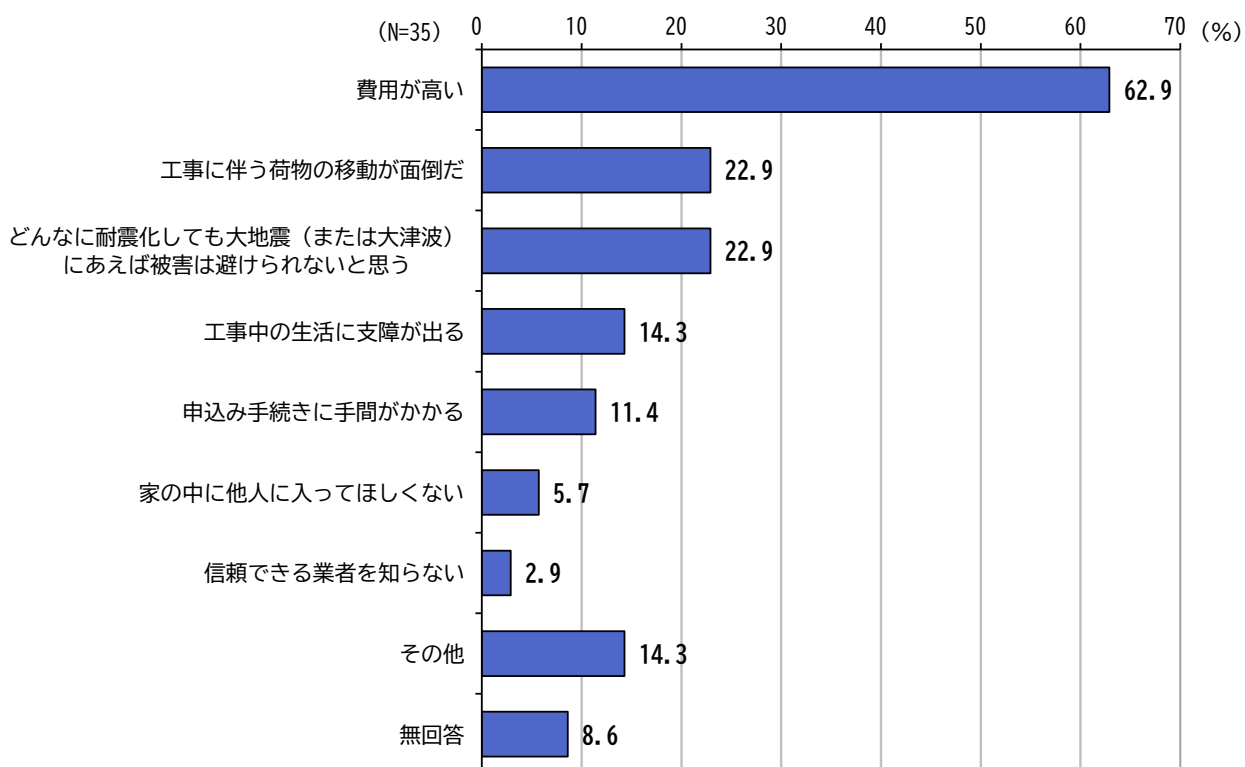
問40 問39で「3. 耐震改修工事も建て替えも行う予定はない」、「4. 検討中」と回答した人におたずねします。

耐震改修工事などをしていないのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべてに○)

耐震改修工事をしない理由は、「費用が高い」が62.9%と最も高く、次いで「工事に伴う荷物の移動が面倒だ」、「どんなに耐震化しても大地震（または大津波）にあえば被害は避けられないと思う」が同率22.9%と続いている。

「費用が高い」は、2番目に高い「工事に伴う荷物の移動が面倒だ」、「どんなに耐震化しても大地震（または大津波）にあえば被害は避けられないと思う」と比べて40.0ポイント高い。

《 総 合 》



【前回比較】

「費用が高い」の割合は、令和3年度の75.0%より12.1ポイント減少している。

【性別】

男女とも「費用が高い」の割合が最も高く、男性では「工事に伴う荷物の移動が面倒だ」、女性では「どんなに耐震化しても大地震（または大津波）にあえば被害は避けられないと思う」が続いている。

【年代別】

ほとんどの年代で「費用が高い」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

ほとんどの職業で「費用が高い」の割合が最も高くなっている。

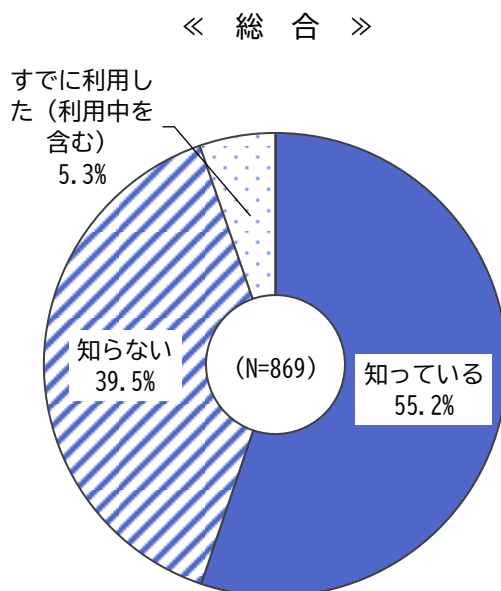
◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 費用が高い	(2) 工事に伴う荷物の移動が面倒だ	(3) どんなに耐震化しても大地震（または大津波）にあえば被害は避けられないと思う	(4) 工事中の生活に支障が出る	(5) 申込み手続きに手間がかかる	(6) 家の中に他人に入ってほしくない	(7) 信頼できる業者を知らない	(8) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位							
今回調査(R6)		35	62.9	22.9	22.9	14.3	11.4	5.7	2.9	14.3	8.6
前回調査(R3)		28	75.0	28.6	25.0	35.7	21.4	17.9	17.9	21.4	3.6
性別	男性	14	57.1	21.4	14.3	14.3	14.3	7.1	7.1	-	21.4
	女性	20	65.0	25.0	30.0	15.0	10.0	5.0	-	25.0	-
回答しない		1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	10歳代・20歳代	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-
	30歳代	2	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-
	40歳代	3	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3	33.3
	50歳代	3	100.0	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-
	60歳代	6	66.7	-	-	-	-	-	-	16.7	16.7
	70歳以上	19	57.9	36.8	36.8	21.1	10.5	5.3	5.3	15.8	5.3
職業別	農林業	3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	33.3
	漁業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	会社員(役員を含む)、公務員	3	66.7	-	-	-	-	-	-	-	33.3
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	1	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	主婦・主夫	2	100.0	-	50.0	-	-	-	-	-	-
	パート、アルバイト	2	50.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-
	学生	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無職(すでに退職を含む)	20	55.0	40.0	30.0	25.0	20.0	10.0	5.0	15.0	5.0
	その他	3	66.7	-	-	-	-	-	-	33.3	-

問 41 耐震診断、耐震改修設計、耐震改修工事に関する補助制度を知っているか

問41 県や市町村が昭和56年5月31日以前に建築された住宅の耐震診断や耐震改修設計、耐震改修工事にかかった費用の一部を補助していますがご存知ですか。(ひとつだけ○)

補助制度の認知状況は、「知っている」が55.2%と最も高く、次いで「知らない」39.5%、「すでに利用した（利用中を含む）」5.3%となっている。



【前回比較】

令和6年度と令和3年度は、同じ傾向で、大きな差は見られない。

【性別】

男女とも、同じ傾向で、性別でも大きな差は見られない。

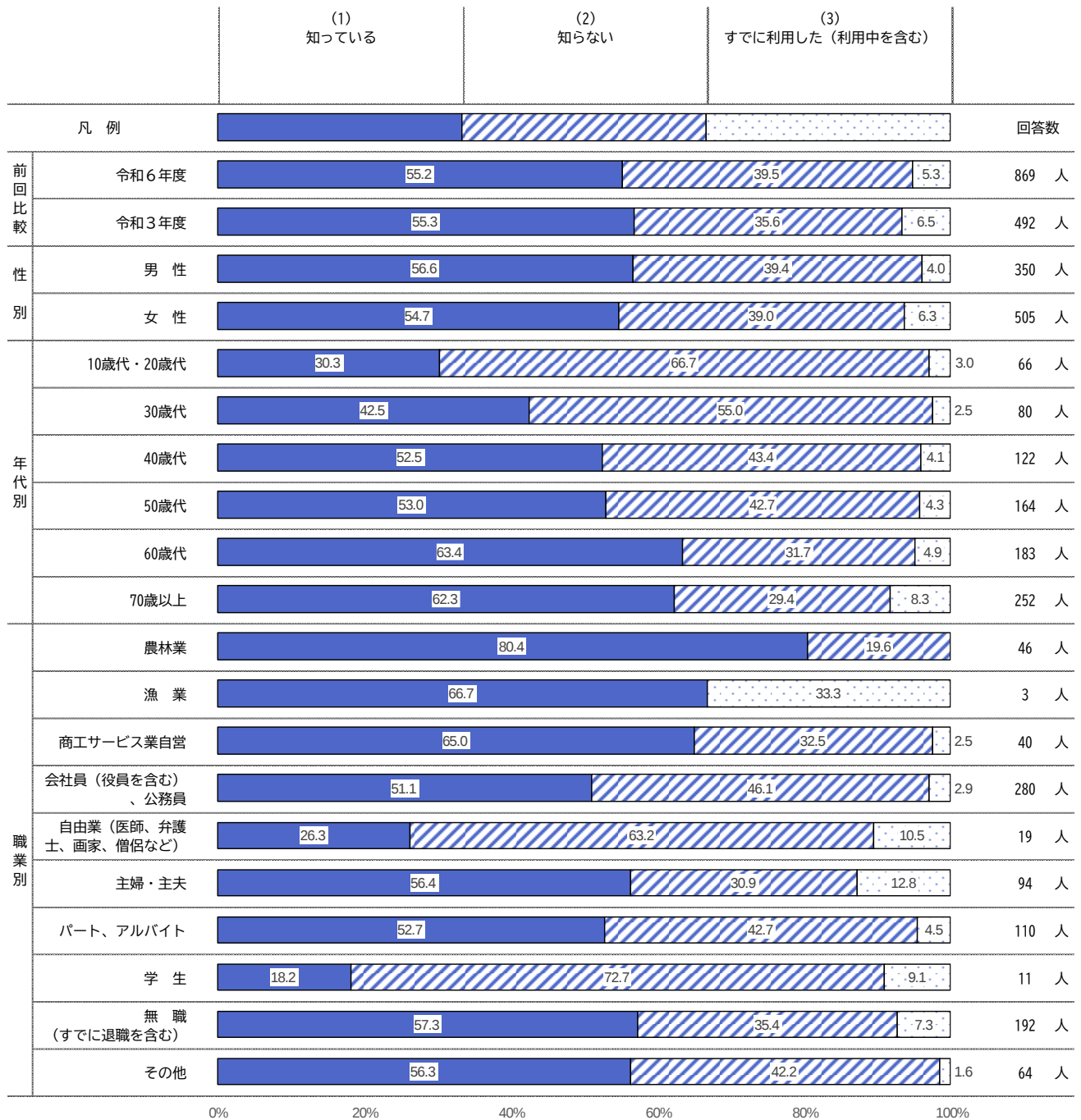
【年代別】

「知っている」の割合は、年齢が高いほど、割合も高くなっている。

【職業別】

自由業、学生を除くすべての職業で「知っている」の割合が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶



問41×問38

「補助制度の認知度」と「耐震診断を受けていない理由」とのクロス分析

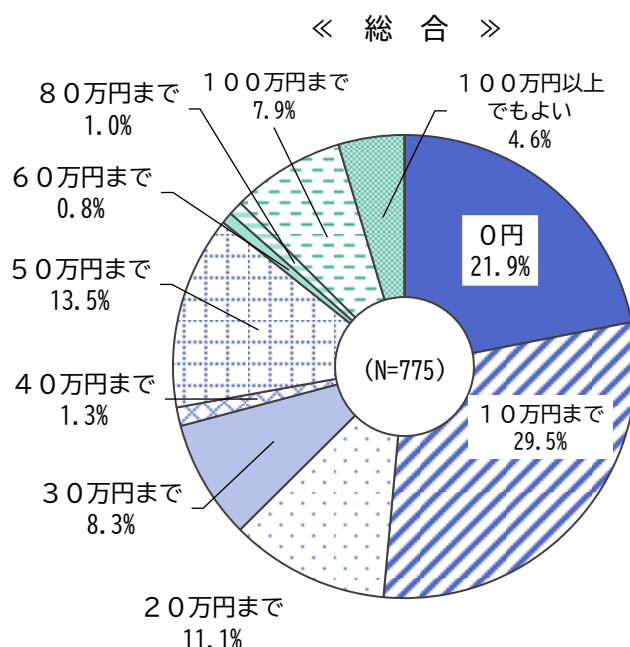
「耐震診断を受けていない理由」として、「耐震診断の費用がかかる」と回答した人のうち、補助制度を「知らない」と回答した方は54.2%となっている。

【表の見方】 比率(%) 網掛け＝		調査数	(1) 知 つ て い る	(2) 知 ら な い	(3) す で に 利 用 し た （ 利 用 中 を 含 む ）	無 回 答
1 位 2 位						
問 3 8	自分が生きている間に南海トラフ地震は起きないと思う	17	58.8	35.3	-	5.9
	自宅が地震に強いと思っている	34	52.9	35.3	-	11.8
	自宅が地震に弱いと思っているので受ける意味がない	57	50.9	38.6	1.8	8.8
	申し込み手続きや部屋の片づけなど、手間がかかる	115	39.1	52.2	-	8.7
	耐震診断の費用がかかる	83	38.6	54.2	-	7.2
	耐震診断のやり方がわからない	101	23.8	71.3	-	5.0
	近いうちにリフォームする予定で、その時に耐震診断をするつもりである	9	44.4	33.3	11.1	11.1
	近いうちに建て替えるつもりである	10	20.0	80.0	-	-
	耐震診断の結果、耐震改修工事などが必要になっても費用が高額で出せない	126	50.8	43.7	-	5.6
	どんなに耐震化しても大地震(または大津波)にあえば被害は避けられないと思う	99	53.5	40.4	1.0	5.1
	その他	93	45.2	40.9	-	14.0
	無回答	38	23.7	21.1	-	55.3

問 42 耐震改修工事や設計の自己負担許容額

問42 耐震改修工事と耐震改修設計について、自己負担が合わせてどのくらいの金額までなら工事をしてもよいと思いますか。(ひとつだけ○)

耐震改修工事や設計の自己負担許容額は、「10万円まで」が29.5%と最も高く、次いで「0円」21.9%、「50万円まで」13.5%と続いている。



【前回比較】

令和6年度は令和3年度と比べ、「10万円まで」の割合が8.0ポイント増加している。

【性別】

男性は、女性に比べて「0円」が8.5ポイント、女性は、男性に比べて「10万円まで」が5.3ポイント高くなっている。

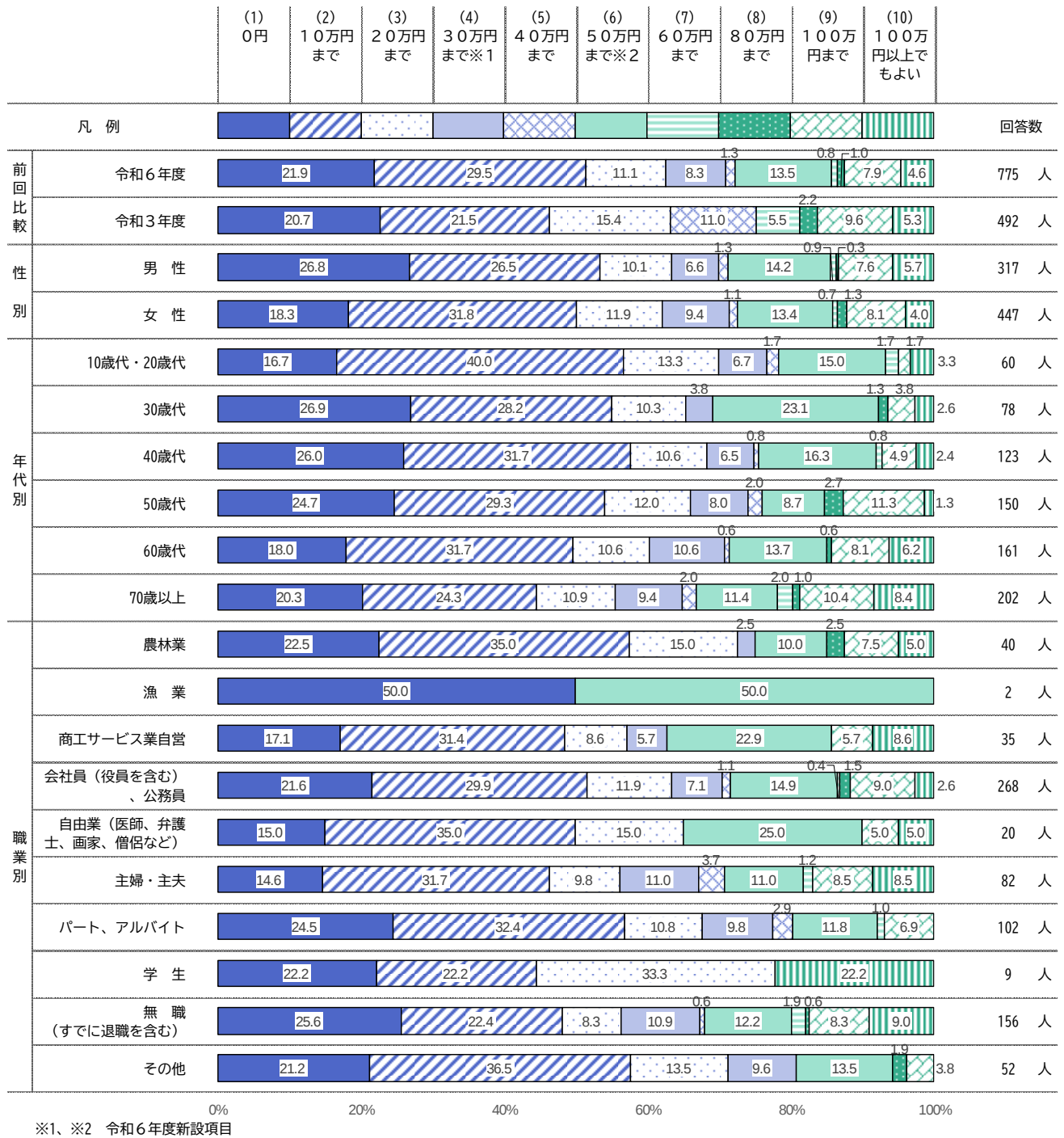
【年代別】

すべての年代で「10万円まで」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

漁業、学生、無職を除くすべての職業で「10万円まで」の割合が最も高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



問 43 耐震化を促進するために県が市町村と協力して行う施策で特に力を入れるべきものは何か

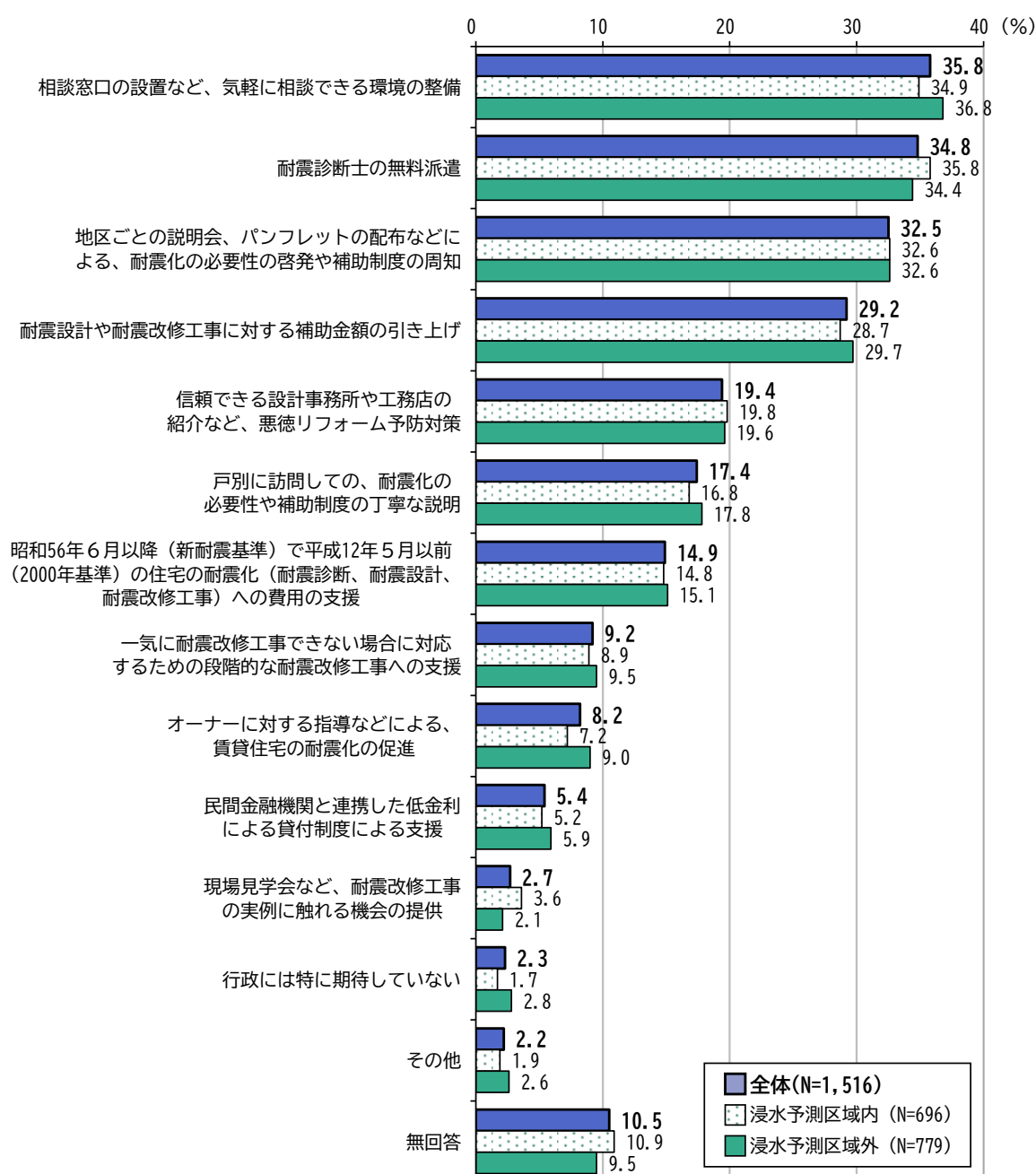
問43 今後、耐震化を促進するために、県が市町村等と協力して行う施策として、特に力を入れるべきものは何ですか。（3つまで○）

耐震化を促進するために県が市町村等と協力して行う施策は、「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」が35.8%と最も高く、次いで「耐震診断士の無料派遣」34.8%、「地区ごとの説明会、パンフレットの配布などによる、耐震化の必要性の啓発や補助制度の周知」32.5%と続いている。

【浸水予測区域別】

「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」は浸水予測区域内で34.9%、浸水予測区域外で36.8%と浸水予測区域外の方が1.9ポイント高くなっている。

＜ 総 合 ・ 浸水予測区域別 ＞



【前回比較】

「耐震診断士の無料派遣」は6.2ポイント、「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」は1.9ポイント減少している。

【性別】

男性では「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」が39.6%と最も高く、女性では「耐震診断士の無料派遣」が37.2%と最も高くなっている。

【年代別】

10歳代・20歳代、40歳代は「地区ごとの説明会、パンフレットの配布などによる、耐震化の必要性の啓発や補助制度の周知」が最も高く、30歳代、70歳以上は「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」が、50歳代、60歳代は「耐震診断士の無料派遣」が最も高くなっている。

【職業別】

農林業、漁業、商工サービス業自営、主婦・主夫、無職では「相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備」が最も高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)	(12)	(13)		
		調査数	相談窓口の設置など、気軽に相談できる環境の整備	耐震診断士の無料派遣	地区ごとの説明会、パンフレットの配布などによる、耐震化の必要性の啓発や補助制度の周知	耐震設計や耐震改修工事に対する補助金額の引き上げ	信頼できる設計事務所や工務店の紹介など、悪徳リフォーム予防対策	戸別に訪問しての、耐震化の必要性や補助制度の丁寧な説明	昭和56年6月以降（新耐震基準）で平成12年5月以前計、耐震改修工事への費用の支援	一気に耐震改修工事できない場合に対応するための段階的な耐震改修工事への支援	進オーナーに対する指導などによる、賃貸住宅の耐震化の促進	民間金融機関と連携した低金利による貸付制度による支援	現場見学会など、耐震改修工事の実例に触れる機会の提供	行政には特に期待していない	その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位												
今回調査(R6)		1,516	35.8	34.8	32.5	29.2	19.4	17.4	14.9	9.2	8.2	5.4	2.7	2.3	2.2	10.5
前回調査(R3)		1,779	37.7	41.0	36.1	32.3	19.9	21.9	22.5	13.7	5.5	8.4	3.4	3.9	1.6	2.3
性別	男性	627	39.6	32.1	31.7	30.5	15.2	19.8	14.8	8.5	7.3	5.3	1.4	3.2	2.6	9.9
	女性	860	32.8	37.2	33.4	28.4	22.4	16.0	15.1	9.8	9.2	5.6	3.7	1.4	1.9	10.8
回答しない		18	44.4	27.8	27.8	27.8	22.2	5.6	5.6	5.6	-	5.6	-	16.7	5.6	-
年代別	10歳代・20歳代	104	34.6	35.6	46.2	35.6	17.3	14.4	16.3	8.7	6.7	6.7	1.0	1.9	1.0	7.7
	30歳代	151	39.7	38.4	37.7	34.4	13.9	18.5	13.9	11.9	9.9	5.3	3.3	2.0	2.6	4.6
	40歳代	216	36.1	30.6	36.6	31.9	18.5	17.6	15.3	10.2	10.2	6.9	5.1	2.3	0.5	7.9
	50歳代	278	37.4	42.4	31.7	27.7	25.2	18.3	15.5	9.4	14.4	5.8	2.9	2.2	0.4	5.8
	60歳代	331	33.8	38.7	30.8	29.9	20.5	17.8	14.5	9.7	7.9	4.2	2.1	2.7	1.8	12.1
	70歳以上	426	35.0	28.2	27.5	25.1	17.8	16.9	14.8	7.3	3.5	5.2	2.1	2.3	4.7	15.5
職業別	農林業	63	34.9	33.3	25.4	34.9	17.5	15.9	12.7	7.9	4.8	9.5	1.6	1.6	7.9	7.9
	漁業	3	100.0	-	100.0	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	66	36.4	27.3	27.3	25.8	15.2	6.1	10.6	7.6	10.6	7.6	-	6.1	1.5	12.1
	会社員(役員を含む)、公務員	537	36.3	35.8	37.6	31.8	18.1	18.2	15.3	8.9	12.1	6.7	3.7	1.5	0.6	7.1
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	26.7	40.0	36.7	20.0	20.0	16.7	23.3	10.0	6.7	-	-	6.7	-	10.0
	主婦・主夫	162	42.6	37.0	30.9	23.5	24.7	16.7	14.8	10.5	3.7	5.6	2.5	-	3.1	9.9
	パート、アルバイト	189	34.4	38.1	29.1	36.0	19.0	14.3	15.9	10.6	10.1	3.7	3.2	1.6	1.1	13.8
	学生	21	23.8	42.9	42.9	28.6	19.0	23.8	19.0	-	-	14.3	-	9.5	-	9.5
	無職(すでに退職を含む)	332	34.6	32.2	28.3	25.0	21.4	17.5	13.9	8.1	4.8	3.3	2.1	3.6	3.3	14.2
	その他	94	30.9	38.3	30.9	27.7	17.0	27.7	16.0	13.8	6.4	4.3	3.2	3.2	5.3	9.6

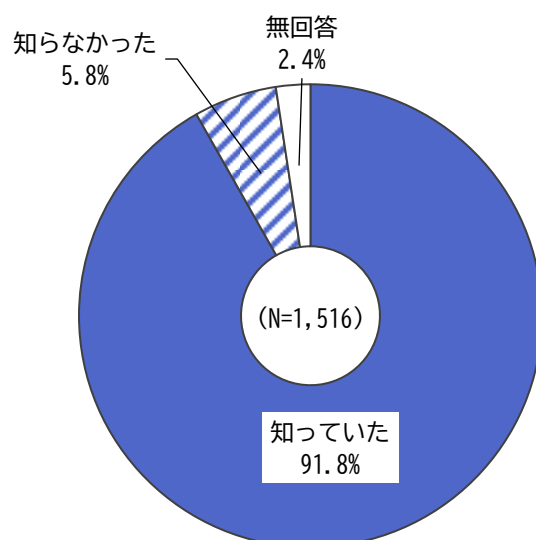
（５）地震火災対策について

問 44 地震時の火災が大規模火災に発展する可能性があることを知っていたか

問44 地震時の火災は、大規模火災に発展する可能性があることを知っていましたか。（ひとつだけ○）

地震時の火災が大規模火災に発展する可能性があることについては、91.8%が「知っていた」と回答し、「知らなかった」の回答は5.8%だった。

《 総 合 》



【前回比較】

令和6年度、令和3年度とも同じ傾向で、大きな差は見られなかった。

【性別】

「知らなかった」は女性が6.9%と、男性の4.3%より2.6ポイント高くなっている。

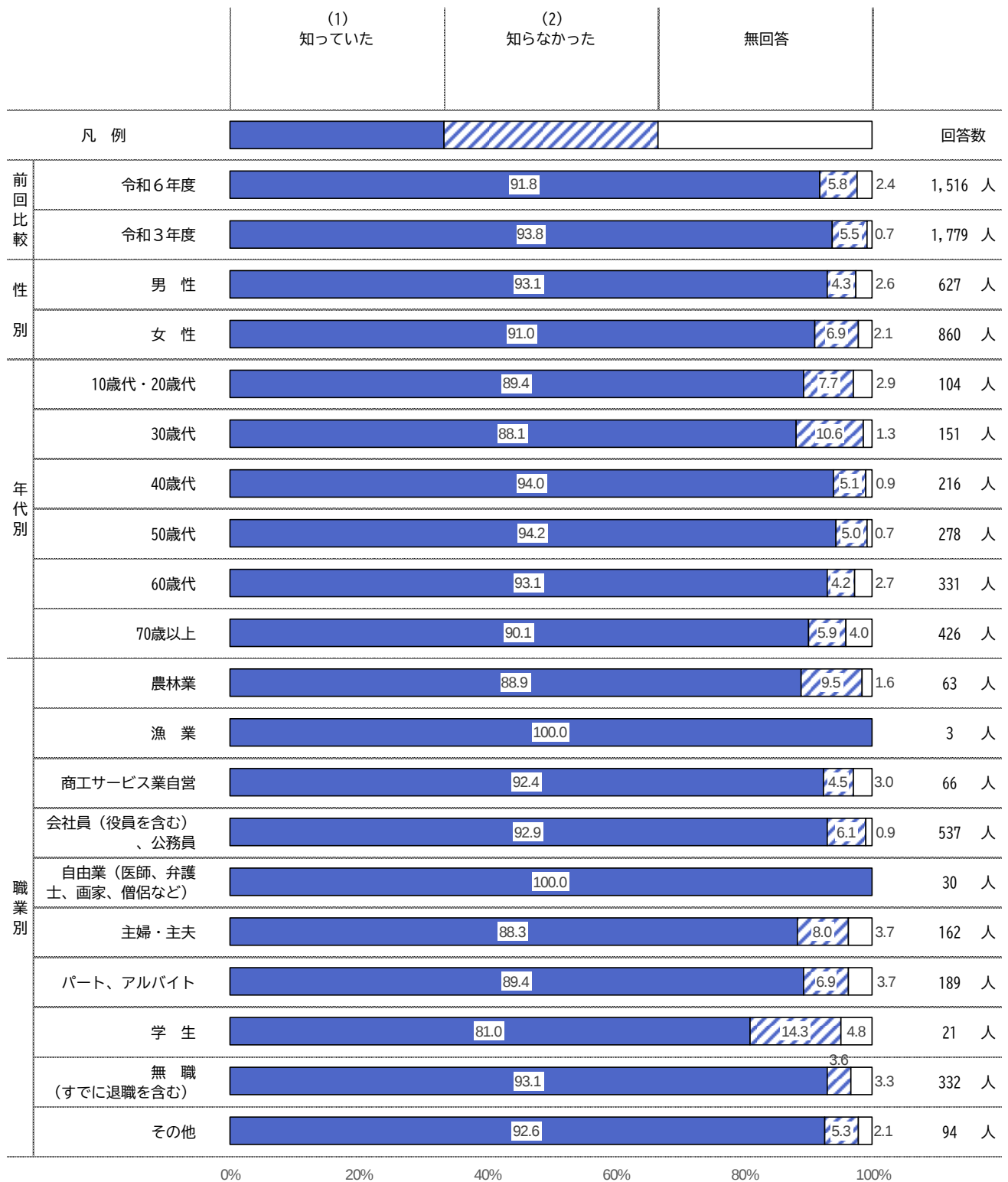
【年代別】

30歳代の「知らなかった」は10.6%と他の年代よりも高い割合となっている。

【職業別】

農林業、学生は、「知らなかった」の割合が9%を超えており、他の職業よりも高い割合となっている。

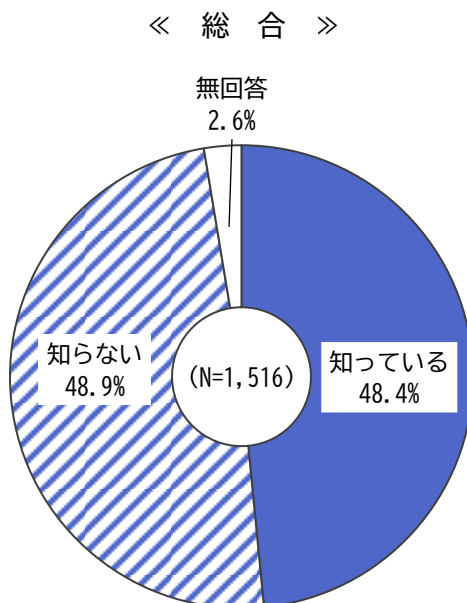
◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶



問 45 感震ブレーカーを知っているか

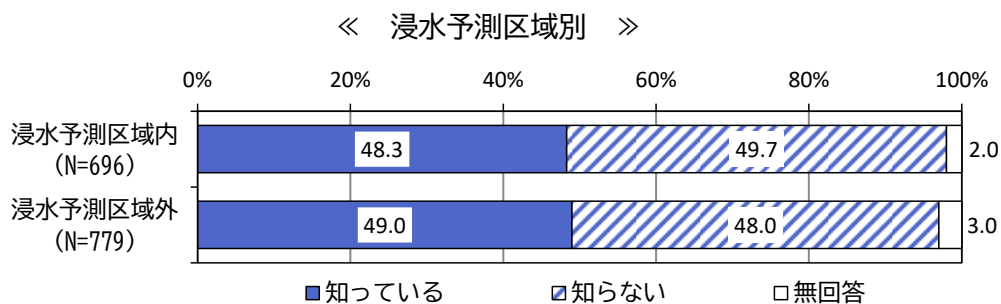
問45 電気器具類からの出火対策に有効といわれている「感震ブレーカー」を知っていますか。
(ひとつだけ○)

感震ブレーカーについては、「知っている」が48.4%、「知らない」が48.9%となっている。



【浸水予測区域別】

「知っている」は、浸水予想区域内では48.3%、浸水予想区域外49.0%となっており、浸水予測区域別は大きな差は見られない。



【前回比較】

令和6年度、令和3年度ともに同じ傾向で、大きな違いは見られない。

【性別】

「知っている」は、男性は56.6%、女性は42.6%と男性の方が14.0ポイント高くなっている。

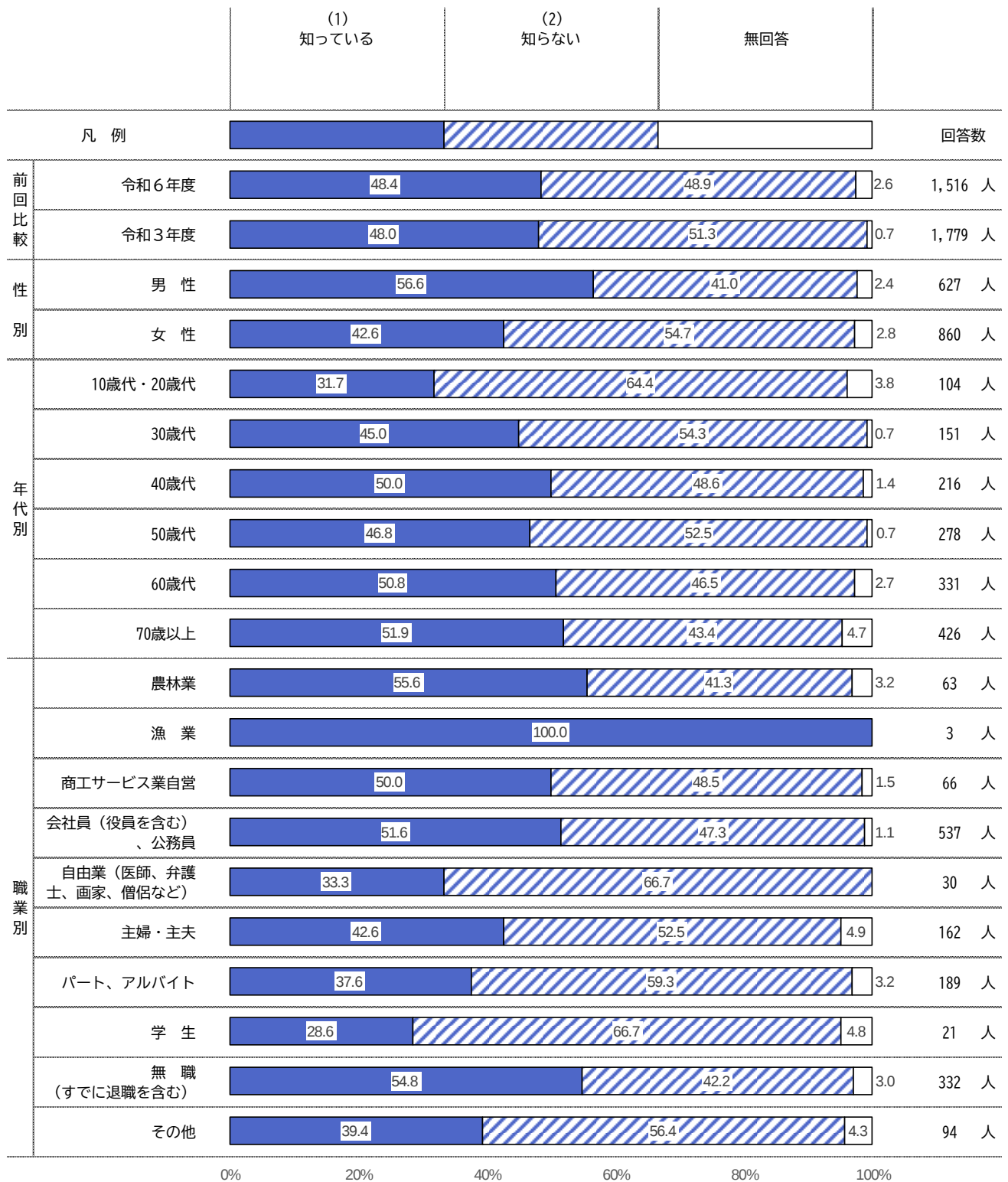
【年代別】

40歳代、60歳代、70歳以上では「知っている」の割合が50%以上であるが、10歳代・20歳代では31.7%と他の年代より低くなっている。

【職業別】

農林業、漁業、商工サービス業自営、会社員、公務員、無職では「知っている」の割合が50%以上である。

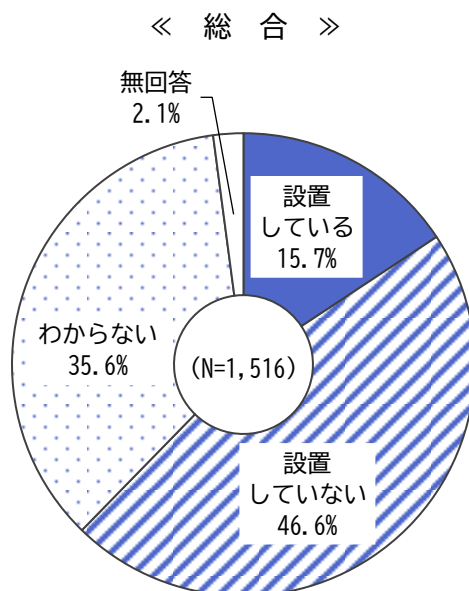
≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



問 46 感震ブレーカーを設置しているか

問46 ご自宅に感震ブレーカー（簡易タイプを含む）を設置していますか。（ひとつだけ○）

感震ブレーカーの設置については、「設置していない」が46.6%と最も高く、次いで「わからない」35.6%、「設置している」は15.7%となっている。



【前回比較】

令和6年度と令和3年度は、同じ傾向で、大きな差は見られない。

【性別】

男女とも「設置していない」の割合が最も高く、男性では49.8%、女性では44.7%となっている。

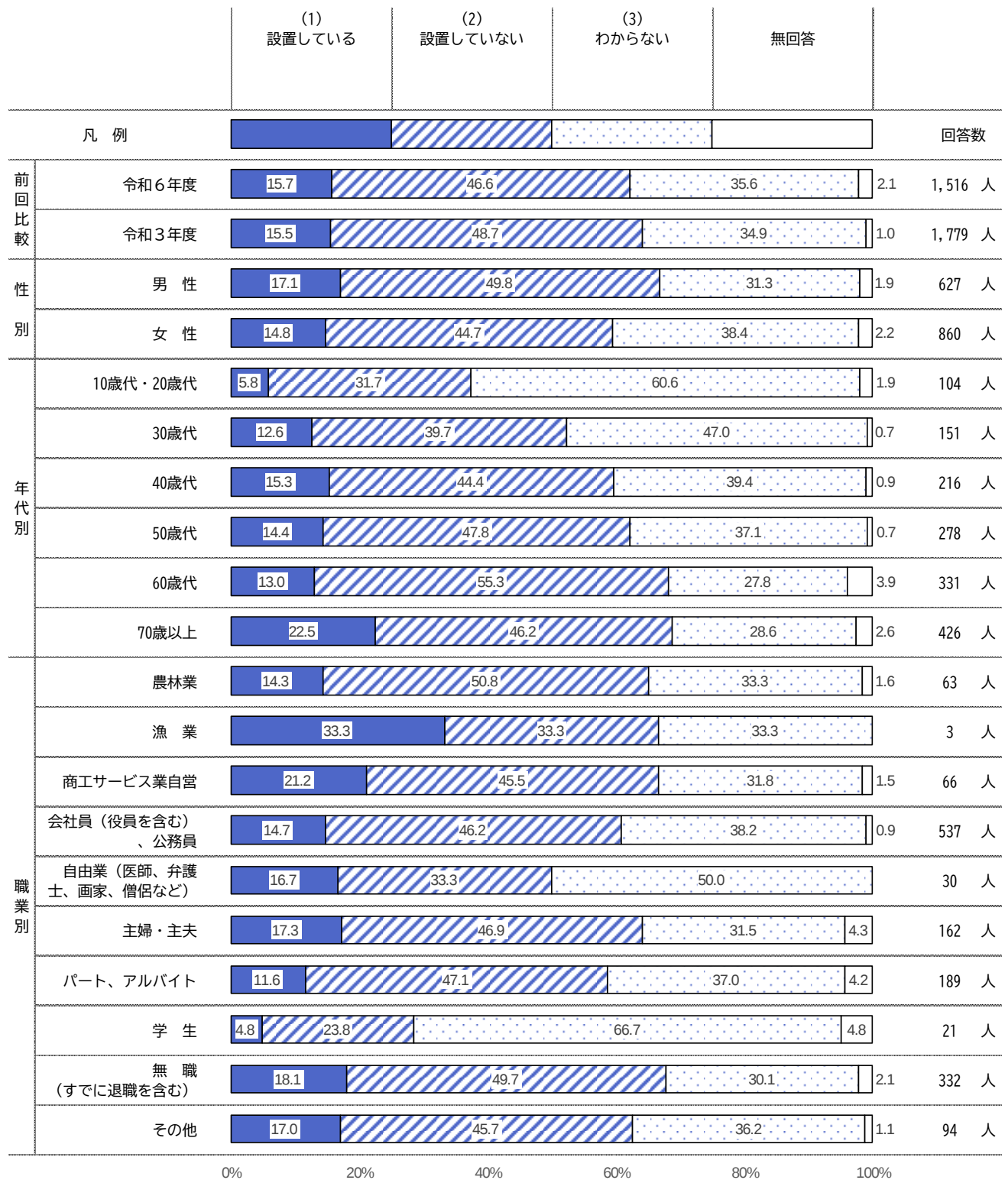
【年代別】

10歳代・20歳代、30歳代は「わからない」が、40歳代～70歳以上では「設置していない」が高くなっている。

【職業別】

自由業、学生は、「わからない」が、50%以上と最も高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

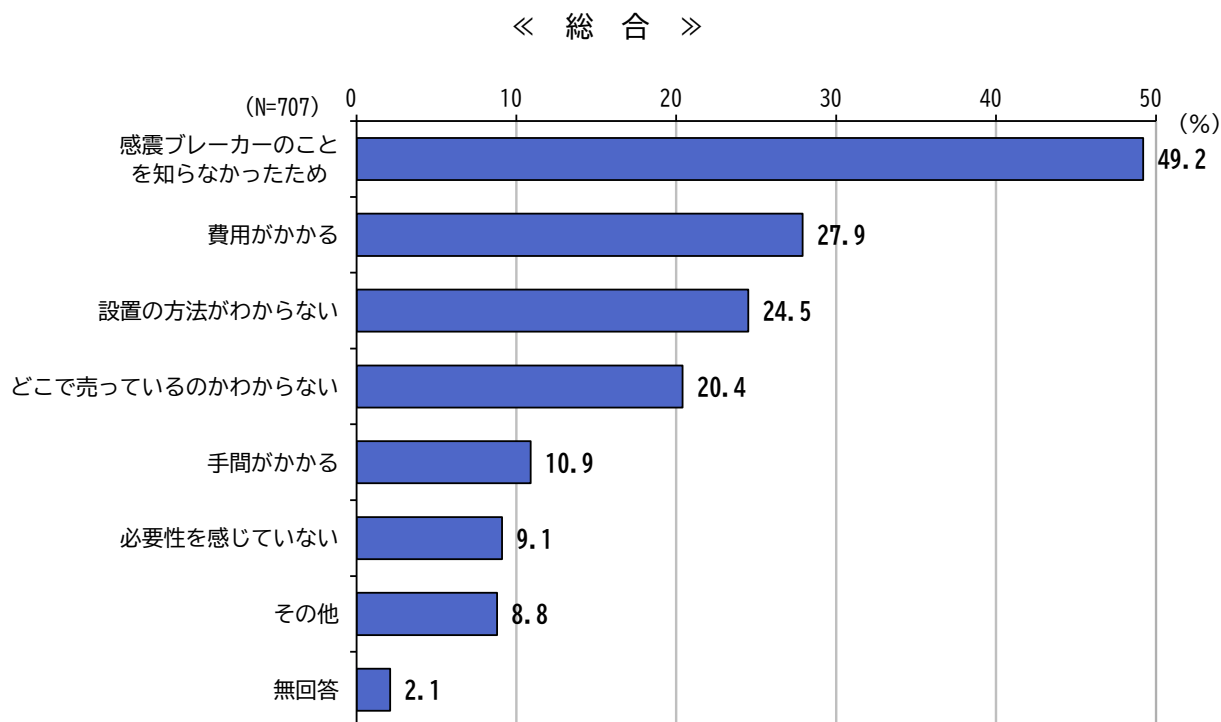


問 47 感震ブレーカーを設置していない理由

問47 問46で「2. 設置していない」と回答した人におたずねします。

感震ブレーカーを設置していないのは、どのような理由からですか。(当てはまるものすべてに○)

感震ブレーカーを設置していない理由は、「感震ブレーカーのことを知らなかったため」が49.2%と最も高く、次いで「費用がかかる」27.9%、「設置の方法がわからない」24.5%と続いている。



【前回比較】

令和6年度と令和3年度はほとんど同じ傾向で、大きな差は見られない。

【性別】

男女とも「感震ブレーカーのことを知らなかったため」の割合が最も高く、男性では「費用がかかる」、女性では「設置の方法がわからない」が続いている。

【年代別】

すべての年代で「感震ブレーカーのことを知らなかったため」の割合が最も高く、中でも60歳代は53.0%と高くなっている。

【職業別】

農林業、漁業を除くすべての職業で「感震ブレーカーのことを知らなかったため」が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

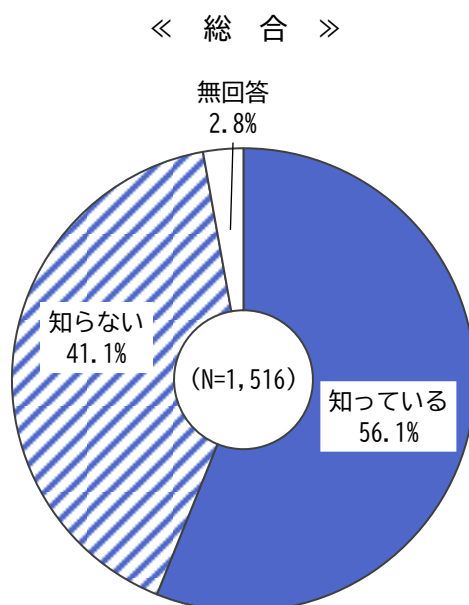
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝		調 査 数	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	無 回 答
			を感 震ブ レ－ カー のこ と た め	費 用 が か か る	い設 置の 方法 がわ から な	わど こで ない て い る の か	手 間 が か か る	必 要 性 を 感 じ て い ない	そ の 他	
今回調査(R6)		707	49.2	27.9	24.5	20.4	10.9	9.1	8.8	2.1
前回調査(R3)		866	48.5	25.5	24.1	20.3	9.5	11.0	6.0	1.2
性 別	男性	312	41.3	34.0	24.0	18.6	15.4	15.1	8.7	0.6
	女性	384	55.2	22.7	25.0	21.6	7.6	4.4	8.9	3.4
	回答しない	7	71.4	-	14.3	28.6	-	-	14.3	-
年 代 別	10歳代・20歳代	33	39.4	33.3	33.3	24.2	18.2	6.1	12.1	3.0
	30歳代	60	51.7	20.0	10.0	10.0	11.7	16.7	5.0	-
	40歳代	96	43.8	31.3	25.0	22.9	10.4	9.4	11.5	-
	50歳代	133	45.9	30.1	21.1	18.0	11.3	6.0	11.3	2.3
	60歳代	183	53.0	30.6	25.1	21.3	12.0	7.7	9.8	1.6
	70歳以上	197	51.3	22.3	28.9	22.3	8.6	10.7	5.6	4.1
職 業 別	農林業	32	34.4	40.6	25.0	15.6	6.3	15.6	3.1	3.1
	漁業	1	-	100.0	-	100.0	-	-	-	-
	商工サービス業自営	30	53.3	23.3	10.0	20.0	6.7	6.7	10.0	-
	会社員(役員を含む)、公務員	248	43.1	30.2	23.0	18.5	14.1	12.1	8.5	1.6
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	10	70.0	30.0	10.0	10.0	10.0	-	-	-
	主婦・主夫	76	57.9	22.4	26.3	22.4	3.9	3.9	5.3	3.9
	パート、アルバイト	89	57.3	27.0	24.7	16.9	10.1	2.2	14.6	2.2
	学生	5	60.0	40.0	40.0	20.0	20.0	-	-	-
	無職(すでに退職を含む)	165	47.3	24.2	28.5	23.6	12.1	9.7	8.5	3.0
	その他	43	62.8	23.3	27.9	27.9	9.3	14.0	11.6	-

（６）避難生活について

問 48 避難場所と避難所の役割の違いを知っているか

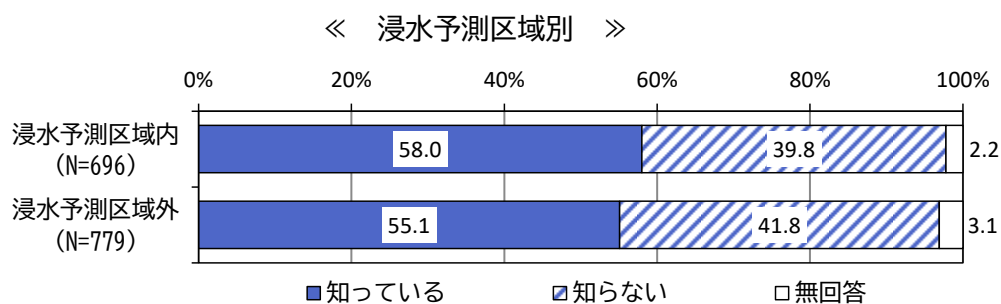
問48 避難場所と避難所は役割が違うことはご存知ですか。（ひとつだけ○）

避難場所と避難所の役割の違いについては、「知っている」が56.1%で、「知らない」が41.1%となっている。



【浸水予測区域別】

「知っている」は、浸水予想区域内では58.0%と、浸水予想区域外の55.1%より2.9ポイント高くなっている。



【前回比較】

令和6年度は令和3年度と同じ傾向で、大きな差は見られない。

【性別】

「知っている」は、男性は58.2%、女性は55.1%と、男性の方が3.1ポイント高くなっている。

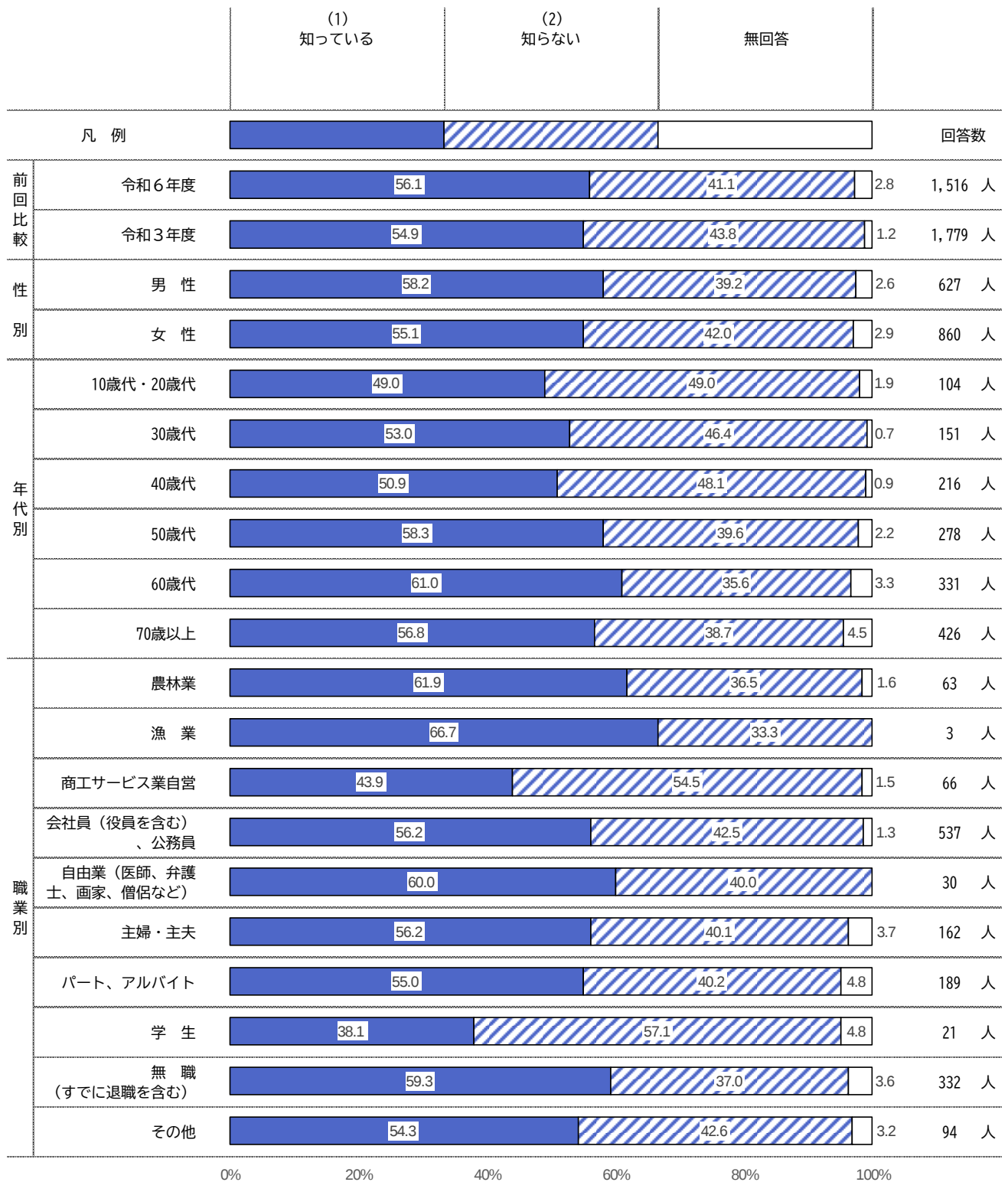
【年代別】

10歳代・20歳代を除くすべての年代で「知っている」の割合が、「知らない」の割合より高くなっている。

【職業別】

商工サービス業自営、学生を除くすべての職業で「知っている」の割合が、「知らない」の割合より高くなっている。

《 性別・年代別・職業別 》

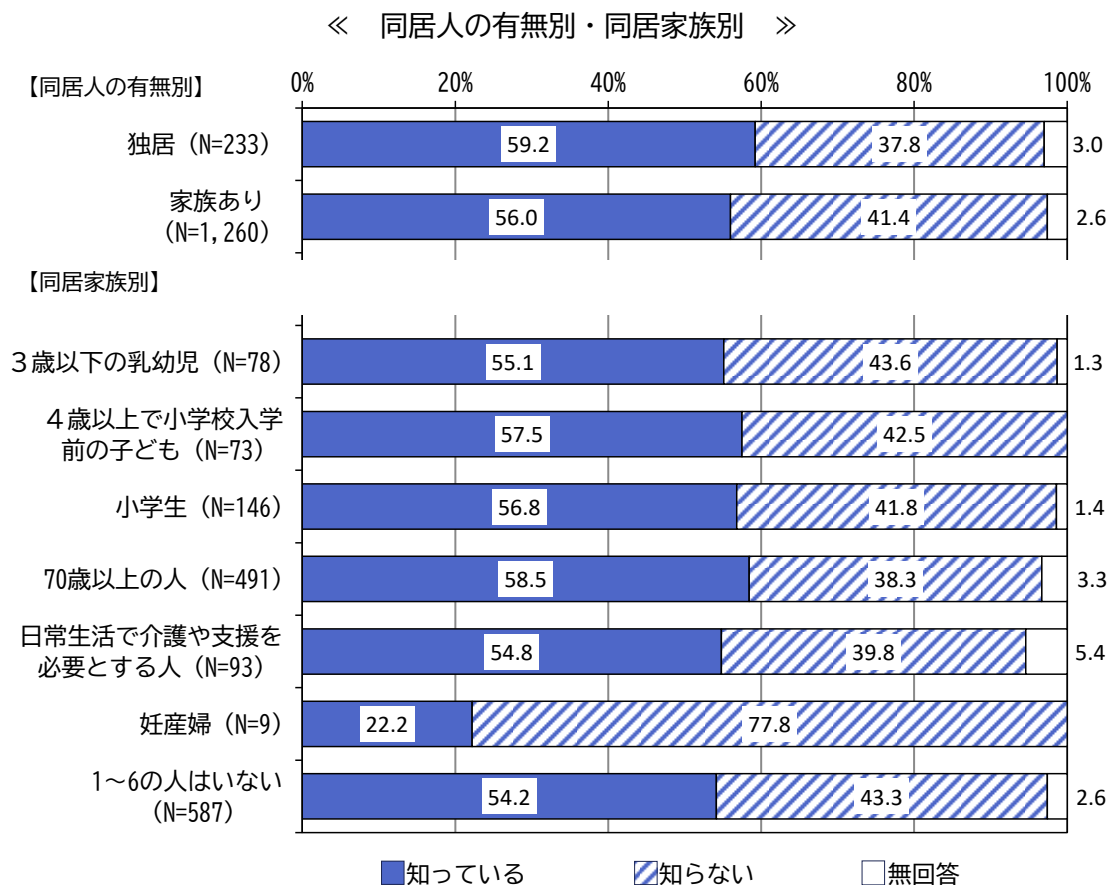


【同居人の有無別】

「知っている」は独居世帯では59.2%、家族あり世帯は56.0%と独居世帯の方が3.2ポイント高くなっている。

【同居家族別】

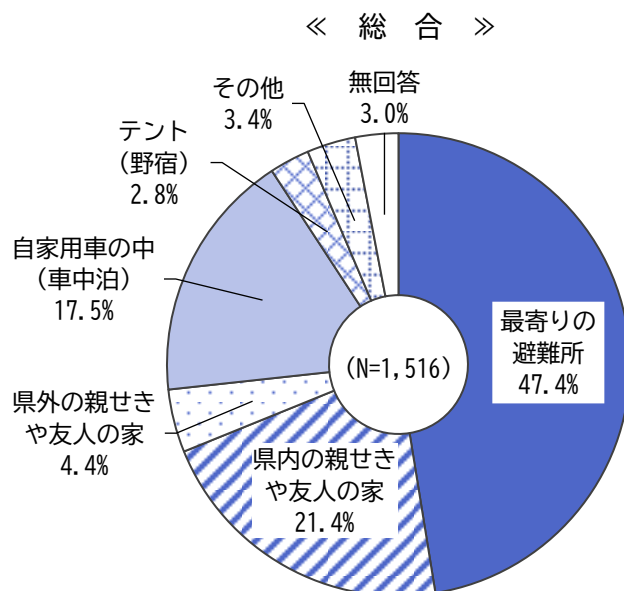
妊産婦を除くすべての同居家族で「知っている」の割合が「知らない」の割合より高くなっている。



問 49 自宅損壊で長期間帰宅できない場合どこで避難生活を送るか

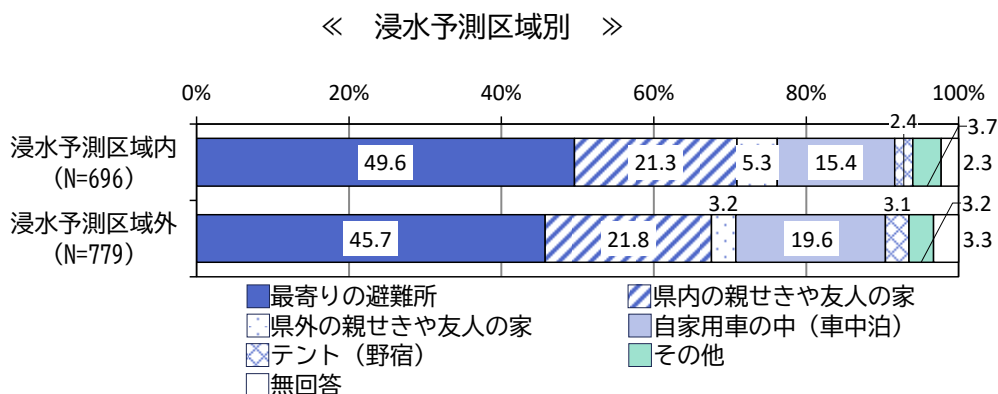
問49 あなたの自宅が壊れて、長期間帰宅できなくなってしまった場合、どこで避難生活を送りますか。
(ひとつだけ○)

避難生活を送る場所は、「最寄りの避難所」が47.4%と最も高く、次いで「県内の親せきや友人の家」21.4%、「自家用車の中（車中泊）」17.5%と続いている。



【浸水予測区域別】

「最寄りの避難所」は、浸水予測区域内49.6%、浸水予測区域外45.7%と浸水予測区域内の方が3.9ポイント高くなっている。「自家用車の中（車中泊）」は、浸水予測区域内15.4%、浸水予測区域外19.6%と浸水予測区域外の方が4.2ポイント高くなっている。



【前回比較】

「県内の親せきや友人の家」の割合が、令和3年度の25.6%より4.2ポイント減少している。

【性別】

男女とも同じ傾向で、性別の差はほとんど見られない。

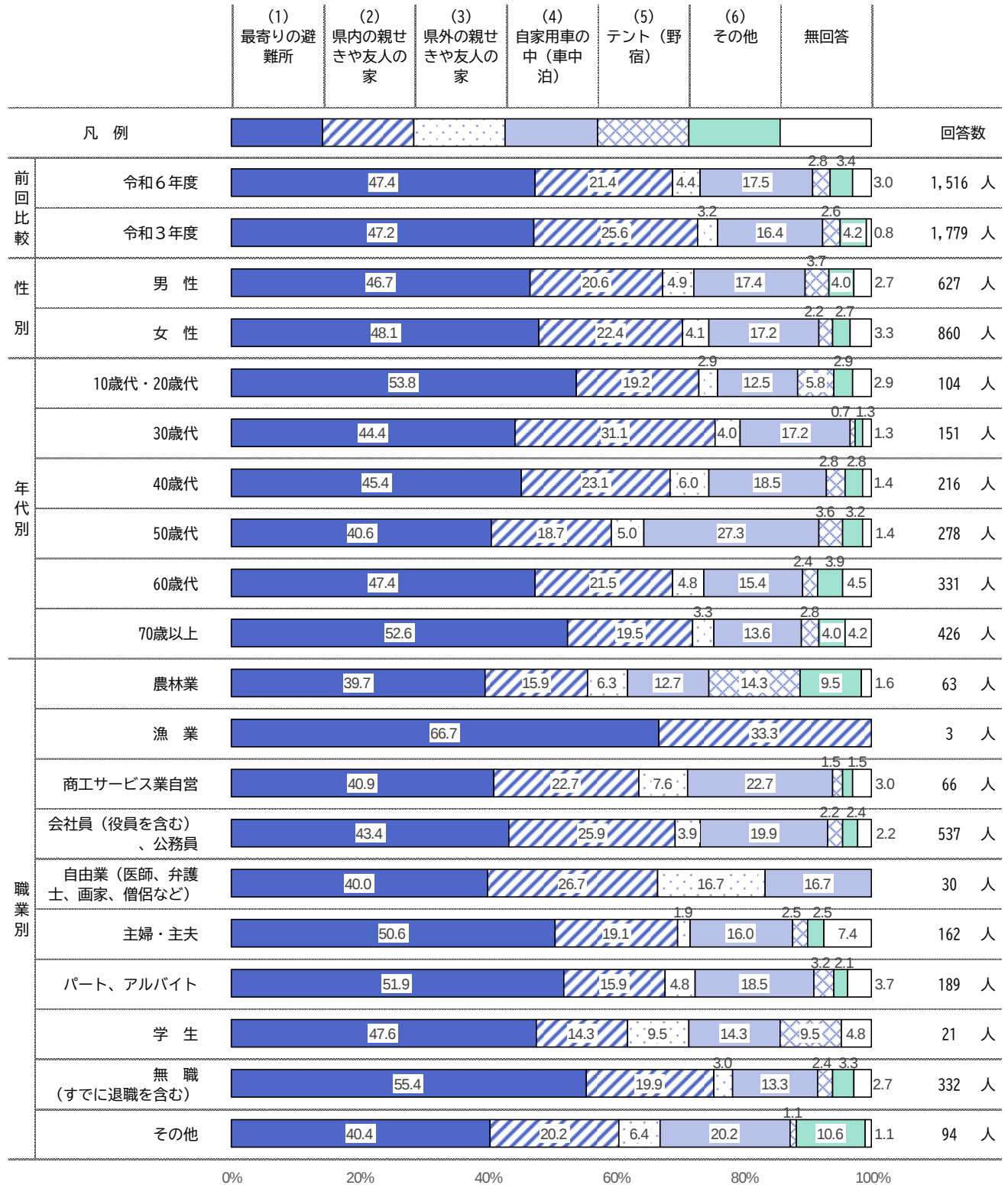
【年代別】

すべての年代で、「最寄りの避難所」が最も高くなっている。「自家用車の中（車中泊）」の割合は、50歳代で27.3%と他の年代より高くなっている。

【職業別】

すべての職業で、「最寄りの避難所」が最も高く、中でも漁業は66.7%と他の職業より高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

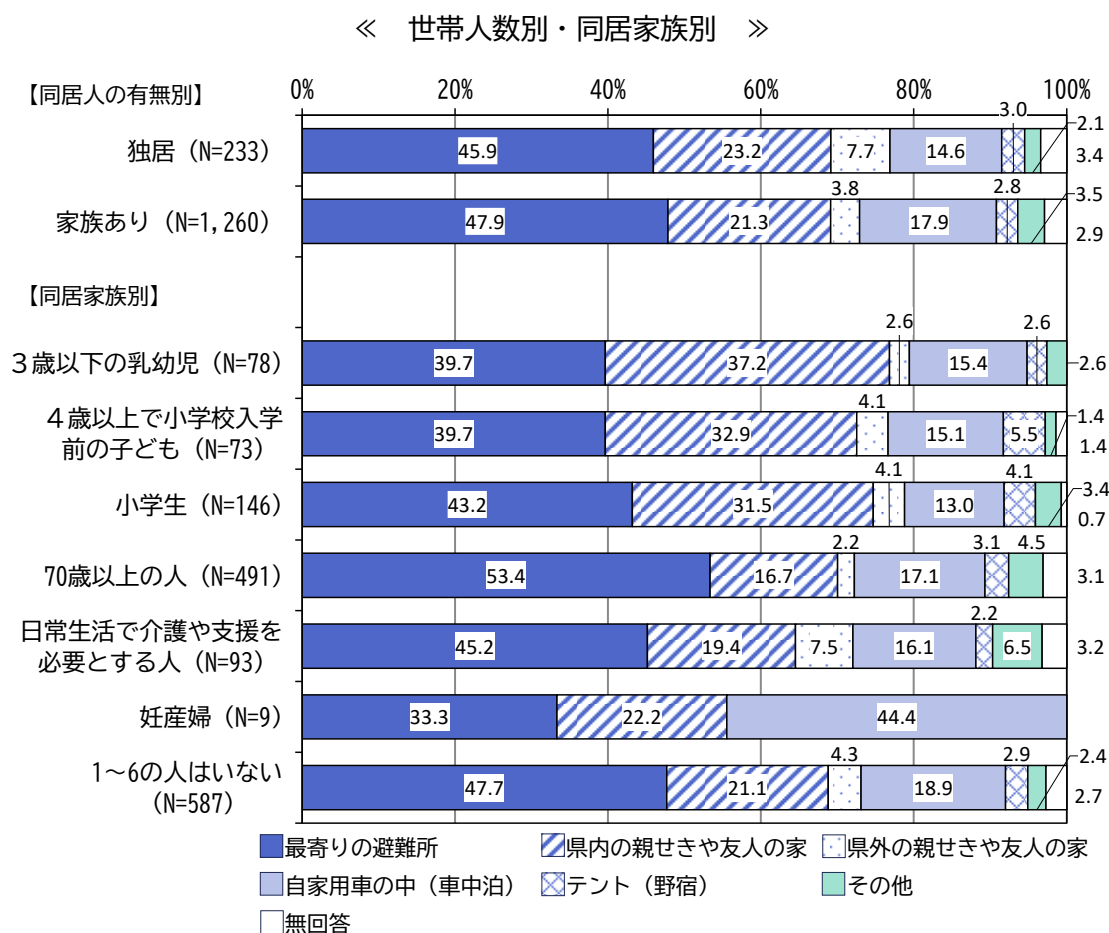


【同居人の有無別】

「自家用車の中（車中泊）」は独居世帯で14.6%、家族あり世帯で17.9%と、家族あり世帯の方が3.3ポイント高くなっている。

【同居家族別】

妊産婦を除くすべての同居家族で「最寄りの避難所」の割合が最も高く、妊産婦では「自家用車の中（車中泊）」44.4%が最も高くなっている。

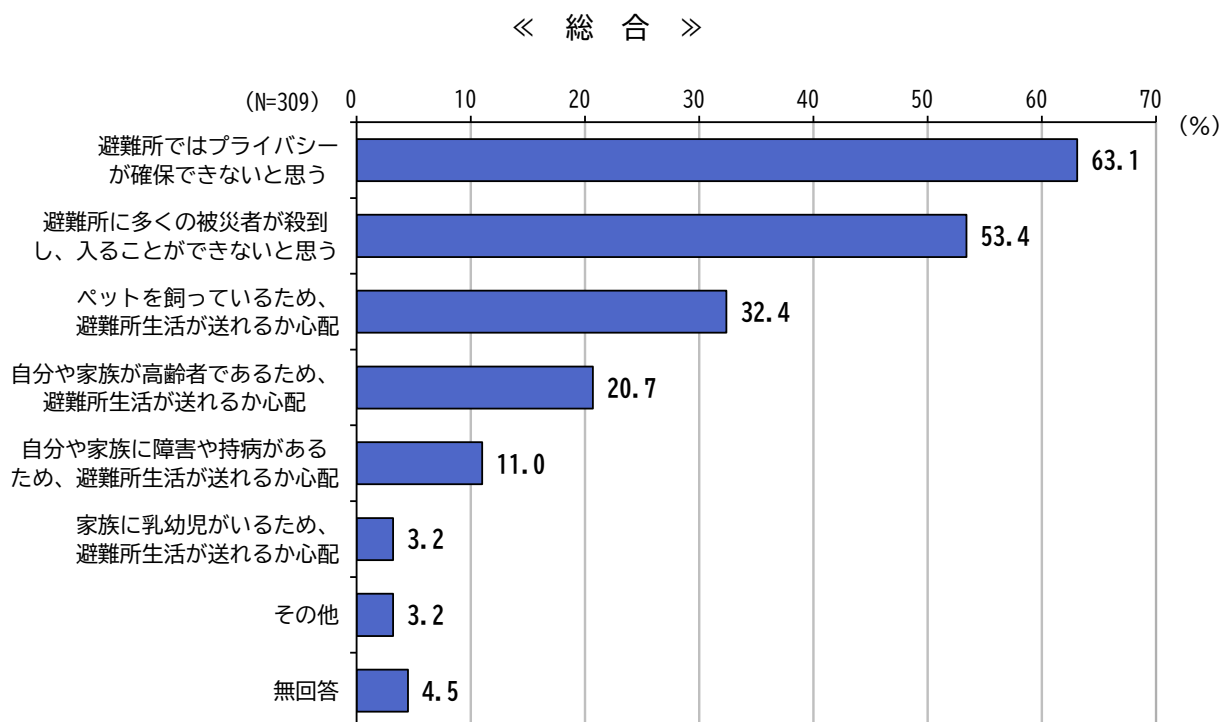


問 50 自家用車内やテントで避難生活を送る理由

問50 問49で「4. 自家用車の中（車中泊）」、「5. テント（野宿）」と回答した人におたずねします。

自家用車の中やテントで避難生活を送る主な理由は何ですか（3つまで○）

自家用車内やテントで避難生活を送る理由としては、「避難所ではプライバシーが確保できないと思う」が63.1%と最も高くなっている。次いで「避難所に多くの被災者が殺到し、入ることができないと思う」53.4%、「ペットを飼っているため、避難所生活が送れるか心配」32.4%と続いている。



【前回比較】

「避難所ではプライバシーが確保できないと思う」63.1%は、令和3年度の69.0%より5.9ポイント減少している。

【性別】

男女とも「避難所ではプライバシーが確保できないと思う」の割合が最も高くなっている。「ペットを飼っているため、避難所の生活が送れるか心配」の割合は、男性が24.2%、女性が37.7%と女性の方が13.5ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「避難所ではプライバシーの確保ができないと思う」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

農林業、商工サービス業自営、会社員、公務員、自由業、パート・アルバイト、学生、無職、その他では「避難所ではプライバシーの確保ができないと思う」の割合が最も高くなっている。

【同居人の有無別】

独居世帯では「避難所ではプライバシーが確保できないと思う」、「避難所に多くの被災者が殺到し、入ることができないと思う」が同率58.5%で最も高く、家族あり世帯では「避難所ではプライバシーが確保できないと思う」が最も高くなっている。

【同居家族別】

日常生活で介護や支援を必要とする人を除くすべての同居家族で「避難所ではプライバシーが確保できないと思う」の割合が最も高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別・同居人の有無別・同居家族別 ≫

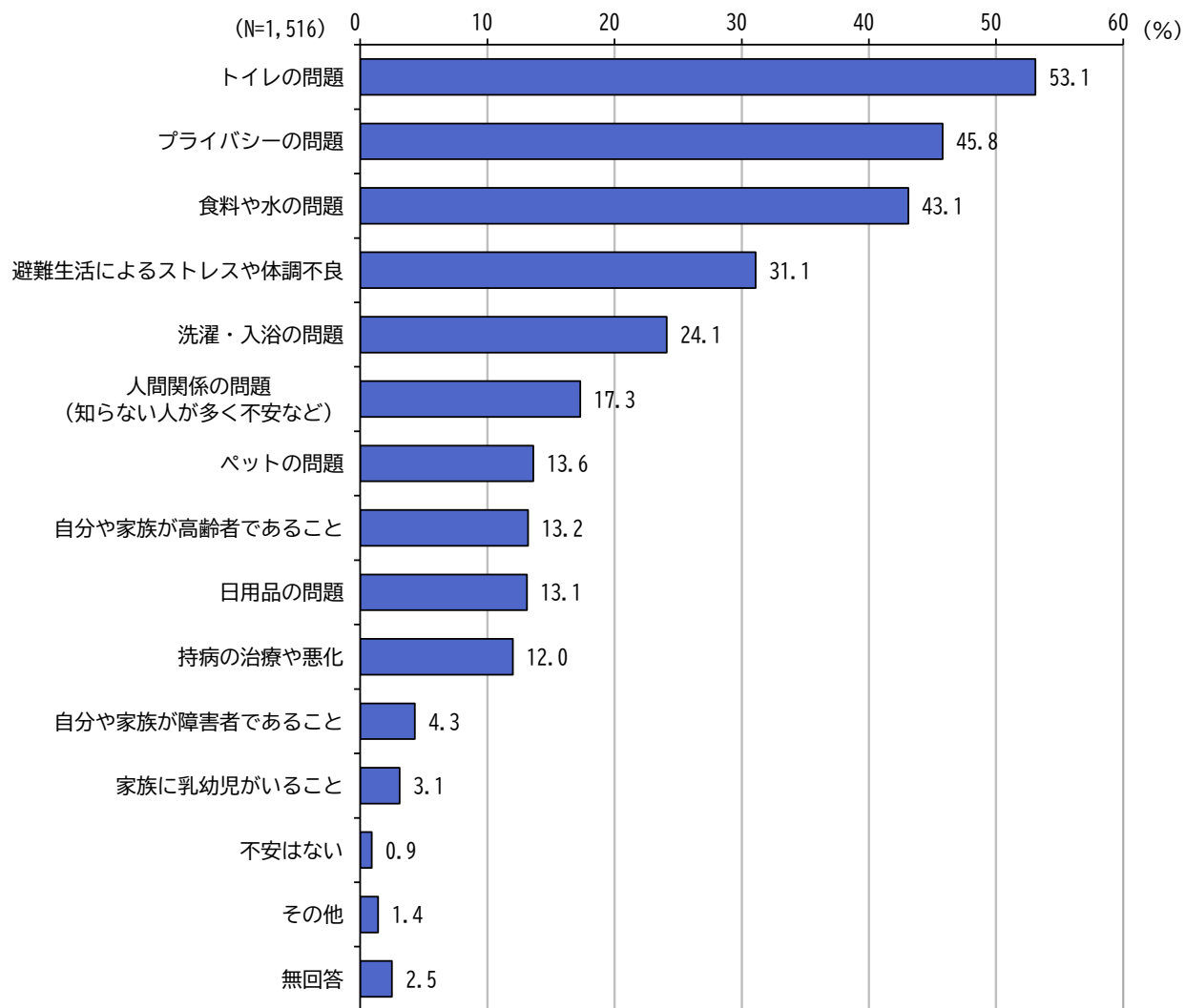
		調査数	(1) 避難所 確保で ないプ ラシー が	(2) 避難所 に入ら ないこ とが多 く、被 災者が ない殺	(3) 避難所 生活が 送られ るため 心配、	(4) 自分や 家族が 高齢者 である ため	(5) 自分や 家族に 障害や 生活持 たが病 害が	(6) 避難所 生活が 送られ るため 心配、	(7) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位						
今回調査(R6)		309	63.1	53.4	32.4	20.7	11.0	3.2	3.2	4.5
前回調査(R3)		339	69.0	56.9	32.4	15.9	9.4	2.9	8.6	0.6
性別	男性	132	65.9	59.1	24.2	23.5	12.9	1.5	4.5	4.5
	女性	167	61.1	46.7	37.7	18.0	10.2	4.8	2.4	4.8
	回答しない	7	57.1	85.7	57.1	28.6	-	-	-	-
年代別	10歳代・20歳代	19	63.2	52.6	42.1	5.3	10.5	5.3	-	5.3
	30歳代	27	77.8	59.3	18.5	3.7	11.1	14.8	3.7	-
	40歳代	46	67.4	37.0	41.3	8.7	8.7	4.3	4.3	2.2
	50歳代	86	64.0	57.0	44.2	9.3	12.8	1.2	2.3	5.8
	60歳代	59	61.0	55.9	28.8	23.7	5.1	1.7	3.4	10.2
	70歳以上	70	55.7	54.3	17.1	51.4	15.7	1.4	4.3	1.4
職業別	農林業	17	58.8	52.9	17.6	29.4	5.9	-	11.8	5.9
	漁業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	16	68.8	62.5	18.8	12.5	18.8	-	6.3	12.5
	会社員(役員を含む)、公務員	119	72.3	52.9	42.0	15.1	6.7	2.5	2.5	4.2
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	5	60.0	40.0	60.0	-	20.0	20.0	-	-
	主婦・主夫	30	40.0	46.7	33.3	16.7	20.0	6.7	3.3	6.7
	パート、アルバイト	41	65.9	51.2	24.4	22.0	9.8	4.9	2.4	7.3
	学生	5	60.0	60.0	60.0	-	-	-	-	-
	無職(すでに退職を含む)	52	59.6	57.7	19.2	48.1	13.5	-	-	-
	その他	20	55.0	55.0	30.0	-	20.0	5.0	10.0	5.0
同居人の有無別										
0人(独居)		41	58.5	58.5	19.5	26.8	9.8	-	4.9	7.3
家族あり		261	64.4	52.5	34.5	19.5	11.1	3.8	3.1	3.8
同居家族別	3歳以下の乳幼児	14	57.1	21.4	-	7.1	14.3	42.9	7.1	7.1
	4歳以上で小学校入学前の子ども	15	73.3	40.0	20.0	20.0	6.7	40.0	6.7	-
	小学生	25	84.0	52.0	32.0	8.0	8.0	16.0	-	-
	70歳以上の人	99	54.5	49.5	31.3	37.4	16.2	4.0	5.1	2.0
	日常生活で介護や支援を必要とする人	17	41.2	47.1	11.8	47.1	41.2	-	5.9	5.9
	妊産婦	4	50.0	25.0	-	-	-	25.0	50.0	50.0
	1～6の人はいない	128	68.8	56.3	43.0	9.4	8.6	-	1.6	3.1

問 51 避難所生活での不安

問51 あなたが避難所生活を送ることを考えた時、特にどのようなことが不安ですか。(3つまで○)

避難所生活での不安は、「トイレの問題」が53.1%、次いで「プライバシーの問題」45.8%、「食料や水の問題」43.1%と続いている。

《 総 合 》



【前回比較】

「トイレの問題」53.1%が、令和3年度の49.0%より4.1ポイント増加し、最も高くなっている。

【性別】

男女とも「トイレの問題」の割合が最も高く、男性では「食料や水の問題」、女性では「プライバシーの問題」が続いている。

【年代別】

10歳代・20歳代、30歳代では「食料や水の問題」が最も高く、40歳代では「プライバシーの問題」、50歳代～70歳以上では「トイレの問題」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

農林業、商工サービス業自営、会社員、公務員、主婦・主夫、無職、その他では「トイレの問題」が最も高く、漁業、パート・アルバイトでは「プライバシーの問題」、自由業、学生では「食料や水の問題」の割合が最も高くなっている。

【同居人の有無別】

家族あり世帯は、独居世帯に比べて「プライバシーの問題」で8.8ポイント高く、独居世帯は、家族あり世帯に比べて「食料や水の問題」は6.1ポイント高くなっている。

【同居家族別】

3歳以下の乳幼児は「プライバシーの問題」と「食料や水の問題」、「家族に乳幼児がいること」で50%以上と、他よりも高い割合となっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別・同居人の有無別・同居家族別 ≫

		調査数	(1) トイレの問題	(2) プライバシーの問題	(3) 食料や水の問題	(4) 避難生活によるストレスや体調不良	(5) 洗濯・入浴の問題	(6) 人間関係の問題（知らない人が多く不安など）	(7) ペットの問題	(8) 自分や家族が高齢者であること	(9) 日用品の問題	(10) 持病の治療や悪化	(11) 自分や家族が障害者であること	(12) 家族に乳幼児がいること	(13) 不安はない	(14) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝																	
			1位	2位													
今回調査(R6)		1,516	53.1	45.8	43.1	31.1	24.1	17.3	13.6	13.2	13.1	12.0	4.3	3.1	0.9	1.4	2.5
前回調査(R3)		1,779	49.0	49.6	43.7	38.6	28.4	22.0	17.3	9.1	15.5	7.1	2.9	3.7	1.0	1.9	1.2
性別	男性	627	51.0	42.6	47.5	29.0	24.9	17.2	10.7	12.9	13.6	14.4	4.3	1.9	1.3	1.0	2.7
	女性	860	54.7	48.3	39.8	32.8	24.0	17.2	15.5	13.7	12.7	10.2	4.4	4.0	0.6	1.7	2.2
	回答しない	18	38.9	44.4	38.9	27.8	11.1	27.8	22.2	5.6	11.1	16.7	-	5.6	-	-	5.6
年代別	10歳代・20歳代	104	46.2	52.9	53.8	28.8	17.3	21.2	13.5	1.0	25.0	4.8	5.8	6.7	1.9	1.9	1.9
	30歳代	151	49.0	51.7	54.3	25.2	17.9	19.9	10.6	2.0	25.8	3.3	2.6	15.9	0.7	4.6	-
	40歳代	216	50.9	55.1	44.4	29.6	25.5	18.5	13.9	7.4	16.2	8.3	4.6	4.2	0.5	1.4	2.8
	50歳代	278	55.0	47.8	44.6	31.7	26.6	19.4	22.7	9.4	10.1	8.6	3.2	-	0.4	2.2	0.7
	60歳代	331	55.0	44.1	38.7	34.7	28.7	16.9	14.8	9.7	10.0	12.4	2.4	1.5	1.2	0.6	3.6
	70歳以上	426	54.5	37.3	37.8	31.5	22.3	14.1	7.5	28.6	8.2	20.7	6.6	0.5	0.9	0.2	3.5
職業別	農林業	63	41.3	38.1	33.3	36.5	28.6	17.5	12.7	22.2	7.9	20.6	6.3	1.6	-	1.6	1.6
	漁業	3	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	66	62.1	56.1	42.4	22.7	27.3	18.2	13.6	13.6	10.6	9.1	1.5	-	-	-	1.5
	会社員(役員を含む)、公務員	537	53.4	52.3	46.9	30.0	24.0	19.4	15.8	5.4	17.7	5.6	1.9	5.0	0.7	1.9	1.9
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	40.0	46.7	53.3	26.7	20.0	10.0	13.3	13.3	20.0	10.0	3.3	10.0	-	-	3.3
	主婦・主夫	162	50.6	42.6	34.0	40.7	19.8	16.7	14.2	22.2	5.6	16.7	6.8	2.5	1.2	-	3.1
	パート、アルバイト	189	48.7	50.3	48.1	28.0	27.5	18.5	15.3	7.4	12.2	9.5	2.6	3.7	1.1	2.1	3.2
	学生	21	52.4	47.6	57.1	19.0	4.8	19.0	14.3	-	23.8	-	-	4.8	9.5	4.8	4.8
	無職(すでに退職を含む)	332	58.4	35.2	38.0	30.1	23.8	13.6	8.7	24.1	10.5	21.4	7.2	0.6	0.6	1.2	3.0
	その他	94	52.1	41.5	44.7	37.2	26.6	20.2	10.6	12.8	10.6	12.8	9.6	-	1.1	1.1	2.1
同居人の有無別	0人(独居)	233	56.2	38.6	48.1	28.3	23.2	20.6	8.6	10.3	14.6	12.4	3.0	-	0.9	1.3	3.0
	家族あり	1,260	52.5	47.4	42.0	31.6	24.4	16.7	14.4	13.7	12.8	12.0	4.6	3.7	0.9	1.3	2.4
同居家族別	3歳以下の乳幼児	78	41.0	52.6	52.6	26.9	14.1	12.8	5.1	3.8	20.5	1.3	1.3	50.0	1.3	2.6	-
	4歳以上で小学校入学前の子ども	73	45.2	65.8	42.5	30.1	21.9	13.7	5.5	2.7	19.2	5.5	2.7	27.4	1.4	1.4	-
	小学生	146	47.3	57.5	55.5	32.2	22.6	15.8	8.9	5.5	22.6	5.5	2.1	10.3	0.7	3.4	0.7
	70歳以上の人	491	54.8	41.8	36.9	32.0	23.2	15.1	13.0	27.9	6.5	17.5	5.3	1.4	0.8	0.8	3.3
	日常生活で介護や支援を必要とする人	93	44.1	31.2	31.2	31.2	17.2	12.9	10.8	35.5	10.8	20.4	28.0	-	1.1	1.1	3.2
	妊産婦	9	55.6	22.2	44.4	11.1	11.1	33.3	11.1	-	22.2	-	-	33.3	-	-	-
	1～6の人はいない	587	55.7	48.9	46.2	31.7	25.4	18.1	19.3	4.4	14.1	8.9	2.9	-	0.7	1.9	1.9

問51×問49

「避難所生活の不安点」と「避難生活を送る場所」とのクロス分析

避難生活を送る場所を『テント（野宿）』と回答した方は「プライバシーの問題」が、それ以外は「トイレの問題」が最も高い割合となっている。

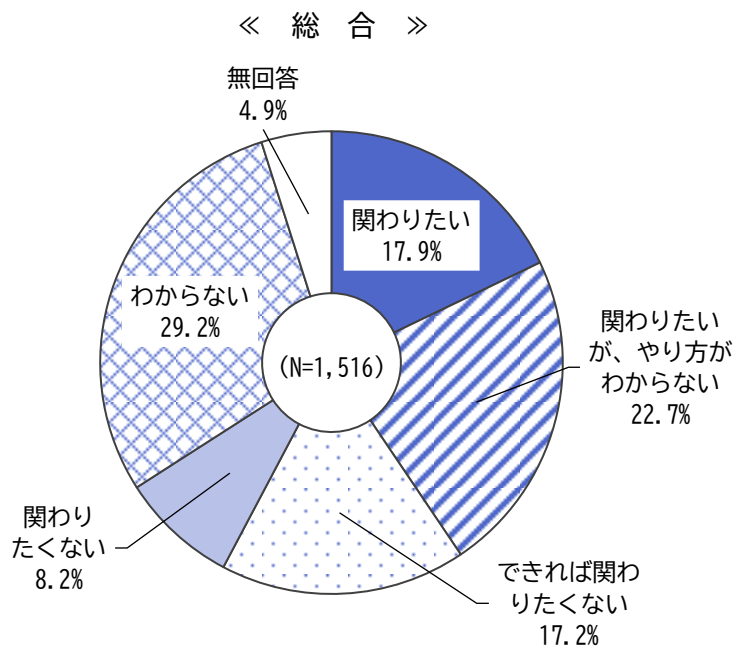
		問51															
		調査数	(1) 食料や水の問題	(2) 日用品の問題	(3) プライバシーの問題	(4) 人間関係の問題（知らない人が多いなど）	(5) トイレの問題	(6) 洗濯・入浴の問題	(7) 避難生活によるストレスや体調不良	(8) 持病の治療や悪化	(9) 自分や家族が高齢者であること	(10) 自分や家族が障害者であること	(11) 家族に乳幼児がいること	(12) ペットの問題	(13) 不安はない	(14) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝																	
問49	最寄りの避難所	719	45.6	12.9	47.6	19.2	55.8	25.6	33.1	14.2	13.8	3.9	2.4	9.9	0.4	1.4	0.3
	県内の親せきや友人の家	325	49.2	17.8	41.8	14.5	50.8	27.1	28.6	8.9	12.9	3.4	5.8	12.3	1.5	1.5	0.9
	県外の親せきや友人の家	66	48.5	13.6	45.5	10.6	54.5	19.7	25.8	10.6	13.6	7.6	1.5	16.7	3.0	-	-
	自家用車の中（車中泊）	266	35.0	10.2	54.1	18.4	55.6	17.3	32.3	8.6	10.9	5.3	2.3	25.9	0.4	1.1	3.0
	テント（野宿）	43	32.6	7.0	44.2	20.9	37.2	16.3	27.9	14.0	16.3	2.3	4.7	25.6	2.3	4.7	-
	その他	51	33.3	13.7	33.3	13.7	54.9	43.1	35.3	17.6	19.6	11.8	2.0	3.9	-	2.0	-
	不明	46	19.6	2.2	15.2	10.9	23.9	10.9	17.4	13.0	8.7	-	2.2	4.3	2.2	-	54.3

問 52 避難所の開設や運営にかかわりたいか

問52 あなたは、食事の提供や物資の受入・配布、高齢者の生活支援など、避難所の開設や運営に関わろうと思いますか。(ひとつだけ○)

避難所の開設や運営については、「わからない」が29.2%と最も高く、次いで「関わりたいが、やり方がわからない」22.7%、「関わりたい」17.9%と続いている。

また、「関わりたい」と「関わりたいが、やり方がわからない」を合わせた、{関わりたい}と考えている人が40.6%、「できれば関わりたくない」と「関わりたくない」を合わせた、{関わりたくない}と考えている人の25.4%より、15.2ポイント高くなっている。



【前回比較】

「関わりたい」と「関わりたいが、やり方がわからない」を合わせた {関わりたい} と回答した人の割合は、令和6年度で40.6%と令和3年度の43.0%よりも2.4ポイント減少している。

【性別】

{関わりたい} の割合は、男性41.9%、女性40.4%となっており、男性の方が1.5ポイント高くなっている。

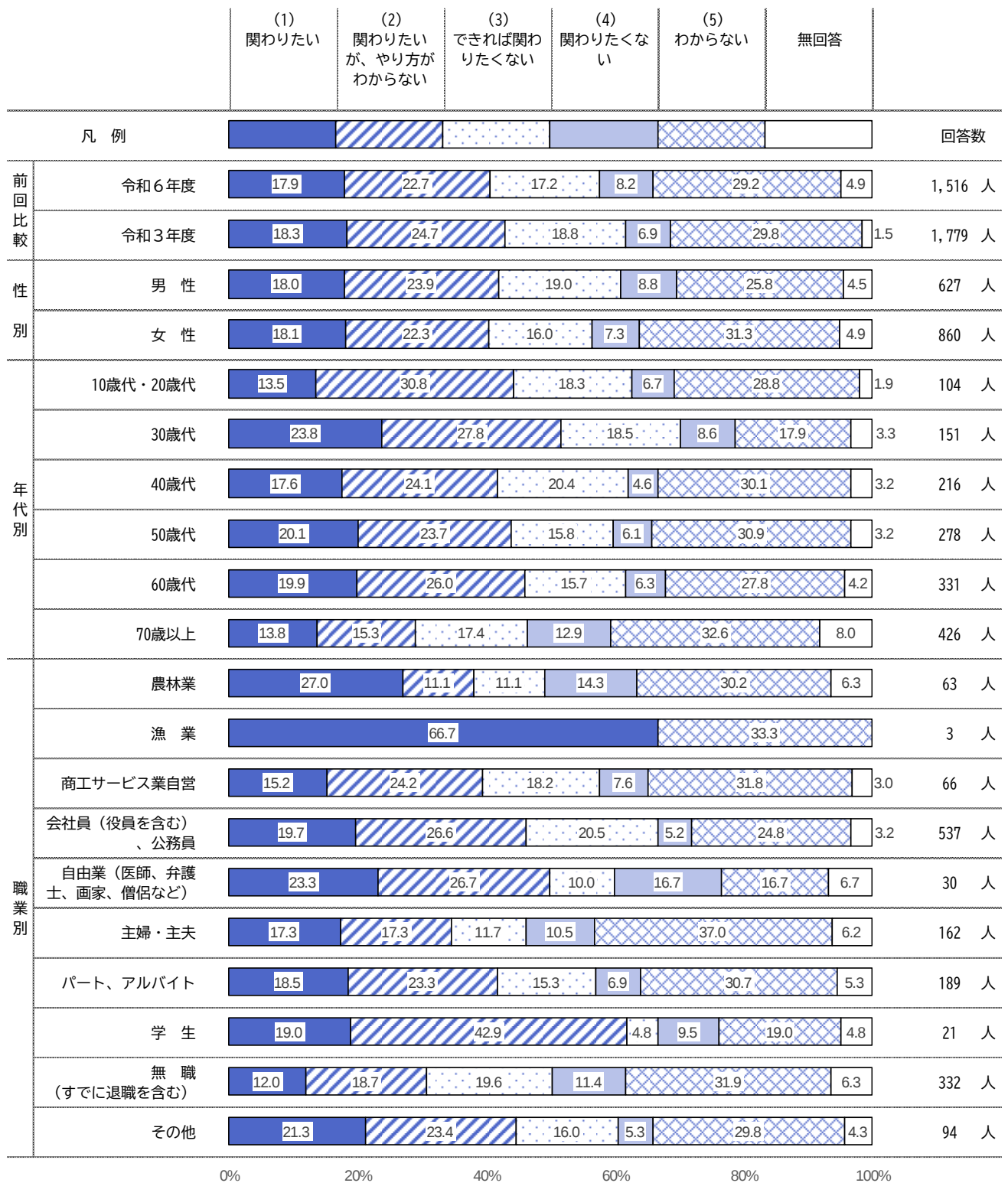
【年代別】

{関わりたい} の割合は、30歳代で51.6%となっており、半数を占めている。

【職業別】

「関わりたい」の割合は、漁業で66.7%と他の職業より高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫



(7) 自主防災組織について

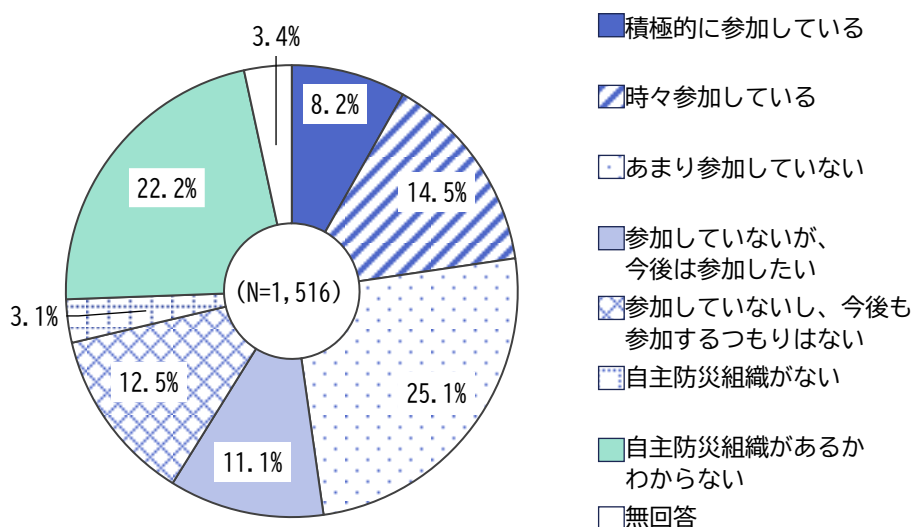
問 53 自主防災組織の活動への参加状況

問53 お住まいの地域の自主防災組織の活動（訓練や学習会、避難路の点検など）へ参加していますか。（ひとつだけ○）

自主防災組織の活動への参加状況については、「あまり参加していない」が25.1%と最も高く、次いで「自主防災組織があるかわからない」22.2%、「時々参加している」14.5%と続いている。

また、「積極的に参加している」と「時々参加している」を合わせた{参加している}の割合は22.7%となっている。

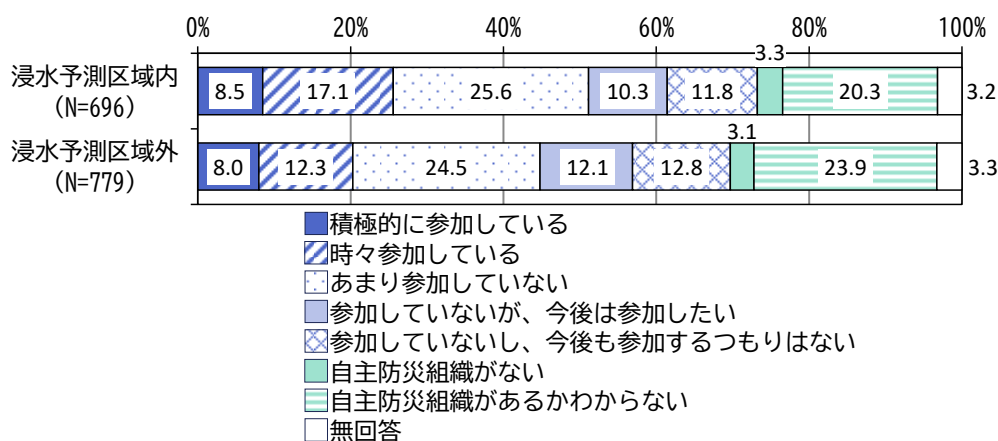
≪ 総 合 ≫



【浸水予測区域別】

{参加している} は、浸水予測区域内で25.6%、浸水予測区域外で20.3%と浸水予測区域内の方が5.3ポイント高くなっている。

≪ 浸水予測区域別 ≫



【前回比較】

「積極的に参加している」と「時々参加している」を合わせた {参加している} の割合は、令和6年で22.7%、令和3年で23.2%となっている。「あまり参加していない」の割合は、令和6年で25.1%、令和3年で21.0%と4.1ポイント増加している。

【性別】

{参加している} は、男性27.1%、女性20.1%と、男性の方が7.0ポイント高い。

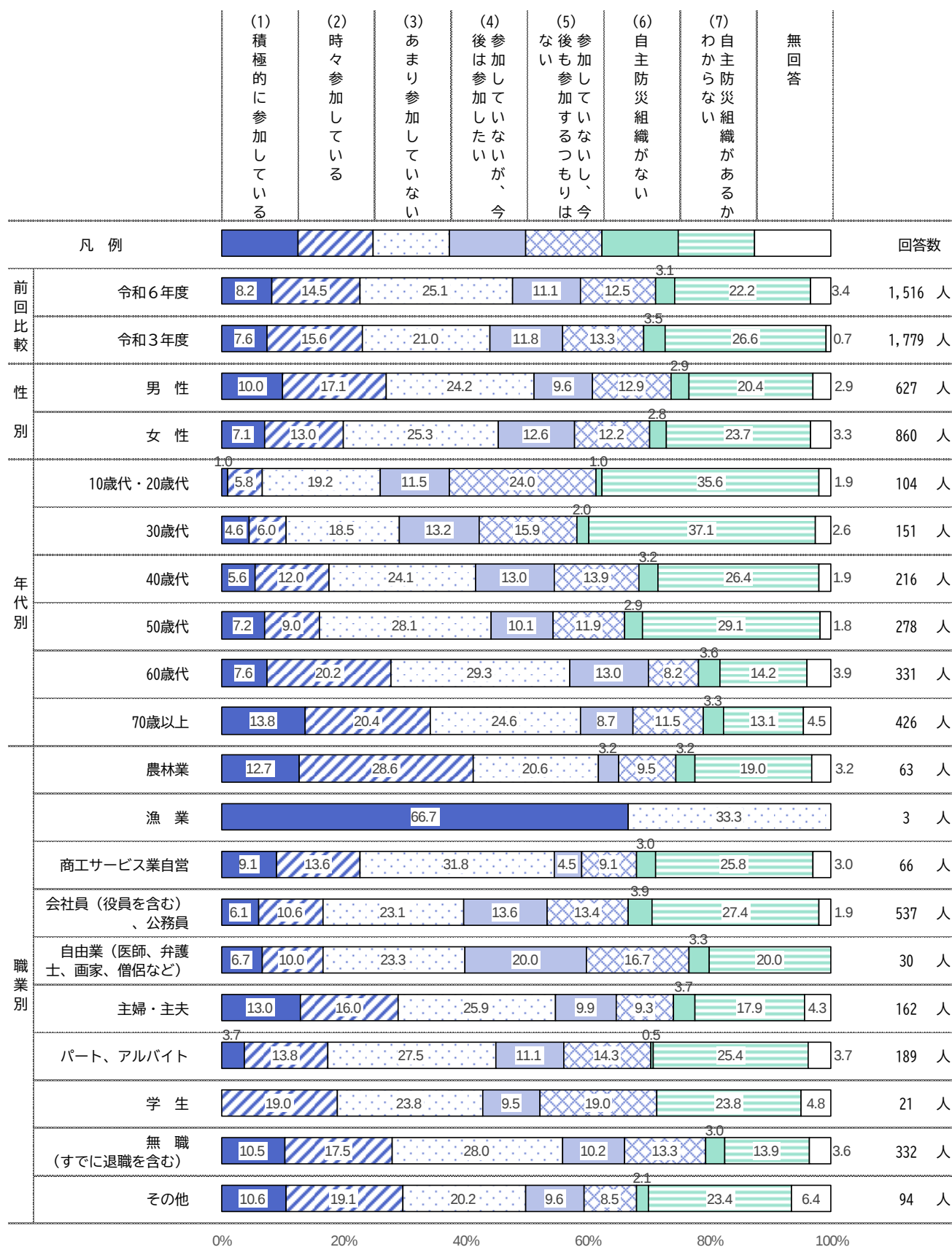
【年代別】

{参加している} は、70歳以上で34.2%と他の年代より高くなっている。一方、10歳代・20歳代では6.8%と他の年代より低くなっており、70歳以上の34.2%と比べて27.4ポイント差がある。

【職業別】

漁業では「積極的に参加している」の割合が66.7%と他の職業より高くなっている。

《前回比較・性別・年代別・職業別》



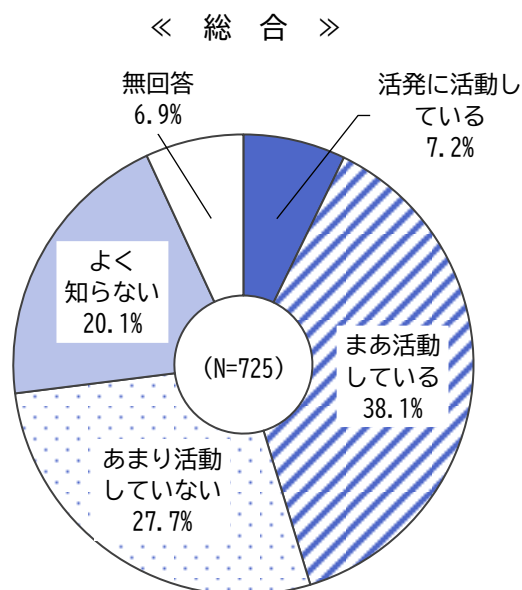
問 54 地域の自主防災組織の活動状況

問54 問53で「1. 積極的に参加している」、「2. 時々参加している」、「3. あまり参加していない」と回答した人におたずねします。

お住まいの地域の自主防災組織の活動は活発ですか。(ひとつだけ○)

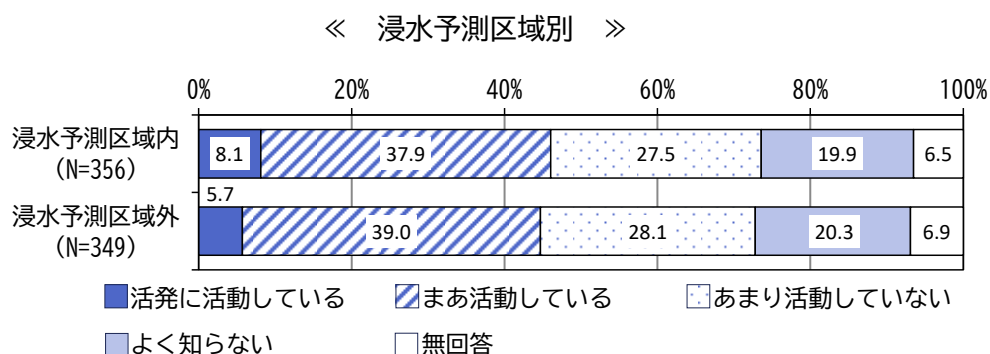
地域の自主防災組織の活動状況については、「まあ活動している」が38.1%と最も高く、次いで「あまり活動していない」27.7%、「よく知らない」20.1%と続いている。

「活発に活動している」と「まあ活動している」を合わせた{活動している}の割合は45.3%となっている。



【浸水予測区域別】

浸水予測区域内の方は、浸水予測区域外に比べて{活動している}で1.3ポイント高くなっている。



【前回比較】

「活発に活動している」と「まあ活動している」を合わせた {活動している} の割合は、令和6年度が45.3%、令和3年度が51.4%となっており、6.1ポイント減少している。

【性別】

{活動している} の割合は、男性46.0%、女性44.8%となっている。「よく知らない」の割合は、男性17.1%、女性21.7%と女性の方が4.6ポイント高くなっている。

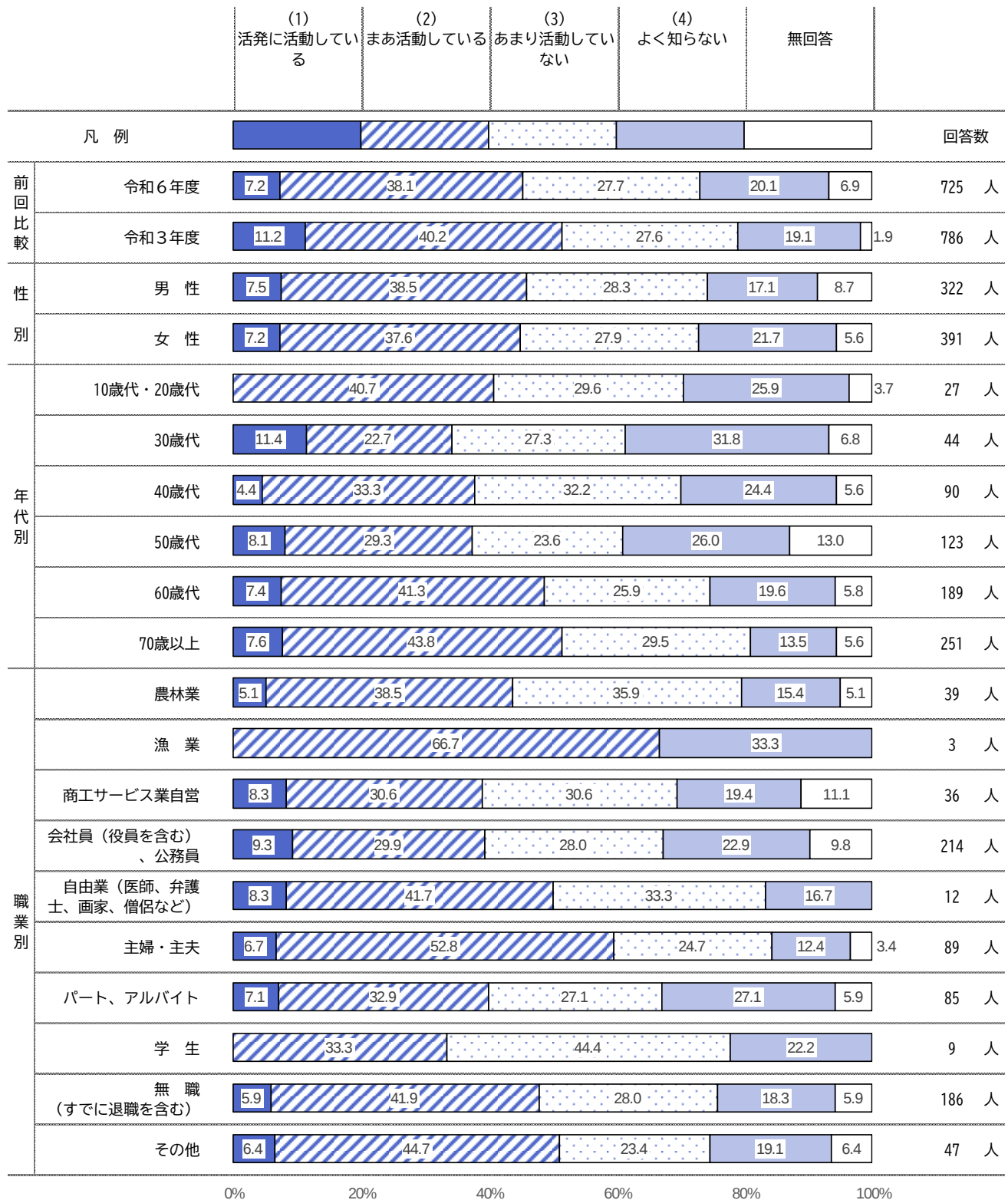
【年代別】

{活動している} の割合は、70歳以上で51.4%と他の年代より高くなっている。

【職業別】

漁業では「まあ活動している」の割合が66.7%と他の職業より高くなっている。

＜前回比較・性別・年齢別・職業別＞



問 55 これからどういった活動に取り組んでいけばよいか

問55 自主防災組織は、これからどういった活動に取り組んでいけばいいと思いますか。

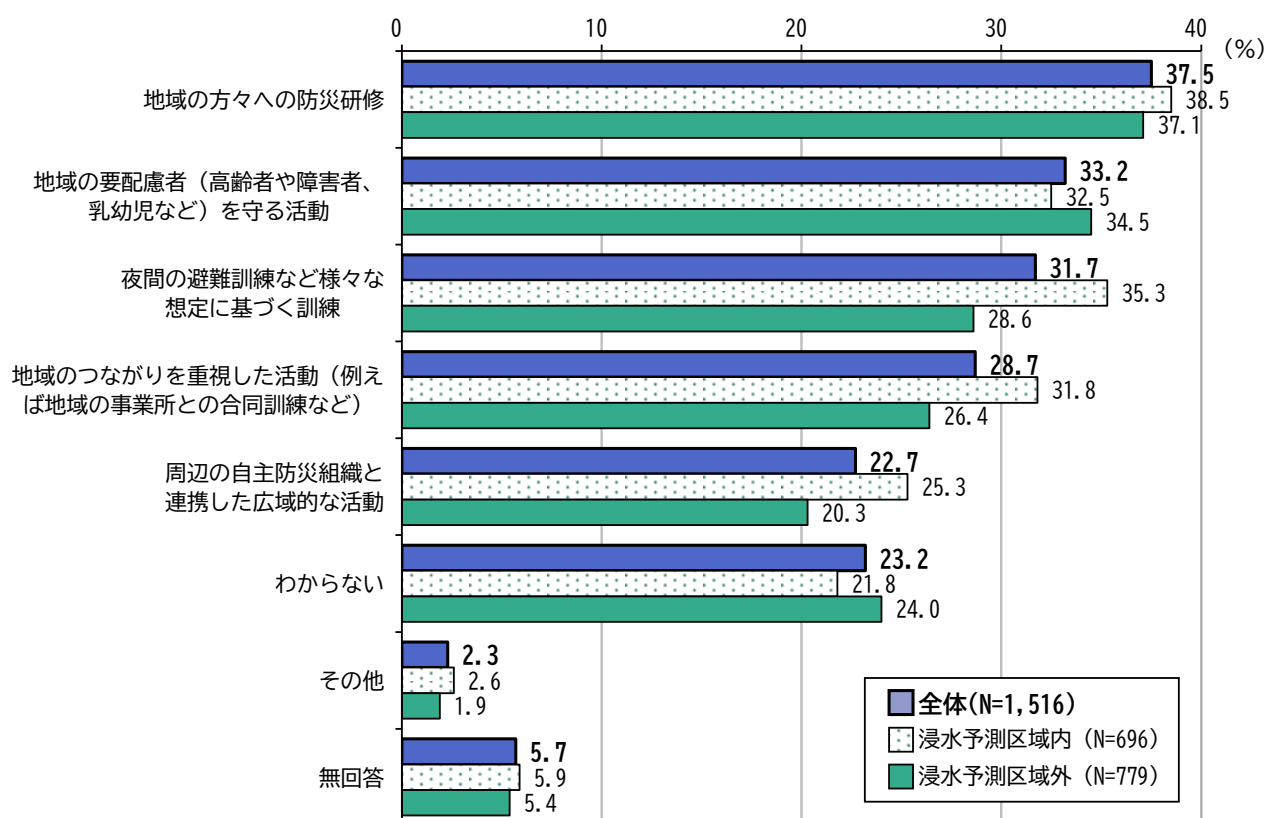
(当てはまるものすべてに○)

自主防災組織は、これからどういった活動に取り組んでいけばいいかについては、「地域の方々への防災研修」が37.5%と最も高く、次いで「地域の要配慮者(高齢者や障害者、乳幼児など)を守る活動」33.2%、「夜間の避難訓練など様々な想定に基づく訓練」が31.7%と続いている。

【浸水予測区域別】

浸水予測区域内・外ともに、「地域の方々への防災研修」が最も高く、浸水予測区域内は38.5%、浸水予測区域外は37.1%と、浸水予測区域内の方が1.4ポイント高くなっている。

＜ 総合・浸水予測区域別 ＞



【前回比較】

令和6年では「地域の方々への防災研修」が37.5%と最も高く、令和3年度の36.4%から1.1ポイント増加している。

【性別】

男女とも「地域の方々への防災研修」が最も高く、次いで「地域の要配慮者（高齢者や障害者、乳幼児など）を守る活動」となっており、3番目は、男性では「地域のつながりを重視した活動（例えば地域の事業所との合同訓練など）」、女性では同率で「夜間の避難訓練など様々な想定に基づく訓練」が続いている。

【年代別】

すべての年代で「地域の方々への防災研修」の割合が最も高く、40歳代では同率で「夜間の避難訓練など様々な想定に基づく訓練」35.2%と最も高くなっている。

【職業別】

漁業、商工サービス業自営、会社員、公務員、自由業、パート・アルバイト、学生、無職、その他では「地域の方々への防災研修」の割合が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

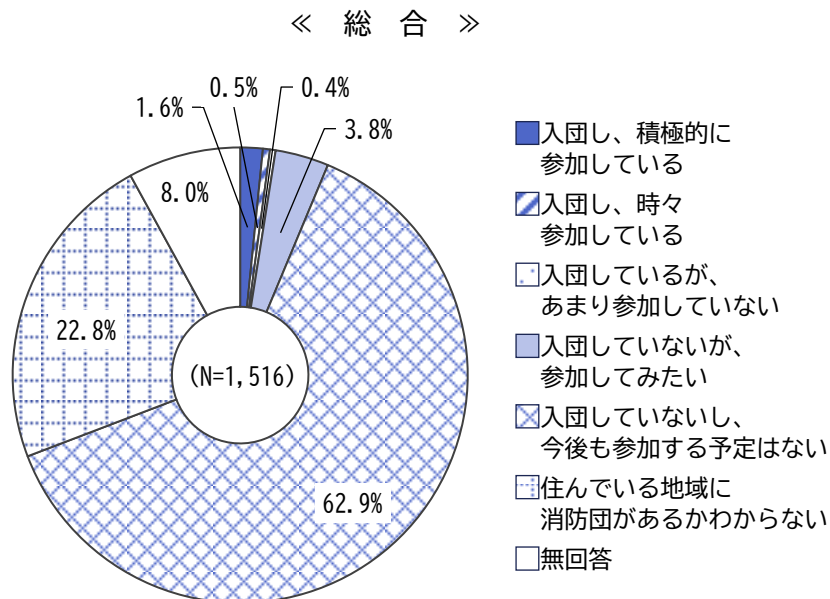
		調査数	(1) 地域の方々への防災研修	(2) 障害者の活動、要配慮者（高齢者や障害者）を守る活動	(3) 夜間の避難訓練など様々な想定に基づく訓練	(4) 地域のつながりを重視した活動（例えば地域の事業所との合同訓練など）	(5) 地域の自主的な防災活動組織と連携	(6) わからない	(7) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位						
今回調査(R6)		1,516	37.5	33.2	31.7	28.7	22.7	23.2	2.3	5.7
前回調査(R3)		1,779	36.4	38.7	30.1	30.1	22.0	24.8	1.3	2.1
性別	男性	627	40.0	33.2	29.2	32.1	23.9	22.5	2.2	4.9
	女性	860	36.0	34.2	34.2	26.7	22.6	23.3	2.3	5.8
	回答しない	18	22.2	11.1	16.7	16.7	-	44.4	5.6	11.1
年代別	10歳代・20歳代	104	40.4	26.9	30.8	27.9	25.0	22.1	3.8	4.8
	30歳代	151	36.4	35.1	25.8	34.4	19.2	25.2	2.6	4.0
	40歳代	216	35.2	32.4	35.2	33.3	22.2	24.1	1.4	4.6
	50歳代	278	34.5	29.5	28.8	29.9	22.3	27.0	2.2	5.0
	60歳代	331	41.7	37.8	36.9	31.7	26.0	20.5	0.9	4.2
	70歳以上	426	37.1	34.3	30.8	21.6	21.8	22.1	3.5	8.0
職業別	農林業	63	31.7	36.5	22.2	12.7	11.1	23.8	3.2	9.5
	漁業	3	66.7	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	-	-
	商工サービス業自営	66	34.8	25.8	13.6	28.8	27.3	28.8	1.5	9.1
	会社員(役員を含む)、公務員	537	37.6	31.5	32.4	33.5	22.2	24.4	1.9	4.5
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	43.3	40.0	33.3	33.3	33.3	16.7	-	6.7
	主婦・主夫	162	36.4	34.6	42.0	21.6	20.4	16.0	1.9	6.8
	パート、アルバイト	189	38.1	35.4	31.7	31.2	25.4	23.3	2.6	4.2
	学生	21	42.9	23.8	28.6	38.1	28.6	19.0	-	4.8
	無職(すでに退職を含む)	332	38.0	35.5	29.2	23.2	22.9	25.6	3.0	5.7
	その他	94	39.4	36.2	39.4	35.1	26.6	18.1	3.2	5.3

(8) 消防団について

問 56 消防団に入団しているか

問56 お住まいの地域の消防団に入団していますか。(ひとつだけ○)

消防団への入団については、「入団していないし、今後も参加する予定はない」が62.9%と最も高く、次いで「住んでいる地域に消防団があるかわからない」22.8%、「入団していないが、参加してみたい」3.8%と続いている。また、消防団に入団している人は、「入団し、積極的に参加している」1.6%、「入団し、時々参加している」0.5%、「入団しているが、あまり参加していない」0.4%と低い割合にとどまっている。



【前回比較】

令和6年度、令和3年度は同じ傾向で、大きな差は見られないが、「入団していないし、今後も参加する予定はない」が2.8ポイント、「住んでいる地域に消防団があるかわからない」が1.7ポイント減少している。

【性別】

男女とも「入団していないし、今後も参加する予定はない」の割合が最も高くなっている。

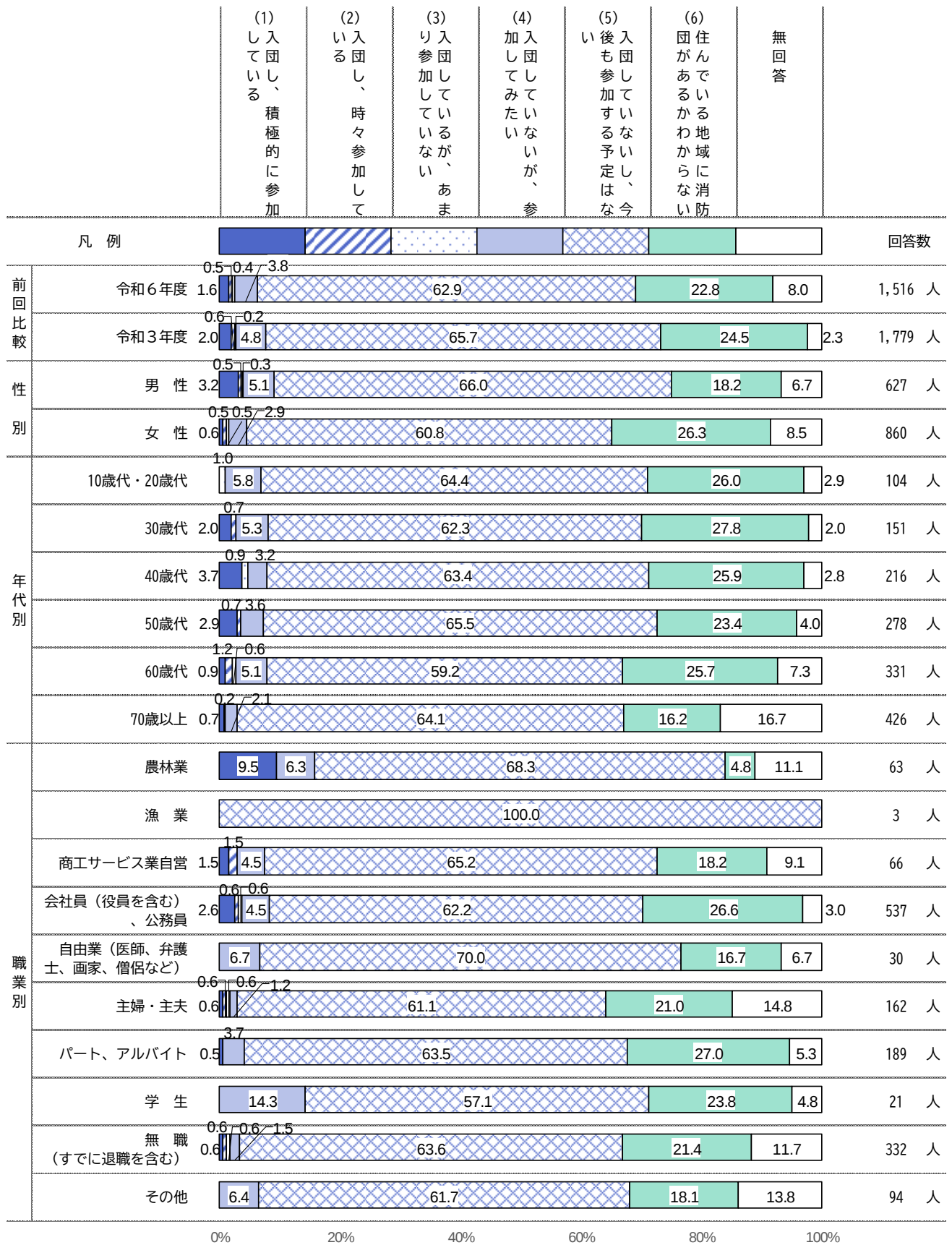
【年代別】

すべての年代で「入団していないし、今後も参加する予定はない」が最も高くなっている。

【職業別】

すべての職業で「入団していないし、今後も参加する予定はない」が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶



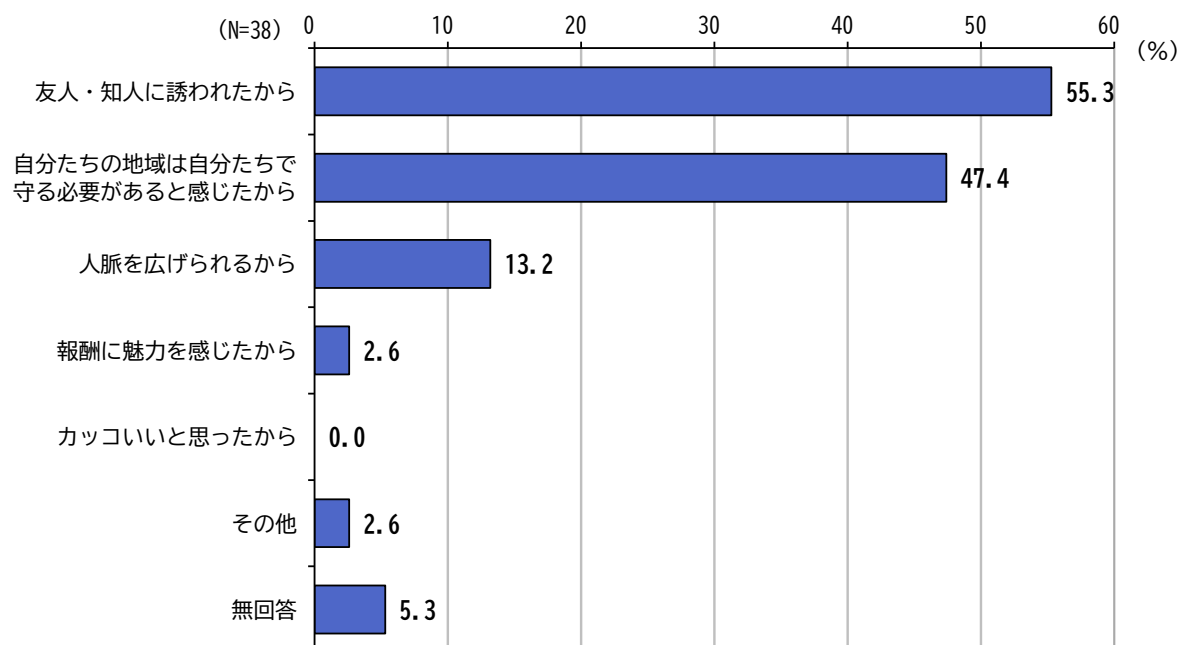
問 57 消防団に入団した理由

問57 問56で「1. 入団し、積極的に参加している」、「2. 入団し、時々参加している」、「3. 入団しているが、あまり参加していない」と回答した人におたずねします。消防団に入団している方にお聞きします。

どういった理由で入団されましたか。(当てはまるものすべてに○)

消防団に入団した理由については、「友人、知人に誘われたから」が55.3%と最も高く、次いで「自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから」47.4%、「人脈を広げられるから」13.2%と続いている。また、「カッコいいと思ったから」と答えた方は0人となっている。

《 総 合 》



【前回比較】

「友人・知人に誘われたから」55.3%は、令和3年度の65.3%より10.0ポイント減少している。

【性別】

男性では「自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから」、「友人・知人に誘われたから」が同率52.0%で最も高く、女性では「友人・知人に誘われたから」の割合が61.5%と最も高くなっている。

【年代別】

10歳代～50歳代では「友人・知人に誘われたから」の割合が最も高く、60歳代、70歳以上では「自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

会社員、公務員、主婦・主夫、パート・アルバイト、無職では「友人・知人に誘われたから」の割合が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

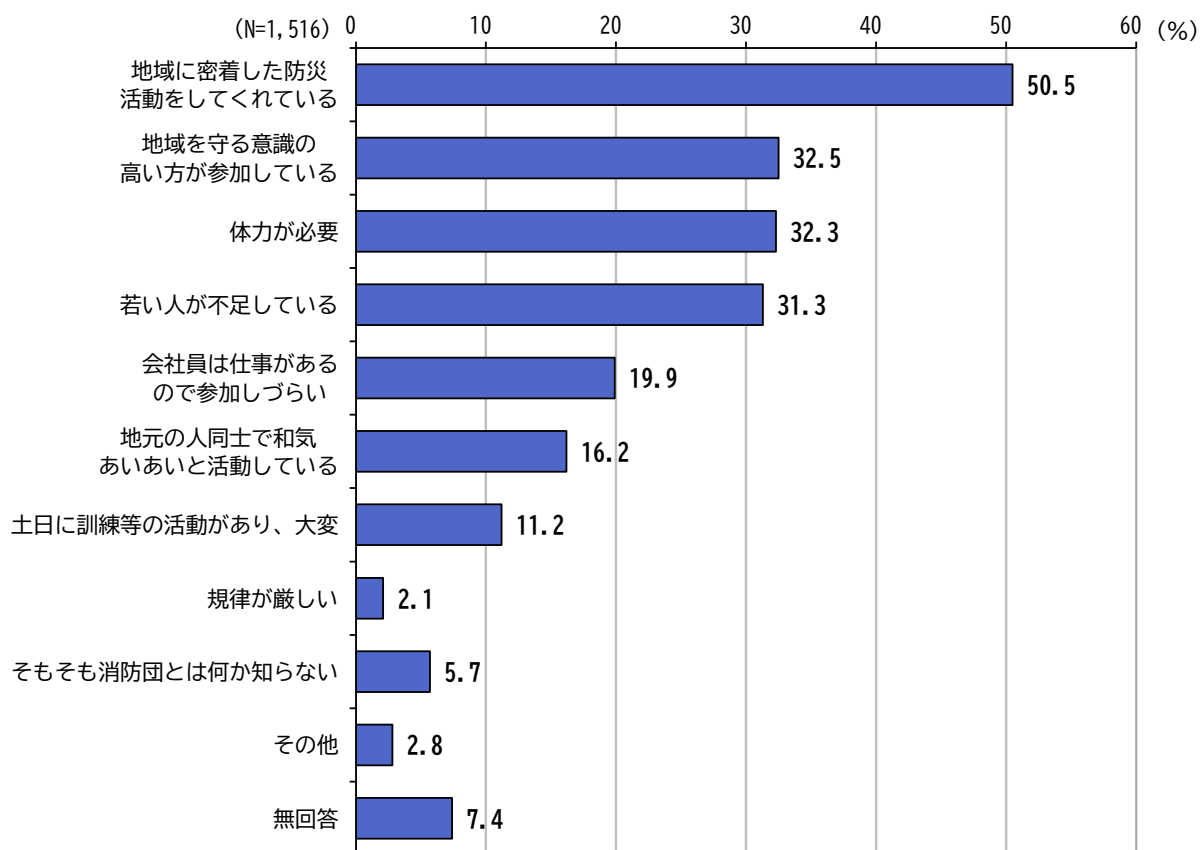
		調査数	(1) か友人・知人に誘われた	(2) と自分たちの地域は自分たちで守る必要があると感じたから	(3) 人脈を広げられるから	(4) 報酬に魅力を感じたか	(5) カッコいいと思ったか	(6) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位					
今回調査(R6)		38	55.3	47.4	13.2	2.6	-	2.6	5.3
前回調査(R3)		49	65.3	51.0	6.1	-	2.0	2.0	4.1
性別	男性	25	52.0	52.0	20.0	4.0	-	-	4.0
	女性	13	61.5	38.5	-	-	-	7.7	7.7
	回答しない	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	10歳代・20歳代	1	100.0	-	-	-	-	-	-
	30歳代	4	50.0	25.0	25.0	-	-	-	25.0
	40歳代	10	80.0	30.0	-	10.0	-	-	-
	50歳代	10	70.0	50.0	30.0	-	-	-	-
	60歳代	9	22.2	66.7	11.1	-	-	11.1	11.1
	70歳以上	4	25.0	75.0	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-
職業別	農林業	6	16.7	66.7	-	-	-	16.7	-
	漁業	-	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	2	-	50.0	-	50.0	-	-	-
	会社員(役員を含む)、公務員	20	70.0	45.0	20.0	-	-	-	5.0
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	-	-	-	-	-	-	-	-
	主婦・主夫	3	66.7	66.7	-	-	-	-	-
	パート、アルバイト	1	100.0	-	-	-	-	-	-
	学生	-	-	-	-	-	-	-	-
	無職(すでに退職を含む)	6	50.0	33.3	16.7	-	-	-	16.7
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-

問 58 どのようなイメージを持っているか

問58 消防団に対し、どのようなイメージを持っていますか。(3つまで○)

消防団に対するイメージは、「地域に密着した防災活動をしている」が50.5%と最も高く、次いで「地域を守る意識の高い方が参加している」32.5%、「体力が必要」32.3%と続いている。

《 総 合 》



【前回比較】

「体力が必要」では、令和6年度が32.3%、令和3年度が29.3%と3.0ポイント増加している。

【性別】

男女とも「地域に密着した防災活動をしてきている」の割合が最も高く、男性では「地域を守る意識の高い方が参加している」、女性では「体力が必要」と続いている。

【年代別】

すべての年代で「地域に密着した防災活動をしてきている」の割合が最も高く、中でも60歳代の57.4%が高くなっている。

【職業別】

学生を除くすべての職業で「地域に密着した防災活動をしてきている」の割合が最も高く、学生では「体力が必要」が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

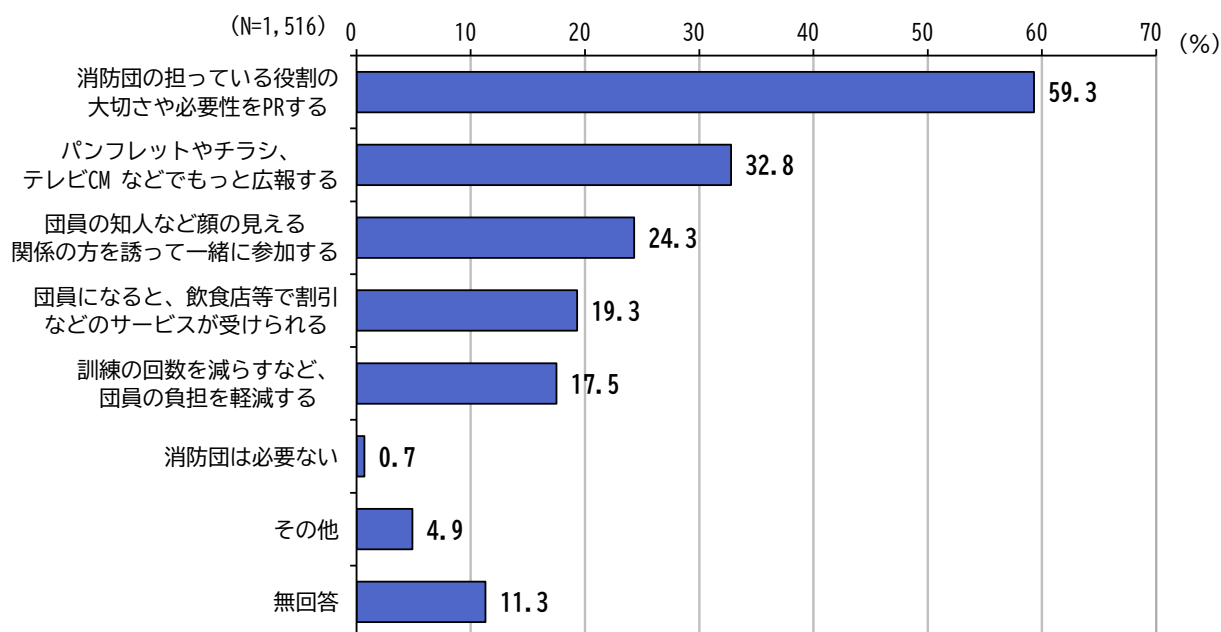
		調査数	(1) 地域に密着して 活動している	(2) 地域を守る意識 が高い	(3) 体力が必要	(4) 若い人が不足 している	(5) 会社員は仕事 がある	(6) 地元の人と活 動して和気あ る	(7) 土日に訓練等 の活動が	(8) か所周知な 消防団とは何	(9) 規律が厳しい	(10) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位									
今回調査(R6)		1,516	50.5	32.5	32.3	31.3	19.9	16.2	11.2	5.7	2.1	2.8	7.4
前回調査(R3)		1,779	51.7	34.6	29.3	31.5	25.5	21.2	13.3	8.9	1.9	2.9	3.4
性別	男性	627	50.1	34.3	29.7	32.4	23.1	18.5	13.1	5.3	2.1	1.8	7.0
	女性	860	51.0	31.7	34.1	30.5	17.7	14.7	10.1	5.9	2.2	3.5	7.4
	回答しない	18	44.4	11.1	38.9	33.3	16.7	11.1	-	11.1	-	11.1	5.6
年代別	10歳代・20歳代	104	42.3	27.9	30.8	22.1	19.2	18.3	13.5	12.5	6.7	1.9	3.8
	30歳代	151	41.1	22.5	33.8	30.5	27.2	18.5	21.9	6.6	4.6	4.6	3.3
	40歳代	216	44.0	33.3	25.9	27.8	30.1	21.3	20.4	9.7	2.8	3.2	2.3
	50歳代	278	54.7	34.2	30.2	32.0	27.7	16.9	12.9	4.0	1.4	2.9	4.3
	60歳代	331	57.4	34.4	35.0	34.4	18.7	17.5	7.6	4.5	0.9	2.1	5.4
	70歳以上	426	51.4	34.5	34.7	32.6	8.0	10.8	4.0	3.8	1.2	2.8	15.3
職業別	農林業	63	50.8	28.6	41.3	46.0	15.9	19.0	11.1	-	1.6	3.2	3.2
	漁業	3	100.0	66.7	-	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	-
	商工サービス業自営	66	53.0	30.3	27.3	24.2	18.2	30.3	9.1	4.5	1.5	1.5	9.1
	会社員(役員を含む)、公務員	537	50.8	31.3	27.6	30.4	30.9	18.4	18.1	6.1	2.2	2.8	3.5
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	53.3	50.0	40.0	36.7	16.7	23.3	3.3	-	3.3	-	3.3
	主婦・主夫	162	50.0	35.8	34.6	32.1	8.0	9.9	6.2	4.3	3.1	3.7	13.0
	パート、アルバイト	189	48.7	28.0	33.9	29.6	21.7	20.6	10.1	7.4	3.2	3.7	5.3
	学生	21	42.9	33.3	47.6	28.6	19.0	4.8	14.3	9.5	4.8	-	4.8
	無職(すでに退職を含む)	332	51.8	34.0	36.1	32.5	7.8	9.0	4.5	5.7	0.9	2.1	12.7
	その他	94	48.9	34.0	30.9	24.5	19.1	18.1	10.6	8.5	2.1	4.3	7.4

問 59 どうすれば興味を持ってもらえると思うか

問59 どうすれば消防団に興味を持ってもらえると思いますか。(3つまで○)

消防団に興味を持ってもらうための方法については、「消防団の担っている役割の大切さや必要性をPR する」が59.3%と最も高く、次いで「パンフレットやチラシ、テレビ CM などでもっと広報する」32.8%、「団員の知人など顔の見える関係の方を誘って一緒に参加する」24.3%と続いている。

《 総 合 》



【前回比較】

令和6年度と令和3年度と同じ傾向で、大きな差は見られない。

【性別】

男女とも同じ傾向で、性別に大きな差は見られない。

【年代別】

すべての年代で「消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

漁業を除くすべての職業で「消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする」の割合が最も高く、漁業では「団員になると、飲食店等で割引などのサービスが受けられる」が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする割合	(2) 消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする割合	(3) 消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする割合	(4) 消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする割合	(5) 消防団の担っている役割の大切さや必要性をPRする割合	(6) 消防団は必要ない	(7) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位	2位						
今回調査(R6)		1,516	59.3	32.8	24.3	19.3	17.5	0.7	4.9	11.3
前回調査(R3)		1,779	63.2	35.0	26.0	22.0	17.8	1.5	5.6	5.5
性別	男性	627	59.5	31.7	23.6	21.4	18.5	1.3	4.9	10.5
	女性	860	59.8	34.2	25.0	17.7	16.7	0.1	5.0	11.5
	回答しない	18	50.0	27.8	22.2	22.2	16.7	11.1	5.6	5.6
年代別	10歳代・20歳代	104	54.8	39.4	19.2	33.7	27.9	1.9	3.8	4.8
	30歳代	151	45.7	29.8	21.9	32.5	27.2	2.0	8.6	4.0
	40歳代	216	60.6	28.2	25.9	29.6	19.4	0.9	5.1	6.9
	50歳代	278	61.5	31.7	22.3	15.5	22.7	0.4	5.8	7.6
	60歳代	331	66.2	34.4	29.0	15.4	13.9	0.9	4.2	9.1
	70歳以上	426	58.5	35.0	23.5	11.3	9.9	-	4.0	21.1
職業別	農林業	63	66.7	31.7	25.4	14.3	20.6	-	1.6	12.7
	漁業	3	33.3	33.3	-	66.7	-	-	-	-
	商工サービス業自営	66	43.9	19.7	24.2	18.2	12.1	4.5	7.6	16.7
	会社員(役員を含む)、公務員	537	59.8	32.8	23.1	27.6	23.1	0.4	5.6	6.1
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	53.3	36.7	33.3	26.7	16.7	-	3.3	13.3
	主婦・主夫	162	63.0	32.7	29.0	10.5	14.2	-	2.5	14.2
	パート、アルバイト	189	58.7	36.0	25.4	17.5	19.6	0.5	5.8	10.6
	学生	21	52.4	28.6	14.3	28.6	28.6	9.5	-	4.8
	無職(すでに退職を含む)	332	59.9	35.2	22.9	12.0	10.2	0.6	4.2	16.3
	その他	94	61.7	33.0	25.5	12.8	13.8	-	8.5	13.8

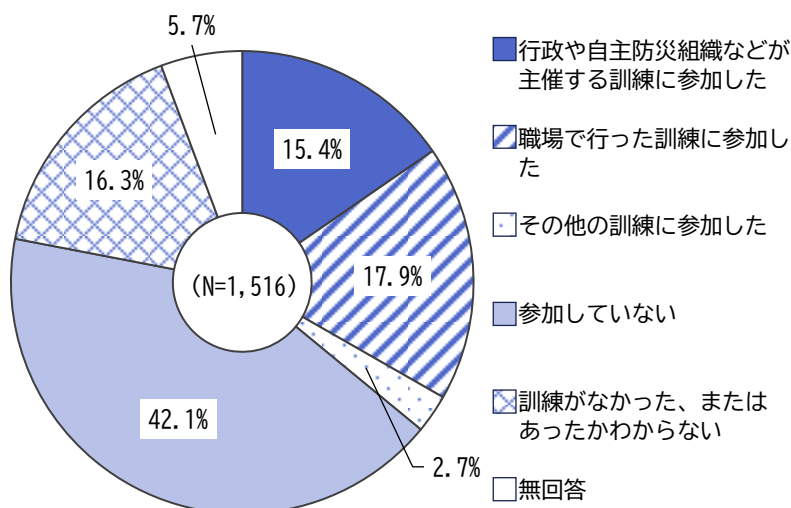
(9) 地域の防災力について

問 60 地域や職場の地震防災訓練への参加状況

問60 過去1年間に地域や職場の地震防災訓練に参加したことがありますか。(ひとつだけ○)

地域や職場の地震防災訓練への参加状況は、「参加していない」が42.1%と最も高く、次いで「職場で行った訓練に参加した」17.9%、「訓練がなかった、またはあったかわからない」16.3%と続いており、何らかの訓練に参加したと回答した人の割合は40%に満たない。

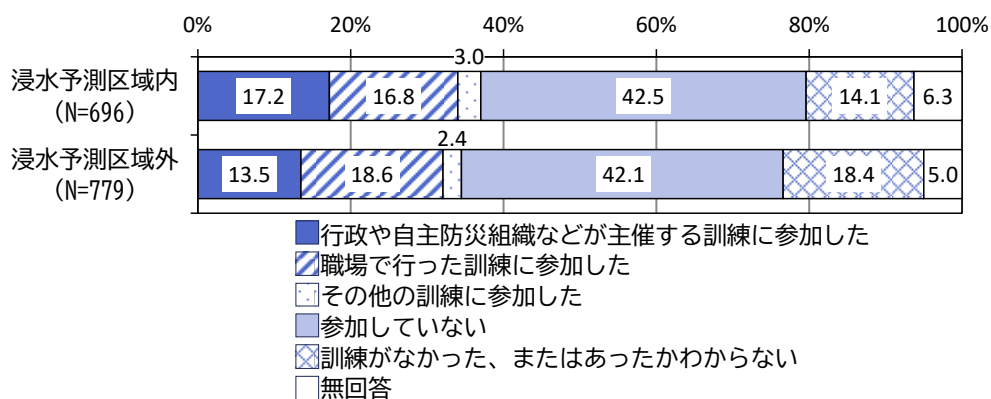
《 総 合 》



【浸水予測区域別】

「行政や自主防災組織などが主催する訓練に参加した」は浸水予測区域内が17.2%、浸水予測区域外が13.5%と浸水予測区域内が3.7ポイント高く、「職場で行った訓練に参加した」は、浸水予測区域内が16.8%、浸水予測区域外が18.6%と浸水予測区域外が1.8ポイント高い。

《 浸水予測区域別 》



【前回比較】

令和6年度と令和3年度は同じ傾向で、大きな差は見られない。

【性別】

何らかの訓練に参加したと回答した人の割合は、男性38.3%、女性34.4%と男性の方が3.9ポイント高くなっている。

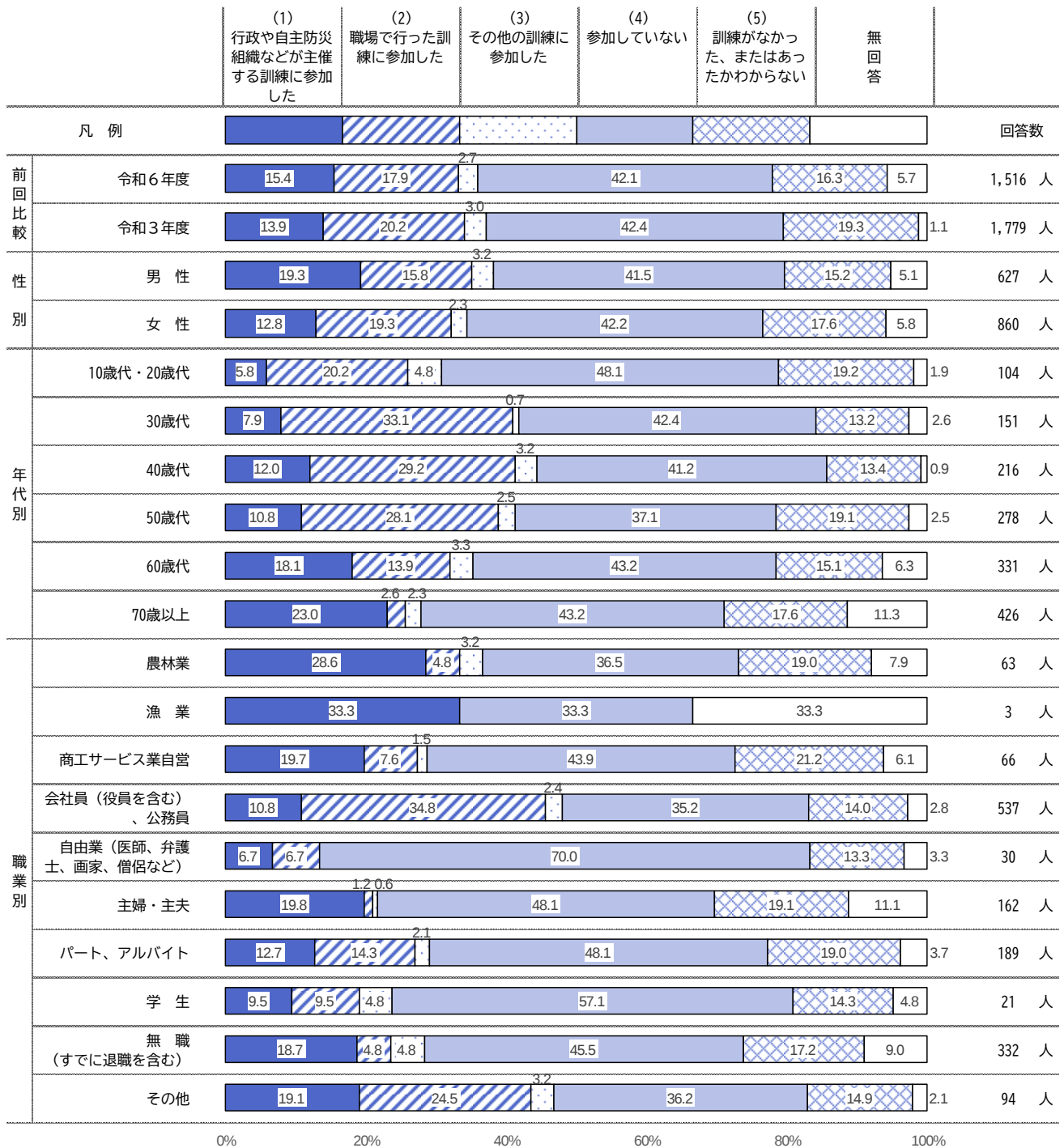
【年代別】

「行政や自主防災組織などが主催する訓練に参加した」は年代が上がるほど割合も高くなっている。30歳代、40歳代、50歳代は、何らかの訓練に参加したと回答した人の割合が他の年代に比べて高い。

【職業別】

「行政や自主防災組織などが主催する訓練に参加した」は漁業が、「職場で行った訓練に参加した」は会社員、公務員、が、「参加していない」は自由業が、他の職業より高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年齢別・職業別 ▶

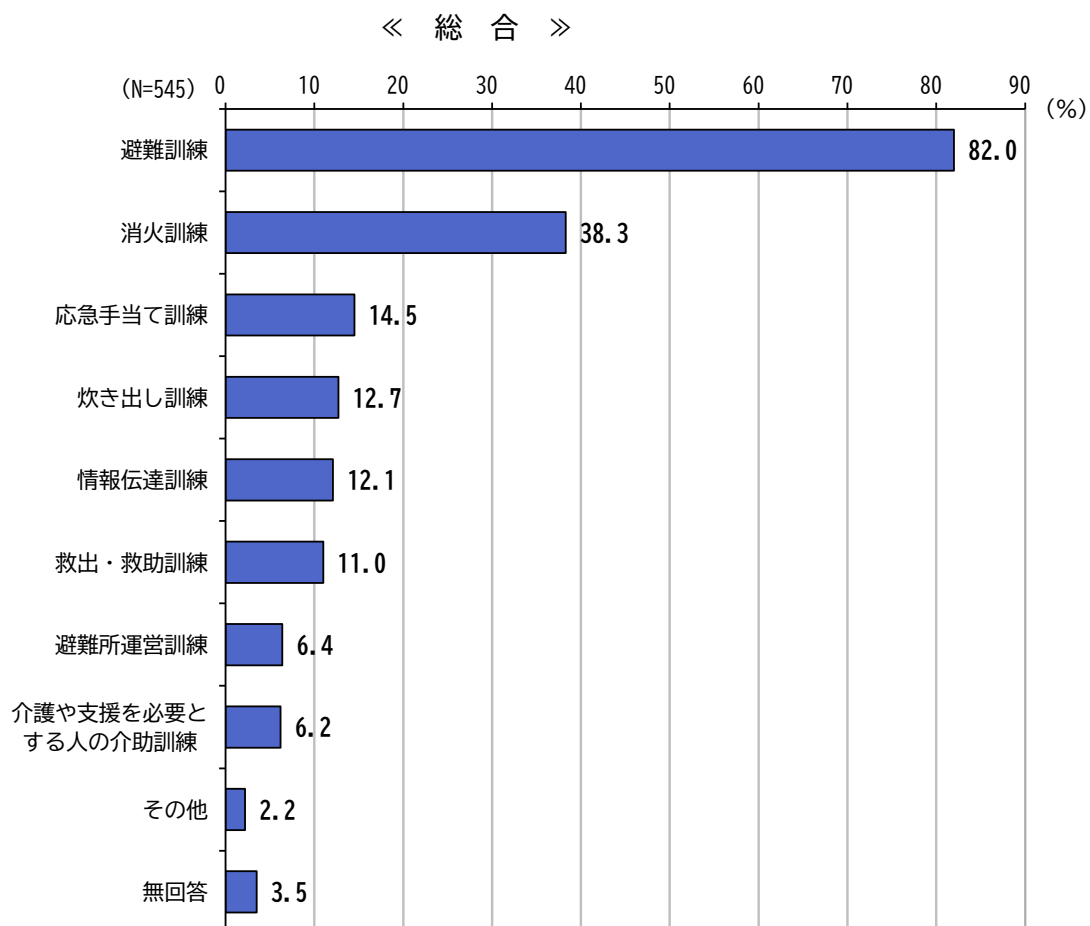


問 61 どのような訓練に参加したか

問61 問60で「1. 行政や自主防災組織などが主催する訓練に参加した」、「2. 職場で行った訓練に参加した」、「3. その他の訓練に参加した」と回答した人におたずねします。

具体的にはどのような訓練に参加しましたか。(当てはまるものすべてに○)

参加した訓練の内容は、「避難訓練」が82.0%と最も高く、次いで「消火訓練」38.3%、「応急手当て訓練」14.5%と続いている。



【前回比較】

令和6年度は、令和3年度と比べて、「消火訓練」の割合が7.7ポイント減少している。

【性別】

男女とも「避難訓練」の割合が最も高く、男性86.3%、女性78.7となっており、男性の方が7.6ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「避難訓練」の割合が最も高く、中でも40歳代で84.4%と高くなっている。

【職業別】

すべての職業で「避難訓練」の割合が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 避難訓練	(2) 消火訓練	(3) 応急手当 訓練	(4) 炊き出し 訓練	(5) 情報伝達 訓練	(6) 救出・救 助訓練	(7) 避難所運 営訓練	(8) 介護や支 援を必要 とする	(9) その他	無回答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝												
			1位									
			2位									
今回調査(R6)		545	82.0	38.3	14.5	12.7	12.1	11.0	6.4	6.2	2.2	3.5
前回調査(R3)		661	84.9	46.0	18.2	14.4	11.6	12.7	7.0	5.3	1.8	1.1
性別	男性	240	86.3	38.8	16.7	12.5	15.4	16.3	9.2	6.3	1.7	2.9
	女性	296	78.7	37.8	12.5	12.8	9.8	6.8	4.4	6.4	2.7	4.1
	回答しない	5	100.0	20.0	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	10歳代・20歳代	32	78.1	34.4	15.6	3.1	12.5	6.3	6.3	6.3	-	6.3
	30歳代	63	84.1	41.3	17.5	9.5	9.5	11.1	6.3	7.9	4.8	4.8
	40歳代	96	84.4	37.5	12.5	8.3	11.5	8.3	6.3	4.2	4.2	1.0
	50歳代	115	80.0	41.7	13.0	13.9	20.0	13.0	7.0	7.0	1.7	7.0
	60歳代	117	83.8	35.9	15.4	12.8	15.4	9.4	7.7	9.4	0.9	0.9
	70歳以上	119	81.5	37.0	14.3	18.5	3.4	14.3	5.0	3.4	1.7	3.4
職業別	農林業	23	69.6	21.7	-	13.0	-	4.3	8.7	-	-	8.7
	漁業	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	商工サービス業自営	19	89.5	26.3	10.5	15.8	10.5	10.5	5.3	21.1	-	-
	会社員(役員を含む)、公務員	258	84.9	40.7	14.7	8.9	16.3	11.6	6.6	6.6	2.7	2.7
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	4	50.0	50.0	25.0	-	-	-	-	-	-	-
	主婦・主夫	35	74.3	37.1	14.3	25.7	5.7	5.7	8.6	-	2.9	-
	パート、アルバイト	55	81.8	36.4	10.9	14.5	9.1	9.1	1.8	1.8	-	5.5
	学生	5	100.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-	20.0	20.0	-	-
	無職(すでに退職を含む)	94	79.8	36.2	10.6	16.0	6.4	13.8	5.3	4.3	1.1	3.2
	その他	44	84.1	45.5	31.8	13.6	18.2	13.6	11.4	15.9	6.8	6.8

問 62 どうすれば参加人数が増えると思うか

問62 地域や職場の地震に関する防災訓練に、どうすれば参加する人が増えると思いますか。

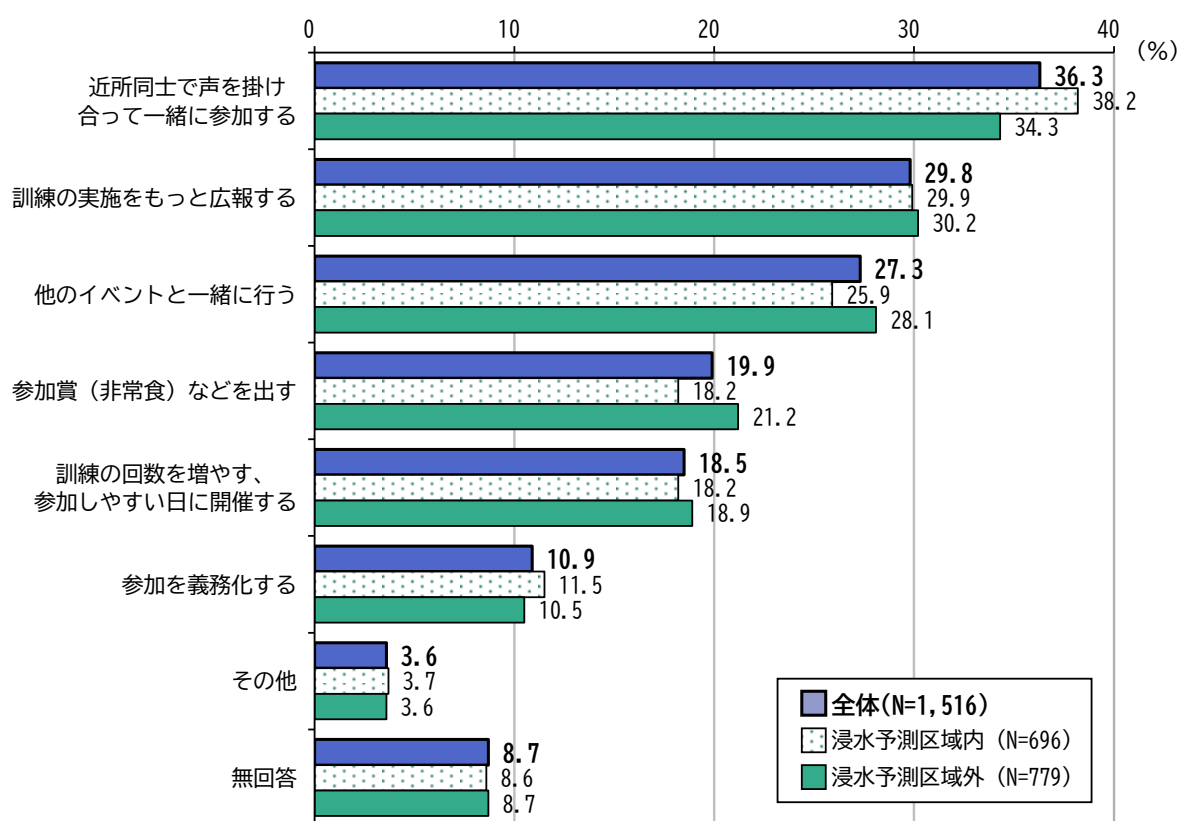
(2つまで○)

防災訓練に参加する人を増やす方法は、「近所同士で声を掛け合って一緒に参加する」が36.3%と最も高く、次いで「訓練の実施をもっと広報する」29.8%、「他のイベントと一緒にやる」27.3%と続いている。

【浸水予測区域別】

「近所同士で声を掛け合って一緒に参加する」は、浸水予測区域内が38.2%、浸水予測区域外が34.3%と、浸水予測区域内の方が3.9ポイント高くなっている。

＜ 総合・浸水予測区域別 ＞



【前回比較】

令和6年度と令和3年度は同じ傾向で、大きな差は見られない。

【性別】

男女ともに「総合」と同じ傾向で、性別による差もほとんどない。

【年代別】

10歳代・20歳代、30歳代では「参加賞（非常食）などを出す」、40歳代、50歳代では「他のイベントと一緒にいる」、60歳代、70歳以上では「近所同士で声を掛け合っ一緒に参加する」の割合が最も高くなっている。

【職業別】

農林業、漁業、商工サービス業自営、主婦・主夫、無職、その他では「近所同士で声を掛け合っ一緒に参加する」の割合が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 合近 つ所 て同 士 緒で 声に 参を 加掛 ける	(2) 報訓 す練 るの 実 施を も つと 広	(3) 行他 うの イ ベ ン トと 一 緒に	(4) を参 加賞 （非 常食 ）な ど	(5) す参 加練 しの 回 数 い を 日 増 に や 開 す 催	(6) 参加 を義 務化 する	(7) その他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝										
			1 位							
			2 位							
今回調査(R6)		1,516	36.3	29.8	27.3	19.9	18.5	10.9	3.6	8.7
前回調査(R3)		1,779	37.3	30.1	29.4	23.4	20.5	15.5	2.9	4.0
性別	男性	627	38.9	32.7	26.5	18.7	18.0	9.9	2.6	8.6
	女性	860	35.0	28.1	27.9	20.6	19.1	11.5	4.1	8.7
	回答しない	18	5.6	22.2	38.9	22.2	5.6	11.1	16.7	5.6
年代別	10歳代・20歳代	104	15.4	26.9	32.7	39.4	26.9	20.2	2.9	3.8
	30歳代	151	23.2	19.9	33.8	40.4	23.8	12.6	2.6	4.6
	40歳代	216	25.0	30.1	37.5	26.4	21.8	13.0	3.7	4.2
	50歳代	278	32.4	29.5	36.0	21.2	22.7	7.6	4.7	5.8
	60歳代	331	40.8	36.3	22.1	12.4	18.4	10.9	2.1	9.1
	70歳以上	426	50.9	29.3	17.1	9.2	10.3	8.9	4.5	15.3
職業別	農林業	63	52.4	22.2	22.2	6.3	11.1	6.3	1.6	14.3
	漁業	3	33.3	33.3	33.3	-	-	33.3	-	33.3
	商工サービス業自営	66	39.4	31.8	18.2	18.2	18.2	7.6	1.5	6.1
	会社員(役員を含む)、公務員	537	25.5	30.7	35.0	26.4	23.8	11.9	3.2	5.4
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	33.3	26.7	36.7	30.0	13.3	23.3	3.3	6.7
	主婦・主夫	162	48.1	32.7	19.8	11.1	10.5	12.3	2.5	11.1
	パート、アルバイト	189	29.1	30.7	27.0	24.9	23.8	11.6	3.2	7.9
	学生	21	9.5	9.5	23.8	57.1	33.3	19.0	-	4.8
	無職(すでに退職を含む)	332	48.2	28.9	21.7	11.1	11.7	7.5	4.5	14.2
	その他	94	44.7	33.0	24.5	14.9	18.1	9.6	9.6	4.3

問 63 地域の防災力を高めるためにはどのようなことが必要か

問63 あなたがお住まいの地域の防災力を高めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

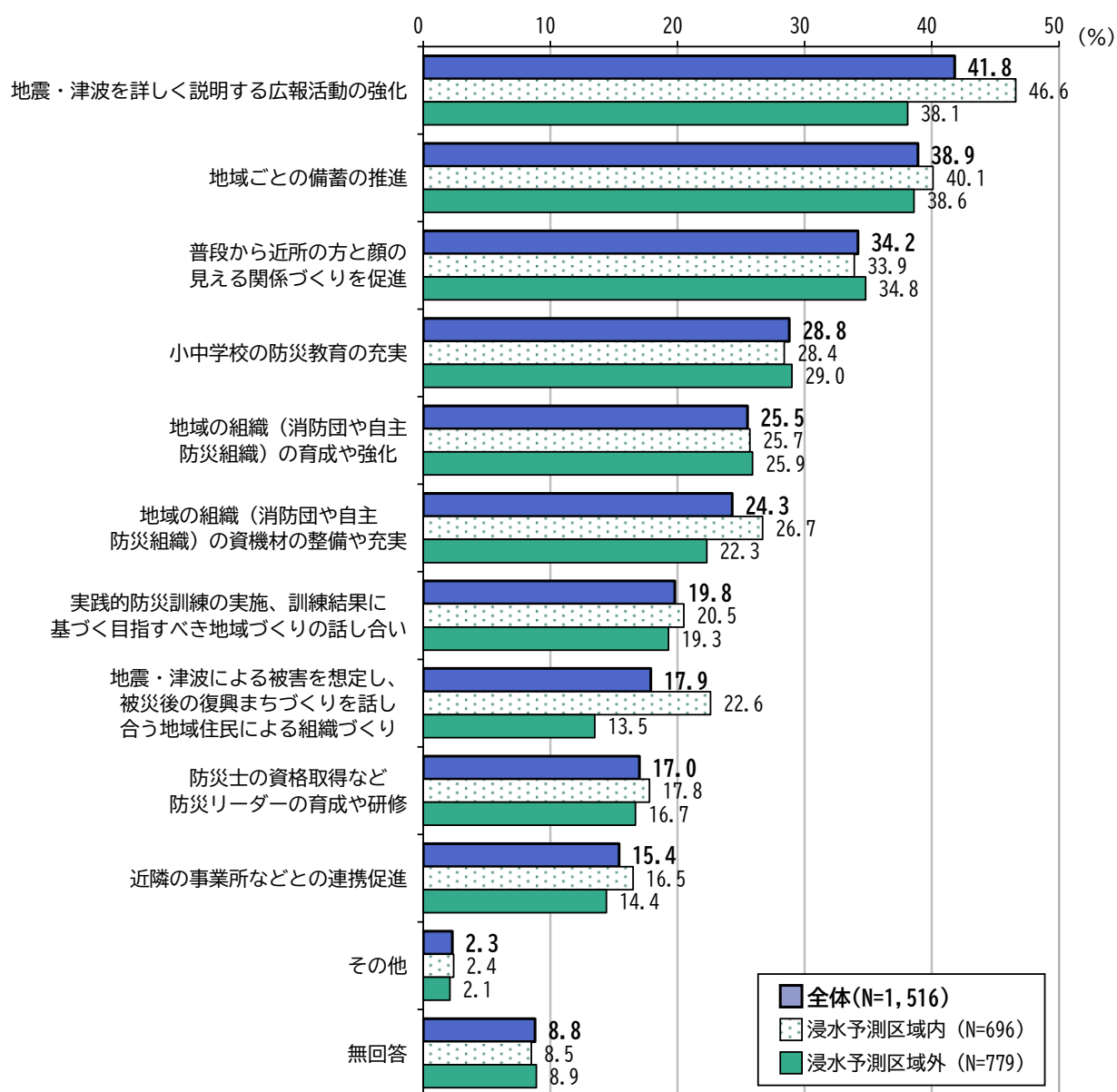
(当てはまるものすべてに○)

地域の防災力を高めるために必要なこと、「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」が41.8%と最も高く、次いで「地域ごとの備蓄の推進」38.9%、「普段から近所の方と顔の見える関係づくりを促進」34.2%と続いている。

【浸水予測区域別】

「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」の割合が、浸水予測区域内46.6%、浸水予測区域外38.1%と8.5ポイント、「地震・津波による被害を想定し、被災後の復興まちづくりを話し合う地域住民による組織づくり」は浸水予測区域内22.6%、浸水予測区域外13.5%と9.1ポイント差がある。

≪ 総合・浸水予測区域別 ≫



【前回比較】

令和6年度は、「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」が5.0ポイント減少し、「地域ごとの備蓄と推進」が2.5ポイント増加している。

【性別】

男性では「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」45.0%が最も高く、女性では「地域ごとの備蓄と推進」42.3%が最も高くなっている。

【年代別】

40歳代、70歳以上を除くすべての年代で「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」の割合が最も高く、40歳代では「地域ごとの備蓄と推進」46.3%、70歳以上では「普段から近所の方と顔の見える関係づくりの促進」39.9%が最も高くなっている。

【職業別】

農林業、漁業、会社員、公務員、パート・アルバイト、学生、その他では「地震・津波を詳しく説明する広報活動の強化」の割合が最も高く、商工サービス業自営、自由業では「地域ごとの備蓄と推進」、主婦・主夫、無職では「普段から近所の方と顔の見える関係づくりの促進」の割合が最も高くなっている。

≪ 前回比較・性別・年代別・職業別 ≫

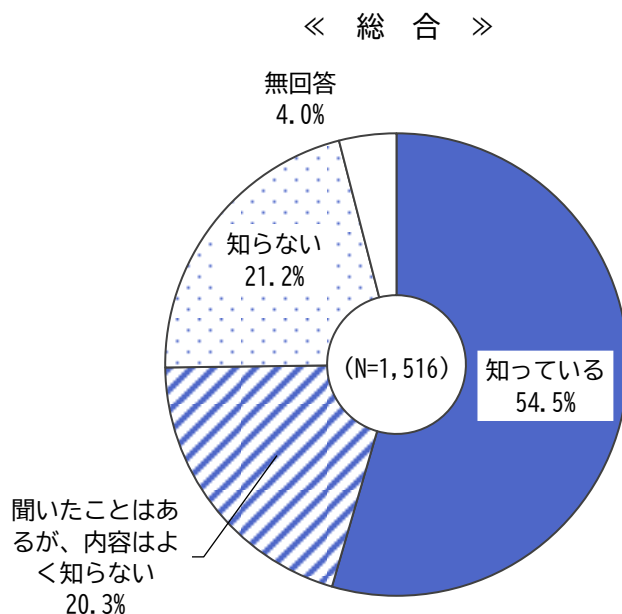
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)		
		調査 数	地震・津波を詳しく説明する広報活 動の強化	地域ごとの備蓄の推進	普段から近所の方と顔の見える関係 づくりを促進	小中学校の防災教育の充実	地域の組織（消防団や自主防災組 織）の育成や強化	地域の組織（消防団や自主防災組 織）の資機材の整備や充実	実践的防災訓練の実施、訓練の結果に 基づく目指すべき地域づくりの話し 合い	被災後の復興まちづくりを話し合う、地 域住民による組織づくり	防災士の資格取得など防災リーダー の育成や研修	近隣の事業所などとの連携促進	その他	無回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位											
			2位											
今回調査(R6)		1,516	41.8	38.9	34.2	28.8	25.5	24.3	19.8	17.9	17.0	15.4	2.3	8.8
前回調査(R3)		1,779	46.8	36.4	36.8	35.5	28.8	24.3	17.4	20.0	18.1	15.9	2.2	3.8
性別	男性	627	45.0	34.8	31.6	26.8	29.0	26.0	20.9	16.6	16.3	14.7	1.6	8.9
	女性	860	39.4	42.3	37.0	30.2	23.3	23.1	19.1	19.3	17.6	16.3	2.8	8.5
	回答しない	18	50.0	27.8	5.6	33.3	22.2	27.8	16.7	5.6	11.1	5.6	5.6	5.6
年代別	10歳代・20歳代	104	50.0	47.1	24.0	33.7	24.0	24.0	15.4	23.1	25.0	19.2	1.9	2.9
	30歳代	151	43.0	41.7	24.5	38.4	17.9	23.8	15.9	17.2	15.2	15.9	2.6	4.6
	40歳代	216	44.0	46.3	33.3	38.0	21.3	25.0	16.7	19.9	20.4	19.9	1.9	3.2
	50歳代	278	43.5	38.1	31.3	30.2	25.9	24.1	21.9	17.3	15.8	18.7	2.5	5.8
	60歳代	331	44.4	38.1	38.1	26.0	31.4	28.7	21.1	17.8	16.9	16.9	2.4	8.5
	70歳以上	426	35.2	33.6	39.9	20.9	26.3	21.1	21.4	16.7	14.6	8.9	2.3	16.4
職業別	農林業	63	36.5	28.6	36.5	19.0	31.7	31.7	15.9	7.9	6.3	4.8	3.2	11.1
	漁業	3	66.7	-	33.3	-	33.3	33.3	-	-	-	-	-	33.3
	商工サービス業自営	66	40.9	42.4	28.8	21.2	22.7	19.7	19.7	16.7	13.6	16.7	3.0	15.2
	会社員(役員を含む)、公務員	537	44.7	40.0	27.7	35.0	23.5	24.8	19.9	18.1	17.3	17.5	1.7	5.2
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	40.0	46.7	40.0	23.3	30.0	16.7	23.3	20.0	13.3	16.7	3.3	10.0
	主婦・主夫	162	39.5	34.0	43.2	24.7	22.2	19.8	18.5	21.6	13.6	11.1	1.2	11.7
	パート、アルバイト	189	48.1	42.9	38.6	33.9	25.9	26.5	18.5	22.2	18.0	20.6	2.6	5.3
	学生	21	42.9	33.3	33.3	33.3	23.8	19.0	33.3	19.0	19.0	9.5	4.8	4.8
	無職(すでに退職を含む)	332	34.0	37.7	38.0	21.4	29.5	25.0	21.4	15.4	17.8	11.7	2.7	14.8
	その他	94	47.9	43.6	31.9	29.8	25.5	26.6	17.0	18.1	26.6	20.2	4.3	3.2

(10) 南海トラフ地震に関連する情報（臨時）について

問 64 南海トラフ地震臨時情報が発表されることを知っているか

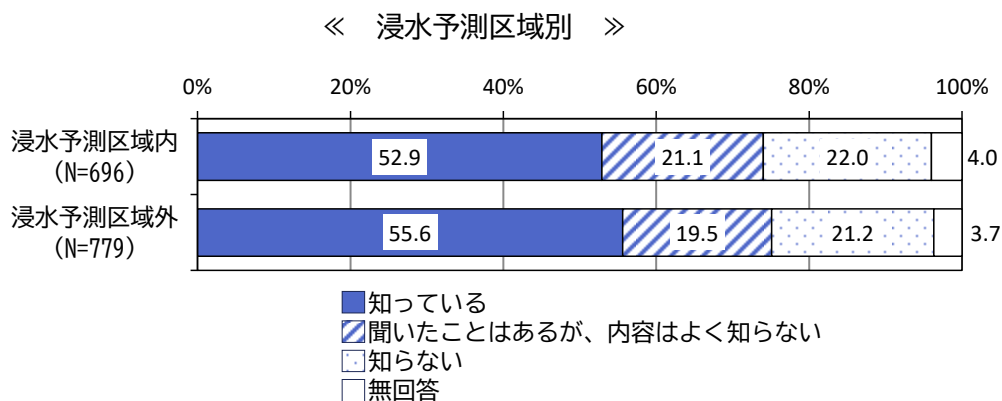
問64 「南海トラフ地震臨時情報」が発表されることについて、ご存知でしたか。（ひとつだけ○）

南海トラフ地震臨時情報が発表されることについては、「知っている」が54.5%と最も高く、次いで「知らない」21.2%、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」20.3%となっている。



【浸水予測区域別】

「知っている」は浸水予測区域内で52.9%、浸水予測区域外で55.6%と、浸水予測区域内の方が低い割合となっている。



【前回比較】

令和6年度は、「知っている」が、令和3年度の20.3%より34.2ポイント増加しており、認知度が高くなっている。

【性別】

男女とも同じ傾向で、性別に差は見られない。

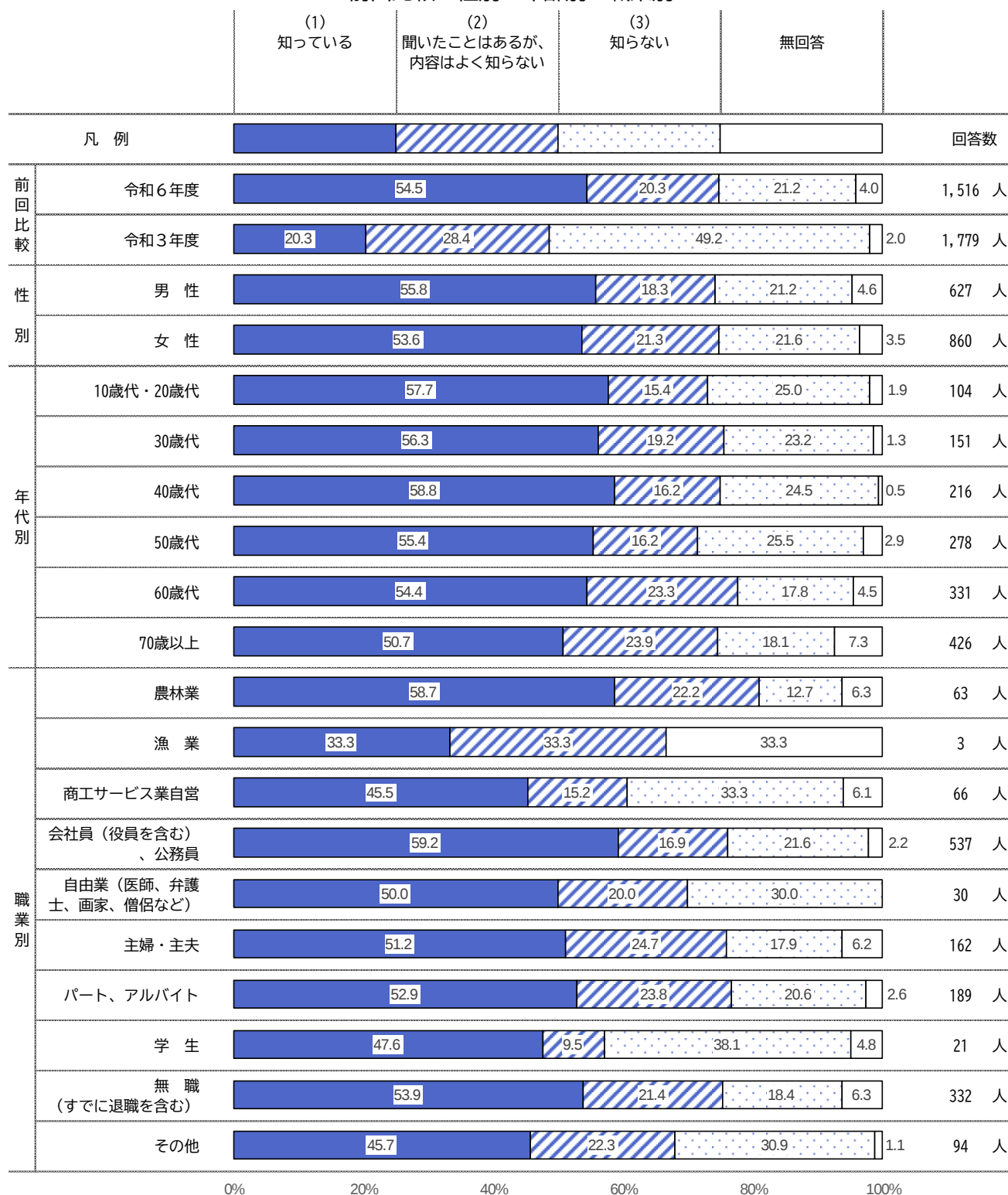
【年代別】

すべての年代で「知っている」の割合が50%を超えて、最も高くなっている。

【職業別】

会社員、公務員では「知っている」の割合が59.2%と他の職業より高くなっている。

＜前回比較・性別・年齢別・職業別＞

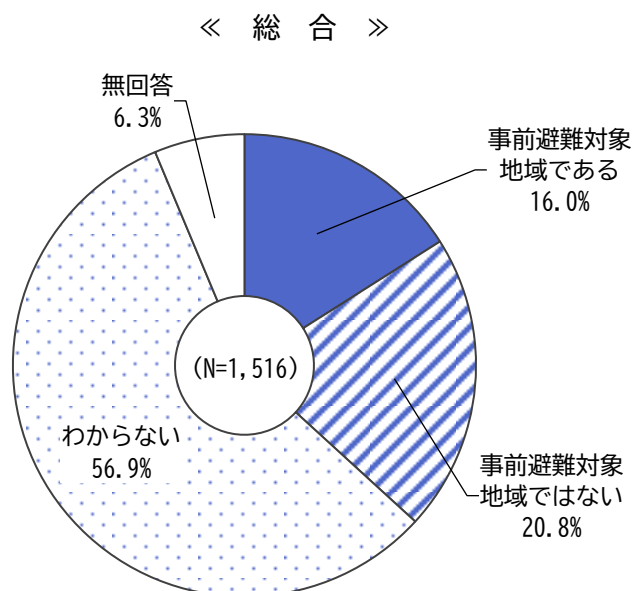


問 65 事前避難対象地域かどうか

問65 県内の各市町村では、南海トラフ地震臨時情報が発表された場合に、地震・津波の発生に備えるため、住民に対して事前の避難を呼びかける地域（事前避難対象地域）を設定しています。

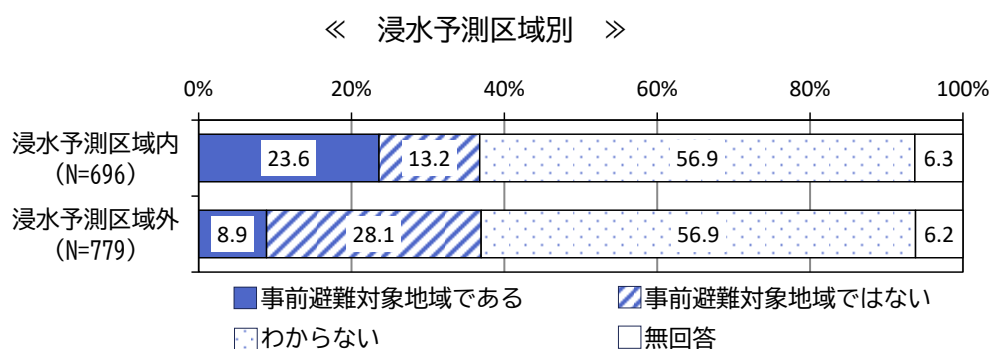
お住まいの地域は、事前避難対象地域ですか。（ひとつだけ○）

事前避難対象地域かどうかについては、「わからない」が56.9%と最も高く、次いで「事前避難対象地域ではない」20.8%、「事前避難対象地域である」16.0%となっている。



【浸水予測区域別】

両方の区域で、「わからない」が50%を超えている。



【前回比較】

「事前避難対象地域である」16.0%は、令和3年度より4.5ポイント増加している。

【性別】

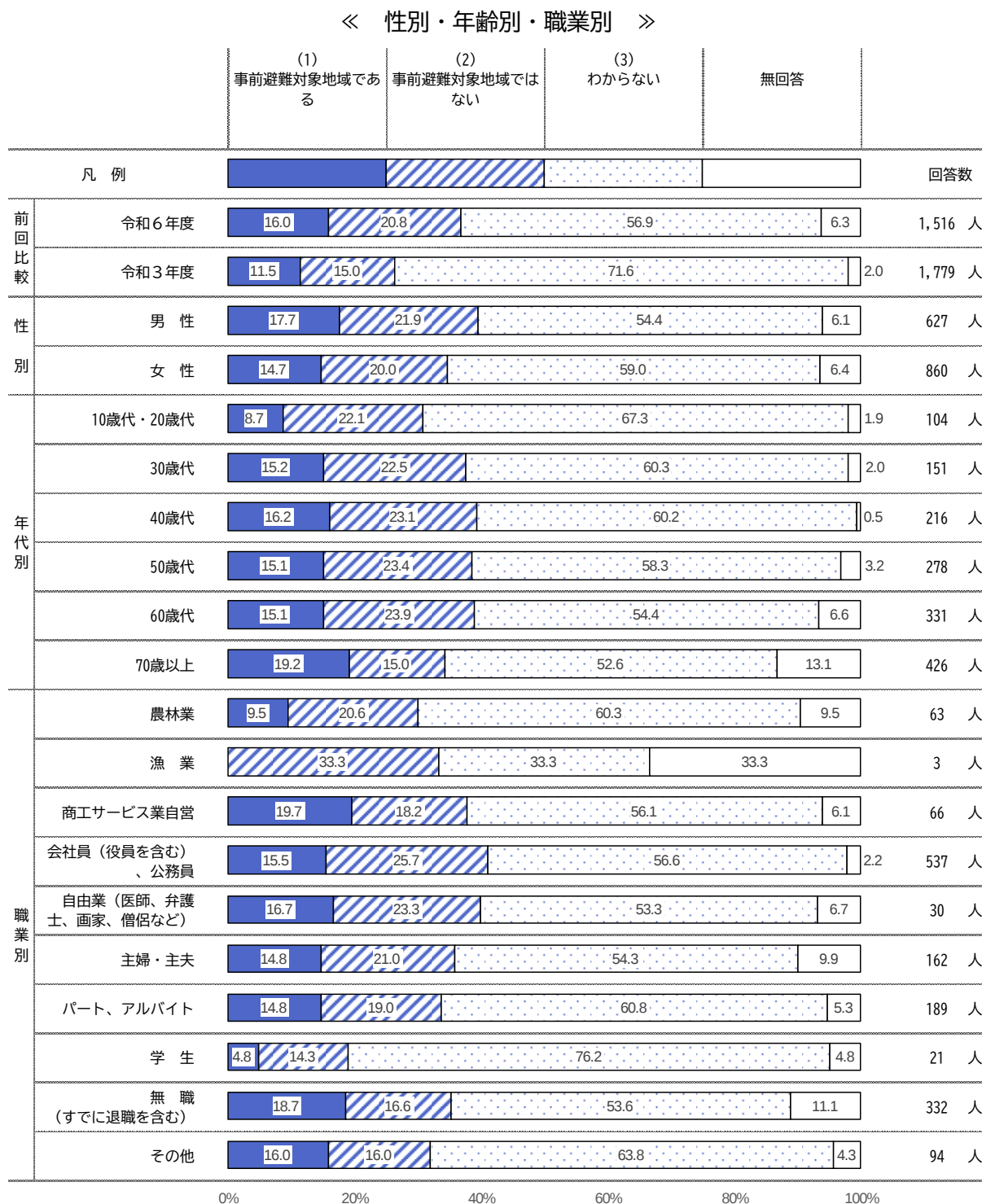
「わからない」は、男性54.4%、女性59.0%と女性の方が4.6ポイント高い。

【年代別】

年代が低いほど「わからない」と回答した人の割合が高い傾向にある。

【職業別】

すべての職業で、「わからない」が最も高く、中でも学生は76.2%と、他の職業より高い割合となっている。



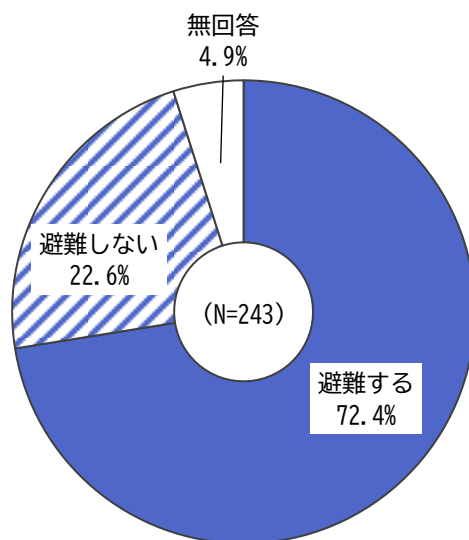
問 66 市町村から事前避難の呼びかけがあった場合、事前避難を行うか

問66 問65で「1 事前避難対象地域である」と回答した人におたずねします。

南海トラフ地震臨時情報が発表され、市町村から事前の避難の呼びかけがあった場合、事前避難を実施しますか。(ひとつだけ○)

南海トラフ地震臨時情報の発表により事前の避難の呼びかけがあった場合の事前避難の実施については、「避難する」が72.4%で「避難しない」は22.6%だった。

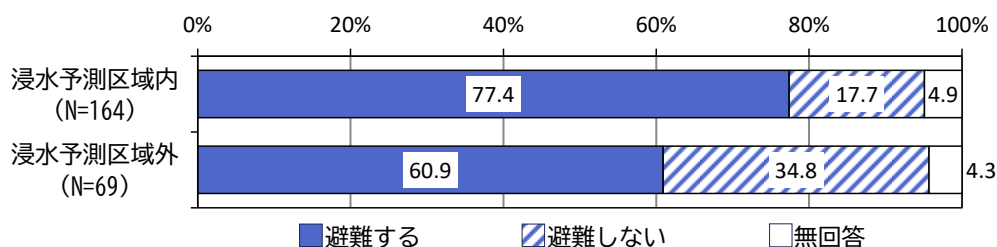
＜ 総 合 ＞



【浸水予測区域別】

「避難する」と回答した人は、浸水予測区域内が77.4%、浸水予測区域外が60.9%と浸水予測区域内の方が16.5ポイント高い。

＜ 浸水予測区域別 ＞



※浸水予測区域不明 10 名を除く

【性別】

「避難する」72.4%は、令和3年度の90.2%より17.8ポイント減少している。

【性別】

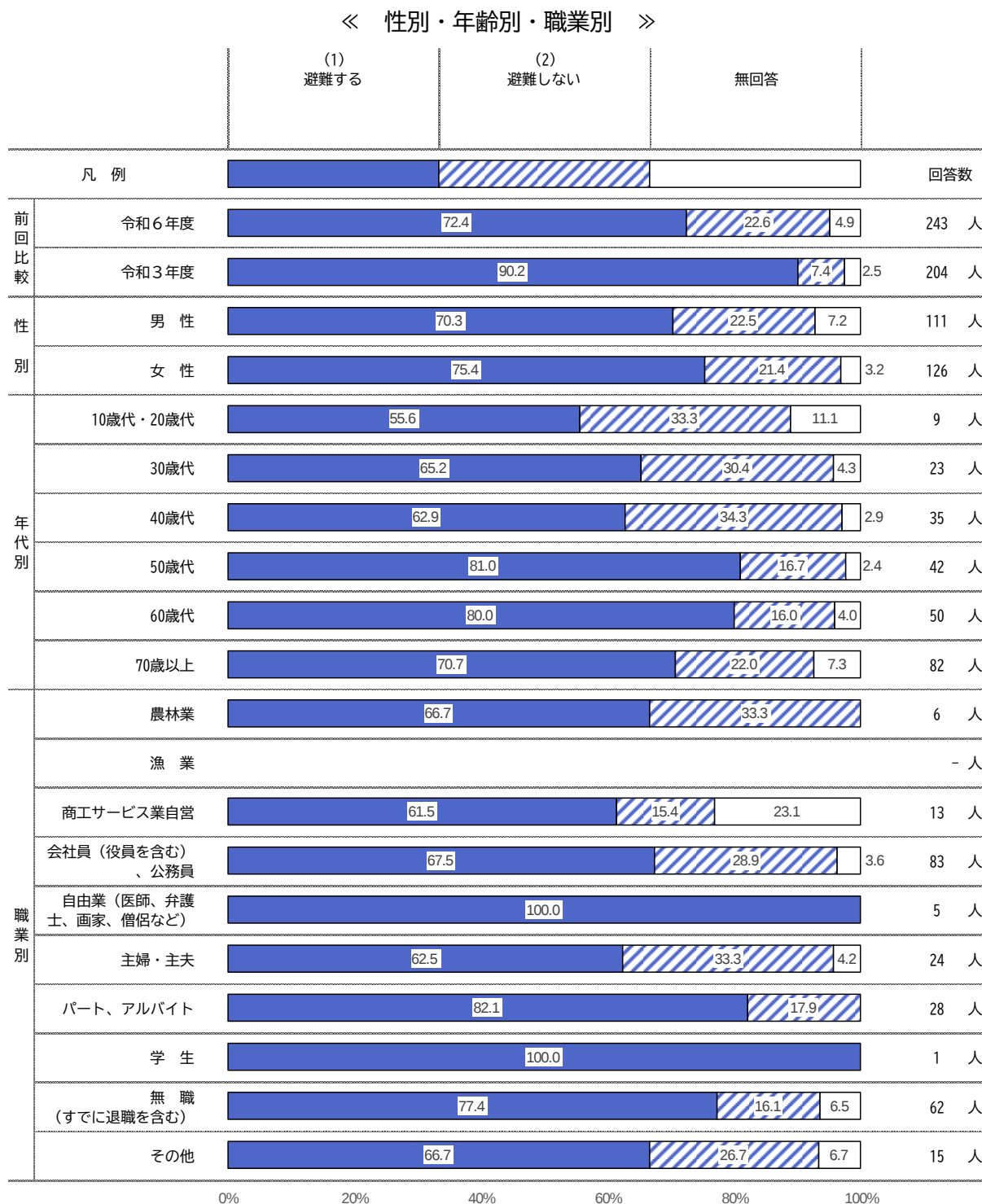
男女ともに「総合」と同じ傾向で、性別による差もほとんどない。

【年代別】

10歳代・20歳代、30歳代、40歳代では「避難しない」の割合が30%を超えている。

【職業別】

農林業、主婦・主夫では「避難しない」の割合が30%を超えている。



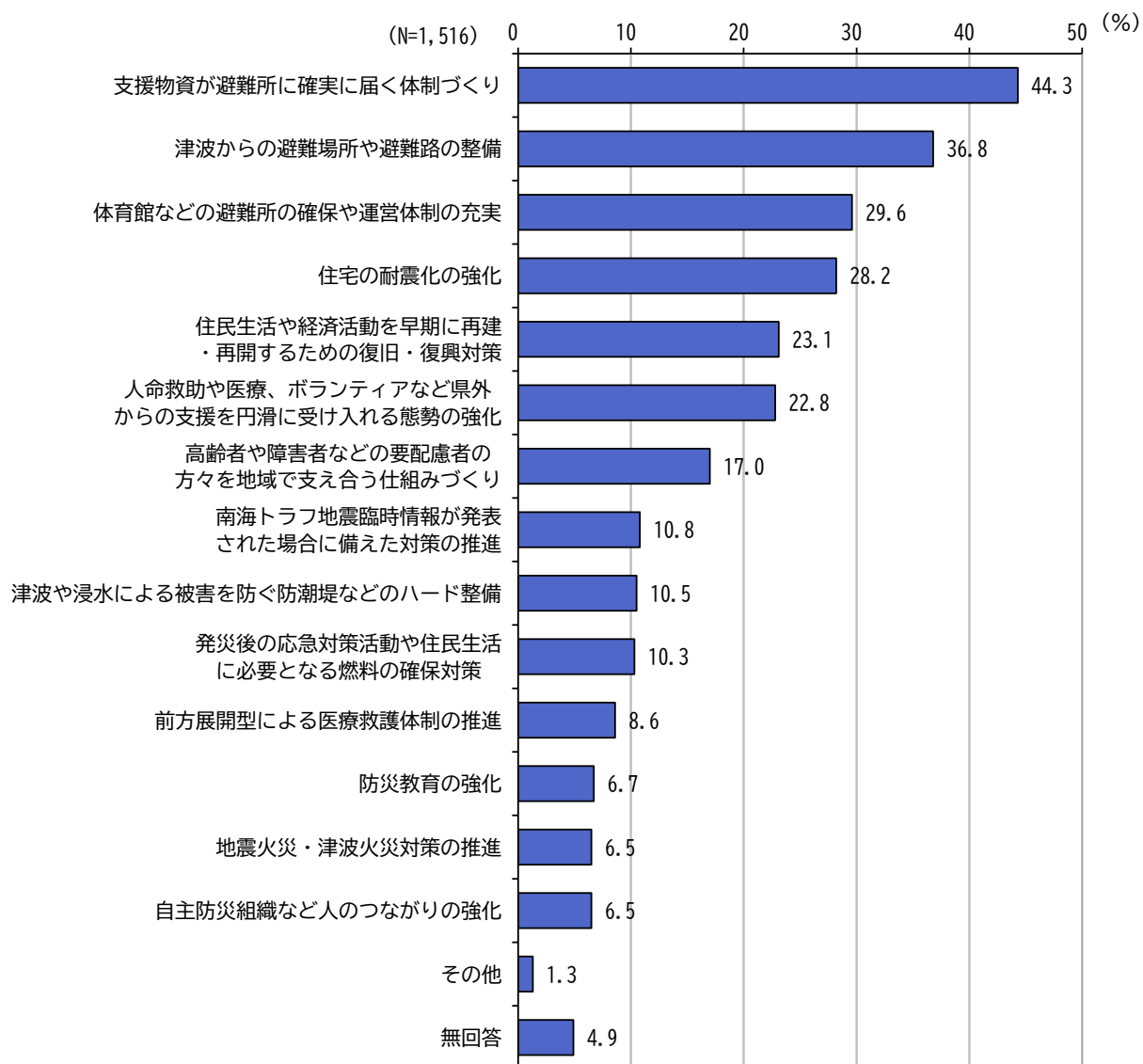
(11)県の施策について

問 67 県が行っている施策で特に力を入れるべきもの

問67 県が行っている施策のうち特に力を入れるべきものは何ですか。(3つまで○)

県が力を入れるべき施策は、「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」が44.3%と最も高く、次いで「津波からの避難場所や避難路の整備」36.8%、「体育館などの避難所の確保や運営体制の充実」29.6%と続いている。

《 総 合 》



【前回比較】

「津波からの避難場所や避難路の整備」の割合が6.5ポイント減少し、「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」の割合が3.5ポイント増加している。

【性別】

男女とも「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」の割合が最も高く、男性43.7%、女性45.1%となっている。

【年代別】

40歳代を除く年代で「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」の割合が最も高く、次いで30歳代では「津波からの避難場所や避難路の整備」が同率で最も高く、40歳代は「津波からの避難場所や避難路の整備」が最も高くなっている。

【職業別】

漁業、学生を除くすべての職業で「支援物資が避難所に確実に届く体制づくり」の割合が最も高くなっている。

◀ 前回比較・性別・年代別・職業別 ▶

		調査数	(1) 支援物資が避難所に 確実に届く体制	(2) 津波からの避難場所や 避難路の整備	(3) 体育館などの避難所の 確保や運営体制	(4) 住宅の耐震化の強化	(5) 住民生活や経済の復活 を早期に実現する対策	(6) 人命救助や医療を円滑に 受け入れるなど	(7) 高齢者や障害者などの 仕組みづくり	(8) 南海トラフ地震の 情報発表
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝			1位							
			2位							
今回調査(R6)		1,516	44.3	36.8	29.6	28.2	23.1	22.8	17.0	10.8
前回調査(R3)		1,779	40.8	43.3	30.4	24.2	20.2	24.4	19.4	7.7
性別	男性	627	43.7	38.3	31.9	30.5	23.0	20.9	15.6	8.9
	女性	860	45.1	35.9	28.4	26.5	23.6	24.0	18.3	12.0
	回答しない	18	38.9	44.4	11.1	27.8	16.7	22.2	11.1	22.2
年代別	10歳代・20歳代	104	42.3	37.5	33.7	31.7	19.2	21.2	8.7	9.6
	30歳代	151	45.7	45.7	26.5	29.1	24.5	15.9	13.2	9.9
	40歳代	216	44.4	46.8	29.2	27.8	25.5	19.9	10.6	8.3
	50歳代	278	49.3	38.5	30.2	22.3	23.7	22.3	15.1	14.0
	60歳代	331	43.5	36.0	33.5	31.1	24.8	25.7	19.9	10.3
	70歳以上	426	42.3	28.4	26.5	28.4	21.1	24.9	22.5	11.3
職業別	農林業	63	46.0	28.6	27.0	30.2	25.4	28.6	7.9	7.9
	漁業	3	33.3	66.7	-	66.7	33.3	33.3	-	-
	商工サービス業自営	66	42.4	28.8	33.3	27.3	25.8	27.3	16.7	6.1
	会社員(役員を含む)、公務員	537	44.5	41.2	30.2	28.3	22.9	18.4	12.7	11.5
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	40.0	20.0	33.3	10.0	20.0	33.3	16.7	10.0
	主婦・主夫	162	43.8	31.5	22.2	27.2	24.1	25.3	23.5	10.5
	パート、アルバイト	189	48.1	44.4	36.5	29.1	19.6	24.9	13.2	15.3
	学生	21	19.0	33.3	28.6	19.0	23.8	28.6	9.5	14.3
	無職(すでに退職を含む)	332	44.3	35.2	29.2	28.6	23.8	25.3	24.1	9.3
	その他	94	47.9	29.8	27.7	29.8	25.5	18.1	21.3	10.6

		調査数	(9) 津波や などの ハード 整備	(10) 発災後 の応急 対策 燃料の 確保 対策	(11) 進 前 方展 開型 による 医療 救護 体制 の推	(12) 防災 教育 の強 化	(13) 地震 火災・ 津波 火災 対策 の推 進	(14) 自主 防災 組織 など 人の つな がりの 強 化	(15) その他	無 回 答
【表の見方】 比率(%) 網掛け＝										
		1 位								
		2 位								
今回調査(R6)		1,516	10.5	10.3	8.6	6.7	6.5	6.5	1.3	4.9
前回調査(R3)		1,779	15.3	10.6	13.7	11.0	5.6	8.0	2.3	2.1
性別	男性	627	11.2	9.1	7.8	6.5	7.2	6.7	1.0	5.1
	女性	860	10.1	11.5	9.0	6.7	5.8	6.5	1.5	4.3
	回答しない	18	5.6	-	16.7	11.1	16.7	-	5.6	5.6
年代別	10歳代・20歳代	104	18.3	10.6	5.8	7.7	7.7	5.8	1.0	4.8
	30歳代	151	18.5	13.9	4.0	7.3	9.3	6.6	2.6	1.3
	40歳代	216	12.5	13.9	6.5	12.0	5.1	6.0	1.4	1.9
	50歳代	278	9.4	11.9	11.2	7.6	8.6	3.6	0.7	2.9
	60歳代	331	7.3	8.2	8.8	6.9	5.4	7.6	0.9	4.2
	70歳以上	426	8.0	8.0	10.1	2.8	5.4	8.0	1.6	8.9
職業別	農林業	63	14.3	17.5	9.5	9.5	4.8	6.3	-	1.6
	漁業	3	-	-	33.3	-	-	33.3	-	-
	商工サービス業自営	66	1.5	12.1	12.1	4.5	3.0	7.6	1.5	9.1
	会社員(役員を含む)、公務員	537	13.6	10.6	9.3	9.3	7.8	5.0	1.1	2.8
	自由業(医師、弁護士、画家、僧侶など)	30	20.0	16.7	3.3	3.3	16.7	-	-	10.0
	主婦・主夫	162	8.6	6.8	11.1	4.9	8.0	9.9	1.2	8.0
	パート、アルバイト	189	7.4	7.9	2.1	7.4	6.3	5.8	1.6	3.2
	学生	21	4.8	14.3	4.8	14.3	9.5	14.3	-	9.5
	無職(すでに退職を含む)	332	8.7	9.6	9.3	3.3	4.5	6.9	1.8	6.0
	その他	94	11.7	13.8	7.4	5.3	4.3	6.4	2.1	3.2